

調査研究報告資料
第 40 号
2023年 8月 31日

ISSN 1347-9024
Survey Series No.40
August 31, 2023

2021年社会保障・人口問題基本調査（結婚と出産に関する全国調査）

現代日本の結婚と出産
－ 第16回出生動向基本調査
（独身者調査ならびに夫婦調査）報告書－

Marriage and Childbirth in Japan Today:
The Sixteenth Japanese National Fertility Survey, 2021
(Results of Singles and Married Couples Survey)

 国立社会保障・人口問題研究所

**National Institute of Population
and Social Security Research
Tokyo, Japan**

序 文

本報告書は、2021（令和3）年に実施された第16回出生動向基本調査（結婚と出産に関する全国調査）の結果をとりまとめたものである。同調査は、戦前の1940（昭和15）年に、日本の夫婦出生力の実態を明らかにするため、「出産力調査」の名称によって第1回の調査が実施された。戦後は1952（昭和27）年に第2回調査が行われて以降5年毎に実施されてきたが、1982（昭和57）年第8回調査からは独身者調査を加え、第10回調査からは名称を出生動向基本調査と改めて現在に至っている。

出生動向基本調査は、これまで戦後の夫婦の出生子ども数の減少（少産化）、70年代半ば以降の出生率低下（少子化）などわが国夫婦の結婚や子どもの生み方の歴史的変化に寄り添いながら、その実態と背景を明らかにするとともに、80年代以降の独身層の結婚、家族に対する意識、生活状況などの著しい変化を子細に捉えてきた。そこから得られた知見は、子育てや家族に関わるさまざまな施策を立案する際の基礎資料となっており、依然として少子化が進展する現在において、その社会的責務はますます増大しているものと考えている。また、本調査による結婚・出生過程に関する計量データは、本研究所が実施している将来人口推計においても欠くことのできない要素となっている。さらに、こうした個々の社会的要請に加えて、すでに80年に及ぶ歴史を有する出生動向基本調査は、日本の結婚、出生を通した日本人の生き方の変遷を連綿と記録して行く使命をも担っていると考えている。

今回の調査の実施にあたっては厚生労働省政策統括官（総合政策担当）、同（統計・情報政策、労使関係担当）、都道府県、特別区、保健所政令市（政令指定都市、中核市、その他政令市）、保健所ならびに全国の調査対象となられた方々に多大な御協力を得た。とりわけ調査対象の方々の誠意ある回答がなければ、本調査は成り立たなかったであろう。これらすべての方々に深く感謝の意を表す次第である。こうした過程を経て紡ぎ出された本調査結果が、少子化対策に取り組まれている政策担当者や専門家の方々、あるいは日本の結婚や出生力の動向に関心をもたれる多くの方々の参考資料として、広く活用されることを願うものである。

なお、本調査は、本研究所のプロジェクト調査研究として、岩澤美帆（人口動向研究部長）を中心として、守泉理恵（同部第1室長）、釜野さおり（同部第2室長）、余田翔平（同部第3室長）、吉田 航（同部研究員）、是川 夕（国際関係部長）、別府志海（情報調査分析部第2室長）、斉藤知洋（社会保障基礎理論研究部研究員）、横山真紀（企画部研究員）の9名が担当した。

令和5年8月

国立社会保障・人口問題研究所長

田 辺 国 昭

目 次

調査結果のポイント

調査のポイント	1
第Ⅰ部 独身者調査の結果のポイント	3
第Ⅱ部 夫婦調査の結果のポイント	5
第Ⅲ部 未婚者と夫婦の就業・居住・価値観に関する調査結果のポイント	8

調査の概要

(1) 調査の目的と沿革	10
(2) 調査手続きと調査票回収状況	10
(3) 標本の代表性	13

第Ⅰ部 独身者調査の結果

1 結婚についての考え方	17
1.1 結婚の意思	17
1.2 結婚の利点・独身の利点	22
1.3 結婚へのハードルと独身でいる理由	24
1.4 結婚意思のない未婚者の意思の変化	26
2 交際経験	27
2.1 異性との交際状況	27
2.2 交際経験	29
2.3 異性の交際相手と知り合ったきっかけ	30
2.4 性交経験	31
2.5 同棲経験	32
3 希望するライフコース像	33
3.1 結婚・出産・仕事をめぐる女性のライフコース	33
3.2 結婚相手に求める条件	35
3.3 希望子ども数・男女児組合せと子どもを持つ理由	36
4 未婚者の生活スタイル	42

第Ⅱ部 夫婦調査の結果

5 夫婦の結婚過程	47
5.1 配偶者と知り合った年齢・初婚年齢・交際期間.....	47
5.2 配偶者と知り合ったきっかけ.....	48
5.3 結婚を決めたきっかけ.....	53
6 夫婦の出生力	54
6.1 完結出生子ども数.....	54
6.2 出生過程の子ども数.....	60
6.3 社会経済状況別にみた妻 45～49 歳夫婦の出生子ども数.....	62
7 子ども数についての考え方	67
7.1 夫婦の理想子ども数・予定子ども数と男女児組合せ.....	67
7.2 結婚当時の予定子ども数と現実の完結出生子ども数.....	72
7.3 子どもを持つ理由.....	73
7.4 夫婦が理想の数の子どもを持たない理由.....	74
8 妊娠・出産をめぐる状況	78
8.1 夫婦の性生活と避妊.....	78
8.2 妊娠前の予定・流死産の経験.....	80
8.3 不妊についての心配と検査・治療経験.....	82
9 子育ての状況	83
9.1 妻の就業と出産.....	83
9.2 子育て支援制度・施設の利用.....	89
9.3 夫の家事・育児.....	92
9.4 祖父母の子育て支援.....	94

第Ⅲ部 未婚者と夫婦の就業・居住・価値観

10 就業状況と親との居住	97
10.1 未婚者、夫と妻の就業状況.....	97
10.2 未婚者と夫婦の親との居住.....	104
11 子どもとのふれあい経験・周囲の結婚への評価	108
11.1 未婚者のこれまでの子どもとのふれあい経験・周囲の結婚に対する評価.....	108
11.2 妻の結婚前までの子どもとのふれあい経験・周囲の結婚に対する評価.....	110
12 結婚・家族に関する意識	111
12.1 結婚・家族に関する未婚者の意識.....	111
12.2 結婚・家族に関する結婚している女性の意識.....	116

◆附属資料 <調査関係資料>

(1) 調査要綱	121
(2) 調査の手引き	123
(3) 調査ご協力をお願い	153
(4) 調査票（独身者調査）	157
(5) 調査票（夫婦調査）	171
(6) 公表集計結果表一覧：単純集計結果表	186
(7) 公表集計結果表一覧：クロス集計結果表	188

図表一覧

図表 I	調査票配布数、回収票数、有効票数および回収率	11
図表 II	性・年齢別未婚者数（独身者調査）	12
図表 III	基本属性別初婚どうしの夫婦数（夫婦調査）	12
図表 IV	配偶関係別年齢構成：第 16 回出生動向基本調査および令和 2 年国勢調査	13
図表 V	配偶関係別地域構成：第 16 回出生動向基本調査および令和 2 年国勢調査	14
図表 1-1-1	調査別にみた、未婚者の生涯の結婚意思	17
図表 1-1-2	調査・年齢別にみた、未婚者の生涯の結婚意思	18
図表 1-1-3	調査別にみた、結婚意思をもつ未婚者の結婚に対する考え方 （年齢か理想的な相手か）	19
図表 1-1-4	調査・年齢別にみた、未婚者の一年以内の結婚意思	20
図表 1-1-5	調査・現在の就業状況・従業上の地位別にみた、一年以内に結婚する意思のある 未婚者割合	21
図表 1-2-1	調査別にみた、各「結婚の利点」を選択した未婚者の割合	22
図表 1-2-2	調査別にみた、各「独身生活の利点」を選択した未婚者の割合	23
図表 1-3-1	調査別にみた、各「結婚の障害」を選択した未婚者の割合	24
図表 1-3-2	調査・年齢別にみた、各「独身でいる理由」を選択した未婚者の割合	25
図表 1-4-1	調査・年齢別にみた、これまでに「いずれ結婚するつもりがある」と思った 経験の有無（結婚意思のない未婚者）	26
図表 2-1-1	調査・年齢別にみた、未婚者の異性との交際の状況 （恋人または婚約者がいる割合）	27
図表 2-1-2	調査・年齢別にみた、交際相手（異性の友人／恋人、婚約者）をもたない 未婚者の割合と交際の希望	28
図表 2-2-1	年齢別にみた、異性との交際経験（恋人として交際）をもつ未婚者の割合： 第 16 回調査（2021 年）	29
図表 2-3-1	調査別にみた、異性の交際相手と知り合ったきっかけの構成割合 （恋人または婚約者がいる未婚者）	30
図表 2-4-1	調査・年齢別にみた、性交経験のある未婚者割合	31
図表 2-5-1	調査・年齢別にみた、未婚者の同棲経験割合	32
図表 3-1-1	調査別にみた、女性の理想・予想のライフコース、 男性がパートナーに望むライフコース	34
図表 3-2-1	調査別にみた、結婚相手の条件として重視・考慮する割合	35
図表 3-3-1	調査別にみた、未婚者の平均希望子ども数	36
図表 3-3-2	調査・年齢別にみた、未婚者の平均希望子ども数	37
図表 3-3-3	調査別にみた、未婚者の希望子ども数の分布	38

図表 3-3-4	調査別にみた、未婚者の子どもを持つ理由	39
図表 3-3-5	調査・男女別にみた、未婚者の希望男女児数の総和の構成	40
図表 3-3-6	調査・男女別にみた、未婚者の希望子ども数別子どもの性別組合せ	41
図表 4-1-1	調査別にみた、各生活スタイルにあてはまると回答した未婚者の割合	42
図表 4-1-2	調査別にみた、各生活スタイルにあてはまる未婚者の生涯の結婚意思 （「いずれ結婚するつもり」と回答した割合）	43
図表 4-1-3	調査別にみた、各生活スタイルにあてはまる未婚者の平均希望子ども数	44
図表 5-1-1	調査・結婚形態別にみた、平均知り合い年齢、平均初婚年齢、平均交際期間 （調査時点より過去5年間に結婚した初婚どうしの夫婦）	47
図表 5-2-1	結婚年次別にみた、恋愛結婚・見合い結婚の構成割合	48
図表 5-2-2	調査別にみた、夫と妻が知り合ったきっかけの構成割合（調査時点より 過去5年間に結婚した初婚どうしの夫婦（第16回は過去6年間の結婚））	49
図表 5-2-3	調査・妻の初婚年齢別にみた、夫妻が知り合ったきっかけの構成割合（調査時点 から5年以内に結婚した初婚どうしの夫婦（第16回は過去6年間の結婚））	50
図表 5-2-4	調査・妻の夫と知り合った年齢別にみた、夫妻が知り合ったきっかけの構成割合 （調査時点から5年以内に結婚した初婚どうしの夫婦 （第16回は過去6年間の結婚））	51
図表 5-2-5	調査別にみた、夫と妻が知り合ったきっかけの構成割合 （調査時点より過去5年間に結婚した夫婦の一方または双方が再婚の夫婦）	52
図表 5-3-1	調査・妻の初婚年齢別にみた、結婚を決めたきっかけ （結婚持続期間5年未満の夫婦）	53
図表 6-1-1	調査別にみた、夫婦の完結出生子ども数（結婚持続期間15～19年）	54
図表 6-1-2	調査別にみた、夫婦の出生子ども数の分布（結婚持続期間15～19年）	56
図表 6-1-3	調査別にみた、妻45～49歳夫婦の出生子ども数	57
図表 6-1-4	調査別にみた、妻45～49歳夫婦の出生子ども数の分布	58
図表 6-1-5	調査・妻の初婚年齢別にみた、妻45～49歳夫婦の出生子ども数	59
図表 6-2-1	調査・結婚持続期間別にみた、夫婦の平均出生子ども数	60
図表 6-2-2	調査別にみた、夫婦の出生子ども数の分布（結婚持続期間5～9年）	61
図表 6-3-1	調査・居住地（調査時）の人口集中地区分類別にみた、 妻45～49歳夫婦の出生子ども数	62
図表 6-3-2	調査・居住地（調査時）の地域ブロック別にみた、 妻45～49歳夫婦の出生子ども数	63
図表 6-3-3	調査・夫と妻の最終学歴別にみた、妻45～49歳夫婦の出生子ども数	64
図表 6-3-4	調査・第1子における妻の育児休業制度利用有無別にみた、夫婦の出生子ども数 （妻40～49歳、第1子出産前後で就業継続していた妻）	65
図表 6-3-5	調査・妻の初婚年齢・第1子における妻の育児休業制度利用有無別にみた、夫婦の 出生子ども数（妻40～49歳、第1子出産前後で就業継続していた妻）	66

図表 7-1-1	調査別にみた、夫婦の平均理想子ども数と平均予定子ども数	67
図表 7-1-2	調査・結婚持続期間別にみた、夫婦の平均理想子ども数と平均予定子ども数	68
図表 7-1-3	調査別にみた、夫婦の理想子ども数、予定子ども数の分布	69
図表 7-1-4	調査別にみた、夫婦の理想男女児数の総和の構成	70
図表 7-1-5	調査別にみた、夫婦の理想子ども数別子どもの性別組合せ	71
図表 7-2-1	妻の初婚年齢別にみた、結婚当時の予定子ども数と現実の完結出生子ども数の分布： 第 16 回調査（2021 年）（結婚持続期間 15～19 年）	72
図表 7-3-1	調査別にみた、夫婦の子どもを持つ理由	73
図表 7-4-1	調査別にみた、理想の数の子どもの持たない理由 （予定子ども数が理想子ども数を下回る夫婦）	74
図表 7-4-2	調査・妻の年齢別にみた、理想の数の子どもの持たない理由 （予定子ども数が理想子ども数を下回る夫婦）	75
図表 7-4-3	理想・予定子ども数の組合せ別にみた、理想の子ども数を持たない理由： 第 16 回調査（2021 年）（予定子ども数が理想子ども数を下回る夫婦）	76
図表 7-4-4	妻の年齢別にみた、予定子ども数を実現できない場合に想定される理由 （追加予定子ども数が 1 人以上の夫婦）	77
図表 8-1-1	妻の年齢別にみた、過去 1 か月以内の夫婦間の性交の有無：第 16 回調査（2021 年） （総数および追加出生予定がある夫婦）	78
図表 8-1-2	妻の年齢別にみた、過去 1 か月以内の夫婦間の性交における避妊の実行状況： 第 16 回調査（2021 年）（総数および出生調節意図のある夫婦）	79
図表 8-2-1	調査・妊娠順位別にみた、妊娠前の予定	80
図表 8-2-2	第 1 妊娠時の妊娠年齢別にみた流産確率	81
図表 8-3-1	調査・結婚持続期間別にみた、不妊について心配したことのある夫婦の割合と 検査・治療経験	82
図表 9-1-1	調査・出産後の子育ての段階別にみた、妻の就業状況・従業上の地位の構成	83
図表 9-1-2	結婚年別にみた、結婚前後の妻の就業変化	84
図表 9-1-3	子どもの出生年別にみた、出産前後の妻の就業変化	85
図表 9-1-4	結婚前／妊娠前の従業上の地位別にみた、結婚・出産前後に就業継続した 妻の割合、および育児休業を利用して就業継続した妻の割合（結婚前／妊娠前 に就業していた妻）	86
図表 9-1-5	第 1 子妊娠前の就業状況・従業上の地位・第 1 子出生年別にみた、 第 1 子 1 歳時の従業上の地位および育児休業制度の利用の有無	87
図表 9-1-6	第 1 子妊娠前の就業状況・従業上の地位・第 1 子出生年別にみた、 第 1 子 1 歳時の地位継続者に占める育児休業制度利用割合	88
図表 9-2-1	第 1 子出生年別にみた、第 1 子が 3 歳になるまでに利用した子育て支援制度や施設： 第 16 回調査（2021 年）	89

図表 9-2-2	第1子出生年別にみた、第1子が3歳になるまでの 子育て支援制度・施設利用割合	90
図表 9-2-3	調査・出生子ども数別にみた、第1子出産前後の育児休業制度利用割合 (妻40～49歳、第1子出産前後で就業継続した妻)	91
図表 9-3-1	第1子出生年別にみた、第1子が3歳になるまでの夫の家事・育児頻度： 第16回調査(2021年)	92
図表 9-3-2	第1子1歳時の妻の就業状況別にみた、第1子が3歳になるまでの 夫の家事・育児頻度：第16回調査(2021年)	93
図表 9-4-1	第1子出生年別にみた、第1子が3歳になるまでに夫または妻の親(子の祖父母) から子育ての手助けを受けた割合	94
図表 10-1-1	調査別にみた、未婚者の学卒時の就業状況・ 従業上の地位(25～34歳未婚者)	97
図表 10-1-2	調査・年齢別にみた、未婚者の現在(調査時)の就業状況・従業上の地位	98
図表 10-1-3	調査別にみた、夫と妻が結婚を決めたときの就業状況組合せの構成	99
図表 10-1-4	調査・妻の年齢(30～39歳・40～49歳)別にみた、現在(調査時)の 夫と妻の就業状況組合せの構成	100
図表 10-1-5	調査・就業する未婚者の現在(調査時)の就業状況・従業上の地位別にみた、 平均週労働時間(調査時点で就業している25～34歳未婚者)	101
図表 10-1-6	調査別にみた、未婚者の現在(調査時)の就業有無および昨年(調査前年)の 年収の分布(25～34歳未婚者)	102
図表 10-1-7	調査別にみた、夫と妻の現在(調査時)の就業有無および昨年(調査前年)の 年収の分布(25～34歳の夫、妻)	103
図表 10-2-1	調査・現在(調査時)の就業状況・従業上の地位別にみた、 親と同居する未婚者の割合	104
図表 10-2-2	妻の年齢別にみた、妻と夫それぞれの母親、父親との居住状況(現在(調査時))： 第16回調査(2021年)	105
図表 10-2-3	調査・妻の年齢別にみた、妻と夫それぞれの母親との居住状況(現在(調査時))	106
図表 10-2-4	第1子の出生年別にみた、妻と夫それぞれの母親との居住状況(第1子3歳まで)	107
図表 11-1-1	調査別にみた、子どもとのふれあい経験や周囲の結婚に対する評価(未婚者)	108
図表 11-1-2	調査・子どもとのふれあい経験や周囲の結婚に対する評価別にみた、 未婚者の生涯の結婚意思：第16回調査(2021年)	109
図表 11-2-1	調査別にみた、妻の結婚以前の子どもとのふれあい経験や周囲の結婚に対する 評価(結婚持続期間10年未満の夫婦の妻)	110
図表 12-1-1	結婚・家族に関する未婚者の意識：第16回調査(2021年)	112

図表 12-1-2	調査別にみた、結婚・家族に関する未婚者の意識 (旧来的な考えを支持する割合)	113
図表 12-1-3	結婚・家族に関する未婚者の意識 (旧来的な考えを支持するか否か) 別にみた、 結婚意欲の指標：第 16 回調査 (2021 年)	114
図表 12-1-4	結婚・家族に関する未婚者の意識 (旧来的な考えを支持するか否か) 別にみた、 平均希望子ども数：第 16 回調査 (2021 年)	115
図表 12-2-1	結婚・家族に関する結婚している女性 (夫婦の妻) の意識：第 16 回調査 (2021 年)	116
図表 12-2-2	調査別にみた、結婚・家族に関する結婚している女性 (夫婦の妻) の意識 (旧来的な考えを支持する割合)	117
図表 12-2-3	結婚している女性 (夫婦の妻) の結婚・家族に関する意識 (旧来的な考えを支持するか否か) 別にみた、理想・予定子ども数： 第 16 回調査 (2021 年) (結婚持続期間 0～4 年の妻)	118

調査結果のポイント

調査のポイント

【調査対象】

「令和3年国民生活基礎調査」で設定された調査区から無作為に選ばれた全国1,000調査区に居住する18歳以上55歳未満の独身者と妻の年齢が55歳未満の夫婦（回答者は妻）

【調査時期】

令和3（2021）年6月（6月30日現在の事実）

【調査数】

独身者調査：配布調査票14,011票 有効票数7,826票（有効回収率55.9%）

夫婦調査：配布調査票9,401票 有効票数6,834票（有効回収率72.7%）

【主な結果】 ※「→」は該当章

● 独身者調査 ～未婚者の結婚・出産に対する考え方～

- ・「いずれ結婚するつもり」と考える18～34歳の未婚者は、男女、年齢、生活スタイルの違いを問わず減少（男性81.4%：前回85.7%、女性84.3%：前回89.3%）。→1章
- ・恋人と交際中の割合は男性21.1%で横ばい、女性27.8%で前回から微減。一方、未婚者の3人に1人は交際を望まず。6割の男女が恋人（異性）との交際経験あり（男性60.0%、女性64.8%）。→2章
- ・「女性のライフコース」の理想像は、男女ともに「仕事と子育ての両立」が初めて最多に。→3章
- ・結婚相手の条件は、男性は女性の経済力を重視または考慮するようになり（48.2%：前回41.9%）、女性は男性の家事・育児の能力や姿勢を重視する割合が大きく上昇（70.2%：前回57.7%）。→3章
- ・平均希望子ども数は全年齢層で減少（男性1.82人：前回1.91人、女性1.79人：前回2.02人）。→3章
- ・「結婚したら子どもを持つべき」「女らしさや男らしさは必要」への支持が大幅に低下。→12章

● 夫婦調査 ～夫婦の結婚・出生過程、子育ての状況～

- ・職場や友人を介した結婚が減り、SNSやマッチングアプリといったインターネットサービスを利用して知り合った夫婦が最近の結婚の13.6%を占める。→5章

- ・妻 45～49 歳夫婦の最終的な平均出生子ども数は、晩婚化を背景に減少（1.81 人：前回 1.86 人）。→6 章
- ・夫婦の平均予定子ども数は横ばい（2.01 人：前回 2.01 人）。→7 章
- ・理想の数の子を持たない理由として「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」を選ぶ夫婦の割合は全体では減少したが、依然として最多の選択率。→7 章
- ・不妊の検査・治療を受けたことのある夫婦は 18.2%から 22.7%（4.4 組に 1 組）に増加。結婚 5 年未満の夫婦の 6.7%が調査時点で不妊の検査・治療を受けている。→8 章
- ・第 1 子出産前後の妻の就業継続率は 5 年間で 5 割台から 7 割に上昇、2015～19 年では 69.5%に達する。その就業継続者の 79.2%は育児休業制度を利用している。→9 章

「出生動向基本調査」は、5 年ごとに実施され、若者や子育て世代の結婚や出産をめぐる行動や意識の変化を捉えてきた。今回公表する第 16 回調査は、新型コロナウイルス感染拡大のために当初の予定が 1 年延期されたが、調査員による回収が難しい場合には郵送回収も可能としたうえで、2021 年 6 月に、予定した全調査区で実施された。全体を通じた今回の調査結果の特徴は、以下のようにまとめることができる。

(1) 未婚男女の結婚意欲や希望子ども数、夫婦の予定子ども数といった、家族をつくる意欲は一段と引き下がる方向に変化した(18～34 歳の未婚女性で結婚意思がある割合は 89.3%から 84.3%に低下、平均希望子ども数は 2.02 人から 1.79 人に低下、結婚 5 年未満の夫婦の予定子ども数は 2.04 人から 1.95 人に低下) (図表 1-1-1、図表 3-3-1、図表 4-1-2、図表 7-1-2)。結婚することや、子どもを持つことは必ずしも必要ではないと考える人が増え、個人の生活や価値観を大切にする考え方への支持が増えた (図表 1-2-1、図表 1-2-2、図表 1-3-2、図表 3-3-4、図表 4-1-1、図表 7-4-2、図表 12-1-2、図表 12-2-2)。他方で、生じた妊娠に占める「望んだ妊娠」の割合が高まる中 (図表 8-2-1)、不妊を心配し、不妊治療を受ける夫婦の割合は前回からさらに上昇した (不妊の検査・治療を受けたことのある夫婦は 5.5 組に 1 組から 4.4 組に 1 組に上昇、結婚 5 年未満の夫婦の 6.7%が、調査時点で不妊に関する検査や治療を受けている) (図表 8-3-1)。夫婦が実際に生んだ最終的な子ども数 (45～49 歳夫婦の平均出生子ども数) は、この世代の晩婚化が進んだことを要因の一つとして、1.86 人から 1.81 人に低下した (図表 6-1-3)。

(2) 今回の調査で、もう一つはっきりと示されたことは、男性、女性の役割について行動、意識ともに大きく変化し、男女のあり方における違い (働き方や家事・育児) が縮小に向かったことである。働き方については、結婚、出産後も仕事を中断しない女性が増え (第 1 子出産前後の就業継続率は 5 年間で 5 割台から 7 割に上昇) (図表 9-1-4)、育児休業を取得した夫も初めて大きく増加した (妻が出産前後に継続して正規の職員の場合、夫の育児休業利用は 1.7%から 6.3%に上昇) (図表 9-2-2)。日常的に家事を行う夫も増え、妻が正規の職員の場合、子どもが 3 歳までの間、4 割の夫が日常的に家事を行っている (妻が無職・家事の場合は 2 割) (図表 9-3-1、図表 9-3-2)。こうした変化は意識の上でも確認され、結婚、出産、仕事をめぐる女性のライフコースについて、

未婚男女ともに、仕事と子育てを両立させる生き方を理想とする割合が初めて最多となった（**図表 3-1-1**）。妻となる結婚相手に経済力を求める男性や、夫になる相手に家事・育児の能力や姿勢、容姿を求める女性が増えるなど（**図表 3-2-1**）、行動、態度の両面で男女差が縮小している。

(3) その他、前回調査以降に大きく変わったものとして、恋人や配偶者と知り合う環境が挙げられる。今回の調査では、恋人や配偶者と知り合う場として友人や職場を経由したものが減り、ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）やマッチングアプリなど個人間の交流の場をオンラインで提供するサービスが活用されている実態が示された。恋人と交際中の未婚男女の10人に1人以上（未婚男性の11.9%、未婚女性の17.9%）、および2018年後半から2021年前半に結婚した夫婦の13.6%が、こうしたインターネットを使ったサービスを介して相手と知り合ったことがわかった（**図表 2-3-1**、**図表 5-2-2**）。また、見合い結婚をした夫婦の知り合った年齢がやや若年化するなど、配偶者を選択する行動に幅広い変化がみられている（**図表 5-1-1**）。

第 I 部 独身者調査の結果のポイント

ここでは独身者調査の結果について要点を示す。特記がないかぎり、18～34歳の未婚男女についての結果である。

1. 「いずれ結婚するつもり」と答える未婚者が、性別、年齢、生活スタイルの違いを問わず減少した。

「いずれ結婚するつもり」と考えている未婚者の割合は、2000年代は安定的に推移していたが、今回、未婚男性は前回調査の85.7%から81.4%へ、未婚女性は89.3%から84.3%へと、それぞれ低下した（**図表 1-1-1**）。今回、性別や年齢、生活スタイルの違いを問わず減少がみられたことから（**図表 1-1-2**、**図表 4-1-2**）、調査を行った時期の特殊な社会状況が、幅広い世代の意識に影響した可能性も示唆される。また、就業状況別に一年以内の結婚意思をみると、男性では正規の職員等に比べ、パート・アルバイトで「一年以内に結婚したい」割合が低い傾向にある（**図表 1-1-5**）

未婚者が考える結婚の利点は、前回まで増加傾向にあった「自分の子どもや家族をもてる」が減少に転じ、「経済的に余裕がもてる」が微増した（**図表 1-2-1**）。独身生活の利点では「行動や生き方が自由」「家族を養う責任がなく、気楽」が増加した（**図表 1-2-2**）。独身でいる理由は、24歳以下では結婚する積極的な動機がないことが挙げられ、25歳以上では、適当な相手がいないことが最大の理由として挙げられているが、異性とうまくつき合えない、今は趣味を楽しみたいといった理由が微増した（**図表 1-3-2**）。

2. 恋人（異性）または婚約者がいる未婚男性は2割、未婚女性では3割弱、2000年代前半をピークに低下が続く。未婚男女の約6割が異性との交際経験があるが、未婚男女の3人に1人は異性との交際を望んでいない。

「恋人として交際している異性がいる」「婚約者がいる」と回答した割合は、男性では21.1%、女性では27.8%であった。男性では2005年の27.1%、女性では2002年の37.1%をピークに低下している（**図表 2-1-1**）。異性の交際相手を全く持たない未婚男女は今回調査では男性で72.2%、女性で64.2%であるが、その中で「とくに異性との交際を望んでいない」と答える人が増えており、男性では未婚者全体のうち33.5%、女性では同34.1%が交際を望まないと回答した。（**図表 2-1-2**）。

20代後半で異性と恋人として交際した経験がある未婚者は男性で6割強、女性で7割であった（**図表 2-2-1**）。18～34歳の未婚男女の約6割が異性との交際経験を有している。

調査時点で異性の恋人または婚約者がいる男女に、相手と知り合ったきっかけをたずねたところ、「学校で」が3割近くを占め最多であった。今回は、前回調査よりも「友人・兄弟姉妹を通じて」「職場や仕事の関係で」が減少した一方で、新たに選択肢に加えた「ネット（インターネット）」（SNSやマッチングアプリなど）が男女ともに1割以上を占めた（男性11.9%、女性17.9%）（**図表 2-3-1**）。

性交経験のある割合は、20代後半の未婚の男性で63.6%、女性で61.2%であり、前回調査から横ばいであったが、30代前半では、男女ともに低下した（**図表 2-4-1**）。

3. 結婚・出産・仕事をめぐる女性のライフコース、男女ともに「再就職」「専業主婦」を理想とする割合が減少し、「両立」志向が伸びる。

未婚女性が考える「理想ライフコース」は、出産後も仕事を続ける「両立コース」が前回の32.3%から34.0%に増加し、今回初めて最多となった。「再就職コース」「専業主婦コース」は減少した一方、今回調査では「非婚就業コース」「DINKsコース」を理想とする人も増加した。男性が自身のパートナーとなる女性に望むライフコースでも、今回「両立コース」が39.4%に増加し、最多となった（**図表 3-1-1**）。

結婚相手に求める条件として重視されるのは、男女とも「人柄」「家事・育児の能力や姿勢」「仕事への理解」であるが、妻となる相手に「経済力」を求める男性、夫となる相手に「家事・育児の能力や姿勢」「容姿」を求める女性が以前よりも増加している（**図表 3-2-1**）。

結婚意思のある未婚男女の平均希望子ども数は、1982年以降おおむね低下が続いているが、今回は男性で1.82人、女性では初めて2人を下回り1.79人となった（**図表 3-3-1**）。「子どもはいらない」と考える未婚男女はともに1割を超えた（**図表 3-3-3**）。

子どもをほしいと考える未婚者に、子どもを持つ理由をたずねたところ、「結婚して子どもを持つことは自然なことだから」を挙げる人が男女ともに前回調査から減少し、女性では加えて「好きな人の子どもを持ちたいから」「子どもは夫婦関係を安定させるから」を挙げる人も減少した

(図表 3-3-4)。未婚男女ともに男児よりも女兒を望む「女兒選好」の傾向が強まっている (図表 3-3-5)。

4. 未婚者の生活スタイル、「生きがいとなる趣味持つ」「一人の生活寂しくない」男女が増加。

未婚男女に自身の生活スタイルをたずねたところ、「生きがいとなるような趣味やライフワークを持っている」「一人の生活を続けても寂しくないと思う」割合が増加し、「気軽に一緒に遊べる友人が多い」「欲しいものを買ったり、好きなことに使えるお金が少ない」「仕事のために、私生活を犠牲にすることがよくある」が減少した (図表 4-1-1)。また生活スタイル別に「いずれ結婚するつもり」と考えている未婚者の割合をみたところ、一般に結婚意欲が高い生活スタイル、低い生活スタイルにかかわらず、すべての生活スタイルにおいて今回調査で意欲が大きく落ち込んだことがわかった (図表 4-1-2)。

第Ⅱ部 夫婦調査の結果のポイント

ここでは夫婦調査の結果について要点を示す。前回 (第 15 回) 調査までの結果については、意識、行動歴ともに、妻 50 歳未満の夫婦について集計している。今回調査は、意識については妻が 50 歳未満の夫婦について、行動歴については妻が 50 歳未満で結婚し、調査時に 55 歳未満であった夫婦を主な集計対象としている。夫婦調査は集計時の限定が多様であるため、各図表の注を十分確認されたい。

5. 新型コロナウイルス感染拡大期を含む 2021 年までの結婚では「職場や仕事で」知り合う結婚が減少する一方で、新婚夫婦の 13.6%が SNS、アプリ等を用いた「ネットで」知り合う。

夫と妻の平均知り合い年齢は男性 26.4 歳、女性 24.9 歳、平均交際期間は 4.3 年で、どちらも前回まで上昇基調にあったが、今回調査では前回から横ばいであった (図表 5-1-1)。ただし、見合い結婚をした夫婦の平均知り合い年齢が男女ともにやや若年化する変化がみられた (夫 35.6 歳から 33.9 歳、妻 32.3 歳から 31.7 歳)。今回、新たに選択肢に追加した、SNS、アプリ等を用いた「ネット (インターネット) で」知り合った夫婦 (ソーシャルネットワーキングサービス (SNS) やマッチングアプリなど個人間の交流の場をオンラインで提供するサービスを用いて知り合った夫婦) の知り合い年齢は夫 27.8 歳、妻 26.2 歳で、従来型の恋愛結婚 (夫 25.3 歳、妻 23.8 歳) よりやや高めであり、平均交際期間は 2.8 年と恋愛結婚 (4.9 年) よりも短いことがわかった。

夫と妻が知り合ったきっかけの構成比をみると、「ネットで」知り合った夫婦の割合が、2015 年 7 月～2018 年 6 月に結婚した夫婦では 6.0%であったが、新型コロナウイルス感染拡大期を含む 2018 年 7 月～2021 年 6 月に結婚した夫婦では 13.6%と 1 割を超えている (図表 5-2-2)。この時期の結婚では、過去調査では 3 割を占めていた「職場や仕事で」の結婚が 28.2%から 21.4%に構成比

を下げた。

6. 子どもを生子終えた夫婦の平均出生子ども数（完結出生子ども数、妻 45～49 歳夫婦の出生子ども数）は前回調査から低下。

結婚から 15～19 年が経過し、子どもを生子終えたとみられる夫婦の平均出生子ども数（完結出生子ども数）は、前回調査の 1.94 人から 1.90 人に低下した（**図表 6-1-1**）。子どもを生子終えた夫婦のもう一つのとらえ方である妻の年齢が 45～49 歳の夫婦の出生子ども数も前回調査の 1.86 人から 1.81 人に低下している（**図表 6-1-3**）。同夫婦で子どものいない夫婦は 9.9%と約 1 割を占め、子ども 1 人の夫婦も 19.4%と約 2 割を占めた（**図表 6-1-4**）。これらの世代はそれ以前の世代よりも初婚年齢が上昇しており（**図表 5-1-1**）、晩婚化が出生子ども数低下の要因の一つと考えられる。

妻 45～49 歳夫婦の出生子ども数を居住地の人口集中地区分類別にみると、いずれの地域でも低下した。今回調査では、人口集中地区では 1.74 人であったが、非人口集中地区でも 1.97 人と初めて 2 人を下回った（**図表 6-3-1**）。

地域別にみると、ほとんどの地域で低下しているが、西日本ブロック（2.08 人）、名古屋圏（1.86 人）で相対的に高く、大阪圏（1.63 人）で低い傾向がある（**図表 6-3-2**）。夫と妻の学歴別にみると、妻が大卒以上の場合、今回調査では平均出生子ども数がやや上昇し、学歴間の格差が縮小した（**図表 6-3-3**）。

7. 結婚 10 年未満の夫婦で理想子ども数、予定子ども数が小幅に低下。子どもを持つ理由で「子どもを持つことは自然」「子どもは夫婦関係を安定させる」が減少。

夫婦の平均理想子ども数は漸減しており、今回調査では 2.25 人であった。平均予定子ども数は前回から横ばいで 2.01 人であった（**図表 7-1-1**）。ただし、結婚持続期間が 10 年未満の夫婦では、理想子ども数、予定子ども数とも小幅に低下し、結婚 5 年未満の夫婦の平均理想子ども数は 2.11 人、予定子ども数は 1.95 人であった（**図表 7-1-2**）。「子どもは持たない」を含めた予定子ども数が 1 人以下の夫婦は 2 割を超えた（**図表 7-1-3**）。なお男女児の組合せに関しては「女兒選好」が優勢な傾向が続いている（**図表 7-1-4**）。結婚当時の予定子ども数と結婚から 15～19 年後の完結出生子ども数を比較すると、妻の初婚年齢が高いほど、両者の乖離が大きい（**図表 7-2-1**）。

理想とする子ども数が 1 人以上の夫婦に、子どもを持つ理由をたずねたところ「子どもがいると生活が楽しく心が豊かになるから」は前回までと変わらず最多である一方、減少傾向にあった「結婚して子どもを持つことは自然なことだから」「子どもは夫婦関係を安定させるから」は今回調査でさらに減少した（**図表 7-3-1**）。

今回調査でも、理想の数の子どもを持たない理由の最多は「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」である（**図表 7-4-1**）。妻 35 歳以上の夫婦では「高齢で生むのはいやだから」「ほしいけれどもできないから」といった理由も多く選択されている（**図表 7-4-2**）。また、予定の子ども数の実現を阻みうる要因としては「収入」「仕事」「育児の協力」「子の預け先」を挙げる人が減っ

た一方で「年齢や健康上の理由」を挙げる夫婦が増えた（図表 7-4-4）。

8. 過去 1 か月以内に夫婦間で性交があった割合は 4 割弱、今後子どもを持つ予定の夫婦に限ると 5 割。不妊を心配した夫婦は 3 組に 1 組以上。検査・治療経験がある夫婦は、前回の 5.5 組に 1 組から今回 4.4 組に 1 組に増加し、結婚 5 年未満の夫婦の 6.7%が調査時点で不妊の検査や治療を受けている。

今回調査では、夫婦間の過去 1 か月以内における性交の有無をたずねた。妻 50 歳未満の夫婦で過去 1 か月以内に性交があった割合は 37.9%で、今後子どもを持つ予定の夫婦に限ると 53.3%であった（図表 8-1-1）。性交の際に避妊を実行した夫婦は 58.3%で、避妊方法の大半はコンドームやピルなどの近代的避妊方法（国連の定義による）であった。出生調節意図のある夫婦（出産の延期または停止を希望）で、近代的避妊法により避妊を実行している割合は 61.3%にとどまり、37.5%の夫婦は早すぎる妊娠や望まない妊娠を経験するリスクを有している（図表 8-1-2）。ただし、生じた妊娠に占める「望んだ妊娠」の割合は、最近の調査ほど高まる傾向にある（図表 8-2-1）。第 1 妊娠が流死産に終わる確率は、妊娠時年齢が 20 代では 10%を下回るが、30 代に入ると 1 割を超え 40 歳前後では 3 割ほどになる（図表 8-2-2）。

不妊を心配したことのある夫婦は前回調査の 35.0%から今回調査の 39.2%へと増加した（3 組に 1 組以上）。実際に不妊の検査・治療を受けたことがある夫婦の割合も、前回調査の 18.2%（5.5 組に 1 組）から今回調査の 22.7%に増加した（4.4 組に 1 組）。結婚 5 年未満の夫婦では調査時点で 6.7%が不妊に関する検査や治療を受けている（図表 8-3-1）。

9. 第 1 子の妊娠がわかったときに就業していた妻が、子どもが 1 歳の時も就業していたことを示す就業継続率は 5 年間で 5 割台から 7 割に上昇。2015～18 年に生まれた第 1 子の 4 割強で母が育児休業を取得、3.7%で父が育児休業を取得。保育所等の利用も今回調査で 5 割を超えた。

出産後に就業する妻の割合が大きく上昇しており、子どもの追加予定がある夫婦の妻の就業割合は前回調査の 53.2%から今回調査では 70.4%に伸びた（図表 9-1-1）。子どもの追加予定がない夫婦（子どもを生み終えた夫婦）の妻についても、末子 0～2 歳の妻の就業割合が前回調査から上昇し、今回は 67.0%と 6 割を超えた。また、就業形態では、正規の職員として働いている妻の割合が高まっている（22.8%から 38.1%へ上昇）。

政府が行う少子化対策等の達成状況を評価する指標としても注目されている、第 1 子の妊娠がわかったときに就業していた妻の就業継続率は、第 1 子出生年が 2010～14 年の 57.7%から、2015～19 年の 69.5%へ上昇した（図表 9-1-4）。育児休業制度を利用して就業継続をした妻に限ると 55.1%である。さらに従業上の地位別にみると、正規の職員である妻では第 1 子出産前後の就業継続率は、2015～19 年で 83.4%と高いが、パート・派遣等の非正規雇用の妻では、同 40.3%であり、2010～14 年の 27.9%から上昇しているものの依然として正規の職員との差が認められる。

子どもの出生年別に、子どもが3歳になるまでに親がどのような子育て支援制度を利用したかも調べている（**図表 9-2-2**）。第1子が3歳までに育児休業を利用した割合は、2015～18年出生児で妻（子の母親）が43.0%、夫（子の父親）が3.7%であった。また、保育所等を利用した割合は51.9%と今回初めて過半数を超えた。妻が正規雇用者で就業を継続した場合に限ると、育児休業の利用は妻が93.1%（前回88.2%）で、夫が6.3%であった。夫の育児休業利用は前回まで1%前後であったが、今回は明確な上昇を示した。また、保育所等の利用は78.8%（前回80.8%）、妻の短時間勤務制度の利用は48.1%（前回48.4%）であった。子どもが3歳までの間に夫が日常的に家事や育児を行う割合は過去15年間で徐々に増え、妻が正規の職員の場合、4割の夫が日常的に家事を行っている（妻が無職・家事の場合は2割）（**図表 9-3-1**、**図表 9-3-2**）。

第Ⅲ部 未婚者と夫婦の就業・居住・価値観に関する調査結果のポイント

第Ⅰ部では未婚男女の結婚や家族に関する考え方や態度、第Ⅱ部では夫婦の結婚過程や出生過程、子育ての状況や考え方の時代変化を見てきた。第Ⅲ部では、この間、未婚男女や夫婦の生活状況や価値観にどのような変化があったのかを示す。

10. 未婚者の学卒時の正規職割合は、2010年調査を底にその後上昇。夫と妻の働き方は、妻30代における専業主婦割合が時代とともに低下し、今回22.8%に。正規の職員どうしの夫婦の割合は20年前の18.2%から34.1%（3組に1組）に上昇。

25歳以上の未婚者の学卒直後や調査時点での就業状況を調べると、男女とも正規の職員の割合は2010年（第14回）調査で最も低く、その後は上昇に転じている（**図表 10-1-1**、**図表 10-1-2**）。

妻30代または40代の夫婦の働き方をみると、「夫自営業」「夫が正規の職員で妻が無職・学生」という組合せの夫婦の構成比が1970年代以降低下しており、「夫が正規職で妻がパート・派遣等」「夫妻ともに正規職」の組合せが増えている（**図表 10-1-4**）。10年前の2010年調査では、妻30代の夫婦において、夫が正規職で妻が無職・学生の組合せは36.8%、正規職どうしの組合せは18.1%であった。今回の2021年調査では、夫が正規職で妻が無職・学生の組合せは22.8%、正規職どうしの組合せは34.1%であり構成比が逆転した。25～34歳の未婚男女、および夫と妻に年収（調査前年の年収）をたずね、2010年調査以降で比較すると、全般的に年収の分布は上方に推移している（**図表 10-1-6**、**図表 10-1-7**）。

子どもが3歳までの間の、夫婦とその母親（子の祖母）との居住状況は、1990年代後半以降、妻方の母親との近居（同じ市区町村内で別居）や夫方の母親との同居や近居が減少し、同じ市区町村以外で別居する割合が増えている（2015～18年に子どもを持った夫婦では、妻方の母親と同じ市区町村以外で別居する割合は63.6%、夫方の母親との別居は57.2%）（**図表 10-2-4**）。

11. 結婚前の子どもとのふれあい経験、両親や友人の結婚に対する肯定的評価、未婚女性では前回よりも低下、妻では一部上昇。

未婚者にこれまでに赤ちゃんや幼い子どもとふれあった経験があるかをたずねたところ、未婚男性よりも未婚女性のほうがそうした経験が多い。ただし、未婚男性の6割、未婚女性の5割強が、ふれあい経験がほとんどなかったと回答し、女性ではその割合が前回調査から増加した（**図表 11-1-1**）。その他、「両親のような夫婦関係をうらやましく思う」「結婚しているまわりの友人をみると、幸せそうだと思う」割合も、未婚女性では減少した（友人の結婚生活を肯定的に捉える割合が前回調査の6割から今回の5割に減少）。子どもとのふれあい経験が多いほど、また、周囲の結婚を肯定的に捉えるほど、未婚者の結婚意思が高いことが示されている（**図表 11-1-2**）。一方、妻の結婚前までの子どもとのふれあい経験や周囲の友人の結婚への肯定的評価は上昇した（**図表 11-2-1**）。

12. 結婚や家族に関する考え方、旧来的考えを支持する未婚者が大きく減少。特に「結婚したら子どもをもつべき」「女らしさや男らしさは必要」の支持が減る。

結婚や家族に関する考え方については、ほぼすべての項目で旧来的な考え（一般に過去の調査回ほど、また高い年齢で支持されやすい考え）に対する支持が低下した。未婚者については、「結婚したら子どもを持つべき（賛成）」が、女性では67.4%から36.6%に、男性では75.4%から55.0%へ減少し、「女らしさや男らしさは必要（賛成）」も、女性では82.5%から55.9%に、男性では84.4%から68.3%に減少した（**図表 12-1-2**）。「結婚した男性にとって、家族と過ごす時間は仕事の成功よりも重要だ」は未婚男女ともに7割程度が支持した（**図表 12-1-1**）。

結婚している女性の考え方でも、「女らしさや男らしさは必要」への賛成割合（85.3%から63.1%）および「結婚したら子どもを持つべき」への賛成割合（66.6%から45.8%）が減少した（**図表 12-2-2**）。

調査の概要

(1) 調査の目的と沿革

国立社会保障・人口問題研究所は2021（令和3）年6月、第16回出生動向基本調査（結婚と出産に関する全国調査）を実施した。この調査は他の公的統計では把握することのできない結婚ならびに夫婦の出生力に関する実状と背景を定時的に調査、計量し、関連諸施策ならびに将来人口推計をはじめとする人口動向把握に必要な基礎資料を得ることを目的としている。本調査は、戦前の1940（昭和15）年に第1回調査、ついで戦後の1952（昭和27）年に第2回調査が行われて以降、5年ごとに「出産力調査」の名称で実施されてきたが、第10回調査（1992年）以降名称を「出生動向基本調査」に変更して今回に至っている。第8回調査（1982年）からは夫婦を対象とする夫婦調査に加えて、独身者を対象とする独身者調査を同時実施している。本報告書は、この第16回調査の独身者調査および夫婦調査の速報結果についてとりまとめたものである。

本調査は当初、2015年に実施された第15回調査から5年後の2020年6月に実施される予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により1年延期され、2021年6月に実施された。

(2) 調査手続きと調査票回収状況

本調査の独身者調査は年齢18歳以上55歳未満の独身者を対象とし、夫婦調査は妻の年齢が55歳未満の夫婦を対象（回答者は妻）とした全国標本調査であり、令和3（2021）年6月30日現在の事実について調べたものである。調査対象地区は、令和3年国民生活基礎調査（厚生労働省実施）の調査地区1,106地区（平成27年国勢調査区から層化無作為抽出）の中から選ばれた1,000地区である。この地区内の全ての世帯に居住する18歳以上55歳未満の全ての独身者が独身者調査の客体に、55歳未満の有配偶女性が夫婦調査の客体となる¹⁾。なお、今回調査では、独身者、夫婦の妻の年齢ともに、上限が前回調査の50歳未満から55歳未満に引き上げられた。

調査方法は配票自計、密封回収方式によった。独身者調査については、調査票配布数（調査客体数）14,011²⁾票に対して、回収数は8,401票であり、回収率は60.0%であった（前回調査84.5%）。

¹⁾ 本調査の調査対象地区に含まれる世帯の内、令和3年国民生活基礎調査の所得票調査対象単位区に含まれる世帯は、回答者負担軽減の観点から本調査の対象外としている（重複単位区除外措置）。ただし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、令和3年4月に緊急事態宣言が発出された東京都、京都府、兵庫県では、調査スケジュールが変更となった関係上、重複単位区を除外せずに調査を行った。

²⁾ 例年の調査では、調査員が世帯を訪問し、世帯に住む対象者を特定し、適切な数の調査票を配布していた。今回調査では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によって、調査実施期間中に「まん延防止等重点措置」等が実施されていた地域が存在し、対面による対象者の特定ができず、配布数と対象者数に大きな乖離が生じる地域が発生した。そこで、対象者に配布した調査票数（対象者配布数）については、前回調査の配布実績を参考に、以下のように推計した。

対象者配布数 = 前回調査の配布数 × 全国の対象者数の前回調査からの増加率 × 対象単位区数の前回調査からの増加率

独身者調査の場合、全国の55歳未満の独身男女の数は、「日本の世帯数の将来推計（全国調査）」（2018年推計）（国立社会保障・人口問題研究所2018）の2020年の男女別配偶関係別人口の推計結果を用い、26,996,000人と推計され、前回（第15回）調査の50歳未満の対象者23,702,000人の1.14倍であった。また、対象地区は前回の900地区から1,000地区に増加したが、「国民生活基礎調査」の所得票が配布される単位区は対象から除かれるため、総単位区数の前回か

ただし、記入状況の悪い 575 票を無効票として集計対象から除外し、有効票数は 7,826 票、有効回収率は 55.9%となった（同 76.5%）。夫婦調査については、調査票配布数（調査客体数）9,401 票³⁾ に対して、回収数は 7,060 票であり、回収率は 75.1%であった（同 91.4%）。同じく、回収票のうち記入状況の悪い 226 票は無効票として集計対象から除外し、有効票数は 6,834 票、有効回収率は 72.7%となった（同 87.8%）。

本報告では、独身者調査は 18 歳以上 35 歳未満の未婚者を中心に集計を行った。夫婦調査は初婚どうしの夫婦について、前回（第 15 回）調査までは妻 50 歳未満、今回調査は妻が 50 歳未満で結婚し、調査時に 55 歳未満であった夫婦を中心に集計を行った。

なお、今回掲載されている過去調査回の結果は、第 16 回調査における変数作成方法と厳密に一致させた変数を用いた結果であるため、過去の報告書掲載の数値とわずかに異なる場合がある。第 16 回の結果と比較する際には、本報告書記載のものを参照するようお願いしたい。また本報告書刊行に先立ち 2022 年 9 月に結果の一部を「結果の概要」として速報している。本報告書は左記の内容に新たな集計結果を加えたものであり、結果の比較等を厳密に行うため、変数の作成方法等を再検討したものが含まれる。第 16 回調査の結果報告としては本報告書に記載されたものが確定値となる。

図表 I 調査票配布数、回収票数、有効票数および回収率

	独身者調査		夫婦調査	
調査票配布数	14,011		9,401	
回収票数	8,401	(回収率 60.0%)	7,060	(回収率 75.1%)
有効票数	7,826	(有効回収率 55.9%)	6,834	(有効回収率 72.7%)

らの増加率は約 1.08 であった。前回調査における対象独身者への配布数は 11,442 であったので、上記計算式により、配布数は 14,011 と推計される。

³⁾ 夫婦票の対象者配布数の推計も独身者票と同様に行った。全国の 55 歳未満の有配偶女性の数は、「日本の世帯数の将来推計（全国調査）」（2018 年推計）（国立社会保障・人口問題研究所 2018）の 2020 年の男女別配偶関係別人口の推計結果によれば、14,838,000 人と推計され、前回（第 15 回）調査の 50 歳未満の対象者 12,745,000 人の 1.16 倍である。また、対象総単位区数は、前回から約 1.08 倍であった。前回調査における対象夫婦への配布数は 7,511 であったので、上記計算式により、対象者配布数は 9,401 と推計される。

図表Ⅱ 性・年齢別未婚者数（独身者調査）

年 齢	第 16 回調査未婚者数		（参考）第 15 回調査未婚者数	
	男 性	女 性	男 性	女 性
総 数	3,408 (100.0 %)	3,082 (100.0 %)	3,942 (100.0 %)	3,424 (100.0 %)
18～34 歳小計	2,033 (59.7)	2,053 (66.6)	2,705 (68.6)	2,570 (75.1)
18～19 歳	302 (8.9)	322 (10.4)	419 (10.6)	381 (11.1)
20～24 歳	700 (20.5)	799 (25.9)	923 (23.4)	1,023 (29.9)
25～29 歳	579 (17.0)	549 (17.8)	788 (20.0)	754 (22.0)
30～34 歳	452 (13.3)	383 (12.4)	575 (14.6)	412 (12.0)
35～39 歳	379 (11.1)	298 (9.7)	458 (11.6)	323 (9.4)
40～44 歳	320 (9.4)	259 (8.4)	445 (11.3)	299 (8.7)
45～49 歳	386 (11.3)	263 (8.5)	334 (8.5)	232 (6.8)
50～54 歳	290 (8.5)	209 (6.8)	- (-)	- (-)

図表Ⅲ 基本属性別初婚どうしの夫婦数（夫婦調査）

妻の年齢	第 16 回調査夫婦数	（参考）第 15 回調査夫婦数
総 数	5,482 (100.0 %)	5,334 (100.0 %)
50 歳未満小計	4,351 (79.4)	5,334 (100.0)
20 歳未満	1 (0.0)	4 (0.1)
20～24 歳	37 (0.7)	75 (1.4)
25～29 歳	321 (5.9)	397 (7.4)
30～34 歳	660 (12.0)	820 (15.4)
35～39 歳	925 (16.9)	1,203 (22.6)
40～44 歳	1,102 (20.1)	1,547 (29.0)
45～49 歳	1,305 (23.8)	1,288 (24.1)
50～54 歳	1,131 (20.6)	- (-)

結婚持続期間	第 16 回調査夫婦数	（参考）第 15 回調査夫婦数
総 数	5,482 (100.0 %)	5,334 (100.0 %)
5 年未満	719 (13.1)	894 (16.8)
5～9 年	907 (16.5)	1,064 (19.9)
10～14 年	1,037 (18.9)	1,141 (21.4)
15～19 年	953 (17.4)	1,241 (23.3)
20～24 年	976 (17.8)	716 (13.4)
25 年以上	764 (13.9)	152 (2.8)
不 詳	126 (2.3)	126 (2.4)

(3) 標本の代表性

第 16 回出生動向基本調査の標本の代表性について調べるため、本調査の客体と総務省統計局「令和 2（2020）年国勢調査」との配偶関係別の年齢構成および地域構成の比較を行った。本調査の実施時期は令和 3 年 6 月 30 日であり、国勢調査の実施とは 9 か月のずれはあるものの、比較検証対象としては望ましいものと考えられる。なお国勢調査の結果については、「令和 2 年国勢調査に関する不詳補完結果（参考表）」（総人口）の数値を用いた。以下では本報告で主に取り上げている 35 歳未満の未婚男女と有配偶女性を中心に評価する。

年齢構成については、20 代前半の未婚男性で出生動向基本調査は国勢調査に比べやや少なめとなっている一方で、30 代の未婚男女は多めとなっている。有配偶女性については 20 代後半、30 代前半で出生動向は少なめとなっている。地域構成については、関東、近畿で出生動向基本調査が少なめとなっており、東北、中部が多めとなっている。このように多少の過大、過小の傾向はあるがその差は数%ポイントに収まっており、この種の標本調査としては比較的良好な代表性が保たれていると考えられる。したがって、本標本の分析は母集団の定量的属性に関して、有効な結果をもたらすと判断できる。ただし、精密な結果が求められる分析においては、年齢や地域をはじめとする属性を統制することによって、これが正確に実現されるよう工夫する必要がある。

図表Ⅳ 配偶関係別年齢構成：第 16 回出生動向基本調査および令和 2 年国勢調査

【男性】				【男性】			
年 齢	独身者調査			年 齢	国勢調査		
	未婚	離死別			未婚	離死別	
総 数	100.0%	100.0%		総 数	100.0%	100.0%	
18～19 歳	8.9	0.3		18～19 歳	8.6	0.1	
20～24 歳	20.5	2.6		20～24 歳	22.0	2.7	
25～29 歳	17.0	6.5		25～29 歳	17.8	6.5	
30～34 歳	13.3	15.1		30～34 歳	12.6	11.8	
35～39 歳	11.1	18.0		35～39 歳	10.4	18.3	
40～44 歳	9.4	24.0		40～44 歳	9.8	28.2	
45～49 歳	11.3	0.5		45～49 歳	10.6	0.7	
50～54 歳	8.5	33.1		50～54 歳	8.3	31.7	
【女性】				【女性】			
年 齢	独身者調査		夫婦調査	年 齢	国勢調査		
	未婚	離死別	夫婦の妻		未婚	離死別	有配偶
総 数	100.0%	100.0%	100.0%	総 数	100.0%	100.0%	100.0%
18～19 歳	10.4	0.0	0.0	18～19 歳	10.6	0.1	0.1
20～24 歳	25.9	0.4	0.7	20～24 歳	26.5	0.9	1.3
25～29 歳	17.8	3.3	5.3	25～29 歳	18.8	3.2	6.7
30～34 歳	12.4	7.3	11.4	30～34 歳	11.7	7.0	12.6
35～39 歳	9.7	11.8	16.5	35～39 歳	8.9	11.9	16.7
40～44 歳	8.4	18.9	20.3	40～44 歳	8.2	18.1	19.6
45～49 歳	8.5	28.8	24.4	45～49 歳	8.6	28.1	22.7
50～54 歳	6.8	29.5	21.4	50～54 歳	6.6	30.8	20.3

「第 16 回出生動向基本調査」

総務省「令和 2 年国勢調査に関する不詳補完結果（参考表）」

図表V 配偶関係別地域構成：第16回出生動向基本調査および令和2年国勢調査

【男性】

地 域	独身者調査	
	未婚	離死別
総 数	100.0%	100.0%
北海道	3.0	5.5
東北	8.7	9.6
関東	35.1	32.8
中部	20.4	21.6
近畿	13.0	12.0
中国・四国	7.9	9.1
九州・沖縄	11.9	9.4

【男性】

地 域	国勢調査	
	未婚	離死別
総 数	100.0%	100.0%
北海道	3.7	4.5
東北	6.1	7.2
関東	39.7	32.3
中部	17.5	18.1
近畿	15.8	16.0
中国・四国	7.6	9.3
九州・沖縄	9.6	12.5

【女性】

地 域	独身者調査		夫婦調査
	未婚	離死別	夫婦の妻
総 数	100.0%	100.0%	100.0%
北海道	2.9	5.5	5.0
東北	6.8	7.7	7.0
関東	35.2	28.1	35.7
中部	20.4	16.1	20.9
近畿	14.2	16.1	12.3
中国・四国	9.0	9.9	8.6
九州・沖縄	11.4	16.6	10.5

【女性】

地 域	国勢調査		
	未婚	離死別	有配偶
総 数	100.0%	100.0%	100.0%
北海道	3.9	5.0	3.8
東北	5.7	7.5	6.2
関東	39.1	30.4	36.3
中部	15.7	17.6	18.6
近畿	17.4	16.5	16.3
中国・四国	7.5	9.4	8.2
九州・沖縄	10.7	13.5	10.6

「第16回出生動向基本調査」

総務省「令和2年国勢調査に関する不詳補完結果
(参考表)」

地域の定義は以下の通り。北海道：北海道、東北：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、関東：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、中部：新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、近畿：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、中国・四国：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、九州・沖縄：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

第 I 部 独身者調査の結果

第 I 部では、独身者調査の結果から、18 歳から 34 歳の未婚男女を主な集計対象として、結婚や出産に関する考え方、交際状況、希望するライフコース像、生活スタイルについて示す。

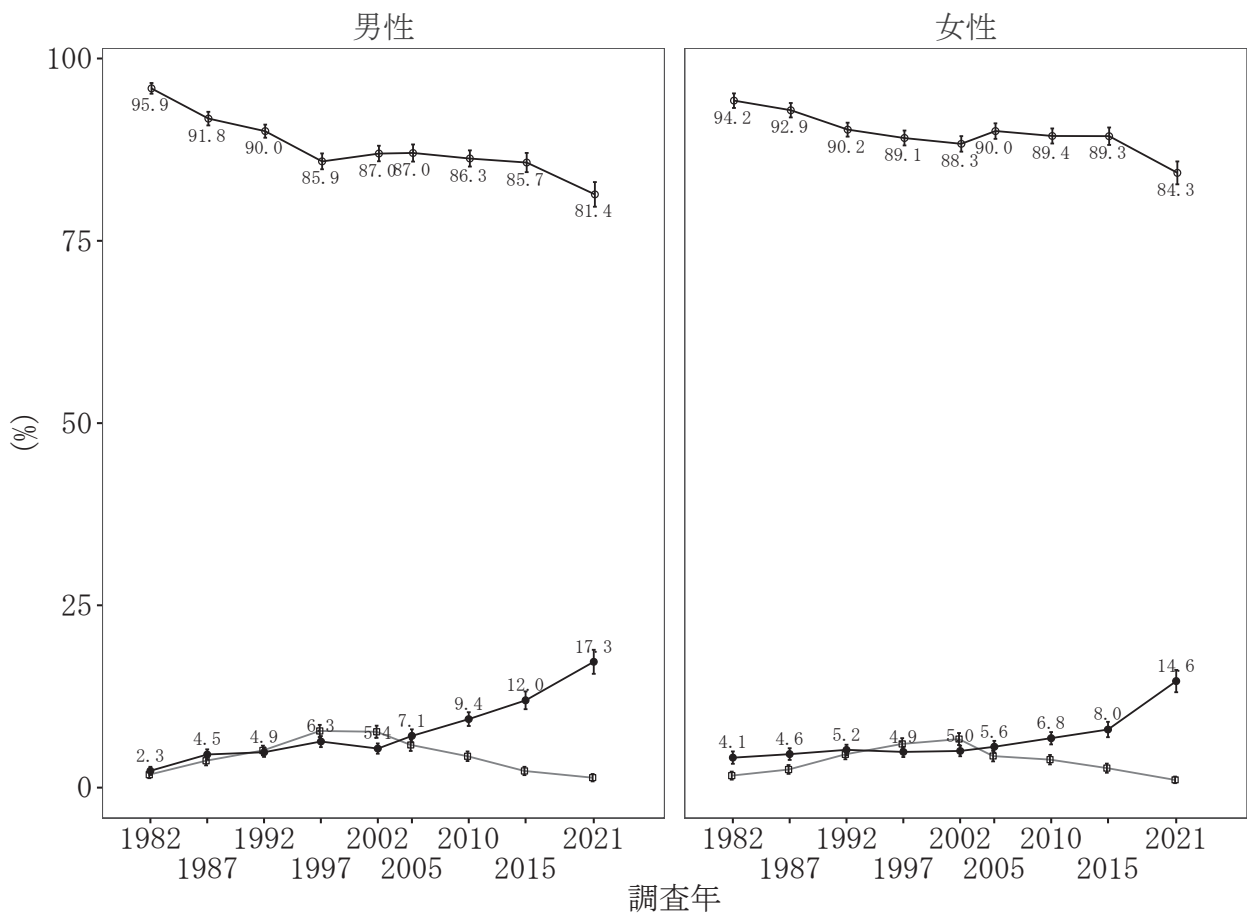
1 結婚についての考え方

1.1 結婚の意思

<「いずれ結婚するつもり」の男女は前回調査から減少>

「いずれ結婚するつもり」と考えている未婚者の割合は、1997年（第11回）調査以降、比較的安定的に推移してきたが、今回調査では男女とも前回から減少し、18～34歳の男性では81.4%（前回85.7%）、同女性では84.3%（前回89.3%）であった。一方、「一生結婚するつもりはない」と答える未婚者は2000年代に入って増加傾向が続いており、今回調査では男性で17.3%、女性で14.6%となった。

図表 1-1-1 調査別にみた、未婚者の生涯の結婚意思



○ いずれ結婚するつもり ● 一生結婚するつもりはない □ 不詳

注：対象は18～34歳の未婚者。図中のマーカー上のエラーバーは95%信頼区間を示している。客体数は、第8回（1982）男性（2,732）、女性（2,110）、第9回（1987）男性（3,299）、女性（2,605）、第10回（1992）男性（4,215）、女性（3,647）、第11回（1997）男性（3,982）、女性（3,612）、第12回（2002）男性（3,897）、女性（3,494）、第13回（2005）男性（3,139）、女性（3,064）、第14回（2010）男性（3,667）、女性（3,406）、第15回（2015）男性（2,705）、女性（2,570）、第16回（2021）男性（2,033）、女性（2,053）。設問「自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちどちらですか。」（1. いずれ結婚するつもり、2. 一生結婚するつもりはない）。

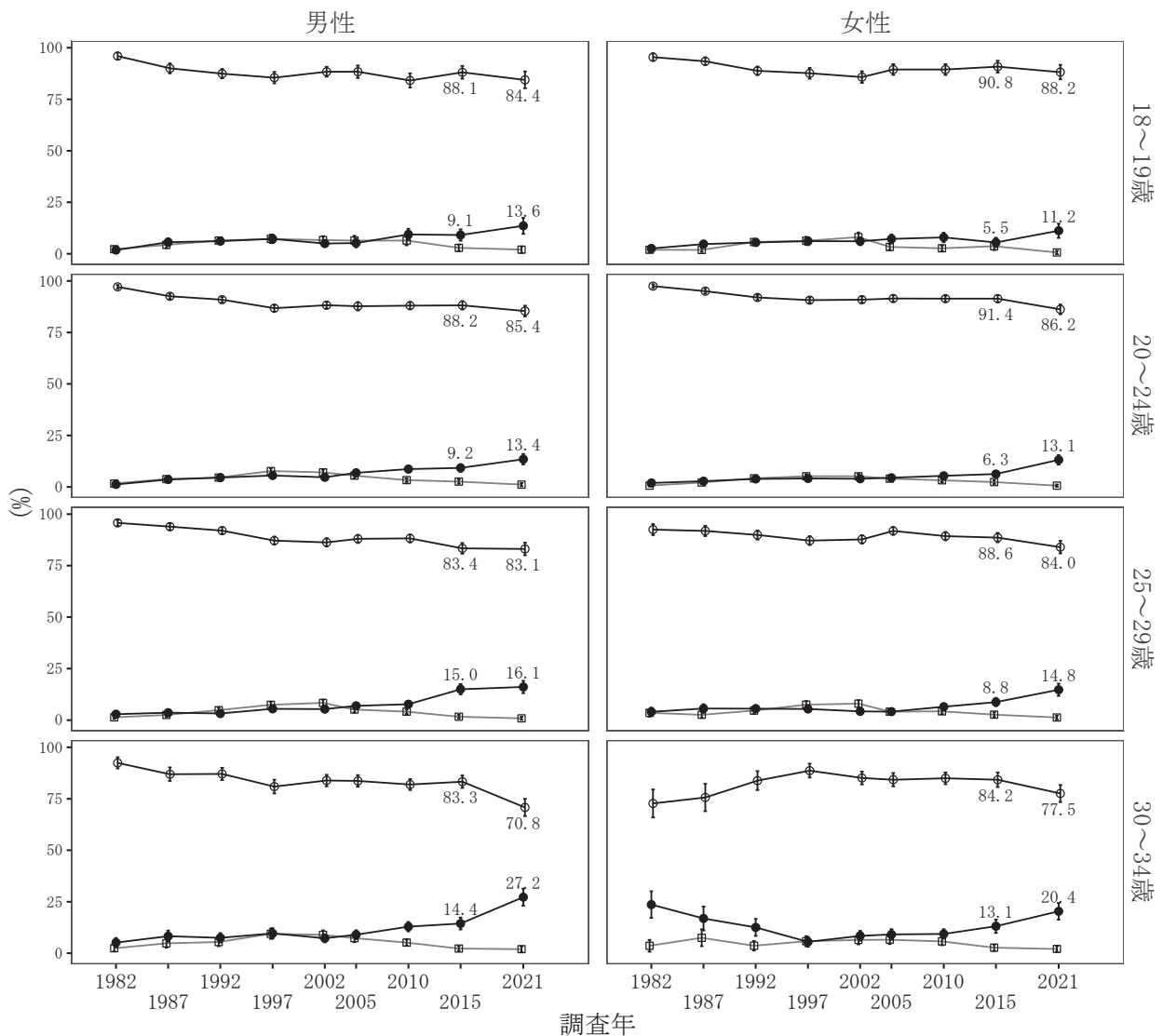
【報告書図表1-1-1 調査別にみた、未婚者の生涯の結婚意思】

<「いずれ結婚するつもり」と考える未婚者、性別、年齢層にかかわらず減少>

ここでは未婚者の生涯の結婚の意思について年齢別に示した。男女いずれの年齢でも、前回調査より「いずれ結婚するつもり」と答える割合が減少しており、第15回調査までの変化と比較して、今回は顕著な変化となった。とくに減少がみられたのは、30～34歳の男性（前回83.3%、今回70.8%）、30～34歳の女性（前回84.2%、今回77.5%）、20～24歳の女性（前回91.4%、今回86.2%）である。

今回調査では、性別や年齢にかかわらず減少がみられたことから、調査を行った時期の社会状況が、幅広い世代の意識に影響した可能性も示唆される。

図表 1-1-2 調査・年齢別にみた、未婚者の生涯の結婚意思



○ いずれ結婚するつもり ● 一生結婚するつもりはない □ 不詳

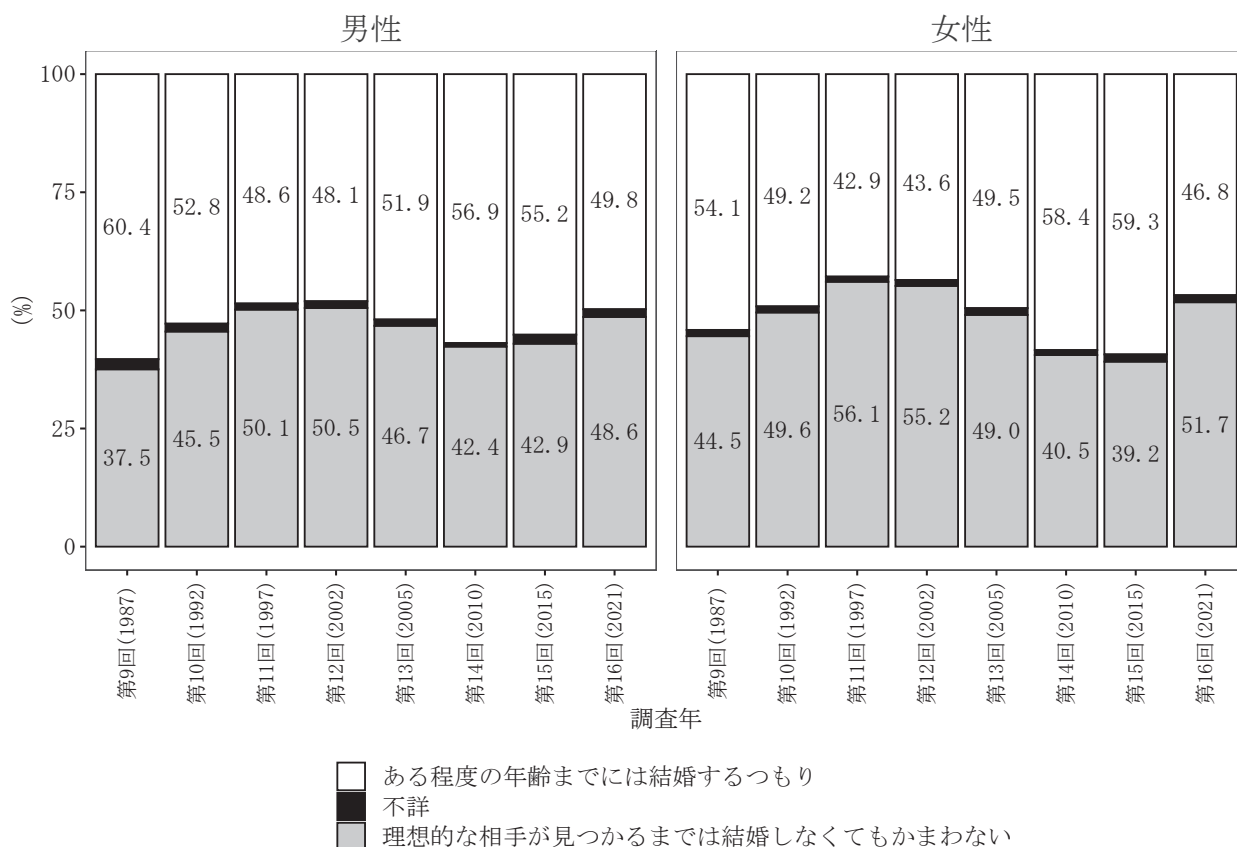
注：対象は18～34歳の未婚者。図中のマーカー上のエラーバーは95%信頼区間を示している。設問「自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちどちらですか。」（1. いずれ結婚するつもり、2. 一生結婚するつもりはない）。

【報告書図表1-1-2 調査・年齢別にみた、未婚者の生涯の結婚意思】

<結婚時期の決め手、年齢か理想的な相手かは、ほぼ半々>

結婚する意思のある未婚者のうち、「ある程度の年齢までには結婚するつもり」と「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」と考える割合は、ほぼ半々である。前回調査に比べると、男女とも「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」と考える割合が高まり、男性では48.6%、女性では51.7%となった。

図表 1-1-3 調査別にみた、結婚意思をもつ未婚者の結婚に対する考え方
(年齢か理想的な相手か)



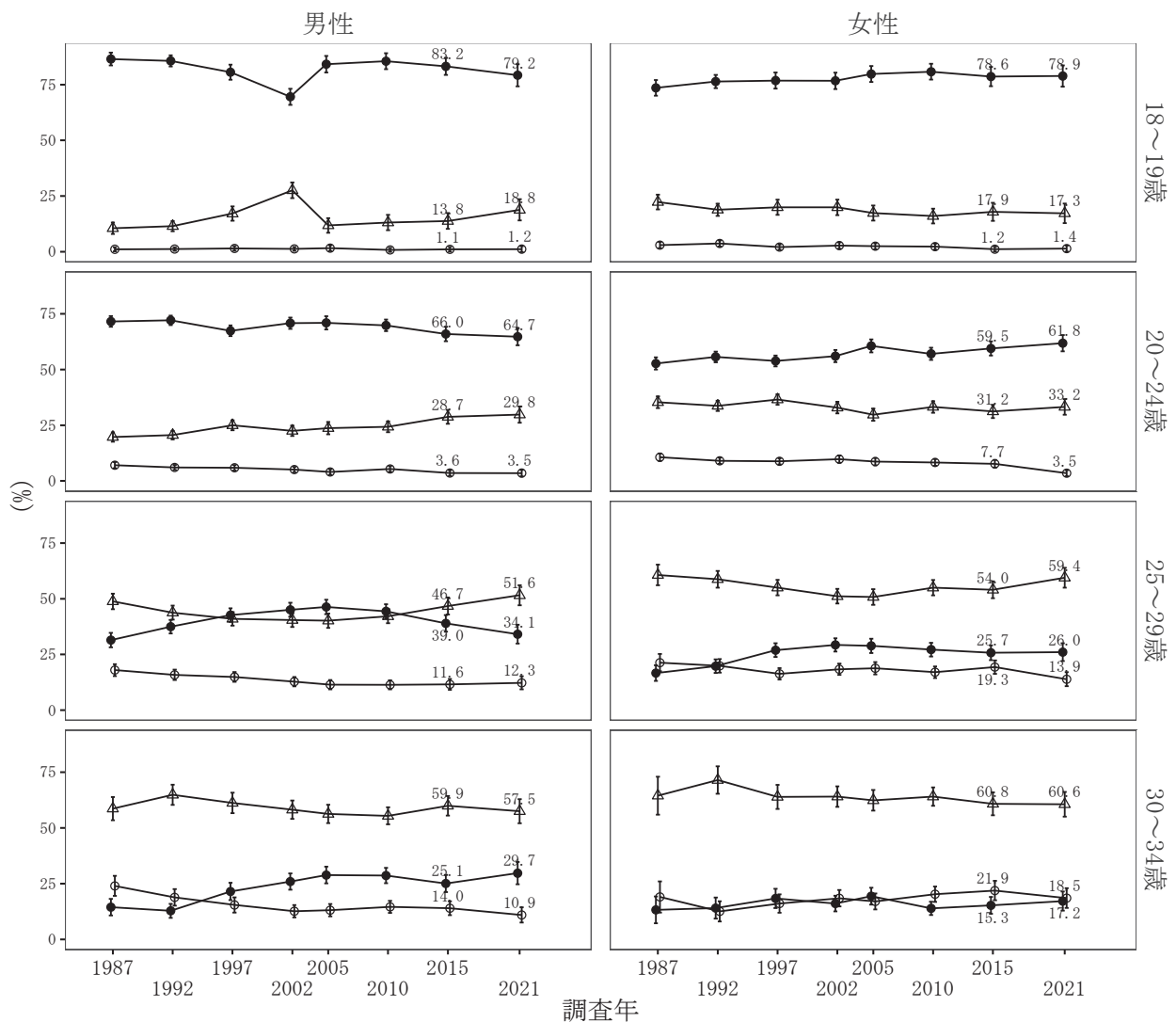
注：対象は「いずれ結婚するつもり」と回答した18～34歳の未婚者。客体数は、第9回男性(3,027)、女性(2,420)、第10回男性(3,795)、女性(3,291)、第11回男性(3,420)、女性(3,218)、第12回男性(3,389)、女性(3,085)、第13回男性(2,732)、女性(2,759)、第14回男性(3,164)、女性(3,044)、第15回男性(2,319)、女性(2,296)、第16回男性(1,654)、女性(1,731)。設問「同じく自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちどちらですか。」(1. ある程度の年齢までには結婚するつもり、2. 理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない)。

【報告書図表1-1-3 調査別にみた、結婚意思をもつ未婚者の結婚に対する考え方(年齢か理想的な相手か)】

<25歳以上の過半数は「理想的な相手が見つければ〔一年以内に〕結婚してもよい」と考えている>

一年以内の結婚意思を年齢別にみると、「理想的な相手が見つければ結婚してもよい」と考える割合は、年齢が上であるほど高く、25～29歳、30～34歳では、5、6割に上る。同割合は、20～24歳と25～29歳で男女とも2015年調査時から増加した。増加幅は25～29歳でもっとも大きく、男女とも5ポイント前後である。「一年以内に結婚したい」と考える割合も年齢が上である方が高く、25～29歳と30～34歳では男女とも10%台で、女性の30～34歳では18.5%である。

図表 1-1-4 調査・年齢別にみた、未婚者の一年以内の結婚意思



○ 一年以内に結婚したい △ 理想的な相手が見つければ結婚してもよい ● まだ結婚するつもりはない

注：対象は「いずれ結婚するつもり」と回答した18～34歳の未婚者。図中のマーカー上のエラーバーは95%信頼区間を示している。「不詳」の推移は掲載を省略。設問「それでは今から一年以内の結婚に関してはどのようにお考えですか。」（1. 一年以内に結婚したい、2. 理想的な相手が見つければ結婚してもよい、3. まだ結婚するつもりはない）。

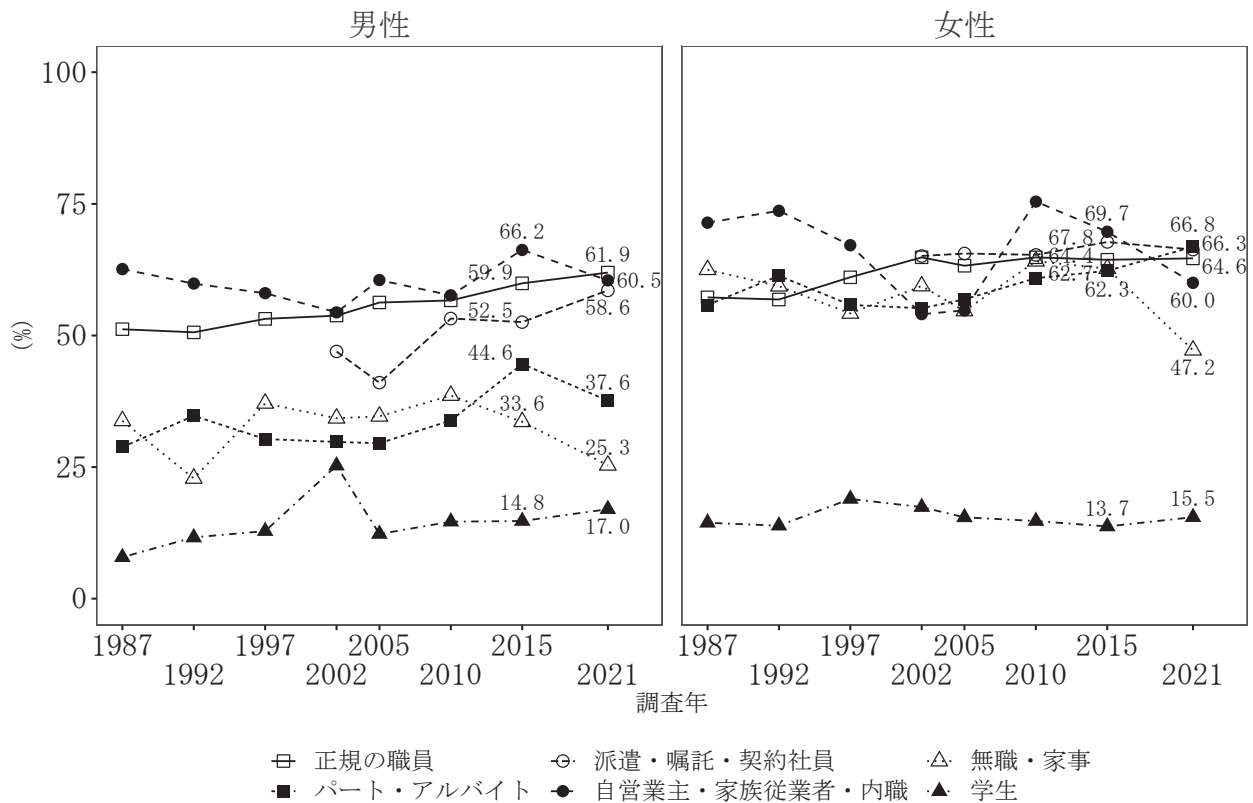
【報告書図表1-1-4 調査・年齢別にみた、未婚者の一年以内の結婚意思】

＜一年以内の結婚意思、男性は就業状況により違い＞

就業状況別に一年以内の結婚意思をみると、男性では正規の職員、自営業主・家族従業者・内職、派遣・嘱託・契約社員の6割前後が結婚意思を示した一方で、パート・アルバイトでは37.6%、無職・家事では25.3%と少ない。前回調査と比べると、男性では、自営業主・家族従業者・内職、パート・アルバイト、無職・家事の男性で、一年以内の結婚意思のある人が減少した。

女性では、就業状況による違いは男性ほど顕著ではなく、正規の職員、パート・アルバイト、自営業主・家族従業者・内職のいずれでも、約3分の2が一年以内の結婚意思を示した。無職・家事の女性で一年以内の結婚意思を示したのは47.2%で、前回調査の62.7%から低下した。

図表 1-1-5 調査・現在の就業状況・従業上の地位別にみた、一年以内に結婚する意思のある未婚者割合



注：対象は「いずれ結婚するつもり」と回答した18～34歳の未婚者。「一年以内に結婚したい」または「理想的な相手が見つければ結婚してもよい」と回答した未婚者の割合。「派遣・嘱託」の区分は第12回（2002）調査で選択肢に追加（第13回（2005）調査では、さらに同区分に「契約社員」も追加）。客体数は、第15回（2015）男性（正規の職員1,155、パート・アルバイト166、派遣・嘱託・契約社員118、自営業主・家族従業者・内職80、無職・家事122、学生583）、女性（正規の職員1,078、パート・アルバイト273、派遣・嘱託・契約社員183、自営業主・家族従業者・内職33、無職・家事126、学生532）、第16回（2021）男性（正規の職員904、パート・アルバイト93、派遣・嘱託・契約社員70、自営業主・家族従業者・内職43、無職・家事75、学生406）、女性（正規の職員840、パート・アルバイト184、派遣・嘱託・契約社員95、自営業主・家族従業者・内職25、無職・家事89、学生439）。18～34歳の未婚者全体（男性、女性）に対する割合は第15回（2015）調査（45.5%、52.6%）、第16回（2021）調査（46.9%、50.8%）であった。設問「それでは今から一年以内の結婚に関してはどのようにお考えですか。」（1. 一年以内に結婚したい、2. 理想的な相手が見つければ結婚してもよい、3. まだ結婚するつもりはない）。

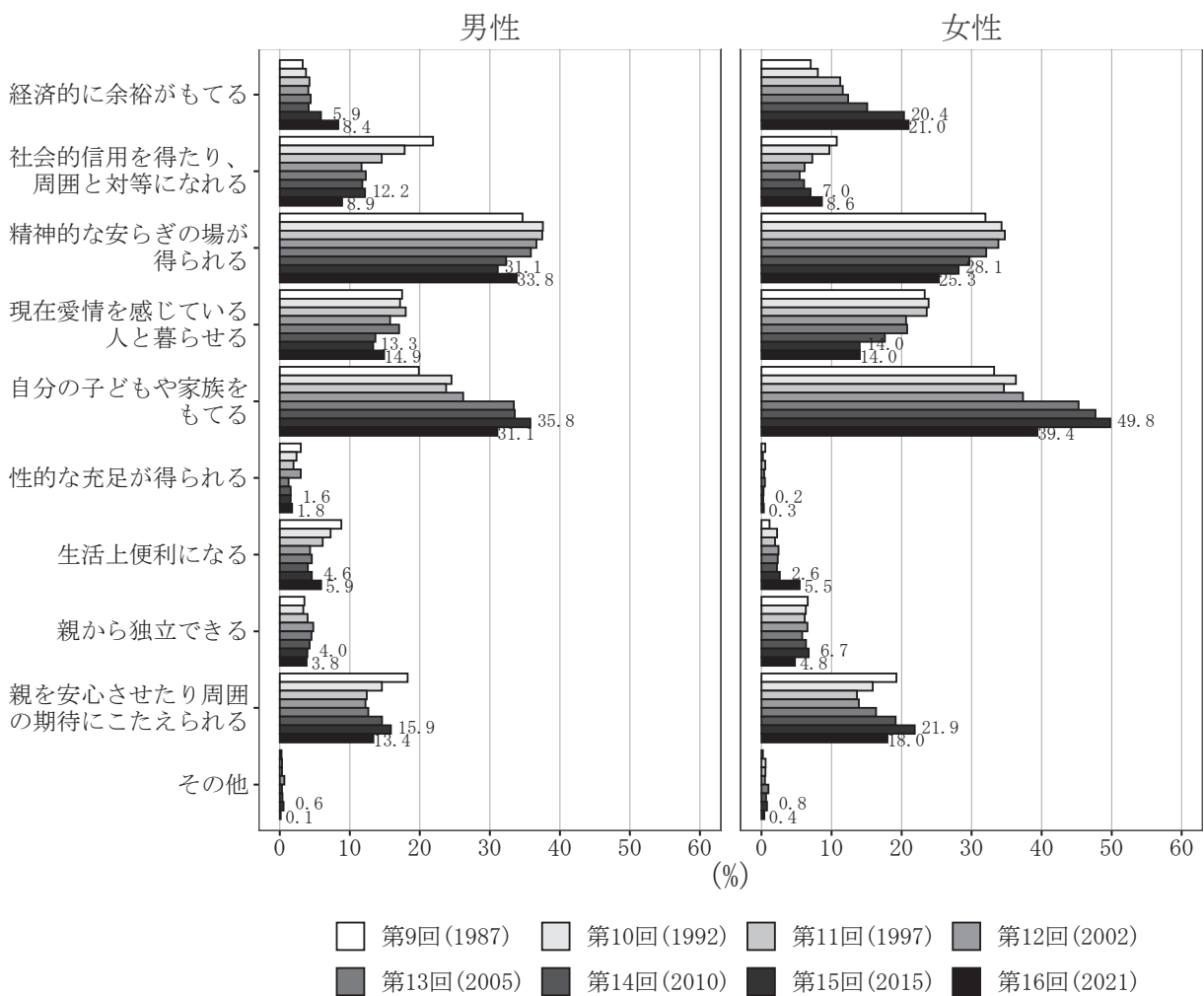
【報告書図表1-1-5 調査・現在の就業状況・従業上の地位別にみた、一年以内に結婚する意思のある未婚者割合】

1.2 結婚の利点・独身の利点

＜結婚の利点、「自分の子どもや家族をもてる」は減少に転じ、「経済的に余裕がもてる」は微増＞

結婚することの具体的な利点のとらえ方をみると、第9回（1987年）調査からはほぼ一貫して増えていた「自分の子どもや家族をもてる」を挙げる人が減少に転じ、女性では前回調査から10ポイント近く減少して39.4%となった。男性では「精神的な安らぎの場が得られる」を挙げる人が微増して33.8%となり、「自分の子どもや家族をもてる」の31.1%を上回った。「経済的に余裕がもてる」を挙げる人は、前回に続き、男女とも微増した。

図表 1-2-1 調査別にみた、各「結婚の利点」を選択した未婚者の割合



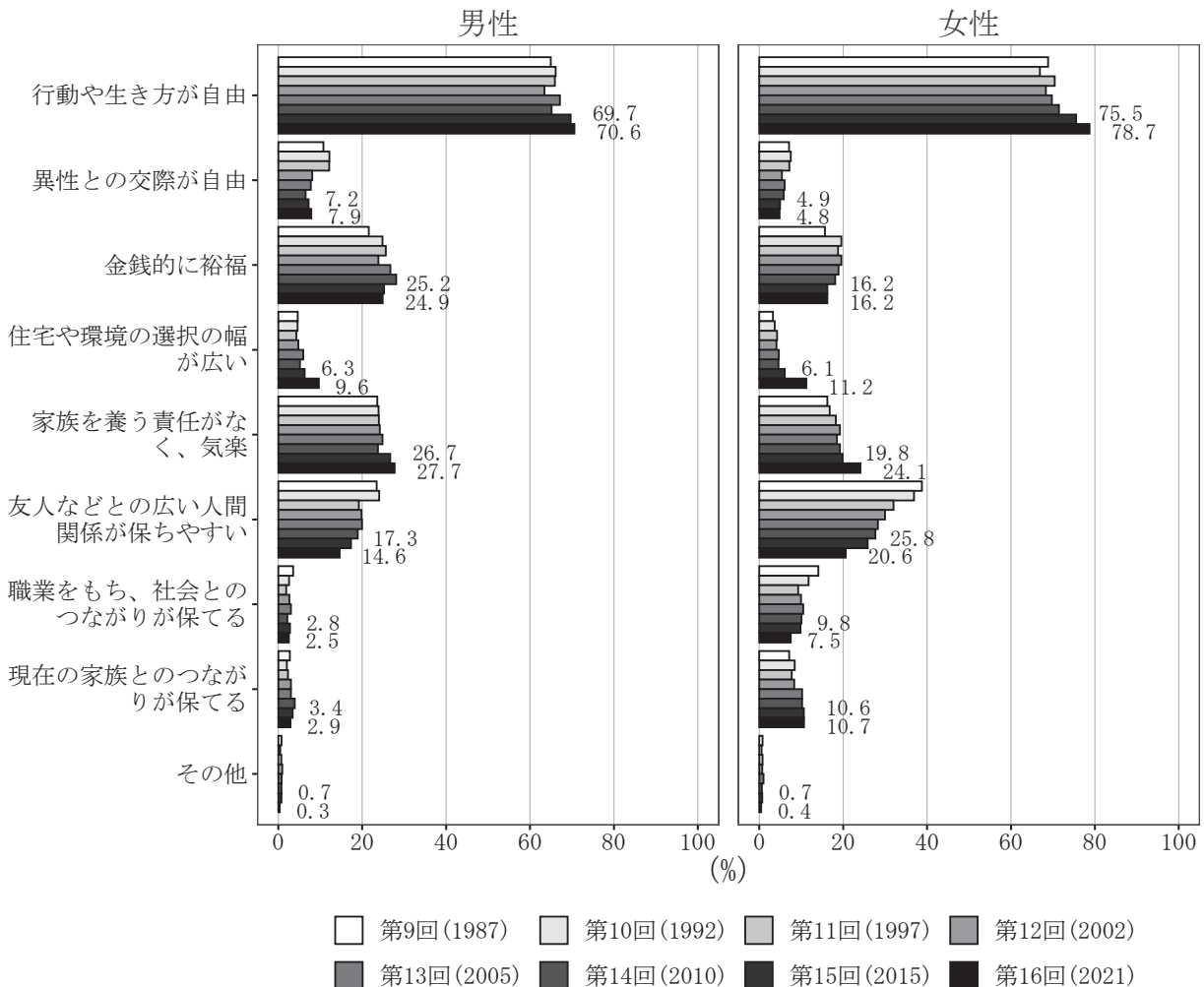
注：対象は18～34歳の未婚者。何%の人が各項目を主要な結婚の利点（2つまで選択）として考えているかを示す。結婚することに利点があると回答した割合は、第9回（男性69.1%、女性70.8%）、第10回（同66.7%、71.4%）、第11回（64.6%、69.9%）、第12回（62.3%、69.4%）、第13回（65.7%、74.0%）、第14回（62.4%、75.1%）、第15回（64.3%、77.8%）、第16回（63.3%、70.9%）。設問「今のあなたにとって、結婚することにはなにか利点があると思いますか。左下のワクのあてはまる番号に○をつけてください。「1.利点があると思う」に○をつけた方は、右側のワクの中から具体的な利点を2つまで選んで右の回答欄に番号を記入してください。」

【報告書図表1-2-1 調査別にみた、各「結婚の利点」を選択した未婚者の割合】

<独身生活の最大の利点「行動や生き方が自由」は増加が続く>

独身生活の具体的な利点をみると、第9回（1987年）調査以来、利点として挙げる人が最多である「行動や生き方が自由」は、今回の調査でさらに微増し、男性で70.6%、女性で78.7%となった。「友人などとの広い人間関係が保ちやすい」の選択率は低下傾向が続いている。また、「家族を養う責任がなく、気楽」や「住宅や環境の選択の幅が広い」を挙げる人が増加した。

図表 1-2-2 調査別にみた、各「独身生活の利点」を選択した未婚者の割合



注：対象は18～34歳の未婚者。何%の人が各項目を主要な独身生活の利点（2つまで選択）として考えているかを示す。独身生活に利点があると回答した割合は、第9回（男性83.0%、女性89.7%）、第10回（同83.6%、89.0%）、第11回（82.7%、88.5%）、第12回（79.8%、86.6%）、第13回（83.8%、87.2%）、第14回（81.0%、87.6%）、第15回（83.5%、88.7%）、第16回（84.1%、90.3%）。設問「それでは逆に今のあなたにとって、独身生活には結婚生活にはない利点があると思いますか。左下のワクのあてはまる番号に○をつけてください。「1.利点があると思う」に○をつけた方は、右側のワクの中から具体的な利点を2つまで選んで右の回答欄に番号を記入してください。」

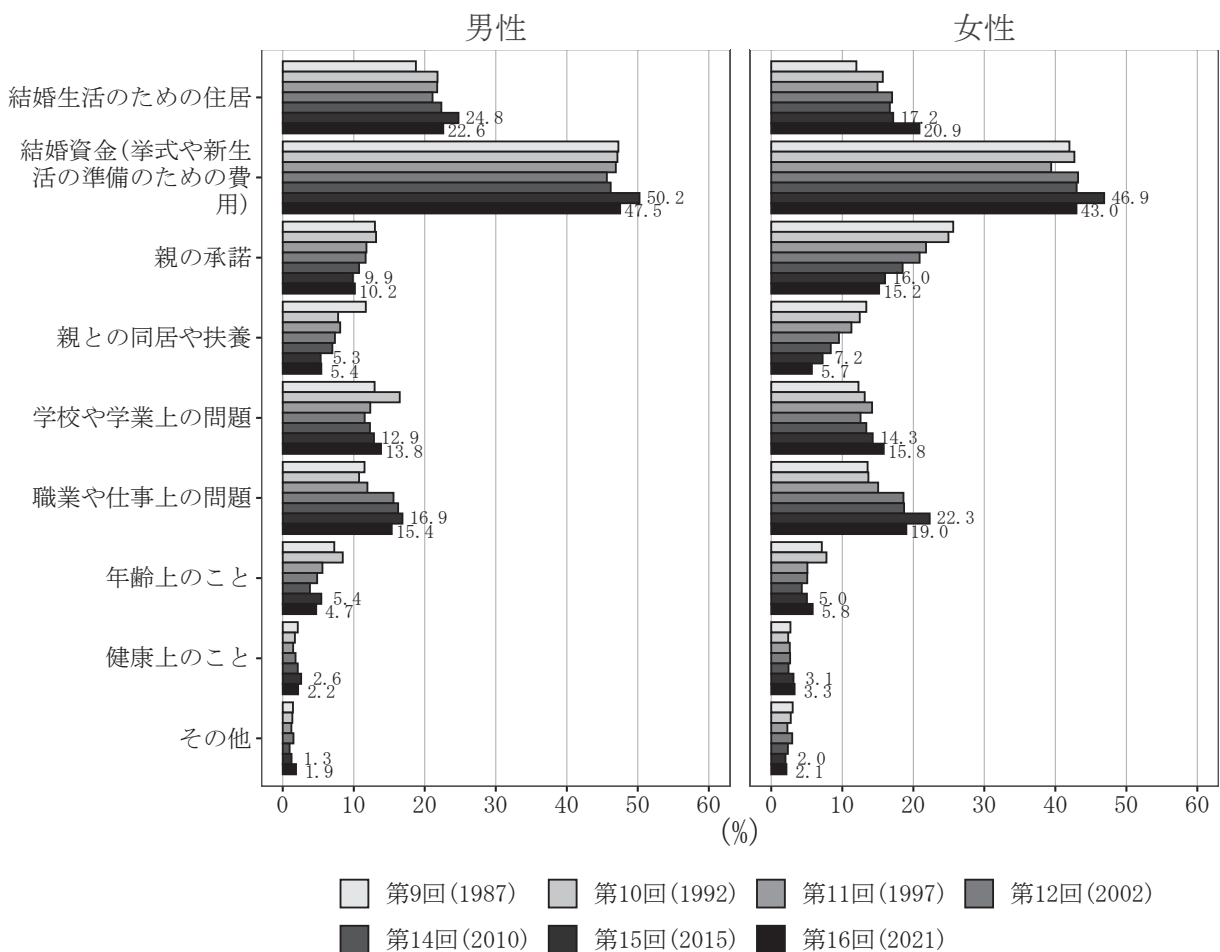
【報告書図表1-2-2 調査別にみた、各「独身生活の利点」を選択した未婚者の割合】

1.3 結婚へのハードルと独身でいる理由

＜一年以内の結婚に対する障害では「結婚資金」「住居」「職業や仕事上の問題」が上位に＞

一年以内に結婚するとした場合、何らかの障害があるかをたずねると、第9回（1987年）調査以降、男女ともに6割台から7割が「障害がある」と回答してきた。今回の調査においても、その割合は大きくは変わらず、男性で65.2%、女性では69.3%が一年以内の結婚に障害があると回答している。何が障害になるかを具体的にたずねたところ、「結婚資金」を挙げる未婚者がもっとも多く、男性では47.5%、女性では43.0%にのぼる。次いで多いのが、「住居」（男性22.6%、女性20.9%）、「職業や仕事上の問題」（男性15.4%、女性19.0%）である。

図表 1-3-1 調査別にみた、各「結婚の障害」を選択した未婚者の割合



注：対象は「いずれ結婚するつもり」と回答した18～34歳の未婚者。何%の人が各項目を主要な結婚の障害（2つまで選択）として考えているかを示す。第13回調査は、設問選択肢の表現が一部他の回と異なるため非掲載。「いずれ結婚するつもり」と回答した18～34歳の未婚者のうち、一年以内の結婚に障害があると回答した割合は、第9回（男性67.1%、女性69.2%）、第10回（同67.9%、71.3%）、第11回（65.0%、67.8%）、第12回（64.5%、70.1%）、第14回（68.1%、71.5%）、第15回（68.3%、70.3%）、第16回（65.2%、69.3%）。設問「現在交際している人と（あるいは理想的な相手が見つかった場合）一年以内に結婚するとしたら、なにか障害になることがあると思いますか。左下のワクのあてはまる番号に○をつけてください。1に○をつけた方は、右側のワクの中から具体的な障害を2つまで選んで右の回答欄に番号を記入してください。」

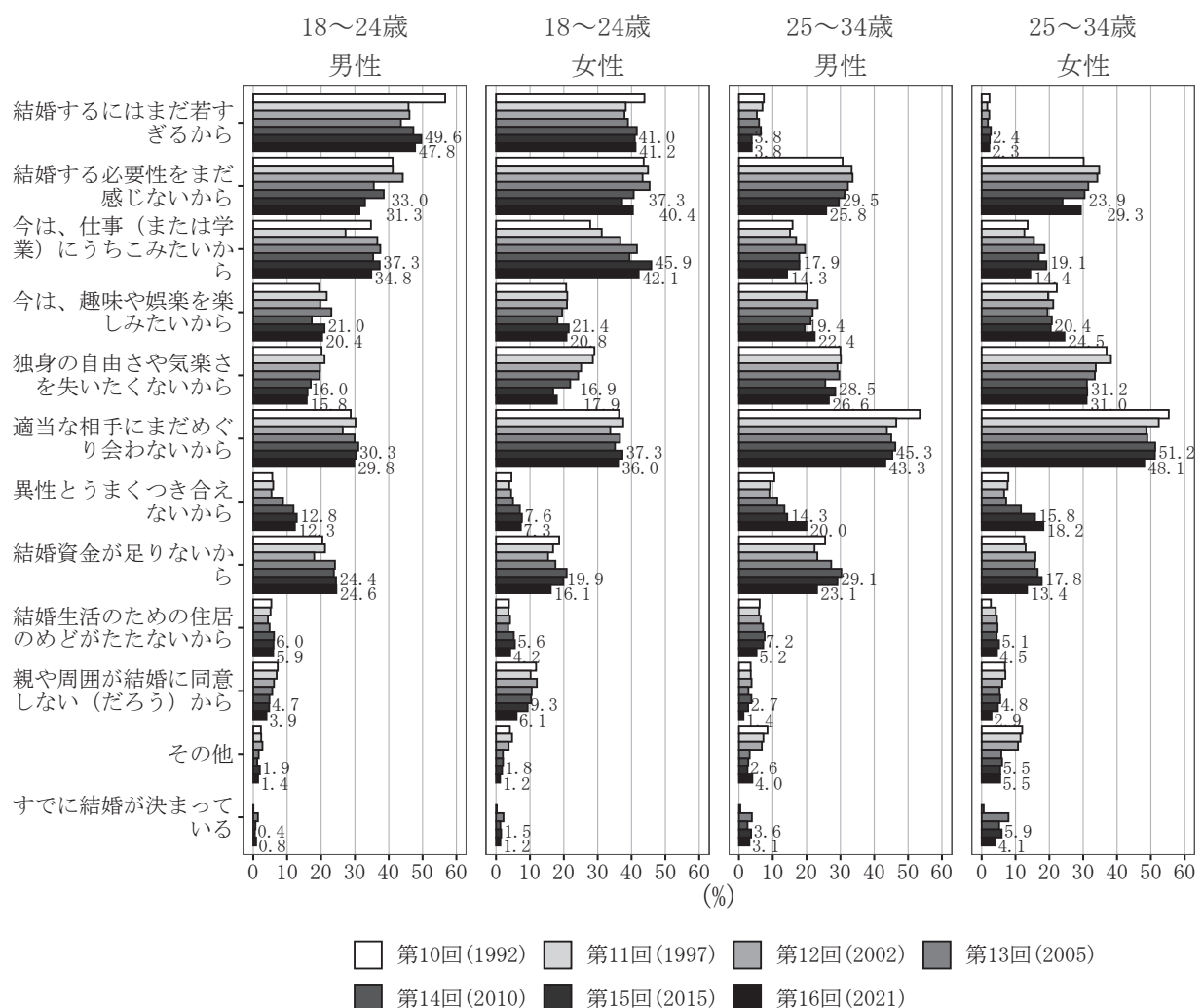
【報告書図表1-3-1 調査別にみた、各「結婚の障害」を選択した未婚者の割合】

<独身でいる理由は、結婚する積極的な動機がないこと、25歳以上では適当な相手がいないこと>

結婚意思のある未婚者に、現在独身でいる理由をたずねた。若い年齢層（18～24歳）では「結婚するにはまだ若すぎるから」、「結婚する必要性をまだ感じないから」、「今は、仕事（または学業）にうちこみたいから」といった、積極的な結婚の動機がないことが現在独身でいる理由の上位に挙げられている。

25～34歳では、「適当な相手にまだめぐり合わないから」の選択率がもっとも高く、男性の43.3%、女性の48.1%がこれを挙げた。また「異性とうまくつき合えないから」の選択率は2005年（第13回）調査以降、上昇している。その他、今回の調査では「今は、趣味や娯楽を楽しみたいから」が男女ともに増加した。

図表 1-3-2 調査・年齢別にみた、各「独身でいる理由」を選択した未婚者の割合



注：対象は18～34歳の未婚者。何%の人が各項目を独身でいる理由（3つまで選択）として挙げているかを示す。「すでに結婚が決まっている」は第13回（2005）調査から選択肢に追加（第12回（2002）調査は「その他」の自由記述から振り分けたもの）。設問「あなたが現在独身でいる理由は、次の中から選ぶとすればどれですか。ご自分に最もあてはまると思われる理由を 最高3つまで選んで、右の回答欄に番号を記入してください（すでに結婚が決まっている方は、「最大の理由」の欄に12を記入してください）。」

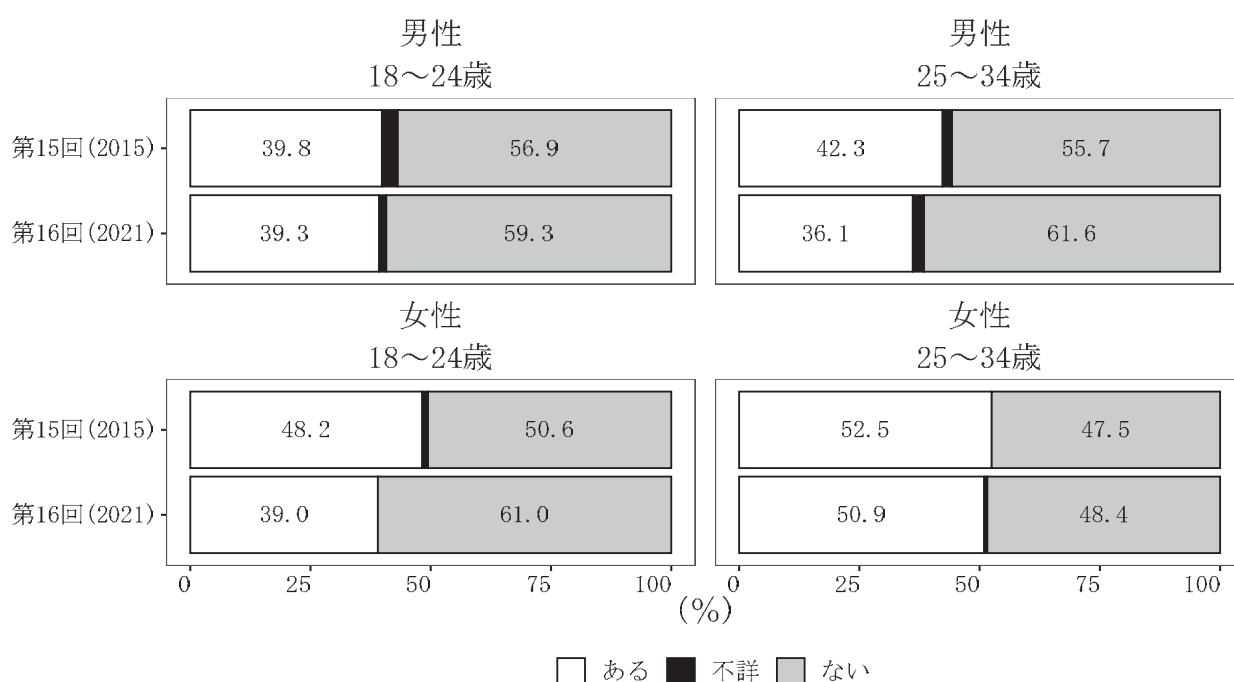
【報告書図表1-3-2 調査・年齢別にみた、各「独身でいる理由」を選択した未婚者の割合】

1.4 結婚意思のない未婚者の意思の変化

＜これまでに「いずれ結婚するつもり」と思ったことがない割合は男女とも増加＞

調査時点で「一生結婚するつもりはない」と回答した未婚者に、これまでに「いずれ結婚するつもり」と思ったことがあるかをたずねたところ、「ない」と回答した割合は、男性では、18～24歳で59.3%、25～34歳で61.6%、女性では18～24歳で61.0%、25～34歳で48.4%であった。いずれの割合も2015年調査よりも高い。18～24歳の女性では、2015年調査（50.6%）に比べ、10ポイント増加した。

図表 1-4-1 調査・年齢別にみた、これまでに「いずれ結婚するつもりがある」と思った経験の有無（結婚意思のない未婚者）



注：対象は、「一生結婚するつもりはない」と回答した18～34歳の未婚者。客体数は、第15回男性（18～24歳123、25～34歳201）、女性（同85、120）、第16回男性（18～24歳135、25～34歳216）、女性（同141、159）。設問「現在のお気持ちは別として、これまでに「いずれ結婚するつもり」と思ったことはありますか。」（1. ある、2. ない）。

【報告書図表1-4-1 調査・年齢別にみた、これまでに「いずれ結婚するつもりがある」と思った経験の有無（結婚意思のない未婚者）】

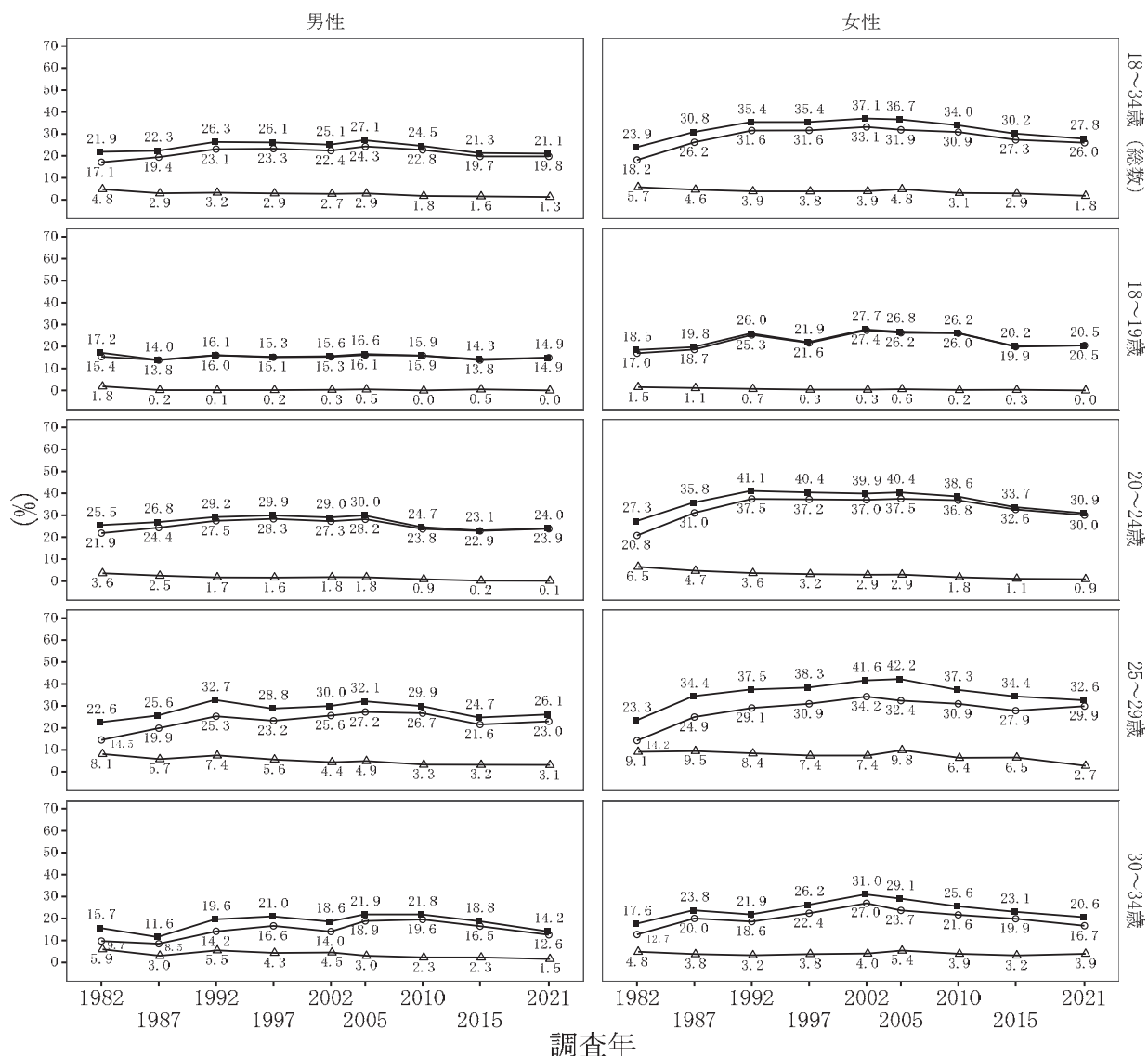
2 交際経験

2.1 異性との交際状況

＜恋人または婚約者がいる未婚者の割合は 2000 年代前半がピーク、今回は男性では 2 割で横ばい、女性では 3 割弱で前回から微減＞

異性との交際状況をたずねたところ、「恋人として交際している異性がいる」「婚約者がいる」と回答した割合は、2000 年代前半をピークに男女とも低下している。今回調査では 18～34 歳の男性で 21.1%と前回から横ばい、同女性では 27.8%で前回から微減した。

図表 2-1-1 調査・年齢別にみた、未婚者の異性との交際の状況（恋人または婚約者がいる割合）



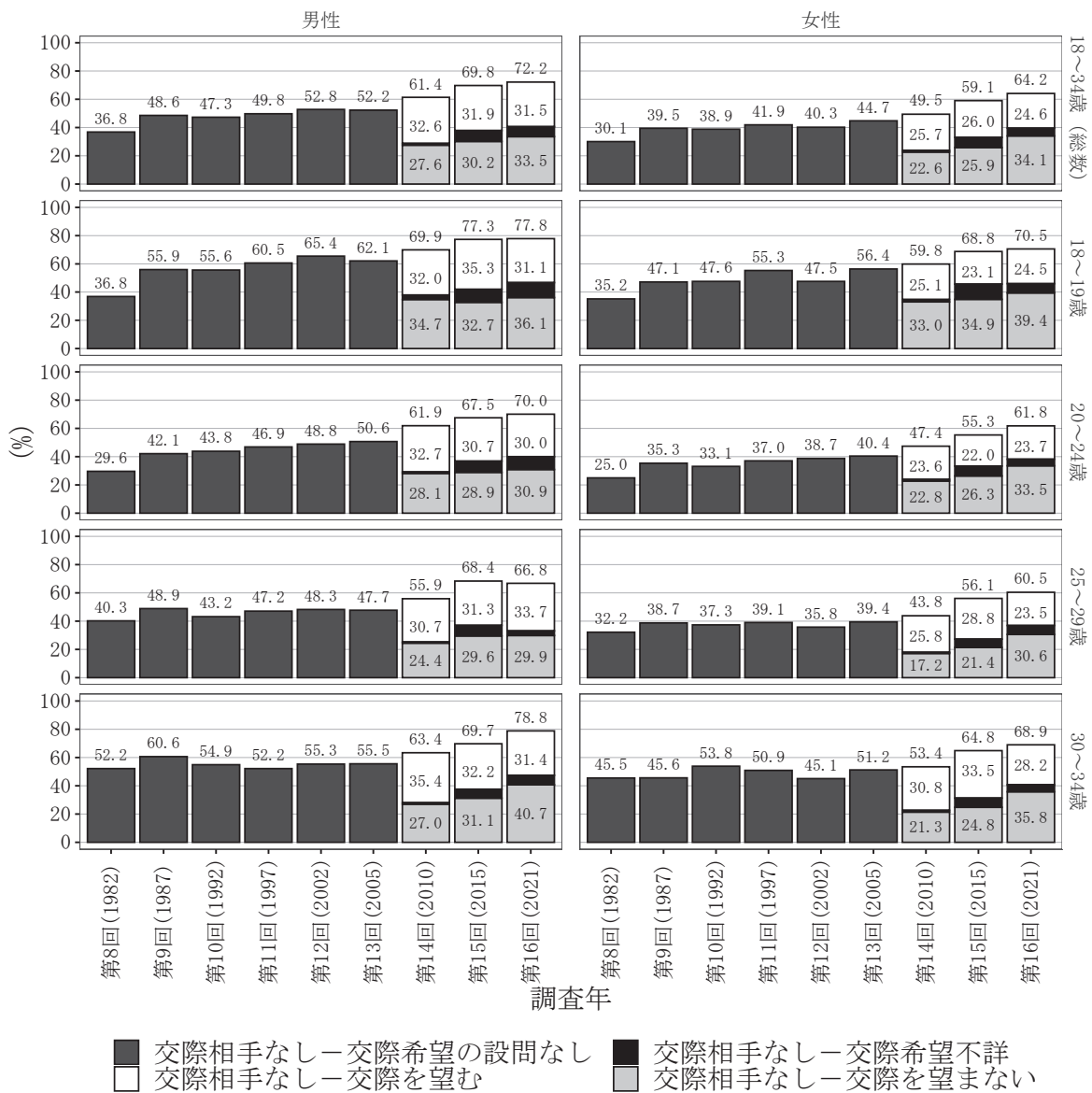
△ 婚約者がいる ○ 恋人として交際している異性がいる ■ 恋人または婚約者がいる (再掲)

注：対象は18～34歳の未婚者。「恋人として交際している異性がいる」「婚約者がいる」と回答した未婚者の割合。設問「あなたには、交際している異性がありますか。」(1. 交際している異性はいない、2. 友人として交際している異性がいる、3. 恋人として交際している異性がいる、4. 婚約者がいる)。
【報告書図表2-1-1 調査・年齢別にみた、未婚者の異性との交際の状況（恋人または婚約者がいる割合）】

＜異性の交際相手をもたない未婚者で交際を望まない人が増加＞

調査時点で交際相手をもたない（異性の友人／恋人、婚約者のいずれもない）割合は、今回調査では18～34歳の未婚男女の7割前後である（図の棒グラフの高さで示される）。第14回調査以降では、この未婚者に異性との交際の希望をたずねている。「交際を望んでいる」人は半数弱であり、未婚男性全体ではどの年齢層でも3割台、未婚女性全体ではどの年齢層でも2割台である。すなわち、18～34歳の未婚男女の3人に1人は「特に異性との交際を望んでいない」と回答している。

図表 2-1-2 調査・年齢別にみた、交際相手（異性の友人／恋人、婚約者）をもたない未婚者の割合と交際の希望



注：対象は18～34歳の未婚者。異性の交際相手（婚約者、異性の恋人、異性の友人）をもたない未婚者の割合。交際の希望は第14回以降のみ。設問「あなたには、交際している異性がありますか。」において交際している異性はいない場合、「異性との交際の希望」（1. 交際を望んでいる、2. とくに異性との交際を望んでいない）。

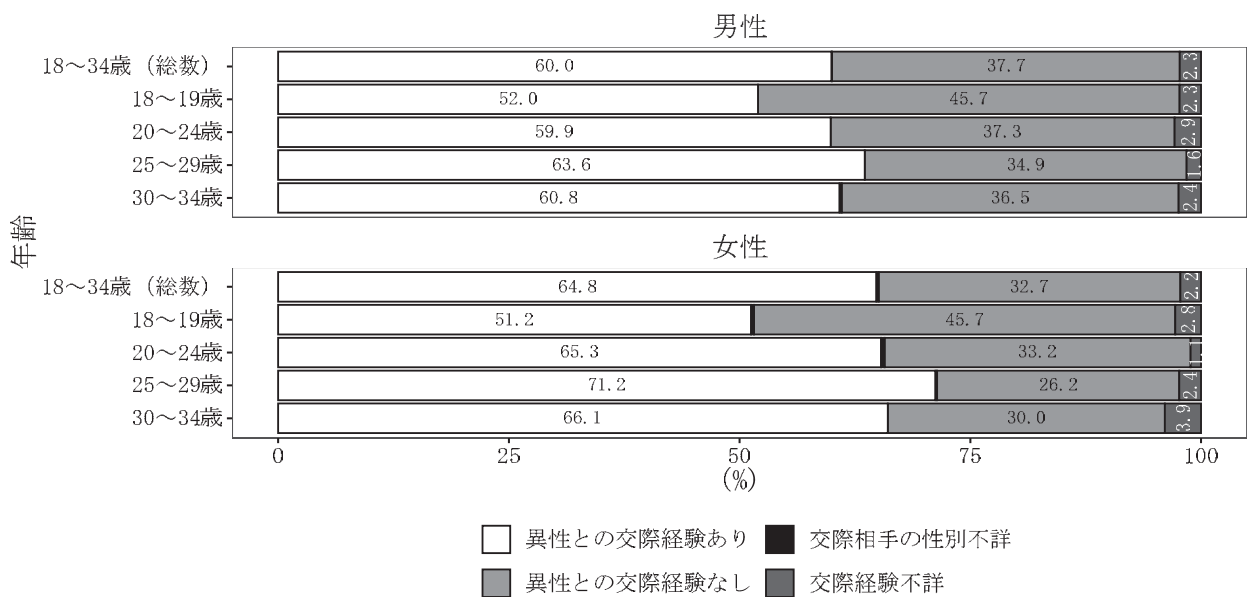
【報告書図表2-1-2 調査・年齢別にみた、交際相手（異性の友人／恋人、婚約者）をもたない未婚者の割合と交際の希望】

2.2 交際経験

<20代後半で異性の恋人との交際経験がある未婚者、男性で6割強、女性で7割>

今回調査では、未婚者にこれまでの交際経験をたずねた。異性の恋人との交際経験がある人の割合は、18～19歳の男性で52.0%、女性で51.2%である。交際経験割合は25～29歳の男女で最も高く、男性では63.6%、女性では71.2%であった。18～34歳の未婚者全体では、男性60.0%、女性64.8%が異性の恋人との交際経験を有している。

図表 2-2-1 年齢別にみた、異性との交際経験（恋人として交際）をもつ未婚者の割合：
第16回調査（2021年）



注：対象は18～34歳の未婚者。客体数は、18～34歳（総数）男性（2,033）、女性（2,053）、18～19歳男性（302）、女性（322）、20～24歳男性（700）、女性（799）、25～29歳男性（579）、女性（549）、30～34歳男性（452）、女性（383）。設問「あなたのこれまでの交際経験（恋人として交際）についておたずねします。」（1）恋人として交際した経験（1. ない、2. ある）、（2）交際相手の性別（1. 男性、2. 女性）。男性回答者については、「2. 女性」、女性回答者については「1. 男性」を異性としている。（1）の回答が不詳のケースを「交際経験不詳」、交際経験がある人のうち（2）の回答が不詳のケースを「交際相手の性別不詳」とした。

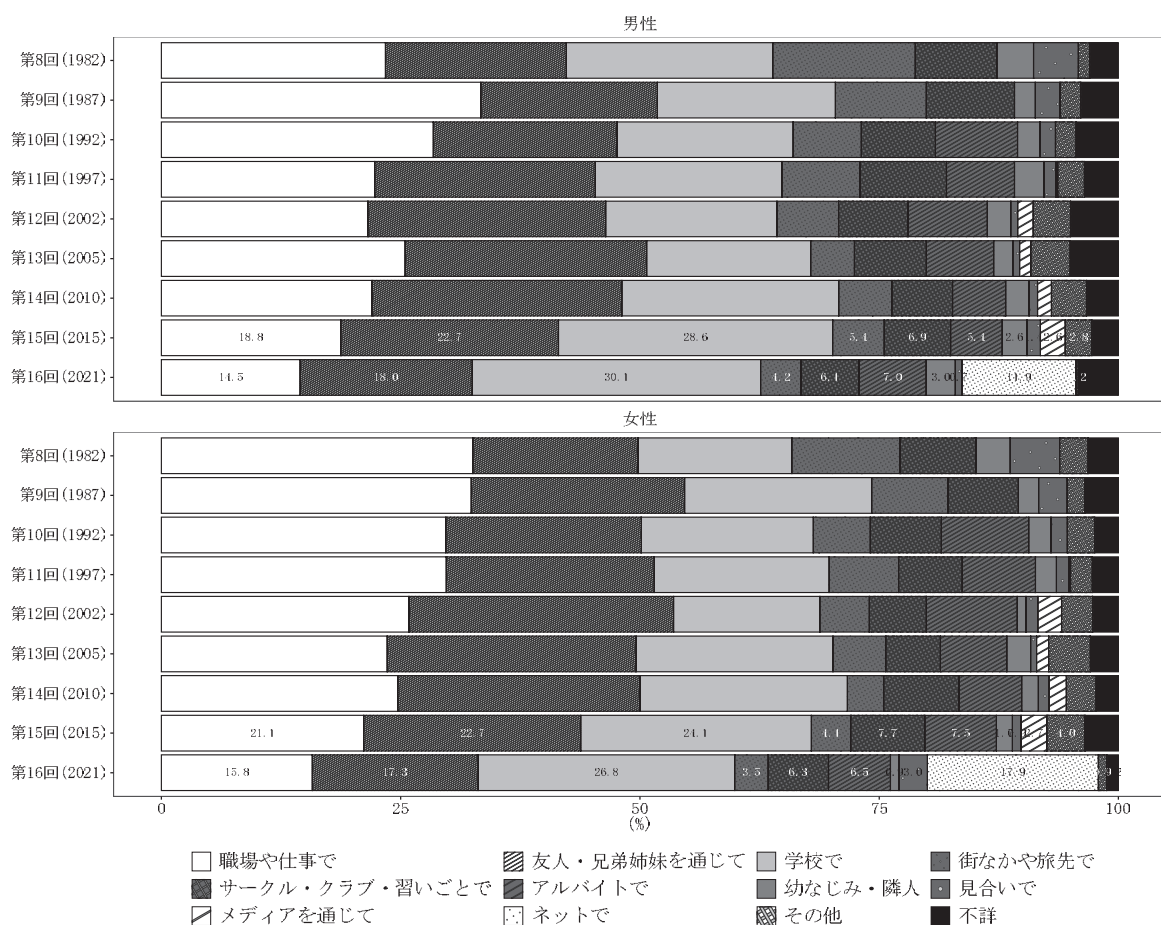
【報告書図表2-2-1 年齢別にみた、異性との交際経験（恋人として交際）をもつ未婚者の割合：第16回調査（2021年）】

2.3 異性の交際相手と知り合ったきっかけ

＜恋人、婚約者と知り合ったきっかけは学校が最多、今回調査では友人、職場経由が減り、SNSやアプリ等のインターネットサービスを介した出会いが1割以上を占める＞

調査時点で交際している異性の恋人または婚約者がいる未婚者に、その相手と知り合ったきっかけをたずねた。男女とも「学校で」が最多で、前回調査の男性 28.6%から 30.1%に、女性 24.1%から 26.8%に微増している。一方で、男女とも「友人や兄弟姉妹を通じて」と「職場や仕事の関係で」は前回調査からそれぞれ5ポイント程度減少した。さらに、第16回調査では既存の選択肢にあてはまらない場合として、ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）やマッチングアプリといった個人間の交流の場をオンラインで提供するサービスの利用を想定した「ネット（インターネット）」という新たな選択肢が追加された。「ネットで」と答えた男性は 11.9%、女性は 17.9%にのぼり、恋人または婚約者のいる未婚男女の 10 人に 1 人以上が、インターネットを使ったサービスを介して交際相手と知り合っている。

図表 2-3-1 調査別にみた、異性の交際相手と知り合ったきっかけの構成割合
(恋人または婚約者がいる未婚者)



注：対象は恋人として交際している異性の相手がいる、または婚約者がいる18～34歳の未婚者。客体数は、第15回男性（576）、女性（776）、第16回男性（428）、女性（571）。「見合い」には知り合ったきっかけが「見合い」と「結婚相談所」を含む。第8,9回調査は「アルバイト」を選択肢に含まない。「メディアを通じて」は第11回から第15回における「その他」の自由記述のうち、「ウェブ」サイト、インターネットといった内容を抽出したもの。「ネットで」は第16回における新規の選択肢（「上記以外で」ネット（インターネット）で）。回答欄の注に「SNS、ウェブサイト、アプリ等によるやりとりがきっかけで知り合った場合をさします。」と記載されている。設問：（最も親しい）交際相手とは、いつ頃どのようなきっかけで知り合いましたか。選択肢：「学校で」「職場や仕事の関係で」「幼なじみ・隣人関係」「学校以外のサークル活動やクラブ活動・習いごとで」「友人や兄弟姉妹を通じて」「見合い（親せき・上役などの紹介も含む）」「結婚相談所（オンラインを含む）」「街なかや旅先で」「アルバイトで」「（1～9以外で）ネット（インターネット）で→（具体的に）」「その他→（具体的に）」

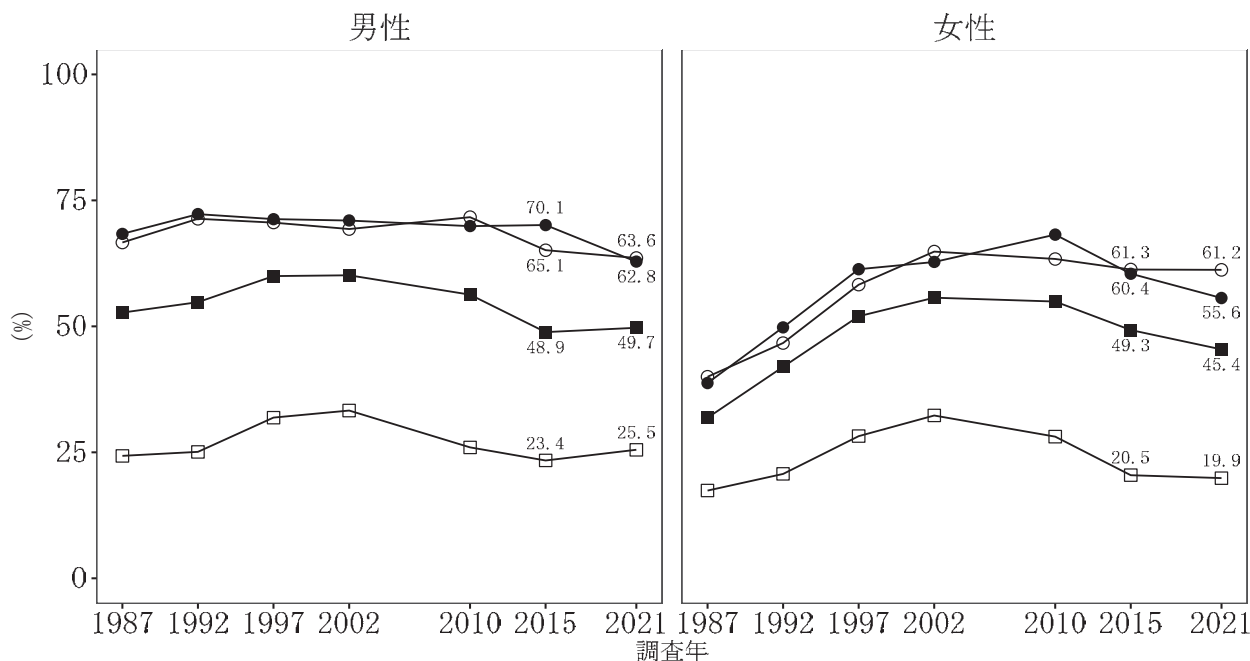
【報告書図表2-3-1 調査別にみた、異性の交際相手と知り合ったきっかけの構成割合（恋人または婚約者がいる未婚者）】

2.4 性交経験

<性交経験のある割合は、20代後半の未婚男女は6割で推移>

18～34歳の未婚者のうち、性交経験のある割合は、男性で53.0%、女性で47.5%である（図表の注を参照）。これを年齢別にみると、20代後半では男性で63.6%、女性で61.2%（前回男性65.1%、女性61.3%）であり、前回から横ばいである。30～34歳の男女、20～24歳の女性では、前回調査から性交経験割合の低下がみられた。

図表 2-4-1 調査・年齢別にみた、性交経験のある未婚者割合



□ 18～19歳 ■ 20～24歳 ○ 25～29歳 ● 30～34歳

注：対象は18～34歳の未婚者。不詳を含めた総数に対する割合。18～34歳の未婚者全体（男性、女性）での性交経験割合は、男性第15回（2015）54.2%、第16回（2021）53.0%、女性第15回（2015）50.3%、第16回（2021）47.5%。客体数は、第9回（1987）男性（3,299）、女性（2,605）、第10回（1992）男性（4,215）、女性（3,647）、第11回（1997）男性（3,982）、女性（3,612）、第12回（2002）男性（3,897）、女性（3,494）、第14回（2010）男性（3,667）、女性（3,406）、第15回（2015）男性（2,705）、女性（2,570）、第16回（2021）男性（2,033）、女性（2,053）。第13回（2005）は設問が異なるため図には表示していない。設問「あなたはこれまでに異性と性交渉をもったことがありますか。」（1. ある、2. ない）。

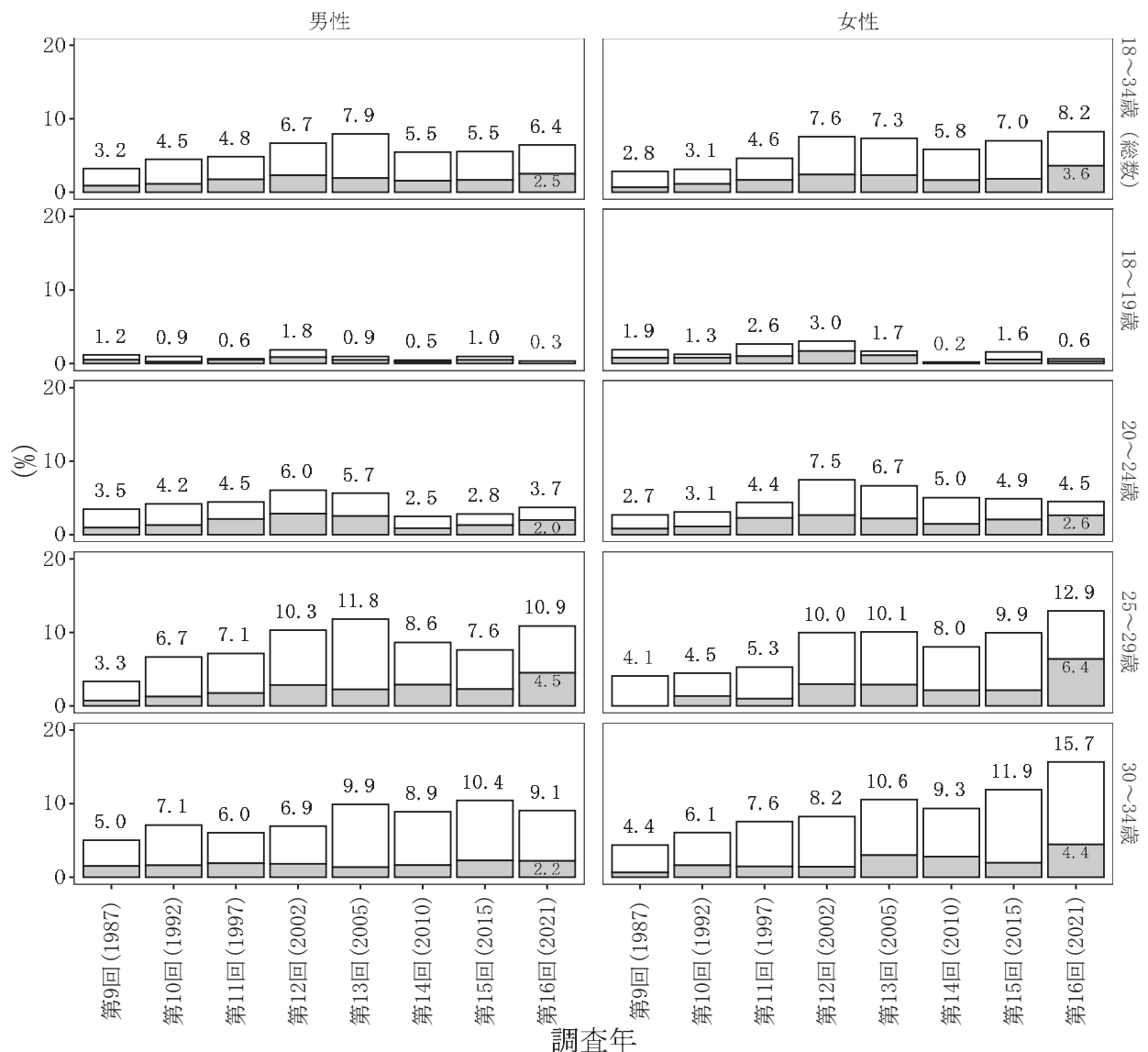
【報告書図表2-4-1 調査・年齢別にみた、性交経験のある未婚者割合】

2.5 同棲経験

＜20代後半で同棲経験のある未婚男性は10.9%、未婚女性は12.9%＞

未婚者の同棲経験（「以前はあるが現在はしていない」と「現在している」を合わせた割合）は、18～34歳の未婚者全体で男性6.4%、女性8.2%である。男性ではいずれの年齢層でもおおむね横ばいに推移しており、20代後半で今回10.9%であった。女性では、20代後半で12.9%に、30代前半で15.7%に上昇した。

図表 2-5-1 調査・年齢別にみた、未婚者の同棲経験割合



□ 過去に同棲経験あり ■ 現在同棲している

注：対象は18～34歳の未婚者。不詳を含めた総数に対する割合。図には、全調査回について同棲経験割合を示し、第16回のみ現在同棲している割合も示した。18～19歳で現在同棲している割合は男性0.3%、女性0.3%。設問「あなたはこれまでに同棲の経験（特定の異性と結婚の届け出なしで一緒に生活をしたこと）がありますか。」（1. ない、2. 以前はあるが現在はしていない、3. 現在している）。

【報告書図表2-5-1 調査・年齢別にみた、未婚者の同棲経験割合】

3 希望するライフコース像

3.1 結婚・出産・仕事をめぐる女性のライフコース

＜女性が理想とするライフコース、「両立コース」が最多になり、「非婚就業コース」も増加、「再就職コース」「専業主婦コース」は減少＞

今後の人生において結婚、出産・子育て、仕事をどのように組み合わせるかについて、女性には、理想とするライフコース（理想ライフコース）と実際になりそうだと考えるライフコース（予想ライフコース）をたずねた。

【選択肢に示されたライフコース像】

- ・ 結婚せず、仕事を続ける（非婚就業コース）
- ・ 結婚するが子どもは持たず、仕事を続ける（DINKs コース※）
- ・ 結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける（両立コース）
- ・ 結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ（再就職コース）
- ・ 結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない（専業主婦コース）
- ・ その他（自由記述）

※DINKs Double Income No Kids の略で、共働きで子どもを意図的に持たない夫婦のこと。

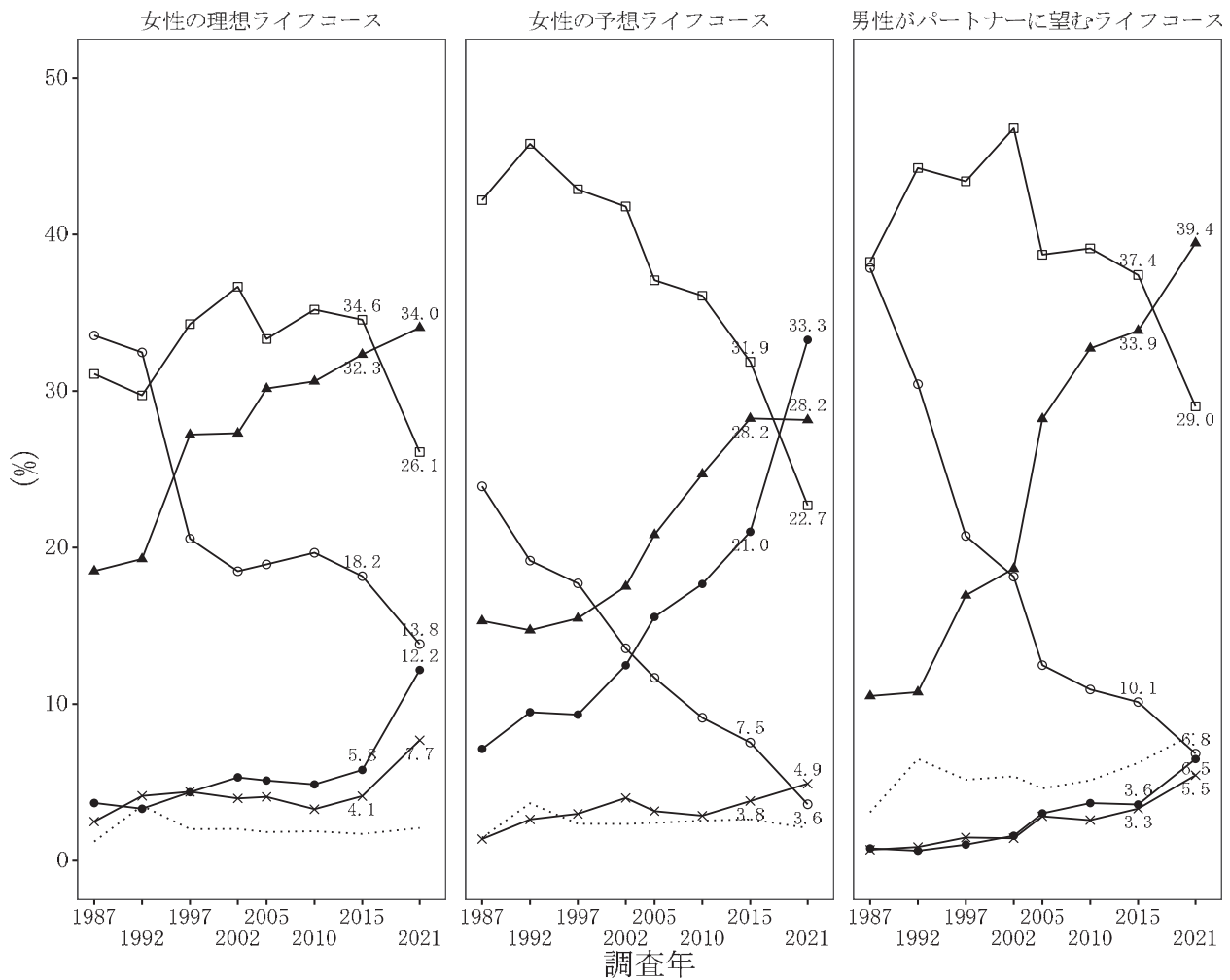
「理想ライフコース」では、「両立コース」が前回調査の 32.3%から 34.0%に増加し、今回初めて最多となった。「再就職コース」は前回の 34.6%から 26.1%に、「専業主婦コース」は 18.2%から 13.8%に減少した。今回調査では「非婚就業」「DINKs コース」を理想とする人が増加した。

「予想ライフコース」をみると「再就職コース」が前回の 31.9%から 22.7%に減少、「両立コース」は前回 28.2%、今回 28.2%で横ばいである。一方で、「非婚就業コース」は前回の 21.0%から増加し、33.3%で最多となった。

＜パートナーに「両立コース」を望む男性が増加し、ほぼ4割で最多＞

男性に、パートナーとなる女性に望むライフコースをたずねたところ、「再就職コース」が前回の 37.4%から 29.0%に減少、「専業主婦コース」が 10.1%から 6.8%に減少した一方で、「両立コース」は 33.9%から 39.4%に増加し、最多となった。

図表 3-1-1 調査別にみた、女性の理想・予想のライフコース、
男性がパートナーに望むライフコース



● 非婚就業コース ▲ 両立コース ○ 専業主婦コース
× DINKsコース □ 再就職コース …… その他

注：対象は18～34歳の未婚者。不詳の割合は省略。客体数は、第9回（1987）男性（3,299）、女性（2,605）、第10回（1992）男性（4,215）、女性（3,647）、第11回（1997）男性（3,982）、女性（3,612）、第12回（2002）男性（3,897）、女性（3,494）、第13回（2005）男性（3,139）、女性（3,064）、第14回（2010）男性（3,667）、女性（3,406）、第15回（2015）男性（2,705）、女性（2,570）、第16回（2021）男性（2,033）、女性（2,053）。設問（1）女性の理想ライフコース：（第9回（1987）～10回（1992）調査）「現実の人生と切りはなして、あなたの理想とする人生はどのようなタイプですか」、（第11回（1997）～16回（2021）調査）「あなたの理想とする人生はどのようなタイプですか」。 （2）女性の予想ライフコース：（第9回（1987）調査）「これまでを振り返った上で、あなたの人生はどのようなタイプになりそうですか」、（第10回（1992）調査）「これまでを振り返った上で、実際になりそうなあなたの人生はどのようなタイプですか」、（第11回（1997）～16回（2021）調査）「理想は理想として、実際になりそうなあなたの人生はどのようなタイプですか」。 （3）男性がパートナー（女性）に望むライフコース：（第9回（1987）～12回（2002）調査）「女性にはどのようなタイプの人生を送ってほしいと思いますか」、（第13回（2005）～16回（2021）調査）「パートナー（あるいは妻）となる女性にはどのようなタイプの人生を送ってほしいと思いますか」。
【報告書図表3-1-1 調査別にみた、女性の理想・予想のライフコース、男性がパートナーに望むライフコース】

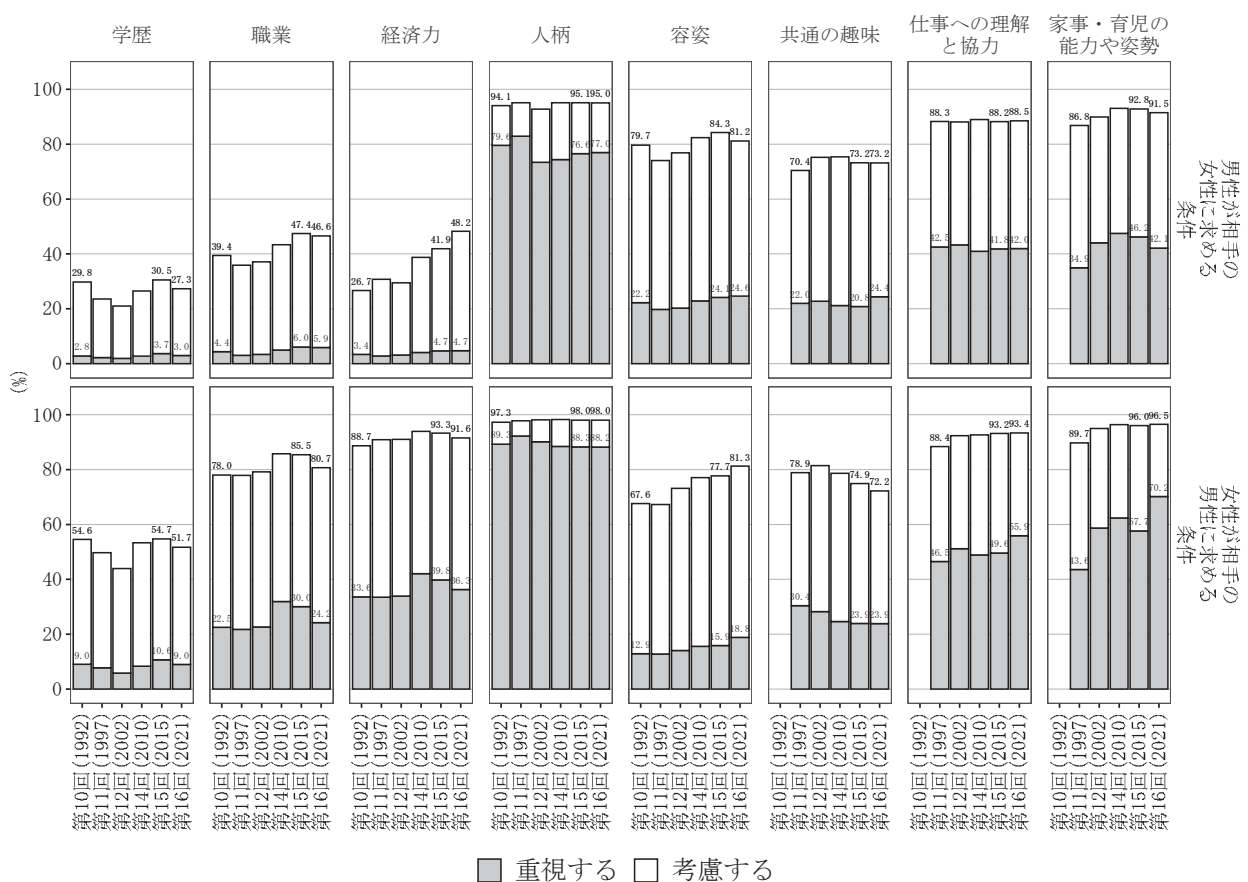
3.2 結婚相手に求める条件

＜結婚相手に求める条件、男性は女性に対し「経済力」を、女性は男性に対し「家事・育児の能力や姿勢」「容姿」を求める割合が上昇＞

結婚相手に求める条件として重視するものは、男女とも「人柄」に次いで「家事・育児の能力や姿勢」「仕事への理解と協力」であった。女性では7割が相手の「家事・育児の能力や姿勢」を重視している。男性に比べ、女性のほうが相手の学歴、職業、経済力を重視・考慮する傾向があり、第10回（1992年）調査以来、その傾向は変わっていない。

1990年代以降の変化としては、男性では相手の「経済力」を重視・考慮する人が増え（1992年調査の26.7%から2021年の48.2%）、女性では相手の「家事・育児の能力や姿勢」を重視する人が増えた（1997年調査の43.6%から2021年調査の70.2%）。また相手の「容姿」を重視・考慮する女性が増えた一方で（1992年調査の67.6%から2021年調査の81.3%）、相手との「共通の趣味」を重視・考慮する女性は減っている（1997年調査の78.9%から2021年調査の72.2%）。

図表 3-2-1 調査別に見た、結婚相手の条件として重視・考慮する割合



注：対象は「いずれ結婚するつもり」と回答した18～34歳の未婚者。設問「あなたは結婚相手を決めるとき、次の①～⑧の項目について、どの程度重視しますか。」（①相手の学歴（学歴）、②相手の職業（職業）、③相手の収入などの経済力（経済力）、④相手の人から（人柄）、⑤相手の容姿（容姿）、⑥共通の趣味の有無（共通の趣味）、⑦自分の仕事に対する理解と協力（仕事への理解と協力）、⑧家事・育児に対する能力や姿勢（家事・育児の能力や姿勢））（1. 重視する、2. 考慮する、3. あまり関係ない）。

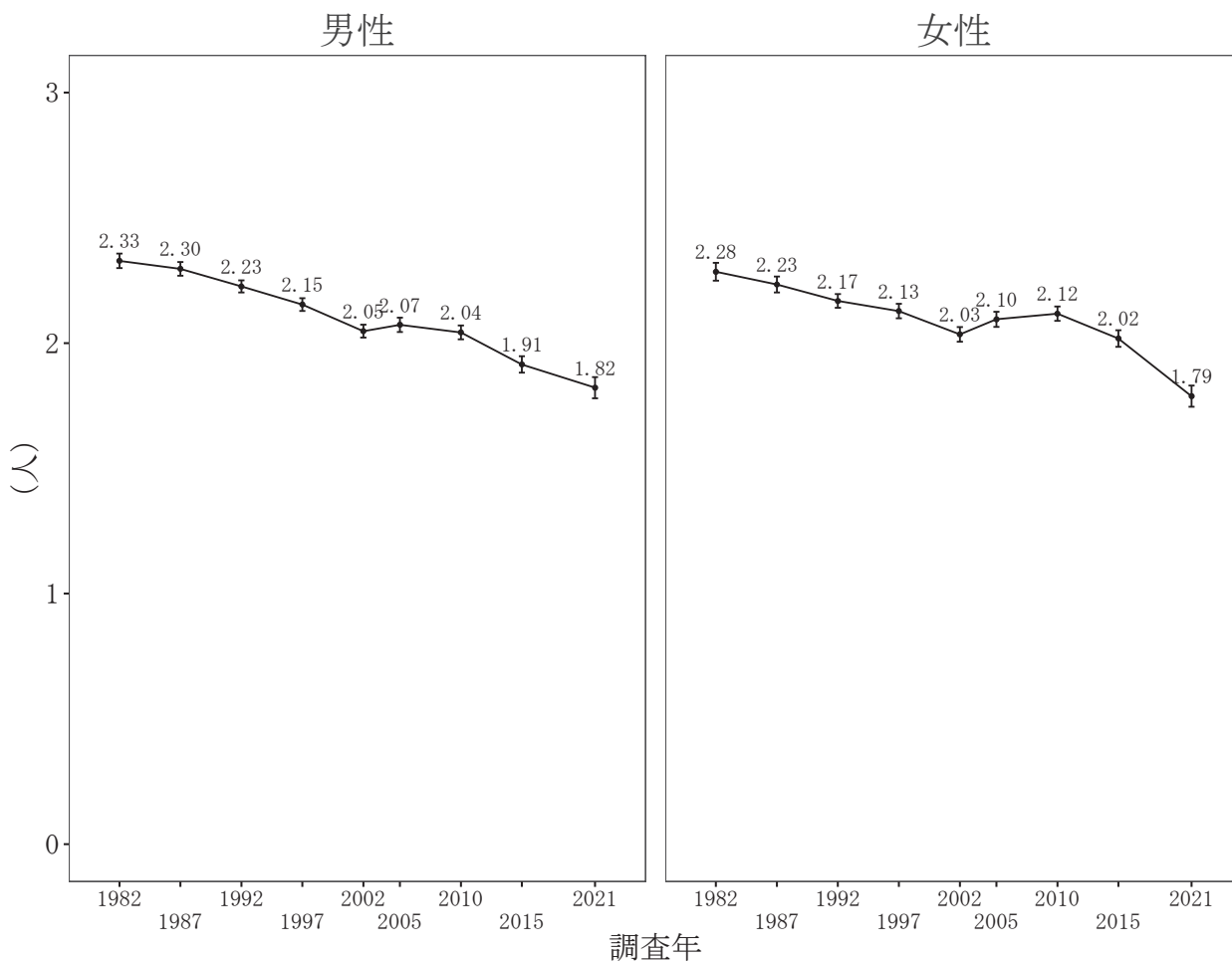
【報告書図表3-2-1 調査別に見た、結婚相手の条件として重視・考慮する割合】

3.3 希望子ども数・男女児組合せと子どもを持つ理由

<未婚者の希望子ども数は減少が続き、今回女性で一段と進む>

未婚者に子どもは何人くらいほしいかをたずねている（希望子ども数）。結婚意思のある18～34歳の未婚男女の平均希望子ども数は、1982年以降おおむね低下傾向が続き、今回調査では男性で1.82人となり、女性では初めて2人を下回り1.79人となった。

図表 3-3-1 調査別にみた、未婚者の平均希望子ども数



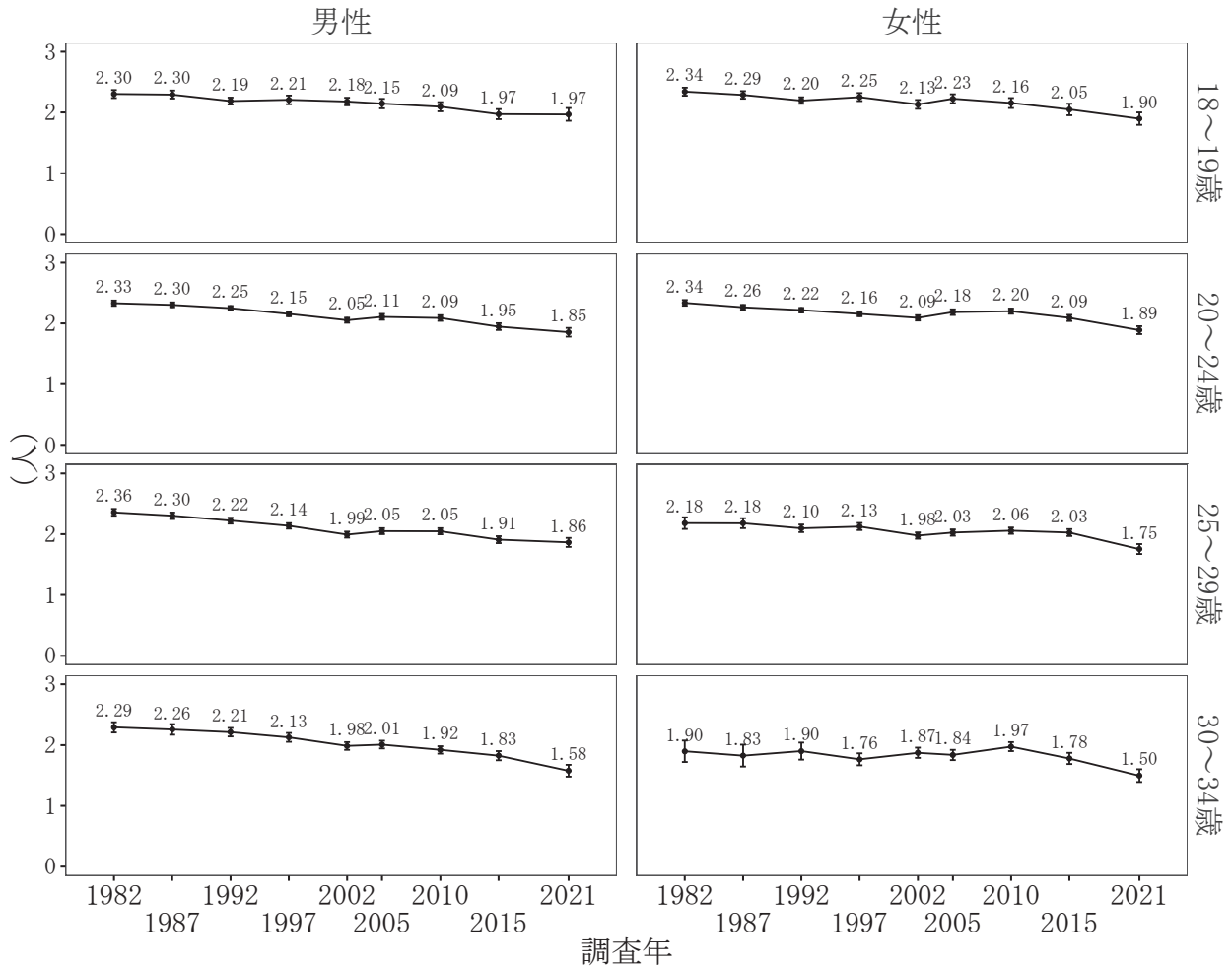
注：対象は「いずれ結婚するつもり」と回答した18～34歳の未婚者。平均希望子ども数は5人以上を5として算出。希望子ども数不詳を除く。図中のマーカー上のエラーバーは95%信頼区間を示している。客体数は、第12回（2002）男性3,270、女性3,001、第13回（2005）男性2,652、女性2,698、第14回（2010）男性3,084、女性2,993、第15回（2015）男性2,263、女性2,263、第16回（2021）男性1,613、女性1,690。なお、「一生結婚するつもりはない」と回答した18～34歳未婚者の平均希望子ども数は、第12回（2002）男性0.65、女性0.71、第13回（2005）男性0.80、女性0.57、第14回（2010）男性0.59、女性0.49、第15回（2015）男性0.49、女性0.33、第16回（2021）男性0.31、女性0.21であり、18～34歳未婚者全体の平均希望子ども数は、第12回（2002）男性1.96、女性1.96、第13回（2005）男性1.98、女性2.01、第14回（2010）男性1.90、女性2.00、第15回（2015）男性1.74、女性1.88、第16回（2021）男性1.56、女性1.55である。設問「あなたは、(1)子どもは何人くらいほしいですか。」（0. 子どもはいらない、1. 1人、2. 2人、3. 3人、4. 4人、5. 5人以上（ ）人）。

【報告書図表3-3-1 調査別にみた、未婚者の平均希望子ども数】

＜未婚男女の希望子ども数、全年齢層で平均2人を下回る＞

結婚意思のある未婚者の平均希望子ども数を年齢別にみると、いずれの年齢層でもおおむね低下傾向が続いている。今回調査では、男女ともにすべての年齢層でも2人を下回った。とくに30代前半の男性、30代前半および20代後半の女性で低下が大きく、それぞれ1.83人から1.58人、1.78人から1.50人に低下した。

図表 3-3-2 調査・年齢別にみた、未婚者の平均希望子ども数



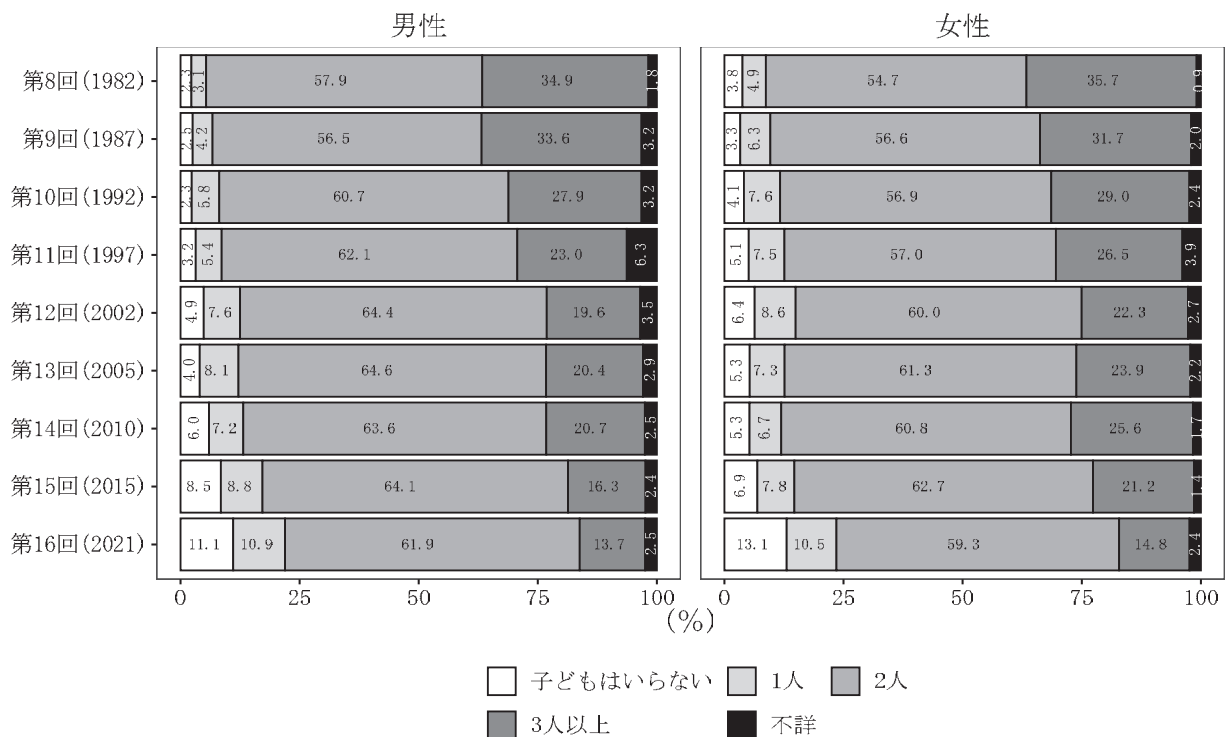
注：対象は「いずれ結婚するつもり」と回答した18～34歳の未婚者。平均希望子ども数は5人以上を5として算出。希望子ども数不詳を除く。図中のマーカー上のエラーバーは95%信頼区間を示している。客体数は、18～19歳男性（第15回（2015）356、第16回（2021）253）、女性（同339、275）、20～24歳男性（798、579）、女性（927、678）、25～29歳男性（645、474）、女性（658、453）、30～34歳男性（464、307）、女性（339、284）。未婚者全体の平均希望子ども数は、18～19歳男性（第15回（2015）1.85、第16回（2021）1.73）、女性（同1.95、1.72）、20～24歳男性（1.81、1.65）、女性（1.97、1.66）、25～29歳男性（1.68、1.61）、女性（1.89、1.52）、30～34歳男性（1.66、1.23）、女性（1.58、1.24）。

【報告書図表3-3-2 調査・年齢別にみた、未婚者の平均希望子ども数】

＜「子どもはいるない」と考える未婚男女が1割を超え、少子志向が進行＞

希望子ども数の分布をみると、未婚男女ともに6割前後は「2人」と回答し、子どもは二人がよいと考える「二子規範」は維持されている。一方で、「子どもはいるない」(0人)または「1人」と回答する割合は高まっている。「子どもはいるない」(0人)との回答は、今回調査で男女とも1割を超え、特に女性では前回の6.9%から13.1%へと大きく上昇した。「1人」という回答も男女ともに1割を超えており、未婚者の間で、無子・少子志向が増えている。

図表 3-3-3 調査別にみた、未婚者の希望子ども数の分布



注：対象は「いずれ結婚するつもり」と回答した18～34歳の未婚者。設問「あなたは、(1)子どもは何人くらいほしいですか。」(0. 子どもはいるない、1. 1人、2. 2人、3. 3人、4. 4人、5. 5人以上()人)。

【報告書図表3-3-3 調査別にみた、未婚者の希望子ども数の分布】

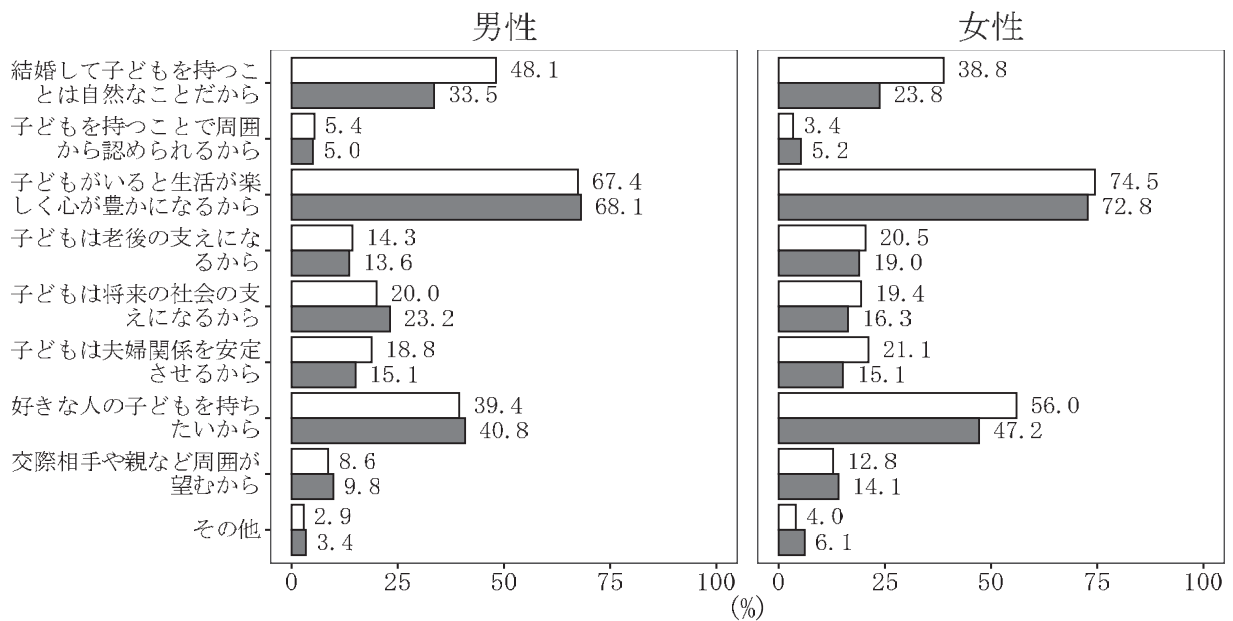
<未婚者が挙げる子どもを持つ理由、男女とも「自然なことだから」が大きく減少>

子どもを持つことを希望する未婚者に、子どもを持ちたいと思う理由をたずねたところ、前回と同様、「子どもがいると生活が楽しく心が豊かになるから」の選択率が男女ともに最多で、7割前後となっている。

男性では「好きな人の子どもを持ちたいから」の選択率が4割程度あるが、「結婚して子どもを持つことは自然なことだから」は前回調査の48.1%から33.5%へと減少した。「子どもは将来の社会の支えになるから」は20.0%から23.2%に微増した。

女性では「好きな人の子どもを持ちたいから」が56.0%から47.2%へ、「結婚して子どもを持つことは自然なことだから」が38.8%から23.8%へ、「子どもは夫婦関係を安定させるから」が21.1%から15.1%へとそれぞれ減少している。

図表 3-3-4 調査別にみた、未婚者の子どもを持つ理由



□ 第15回(2015) ■ 第16回(2021)

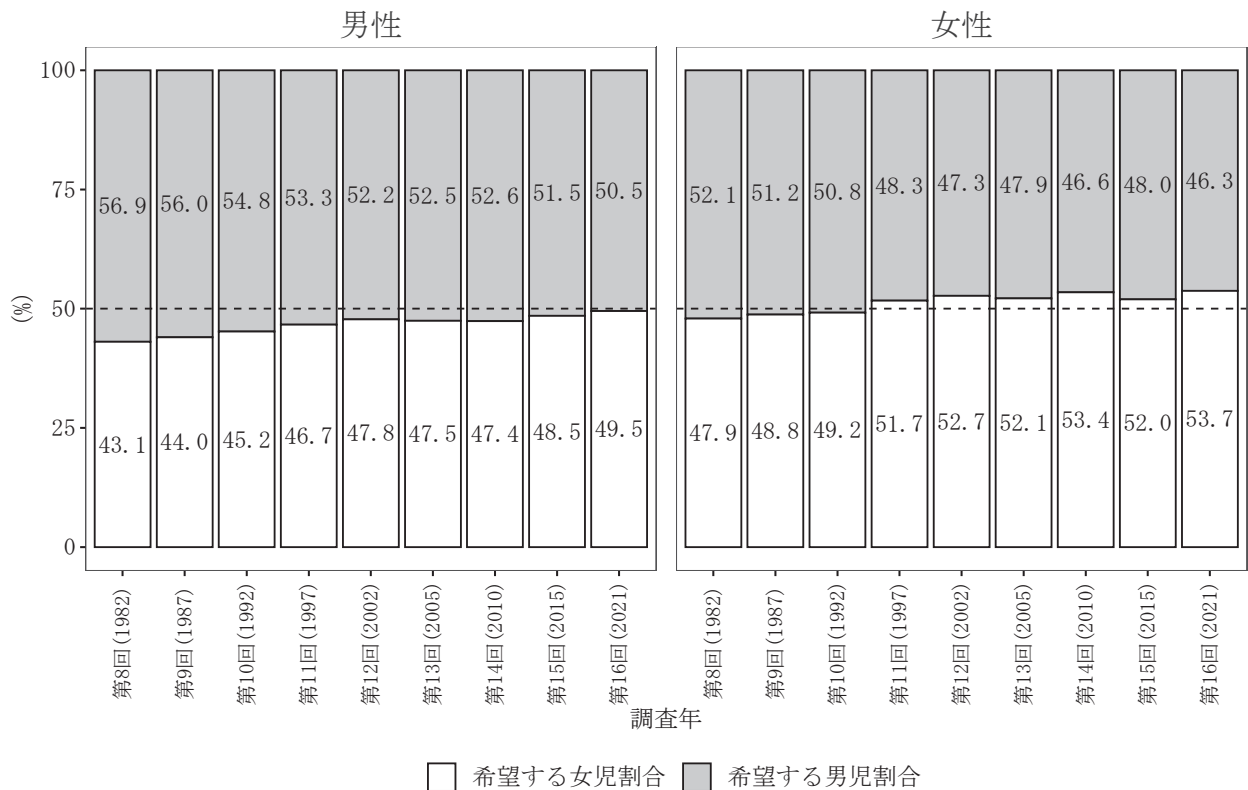
注：対象は「いずれ結婚するつもり」で希望子ども数が1人以上と回答した18～34歳の未婚者。不詳を含まない選択率。複数回答のため合計値は100%を超える。客体数は、第15回男性(1,990)、女性(2,029)、第16回男性(1,393)、女性(1,435)。設問「1人以上の子どもをほしいとお考えになる理由は何ですか。下の理由のうちから、あてはまる番号すべてに○をつけ、その中で最も重要な理由には◎をつけてください。」

【報告書図表3-3-4 調査別にみた、未婚者の子どもを持つ理由】

＜男女ともに女兒選好が優勢になりつつある＞

結婚意思があり、1人以上の子どもを持ちたいと希望している未婚男女に、その男女児組合せの希望についてたずねた。希望子ども数の男女児構成は、かつては男児の構成割合のほうが高かったが、未婚女性では第11回調査以降、女兒の構成割合が半数を超えるようになり、未婚男性も、今回調査でほぼ半々の男女児構成比となった。調査回を追うごとに全体としてゆるやかに、男児よりも女兒を望む「女兒選好」の傾向が強まっている。

図表 3-3-5 調査・男女別にみた、未婚者の希望男女児数の総和の構成



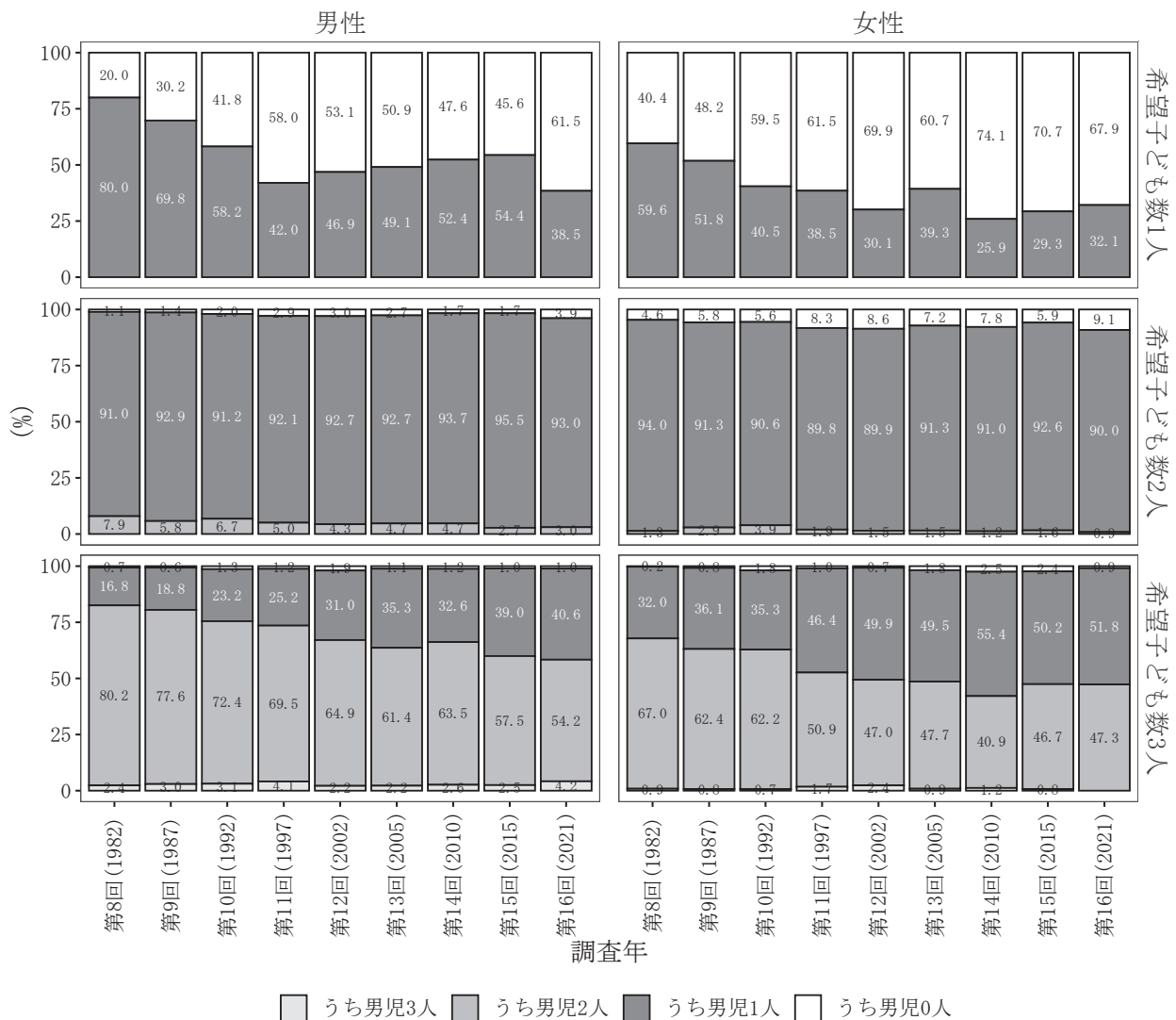
注：対象は「いずれ結婚するつもり」で希望子ども数が1人以上かつ男女児組み合わせに希望があるとした18～34歳の未婚者。本図は回答された希望の男女児組み合わせにおける総男女児数の構成を示す。希望子ども数の内訳として、男女児組合せの希望があると回答した割合は、第8回（男性72.8%、女性75.0%）、第9回（男性69.9%、女性76.4%）、第10回（同65.0%、71.5%）、第11回（61.5%、68.8%）、第12回（59.4%、70.4%）、第13回（73.6%、78.4%）、第14回（69.0%、74.1%）、第15回（54.8%、64.4%）、第16回（47.5%、51.7%）。各調査回における希望子ども数性比（希望女児数100に対する希望男児数）は、第8回（男性132.1、女性108.6）、第9回（男性127.2、女性105.0）、第10回（同121.1、103.4）、第11回（114.3、93.5）、第12回（109.3、89.8）、第13回（110.6、91.8）、第14回（111.1、87.1）、第15回（106.1、92.4）、第16回（101.9、86.1）。女兒選好が強いほど、この値は小さくなる。

【報告書図表3-3-5 調査・男女別にみた、未婚者の希望男女児数の総和の構成】

<男女児1人ずつの組合せを希望する未婚男女が最多>

希望子ども数別に、その男女児組合せの希望の構成をみると、もっとも回答者が多い「希望子ども数2人」では、男女児を1人ずつ希望するバランス選好を示す未婚男女が9割を超えている。他方、男女児同数で回答できない奇数の希望子ども数の場合は、未婚男性で「希望子ども数1人」では大幅に女兒選好が強まっており、「希望子ども数2人」や「希望子ども数3人」でも、女兒が多い組合せを希望する未婚男性が小幅ながら増えている。

図表 3-3-6 調査・男女別にみた、未婚者の希望子ども数別子どもの性別組合せ



注：対象は「いずれ結婚するつもり」で希望子ども数が1人以上かつ男女児組み合わせに希望があるとした18～34歳の未婚者。希望子ども数4人以上の組み合わせについては掲載を省略。第16回調査の客体数は、希望子ども数1人（男性39人、女性56人）、希望子ども数2人（男性532人、女性580人）、希望子ども数3人（男性96人、女性112人）。

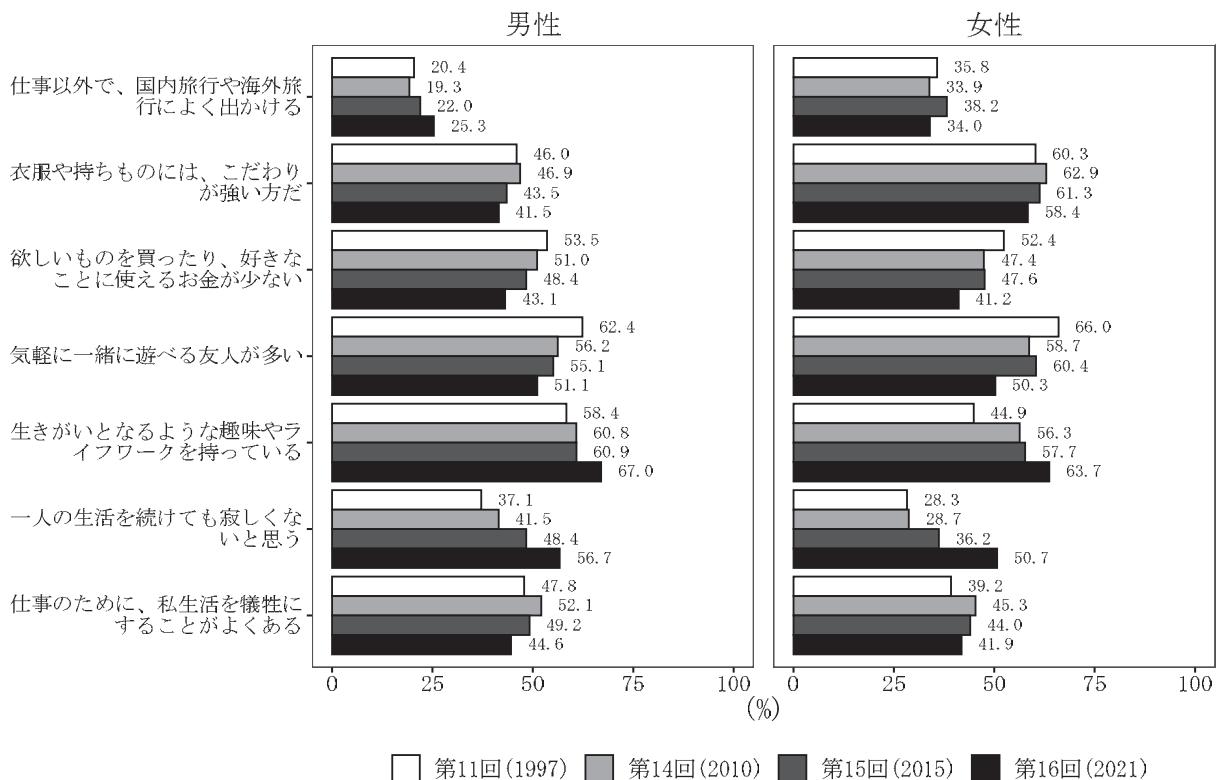
【報告書図表3-3-6 調査・男女別にみた、未婚者の希望子ども数別子どもの性別組合せ】

4 未婚者の生活スタイル

＜「生きがいとなる趣味持つ」「一人の生活寂しくない」と答える未婚者が増加＞

人づきあいや消費、働き方、趣味の有無など、未婚者の生活スタイルについてたずねたところ、「生きがいとなるような趣味やライフワークを持っている」と答える人が男性では 67.0%、女性では 63.7%で最多であり、それぞれ前回調査から 6 ポイント程度増加した。また、「一人の生活を続けても寂しくないと思う」割合も増加し、特に女性で伸び率が高く、前回の 36.2%から 50.7%へと増加し、過半数を超えた。一方、「気軽に一緒に遊べる友人が多い」と答える人は男女とも減少し、男性では前回の 55.1%から 51.1%、女性では前回の 60.4%から 50.3%となった。その他、「衣服や持ちものには、こだわりが強い方だ」「欲しいものを買ったり、好きなことに使えるお金が少ない」「仕事のために、私生活を犠牲にすることがよくある」の選択率は男女ともに低下している。

図表 4-1-1 調査別にみた、各生活スタイルにあてはまると回答した未婚者の割合



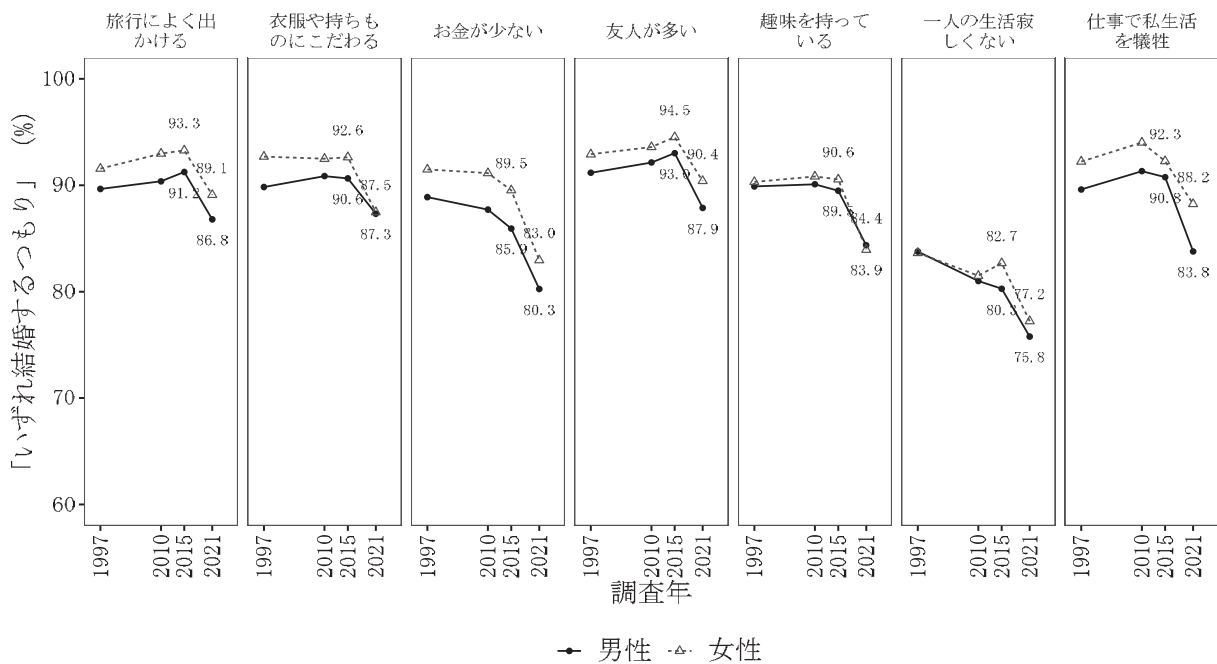
注：対象は18～34歳の未婚者。「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」の選択割合を合計した数値(%)を表示。「仕事のために、私生活を犠牲にすることがよくある」は職業を持つ人のみ回答。客体数は、第11回男性(3,982)、女性(3,612)、第14回男性(3,667)、女性(3,406)、第15回男性(2,705)、女性(2,570)、第16回男性(2,033)、女性(2,053)。設問「あなたの生活スタイルについておたずねします。下の①～⑦のそれぞれの生活スタイルがあなたご自身にあてはまるかどうかについて、それぞれの右の欄のあてはまる番号1つに○をつけてください。」〔左の考え方に〕1.あてはまる、2.どちらかといえばあてはまる、3.どちらかといえばあてはまらない、4.あてはまらない。

【報告書図表4-1-1 調査別にみた、各生活スタイルにあてはまると回答した未婚者の割合】

＜「旅行によく出かける」「衣服や持ちものにこだわる」「友人が多い」といった活動的な生活スタイルの未婚者でも、今回「いずれ結婚するつもり」の割合が減少＞

生活スタイルによって、未婚者の結婚の意欲は異なる。生活スタイルに関する各項目に「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した未婚者について、生涯の結婚意思に関して「いずれ結婚するつもり」と回答した割合を比較した。これまでの調査では「気軽に一緒に遊べる友人が多い」「仕事以外で、国内旅行や海外旅行によく出かける」「衣服や持ちものには、こだわりが強い方だ」など活動的な生活スタイルを持つ未婚者で「いずれ結婚するつもり」の割合が高い傾向にあった。今回調査では、こうした生活スタイルを持つ未婚者でも結婚意欲が低下に転じた。また、「欲しいものを買ったり、好きなことに使えるお金が少ない」「生きがいとなるような趣味やライフワークを持っている」「一人の生活を続けても寂しくないと思う」「仕事のために、私生活を犠牲にすることがよくある」といった生活スタイルをもつ未婚者も、一段と結婚意欲が低下した。

図表 4-1-2 調査別にみた、各生活スタイルにあてはまる未婚者の生涯の結婚意思
（「いずれ結婚するつもり」と回答した割合）



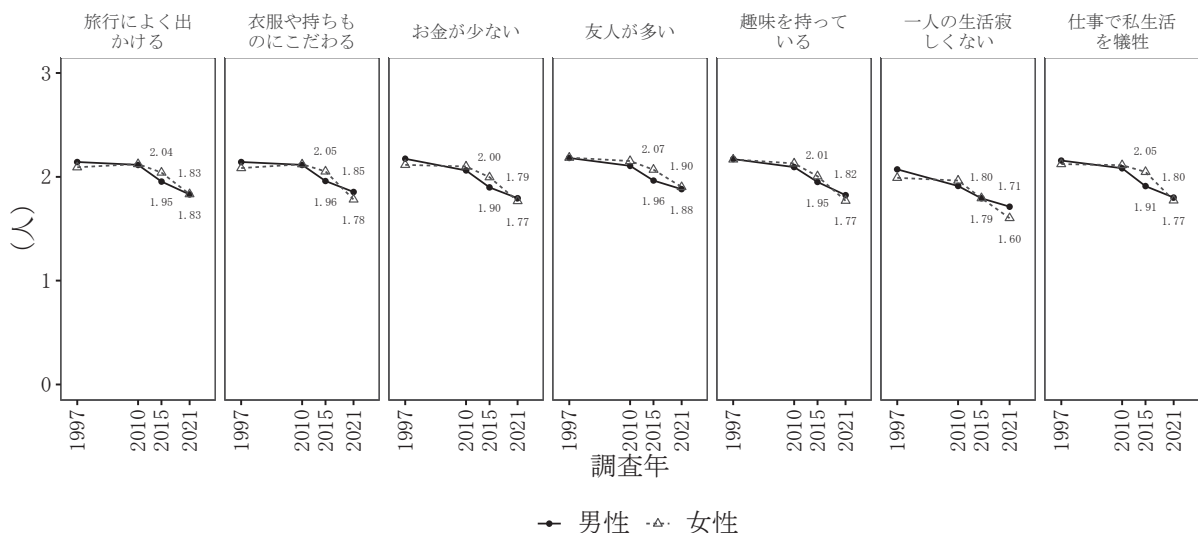
注：対象は各生活スタイルについて、図表4-1-1の各項目に「あてはまる」または「どちらかといえばあてはまる」と回答した18～34歳の未婚者。18～34歳の未婚者全体（男性、女性）で「いずれ結婚するつもり」と回答した割合は、第15回（2015）調査（男性85.7%、女性89.3%）、第16回（2021）調査（81.4%、84.3%）。第16回（2021）調査の客体数は「仕事以外で、国内旅行や海外旅行によく出かける」（男性515、女性697）、「衣服や持ちものには、こだわりが強い方だ」（844、1,198）、「欲しいものを買ったり、好きなことに使えるお金が少ない」（876、845）、「気軽に一緒に遊べる友人が多い」（1,039、1,032）、「生きがいとなるような趣味やライフワークを持っている」（1,362、1,308）、「一人の生活を続けても寂しくないと思う」（1,152、1,041）、「仕事のために、私生活を犠牲にすることがよくある」（598、561）（職業を持つ人のみ回答）。生活スタイルの設問「あなたの生活スタイルについておたずねします。下の①～⑦のそれぞれの生活スタイルがあなたご自身にあてはまるかどうかについて、それぞれの右の欄のあてはまる番号1つに○をつけてください。」生涯の結婚意思の設問「自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちどちらですか。」（1. いずれ結婚するつもり、2. 一生結婚するつもりはない）。

【報告書図表4-1-2 調査別にみた、各生活スタイルにあてはまる未婚者の生涯の結婚意思（「いずれ結婚するつもり」と回答した割合）】

＜生活スタイルに関わらず、希望子ども数の低下が続く＞

生活スタイルによって、希望子ども数には違いが見られる。生活スタイルに関する各項目に「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した未婚者について、希望子ども数を比較した。2010年調査までは、「気軽に一緒に遊べる友人が多い」「仕事以外で、国内旅行や海外旅行によく出かける」「衣服や持ちものには、こだわりが強い方だ」など、活動的な生活スタイルを持つ未婚者で希望子ども数が多い傾向にあったが、今回調査では、2015年調査に引き続き、こうした生活スタイルを持つ未婚者でも希望子ども数の平均水準が低下にした。「欲しいものを買ったり、好きなことに使えるお金が少ない」「生きがいとなるような趣味やライフワークを持っている」「一人の生活を続けても寂しくないと思う」「仕事のために、私生活を犠牲にすることがよくある」といった生活スタイルをもつ未婚者は、希望子ども数が少ない傾向にあったが、今回調査で一段と低下した。

図表 4-1-3 調査別にみた、各生活スタイルにあてはまる未婚者の平均希望子ども数



注：対象は各生活スタイルについて、図表4-1-1の各項目に「あてはまる」または「どちらかといえばあてはまる」と回答し、「いずれ結婚するつもり」と回答した18～34歳の未婚者。平均希望子ども数は5人以上を5として算出。希望子ども数不詳を除く。18～34歳の未婚者全体（男性、女性）での平均希望子ども数は、第15回（2015）調査（男性1.91人、女性2.02人）、第16回（2021）調査（1.82人、1.79人）。第16回（2021）調査の客体数は「仕事以外で、国内旅行や海外旅行によく出かける」（男性447、女性621）、「衣服や持ちものには、こだわりが強い方だ」（737、1,048）、「欲しいものを買ったり、好きなことに使えるお金が少ない」（703、701）、「気軽に一緒に遊べる友人が多い」（913、933）、「生きがいとなるような趣味やライフワークを持っている」（1,149、1,098）、「一人の生活を続けても寂しくないと思う」（873、804）、「仕事のために、私生活を犠牲にすることがよくある」（501、495）（職業を持つ人のみ回答）。各生活スタイルについて、未婚者全体の平均希望子ども数は、「仕事以外で、国内旅行や海外旅行によく出かける」男性（第15回（2015）1.82、第16回（2021）1.63）、女性（同1.95、1.67）、「衣服や持ちものには、こだわりが強い方だ」男性（第15回（2015）1.83、第16回（2021）1.66）、女性（同1.94、1.58）、「欲しいものを買ったり、好きなことに使えるお金が少ない」男性（第15回（2015）1.71、第16回（2021）1.50）、女性（同1.85、1.50）、「気軽に一緒に遊べる友人が多い」男性（第15回（2015）1.88、第16回（2021）1.69）、女性（同1.99、1.75）、「生きがいとなるような趣味やライフワークを持っている」男性（第15回（2015）1.82、第16回（2021）1.59）、女性（同1.87、1.52）、「一人の生活を続けても寂しくないと思う」男性（第15回（2015）1.55、第16回（2021）1.37）、女性（同1.56、1.29）、「仕事のために、私生活を犠牲にすることがよくある」男性（第15回（2015）1.79、第16回（2021）1.57）、女性（同1.95、1.61）。生活スタイルの設問「あなたの生活スタイルについておたずねします。下の①～⑦のそれぞれの生活スタイルがあなた自身にあてはまるかどうかについて、それぞれの右の欄のあてはまる番号1つに○をつけてください。」希望子ども数の設問「あなたは、(1)子どもは何人くらいほしいですか。」(0. 子どもはいらない、1. 1人、2. 2人、3. 3人、4. 4人、5. 5人以上()人)。
【報告書図表4-1-3 調査別にみた、各生活スタイルにあてはまる未婚者の平均希望子ども数】

第Ⅱ部 夫婦調査の結果

第Ⅱ部では、夫婦調査の結果から、子どもを産み育てる世代の夫婦（主に妻が50歳未満で結婚し、調査時に55歳未満の夫婦）の結婚過程や妊娠・出生過程、子ども数についての考え方、夫と妻の働き方や家事・育児、子育て支援制度の利用状況などについて示す。

5 夫婦の結婚過程

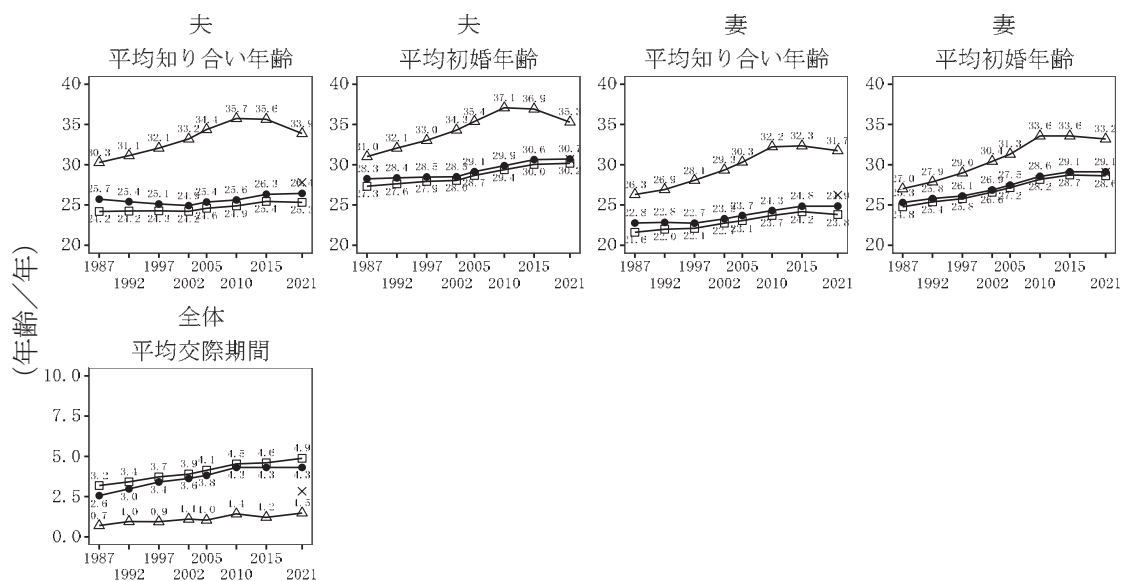
5.1 配偶者と知り合った年齢・初婚年齢・交際期間

<平均知り合い年齢は男性 26.4 歳、女性 24.9 歳、平均交際期間も 4.3 年で横ばい>

調査時点から過去 5 年間に結婚した初婚どうしの夫婦について、夫妻が初めて知り合ったときの平均年齢（平均知り合い年齢）、平均初婚年齢、平均交際期間を示した。平均知り合い年齢はこれまで上昇基調にあったが、今回調査では前回調査とほぼ変わらない水準であった。平均交際期間も伸長はみられず、4 年前後で横ばいとなっている。

「恋愛結婚」「見合い結婚」「ネット（インターネット）で」（今回新たに選択肢に追加した SNS やアプリ等の個人と個人をオンラインでつなぐインターネットツールを介して知り合った結婚）の結婚形態別に推移をみると、今回調査では「見合い結婚」で知り合い年齢、初婚年齢の若年化がみられた。また、「ネットで」における知り合い年齢は、夫 27.8 歳、妻 26.2 歳であり、「恋愛結婚」（夫 25.3 歳、妻 23.8 歳）よりやや高めであり、平均交際期間は 2.8 年と「恋愛結婚」（4.9 年）よりも短い（図表の注を参照）。

図表 5-1-1 調査・結婚形態別にみた、平均知り合い年齢、平均初婚年齢、平均交際期間
（調査時点より過去 5 年間に結婚した初婚どうしの夫婦）



● 全結婚（総数） ○ 恋愛結婚 △ 見合い結婚 × ネット（インターネット）で

注：対象は各調査時点より過去5年間に結婚した初婚どうしの夫婦。第15回以前は妻の調査時年齢50歳未満、第16回は妻が50歳未満で結婚し、妻の調査時年齢55歳未満の夫婦について集計。各平均年齢と平均交際期間は満年齢に0.5を加えた値をもとに算出している。「恋愛結婚」は夫妻が知り合ったきっかけによって分類。妻の平均初婚年齢の客体数（全結婚（総数）、恋愛結婚、見合い結婚）は、第9回（1987）（1,289、947、314）、第10回（1992）（1,342、1,102、223）、第11回（1997）（1,145、997、123）、第12回（2002）（1,221、1,090、91）、第13回（2005）（885、774、63）、第14回（2010）（963、856、56）、第15回（2015）（738、641、56）、第16回（2021）（656、517、62）。第16回（2021）の「ネット（インターネット）で」の客体数は73、平均知り合い年齢は（夫27.8、妻26.2）、平均初婚年齢は（夫30.7、妻29.1）、平均交際期間は2.8年。

設問「あなた方夫婦の（中略）（2）結婚生活を始めた年月（中略）について、あてはまる番号に○をつけ、下線の欄に数字を記入してください。」設問「あなた方夫婦が、（1）初めてお知り合いになったのはいつですか（後略）。」

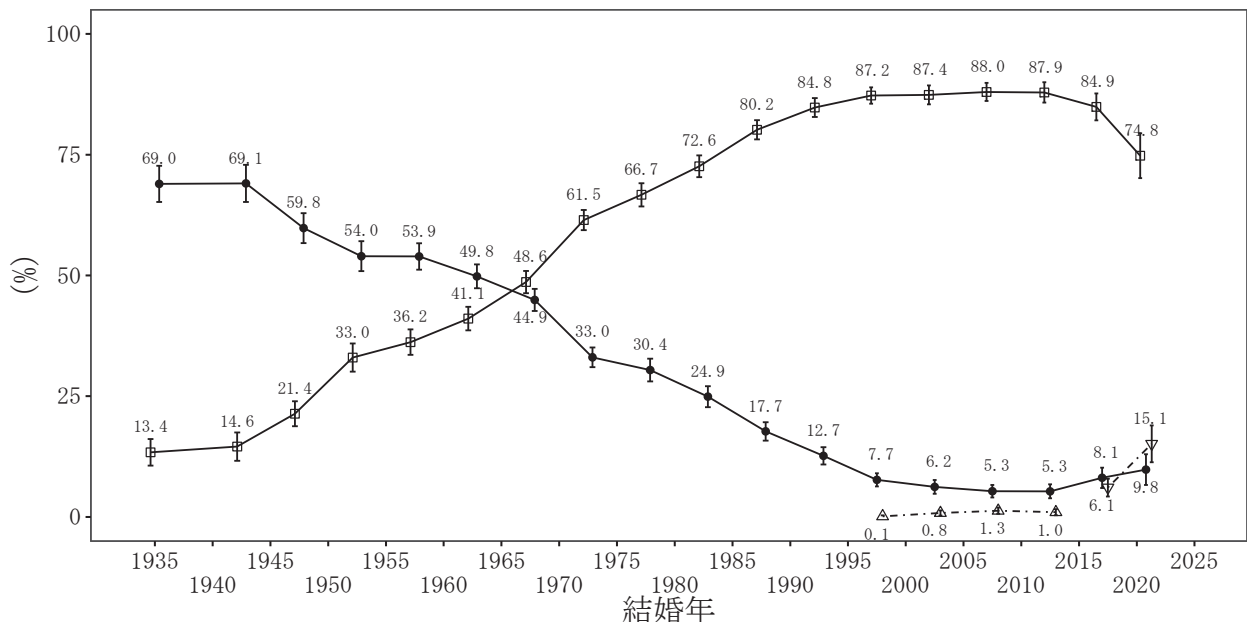
【報告書図表5-1-1 調査・結婚形態別にみた、平均知り合い年齢、平均初婚年齢、平均交際期間（調査時点より過去5年間に結婚した初婚どうしの夫婦）】

5.2 配偶者と知り合ったきっかけ

＜夫と妻が知り合う機会は、SNS、アプリ等の「ネットで」が増加し、従来型の「恋愛結婚」割合が低下＞

今回調査では、夫と妻が知り合ったきっかけとして、従来からある「見合い結婚」「恋愛結婚」に分類できるものに加えて、「ネット（インターネット）で」という新たな選択肢を加えた（ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）やマッチングアプリなど個人間の交流の場をオンラインで提供するサービスを用いて知り合ったケースであり、従来の選択肢にあてはまらない場合に回答）。結婚年別に知り合ったきっかけの構成変化をみると、2015年以降、図の右下に示された「ネットで」知り合った夫婦の割合が急増しており、最新年では「見合い結婚」を上回った（「ネットで」は15.1%、「見合い結婚」は9.8%）。新たな知り合いの機会が登場したことで、従来型の「恋愛結婚」の割合が低下した。

図表 5-2-1 結婚年次別にみた、恋愛結婚・見合い結婚の構成割合



□ 恋愛結婚 ● 見合い結婚 △ メディアを通じて ▽ ネット（インターネット）で

注：対象は初婚どうしの夫婦。第7回は妻の調査時年齢が50歳以上の夫婦を含み、第8回～第15回は妻の調査時年齢が50歳未満、第16回は妻が50歳未満で結婚し、妻の調査時年齢55歳未満の夫婦について集計。第7回調査（1930～39年から1970～74年）、第8回調査（1975～79年）、第9回調査（1980～84年）、第10回調査（1985～89年）、第11回調査（1990～94年）、第12回調査（1995～99年）、第13回調査（2000～04年）、第14回調査（2005～09年）、第15回調査（2010～14年）、第16回調査（2015～18年、2019～21年（6月））による。図中のマーカー上のエラーバーは95%信頼区間を示している。夫婦が知り合ったきっかけについて「見合いで」および「結婚相談所で」と回答したものを見合い結婚とし、それ以外の「学校で」、「職場や仕事の関係で」、「幼なじみ・隣人関係」、「学校以外のサークル活動やクラブ活動・習いごとで」、「友人や兄弟姉妹を通じて」、「街なかや旅行先で」、「アルバイトで」を恋愛結婚と分類して集計。「メディアを通じて」は第11回から第15回における「その他」の自由記述のうち、（ウェブ）サイト、インターネットといった内容を抽出したもの。「ネットで」は第16回における新規の選択肢（「（上記以外で）ネット（インターネット）で」）。回答欄の注に「SNS、ウェブサイト、アプリ等によるやりとりがきっかけで知り合った場合をさします。」と記載されている。上記以外の回答（その他・不詳）は、構成には含むが掲載は省略。

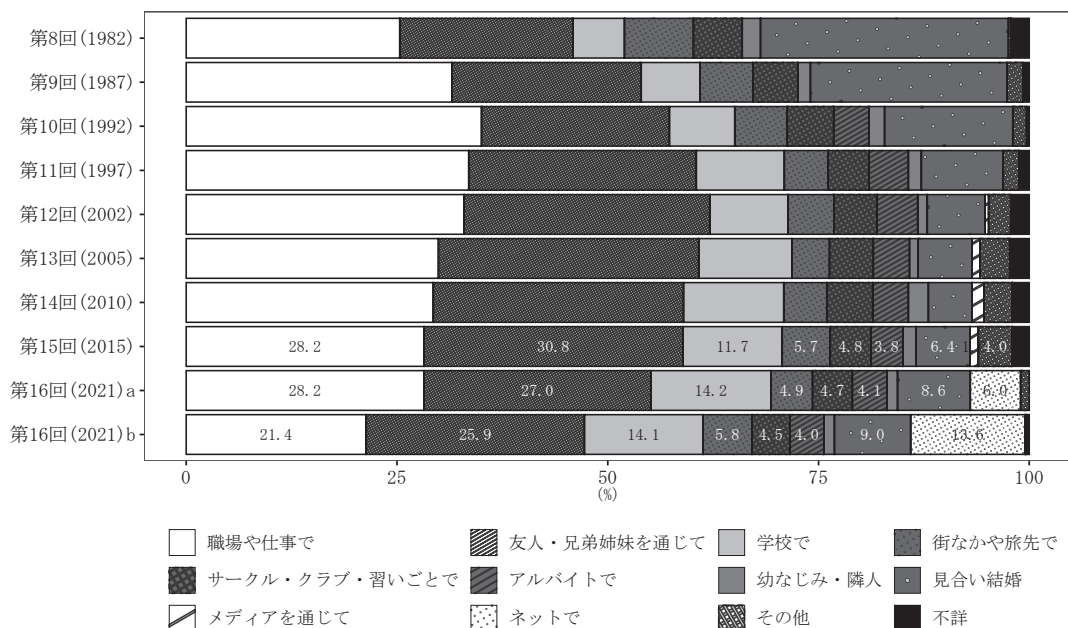
【報告書図表5-2-1 結婚年次別にみた、恋愛結婚・見合い結婚の構成割合】

＜新型コロナウイルス感染拡大期を含む 2021 年までの 3 年間は「職場や仕事で」の結婚が減少し、新婚夫婦の 13.6%が SNS、アプリ等の「ネットで」知り合う＞

調査回別に夫と妻が知り合ったきっかけの構成をみると、これまで上位を占めてきた「職場や仕事で」の割合が、前回調査の 28.2%から、新型コロナウイルス感染拡大下での結婚減が生じていた時期を含む 2018 年 7 月～2021 年 6 月の結婚（2021 年 b）では 21.4%に減少した。その結果、「見合い結婚」の割合は前回の 6.4%から 2021 年 b で 9.0%へと増加した（※）。また、今回調査で選択肢に新たに追加された「ネットで」（SNS、アプリ等を用いたもの）の割合をみると、2015 年 7 月～2018 年 6 月の結婚（2021 年 a）では 6.0%、2021 年 b では 13.6%であった。

※ 「人口動態統計」（厚生労働省）によれば、2020 年の妻の年齢 50 歳未満の初婚数は、2019 年の 38 万件から 33 万件へと大きく減少した。図表の 2021 年 b の値は、例年より婚姻発生が少ない状況下でのものであり、構成割合の上昇は必ずしも発生の増加を意味しないことに注意が必要である。

図表 5-2-2 調査別にみた、夫と妻が知り合ったきっかけの構成割合（調査時点より過去 5 年間に結婚した初婚どうしの夫婦（第 16 回は過去 6 年間の結婚））



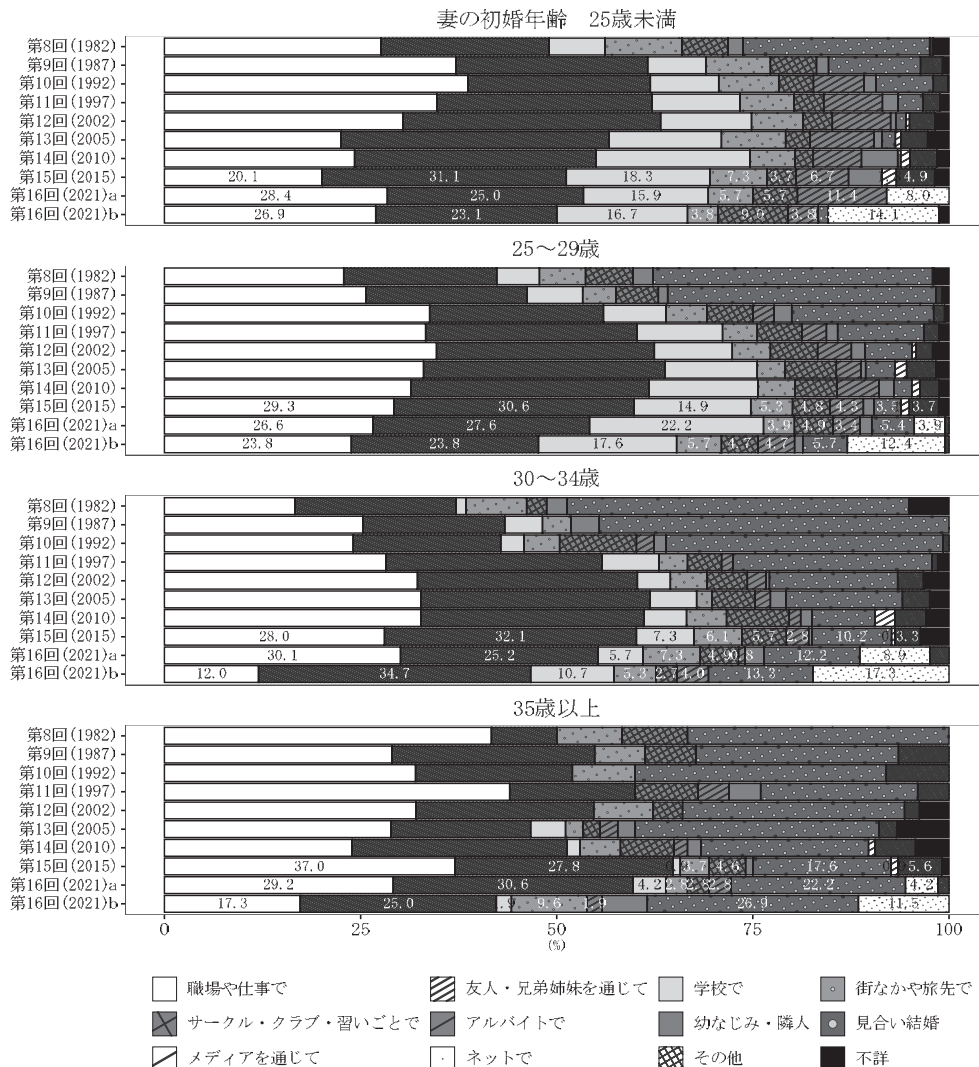
注：対象は、第15回以前は結婚持続期間5年未満で妻の調査時年齢50歳未満、第16回は結婚持続期間6年未満で、妻が50歳未満で結婚し、妻の調査時年齢55歳未満の初婚どうしの夫婦。第16回は結婚年月で期間を2つに分けて集計。(2021) a：結婚が2015年7月～2018年6月、(2021) b：結婚が2018年7月～2021年6月。客体数は、第15回(894)、第16回(2021)a(486)、第16回(2021)b(398)。見合い結婚とは知り合ったきっかけが「見合いで」、「結婚相談所」の結婚。第8,9回調査は「アルバイトで」を選択肢に含まない。「メディアを通じて」は第11回から第15回における「その他」の自由記述のうち、(ウェブ)サイト、インターネットといった内容を抽出したもの。「ネットで」は第16回における新規の選択肢(「(上記以外で) ネット(インターネット)で」)。回答欄の注に「SNS、ウェブサイト、アプリ等によるやりとりがきっかけで知り合った場合をさします。」と記載されている。グラフ内に表示していない第16回調査の結果(a, b)は、「幼なじみ・隣人」(1.2%, 1.3%)、「その他」(1.0%, 0.3%)、「不詳」(0%, 0.3%)。設問：あなた方ご夫婦はどのようなきっかけでお知り合いになりましたか。選択肢：「学校で」「職場や仕事の関係で」「幼なじみ・隣人関係」「学校以外のサークル活動やクラブ活動・習いごとで」「友人や兄弟姉妹を通じて」「見合いで(親せき・上役などの紹介も含む)」「結婚相談所(オンラインを含む)」「街なかや旅先で」「アルバイトで」「(1～9以外で) ネット(インターネット)で→(具体的に)」「その他→(具体的に)」

【報告書図表5-2-2 調査別にみた、夫と妻が知り合ったきっかけの構成割合（調査時点より過去5年間に結婚した初婚どうしの夫婦（第16回は過去6年間の結婚））】

＜妻の初婚年齢に関わらず、2021年までの最新6年間の結婚では「ネットで」知り合った夫婦が増加＞

妻の初婚年齢別に、夫妻が知り合ったきっかけの構成割合をみると、初婚年齢に関わらず「ネットで」知り合った夫婦の割合が、2015年7月～2021年6月の6年間の結婚では大幅に増えている。また、30～34歳では「職場や仕事で」の割合が激減した一方、「友人・兄弟姉妹を通じて」の割合が大きく上昇し、2018年7月～2021年6月の3年間に結婚した夫婦の34.7%を占めた。妻の初婚年齢30代以上の夫婦では、近年においても「見合い結婚」が一定の割合を占めており、最新3年間の結婚では、30～34歳で13.3%、35歳以上で26.9%となっている。

図表 5-2-3 調査・妻の初婚年齢別にみた、夫妻が知り合ったきっかけの構成割合（調査時点から5年以内に結婚した初婚どうしの夫婦（第16回は過去6年間の結婚））



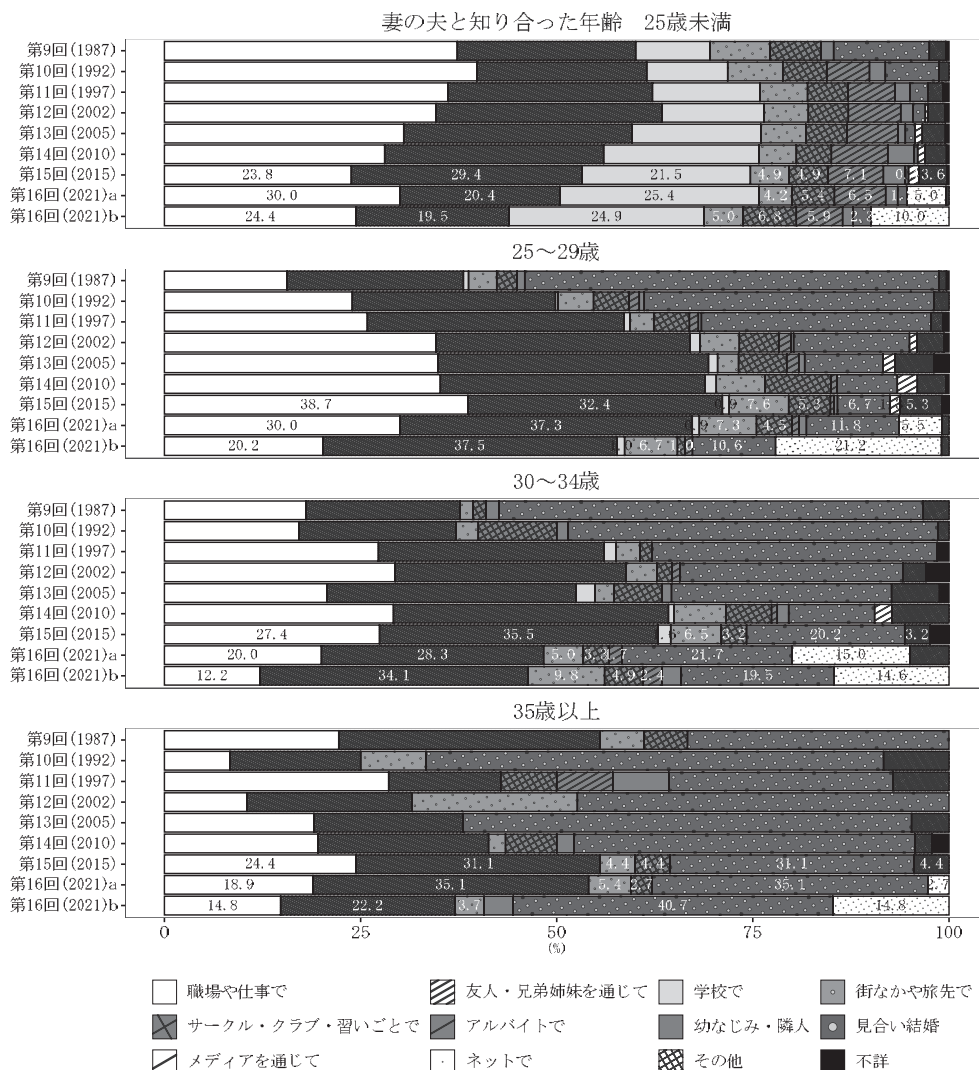
注：対象は、第15回以前は結婚持続期間5年未満で妻の調査時年齢50歳未満、第16回は結婚持続期間6年未満で、妻が50歳未満で結婚し、妻の調査時年齢55歳未満の初婚どうしの夫婦。第16回は結婚年月で期間を2つに分けて集計。(2021) a：結婚が2015年7月～2018年6月、(2021) b：結婚が2018年7月～2021年6月。初婚年齢別の客体数は、第15回(25歳未満164、25～29歳376、30～34歳246、35歳以上108)、第16回(2021) a(25歳未満88、25～29歳203、30～34歳123、35歳以上72)、第16回(2021) b(25歳未満78、25～29歳193、30～34歳75、35歳以上52)。設問や選択肢については図表5-2-2を参照。

【報告書図表5-2-3 調査・妻の初婚年齢別にみた、夫妻が知り合ったきっかけの構成割合（調査時点から5年以内に結婚した初婚どうしの夫婦（第16回は過去6年間の結婚））】

<2021年までの最新3年間に結婚した夫婦については、妻が25歳未満のとき知り合った夫婦は「学校で」、25～34歳では「友人・兄弟姉妹を通じて」、35歳以上では「見合い」が知り合ったきっかけの最多>

2021年6月までの最新3年間の結婚について、夫婦が知り合ったきっかけの構成割合を、知り合った時の妻の年齢別にみると、25歳未満では「学校で」が24.9%を占め最多であり、25～34歳では「友人・兄弟姉妹を通じて」が35%前後を占め最多であった。知り合った時に妻が35歳以上であった夫婦では、「見合いで」「結婚相談所で」を含む「見合い結婚」が4割を占め、知り合った時の年齢が高いほど見合いの場に出会う夫婦が多い。

図表 5-2-4 調査・妻の夫と知り合った年齢別にみた、夫妻が知り合ったきっかけの構成割合
(調査時点から5年以内に結婚した初婚どうしの夫婦(第16回は過去6年間の結婚))



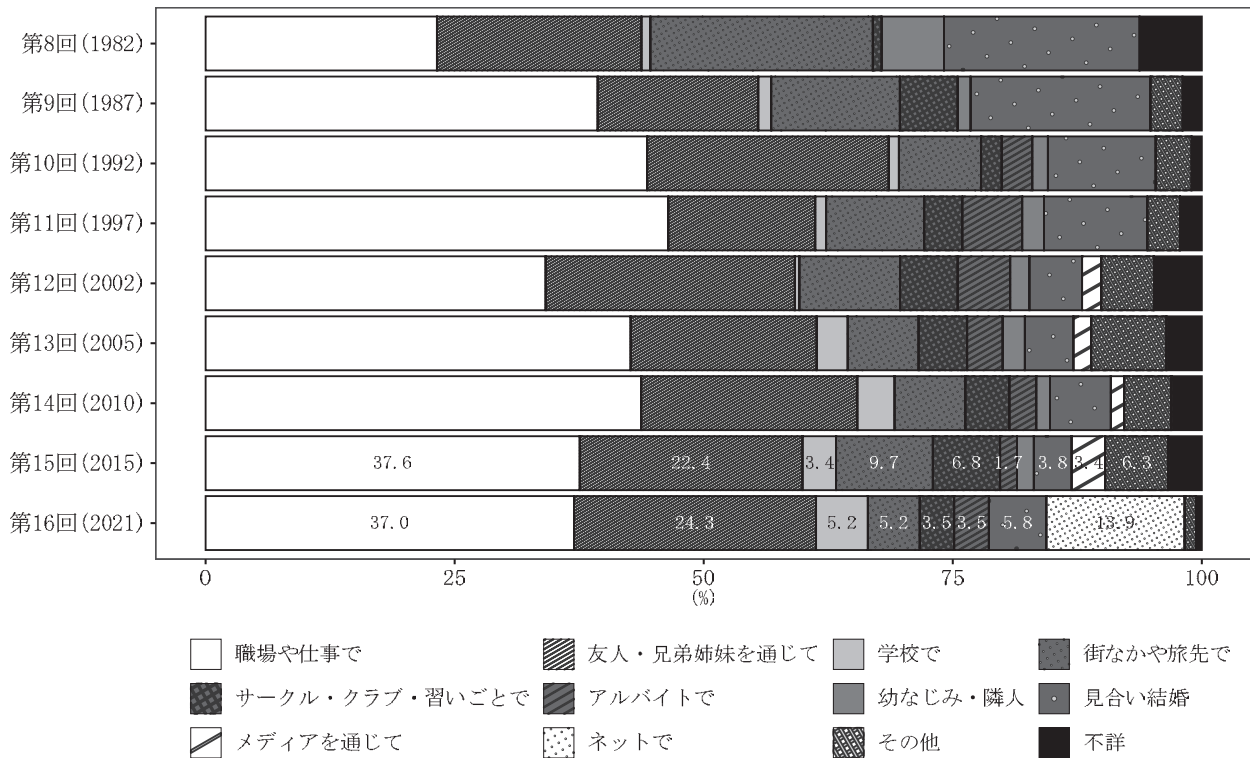
注：対象は、第15回以前は結婚持続期間5年未満で妻の調査時年齢50歳未満、第16回は結婚持続期間6年未満で、妻が50歳未満で結婚し、妻の調査時年齢55歳未満の初婚どうしの夫婦。第16回は結婚年月で期間を2つに分けて集計。(2021) a：結婚が2015年7月～2018年6月、(2021) b：結婚が2018年7月～2021年6月。妻の知り合った年齢別の客体数は、第15回(25歳未満466、25～29歳225、30～34歳124、35歳以上45)、第16回(2021)a(25歳未満260、25～29歳110、30～34歳60、35歳以上37)、第16回(2021)b(25歳未満221、25～29歳104、30～34歳41、35歳以上27)。設問や選択肢については図表5-2-2を参照。

【報告書図表5-2-4 調査・妻の夫と知り合った年齢別にみた、夫妻が知り合ったきっかけの構成割合(調査時点から5年以内に結婚した初婚どうしの夫婦(第16回は過去6年間の結婚))】

＜再婚者を含む夫婦では「職場や仕事で」知り合う夫婦がもっとも多く、近年は「ネットで」の出会いも増加＞

夫妻双方または夫妻どちらかが再婚の夫婦の知り合いのきっかけをみると、「仕事や職場で」が初婚どうしの夫婦よりも多い傾向にある。また、「友人・兄弟姉妹を通じて」が二番目に多く、今回調査ではこの二つの経路で約6割を占めた。「ネットで」も、第16回調査では13.9%と三番目に多かった。

図表 5-2-5 調査別にみた、夫と妻が知り合ったきっかけの構成割合（調査時点より過去5年間に結婚した夫婦の一方または双方が再婚の夫婦）



注：対象は、結婚持続期間5年未満で、夫婦の一方または双方が再婚の夫婦。第15回以前は妻の調査時年齢50歳未満、第16回は妻が50歳未満で結婚し、妻の調査時年齢55歳未満について計算。客体数は、第15回(237)、第16回(2021)(173)。第16回調査について、対象となる初婚どうし夫婦の妻の知り合い時年齢の平均値は24.9歳、妻初婚・夫再婚夫婦の妻の同平均年齢は30.9歳、妻再婚・夫初婚夫婦の同平均年齢は28.3歳、夫妻再婚夫婦の同平均年齢は34.4歳である。設問や選択肢については図表5-2-2を参照。

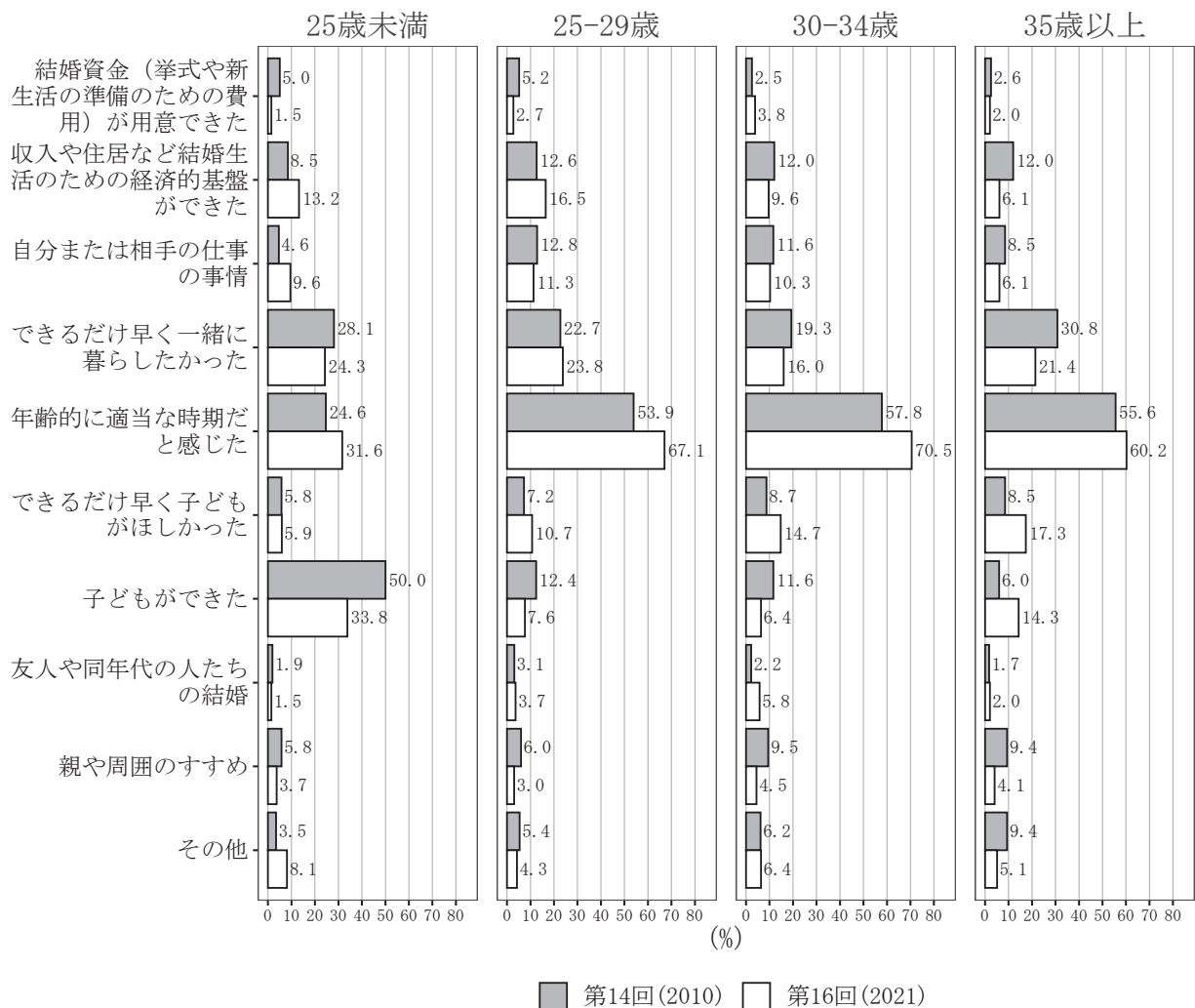
【報告書図表5-2-5 調査別にみた、夫と妻が知り合ったきっかけの構成割合（調査時点より過去5年間に結婚した夫婦の一方または双方が再婚の夫婦）】

5.3 結婚を決めたきっかけ

＜結婚を決めたきっかけは、妻の初婚年齢が25歳未満の夫婦では「子どもができた」、25歳以上では「年齢的に適当な時期だと感じた」が最多＞

結婚を決めたきっかけについて、妻の初婚年齢別にみると、妻が25歳未満で結婚した夫婦では「子どもができた」が今回調査で33.8%と最多であった。しかし、前々回調査の50.0%からは大きく低下した。25歳以上では「年齢的に適当な時期だと感じた」が6～7割を占め最多で、前々回調査よりも構成割合が上昇した。また30歳以上では「できるだけ早く子どもがほしかった」の選択割合が、35歳以上では加えて「子どもができた」の選択割合が前々回調査から増加している。

図表 5-3-1 調査・妻の初婚年齢別にみた、結婚を決めたきっかけ
(結婚持続期間5年未満の夫婦)



注：対象は各調査時点より過去5年間に結婚した初婚どうしの夫婦。第14回は妻の調査時年齢50歳未満、第16回は妻が50歳未満で結婚し、妻の調査時年齢55歳未満の夫婦について集計。何%の人が各項目を「最終的に結婚を決めたときの直接のきっかけ」（2つまで選択）として挙げているかを示す。設問「あなた方ご夫婦が、最終的に結婚を決めたときの直接のきっかけは何ですか。次の中からあてはまる番号を2つまで選んで○をつけてください。」

【報告書図表5-3-1 調査・妻の初婚年齢別にみた、結婚を決めたきっかけ（結婚持続期間5年未満の夫婦）】

6 夫婦の出生力

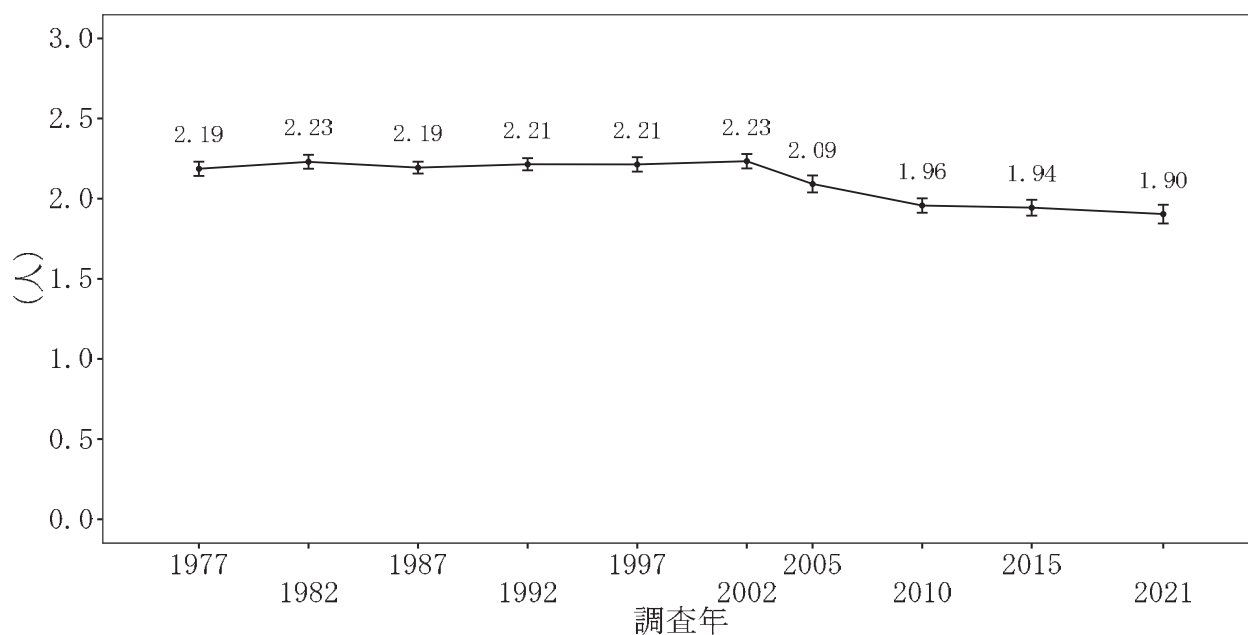
6.1 完結出生子ども数

夫婦の最終的な出生子ども数を「完結出生子ども数（完結出生児数）」と呼ぶ（夫婦一組あたりの平均出生子ども数に相当）。本調査では、子どもを追加する予定がほぼない結婚持続期間 15～19年の夫婦の平均出生子ども数を完結出生子ども数と定義し、集計結果を示してきた。前回調査までは、この指標を妻の調査時年齢が50歳未満の夫婦について集計しているが、今回の調査では妻の年齢が55歳未満の夫婦について集計した結果を示す（※）。また、これとは別に、妻が45～49歳の夫婦について平均出生子ども数も算出した「妻45～49歳夫婦の出生子ども数」を後掲する。

<夫婦の完結出生子ども数は引き続き減少>

結婚持続期間15～19年の夫婦の完結出生子ども数は、2002年（第12回）調査までは2.2人前後で安定的に推移していたが、その後低下し、今回調査では1.90人となり最低値を更新した。

図表 6-1-1 調査別にみた、夫婦の完結出生子ども数（結婚持続期間15～19年）



注：対象は結婚持続期間15～19年の初婚どうしの夫婦。第15回以前は妻の調査時年齢50歳未満、第16回は妻が50歳未満で結婚し、妻の調査時年齢55歳未満の夫婦について集計。出生子ども数不詳を除き、8人以上を8人として平均値を算出。図中のマーカー上のエラーバーは95%信頼区間を示している。第16回（2021）について、前回までと同様に妻の年齢50歳未満（結婚年齢35歳未満）で集計した場合は、1.99。ここには妻が30～34歳で結婚した一部と35歳以上で結婚した夫婦が含まれない。客体数は、第7回（1977）1,427、第8回（1982）1,429、第9回（1987）1,755、第10回（1992）1,849、第11回（1997）1,334、第12回（2002）1,257、第13回（2005）1,078、第14回（2010）1,385、第15回（2015）1,232、第16回（2021）948。各集計対象の平均初婚年齢は以下の通り：第7回（1977）23.9歳、第8回（1982）23.9歳、第9回（1987）23.9歳、第10回（1992）24.2歳、第11回（1997）24.8歳、第12回（2002）25.1歳、第13回（2005）25.4歳、第14回（2010）25.8歳、第15回（2015）26.1歳（いずれも初婚年齢35歳未満）、第16回（2021）27.0歳（初婚年齢35歳未満）、27.8歳（初婚年齢40歳未満）。

【報告書図表6-1-1 調査別にみた、夫婦の完結出生子ども数（結婚持続期間15～19年）】

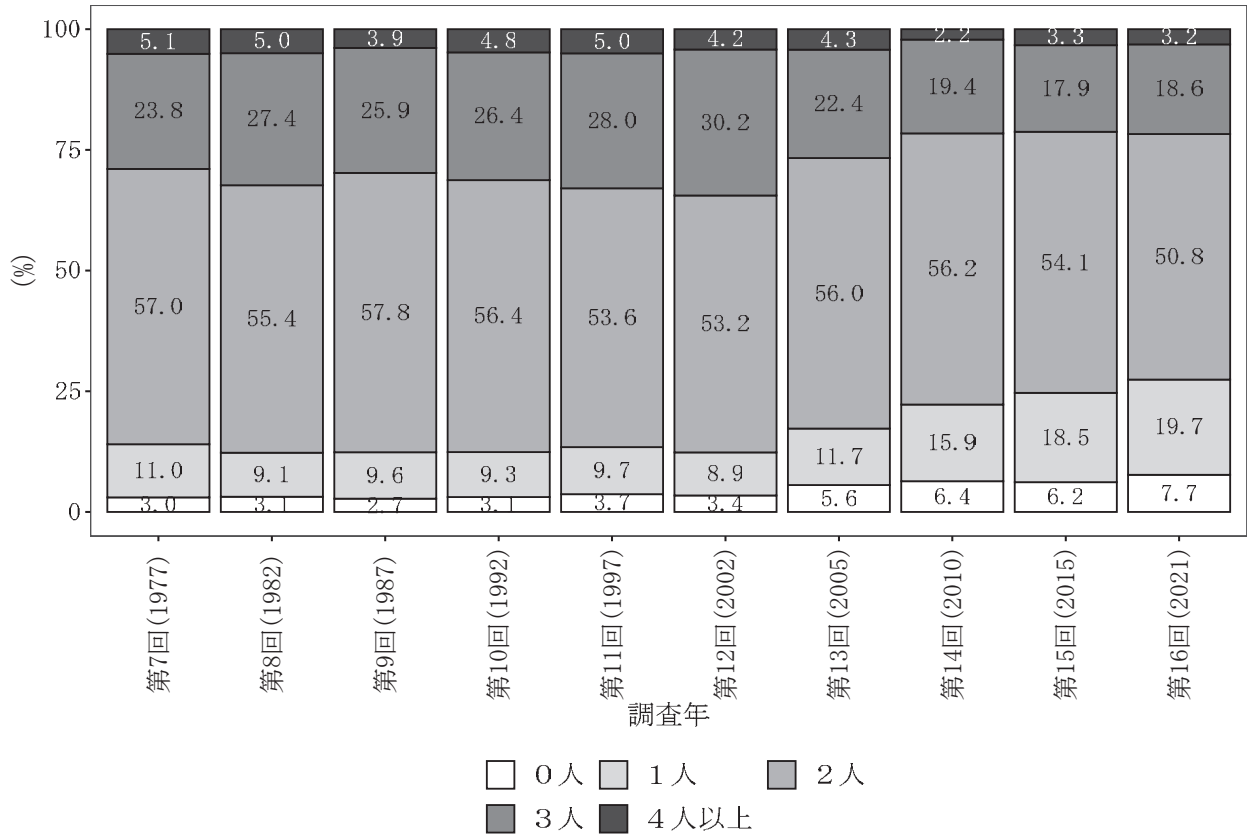
※完結出生子ども数算出における妻の調査時年齢の上限引き上げについて

結婚持続期間 15～19 年の夫婦の完結出生子ども数の集計において、妻の調査時年齢を 50 歳未満に限定すると、妻が 30～34 歳で結婚した夫婦の一部および 35 歳以上で結婚した夫婦が集計対象から除かれる。「人口動態調査」(厚生労働省)による婚姻発生統計によれば、過去調査における結婚持続期間 15～19 年の夫婦の婚姻年次については、妻が 50 歳未満で結婚した夫婦のうち妻の初婚年齢が 30～34 歳である割合は 4～13%で推移してきた。しかし、第 16 回調査において結婚持続期間 15～19 年として集計対象となる夫婦(2001～2006 年に結婚)では晩婚化が一段と進展し、妻が 30～34 歳で結婚している割合が 20%程度にまで増加した。そこで第 16 回調査においては、集計対象の年齢上限を 50 歳未満から 55 歳未満に引き上げ、妻が 30～34 歳で結婚した夫婦をすべて含めて完結出生子ども数を算出した。なお、妻の年齢を 50 歳未満に限定した場合の第 16 回調査の集計結果は注に記載しているが、子ども数が比較的少ない、妻が 30～34 歳で結婚した夫婦の一部が除かれているため、平均出生子ども数は過大となっている。

<子どもを産み終えた夫婦では「子ども1人」の割合が引き続き増加>

出生過程がほぼ完結した結婚持続期間 15～19年の夫婦の出生子ども数の分布をみると、2005年（第13回）調査以降、「子ども1人の夫婦」の割合がゆるやかに増加しており、今回調査では19.7%と約2割を占めた。無子（出生子ども数0人）の夫婦も7.7%（前回6.2%）に増加した。こうした無子、子ども1人の夫婦の増加に伴い、子ども2人の夫婦の割合は低下し、今回調査では50.8%（前回54.1%）となった。

図表 6-1-2 調査別にみた、夫婦の出生子ども数の分布（結婚持続期間 15～19年）



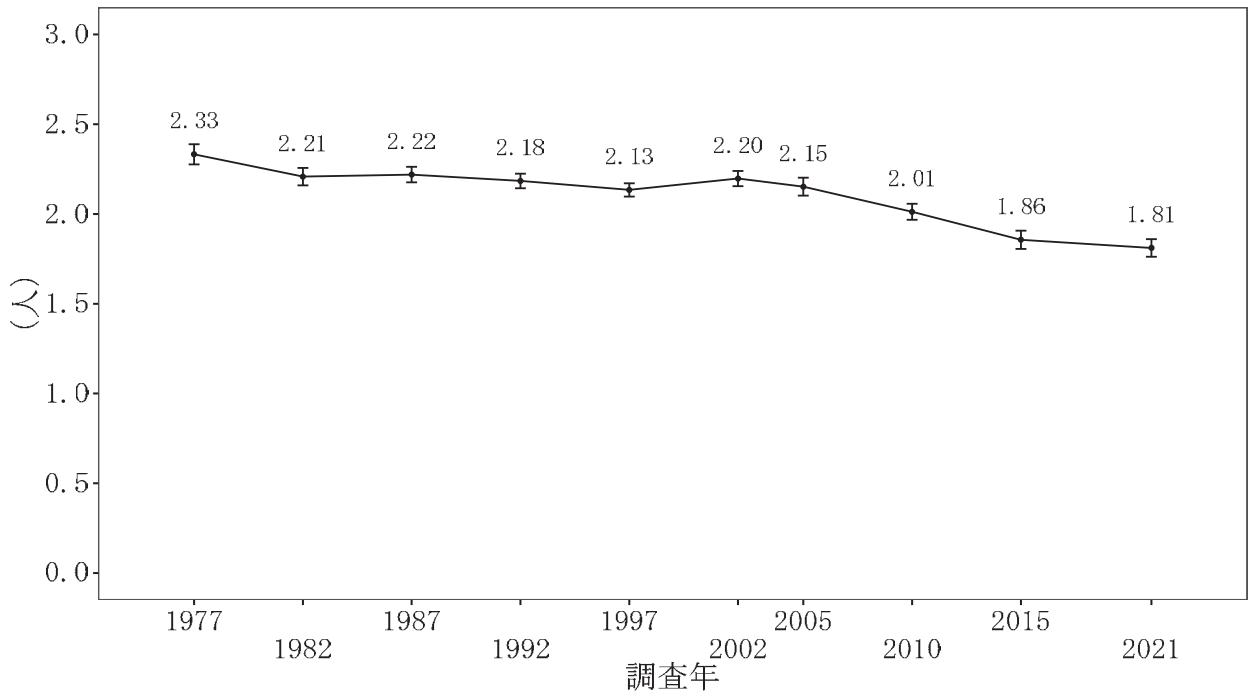
注：対象は結婚持続期間15～19年の初婚どうしの夫婦。第15回以前は妻の調査時年齢50歳未満、第16回は妻が50歳未満で結婚し、妻の調査時年齢55歳未満の夫婦について集計。出生子ども数不詳を除く。第16回について妻の年齢50歳未満に限定した場合、0人（5.5%）、1人（18.1%）、2人（52.9%）、3人（20.2%）、4人以上（3.4%）。

【報告書図表6-1-2 調査別にみた、夫婦の出生子ども数の分布（結婚持続期間15～19年）】

<妻の年齢 45～49 歳の夫婦の平均出生子ども数も低下>

女性は 45 歳以上ではほぼ子どもを生まないため、妻の年齢が 45～49 歳の夫婦の平均出生子ども数は、妻の年齢 50 歳時の最終的な出生子ども数と見なすことができる。これを示すと、2002 年（第 12 回）調査以降で低下しており、今回調査では 1.81 人となった。

図表 6-1-3 調査別にみた、妻 45～49 歳夫婦の出生子ども数



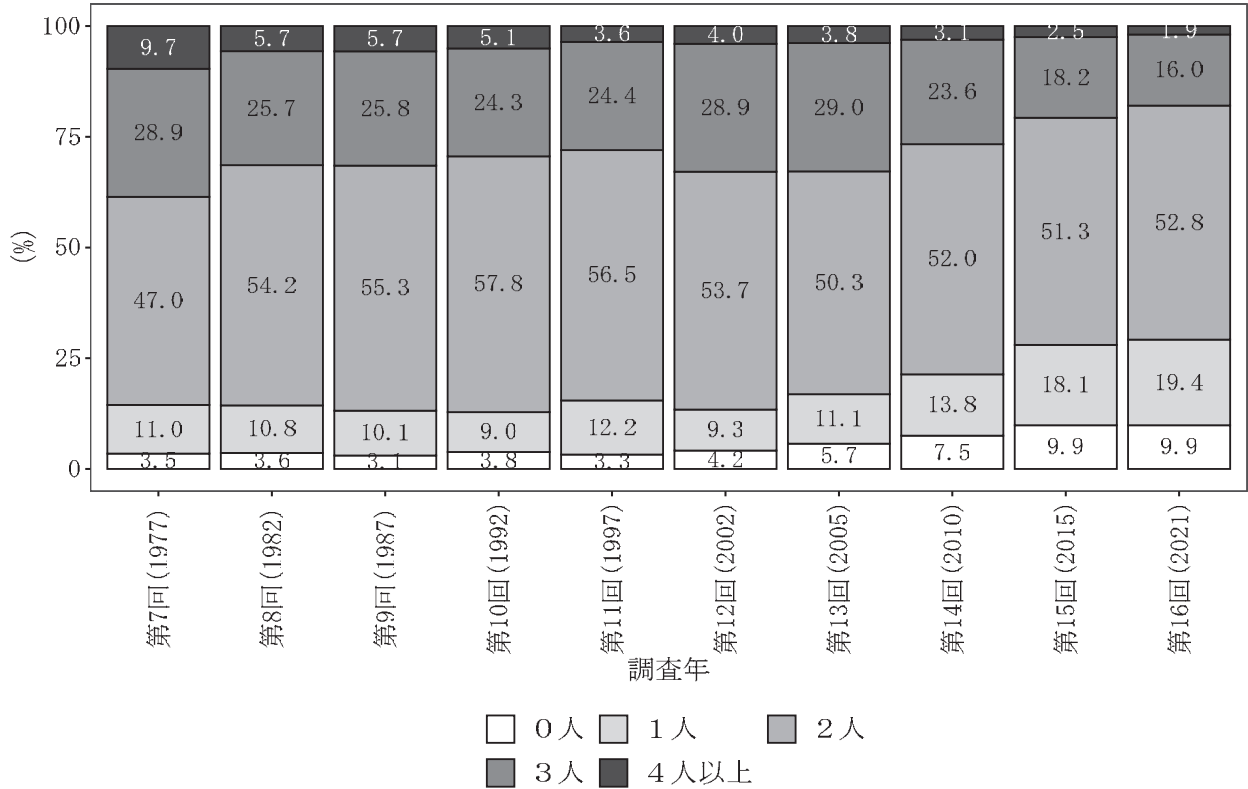
注：対象は妻の調査時年齢45～49歳の初婚どうしの夫婦。出生子ども数不詳を除き、8人以上を8人として平均値を算出。図中のマーカー上のエラーバーは95%信頼区間を示している。客体数は、第7回（1977）1,232、第8回（1982）1,302、第9回（1987）1,472、第10回（1992）1,619、第11回（1997）1,846、第12回（2002）1,469、第13回（2005）1,274、第14回（2010）1,568、第15回（2015）1,275、第16回（2021）1,297。

【報告書図表6-1-3 調査別にみた、妻45～49歳夫婦の出生子ども数】

＜妻の年齢 45～49 歳の夫婦で「子ども 1 人」の割合が増加＞

妻の年齢が 45～49 歳の夫婦の出生子ども数の分布をみると、前回調査よりも子ども 1 人または 2 人の割合が高まり、3 人以上の割合が低下した。

図表 6-1-4 調査別にみた、妻 45～49 歳夫婦の出生子ども数の分布

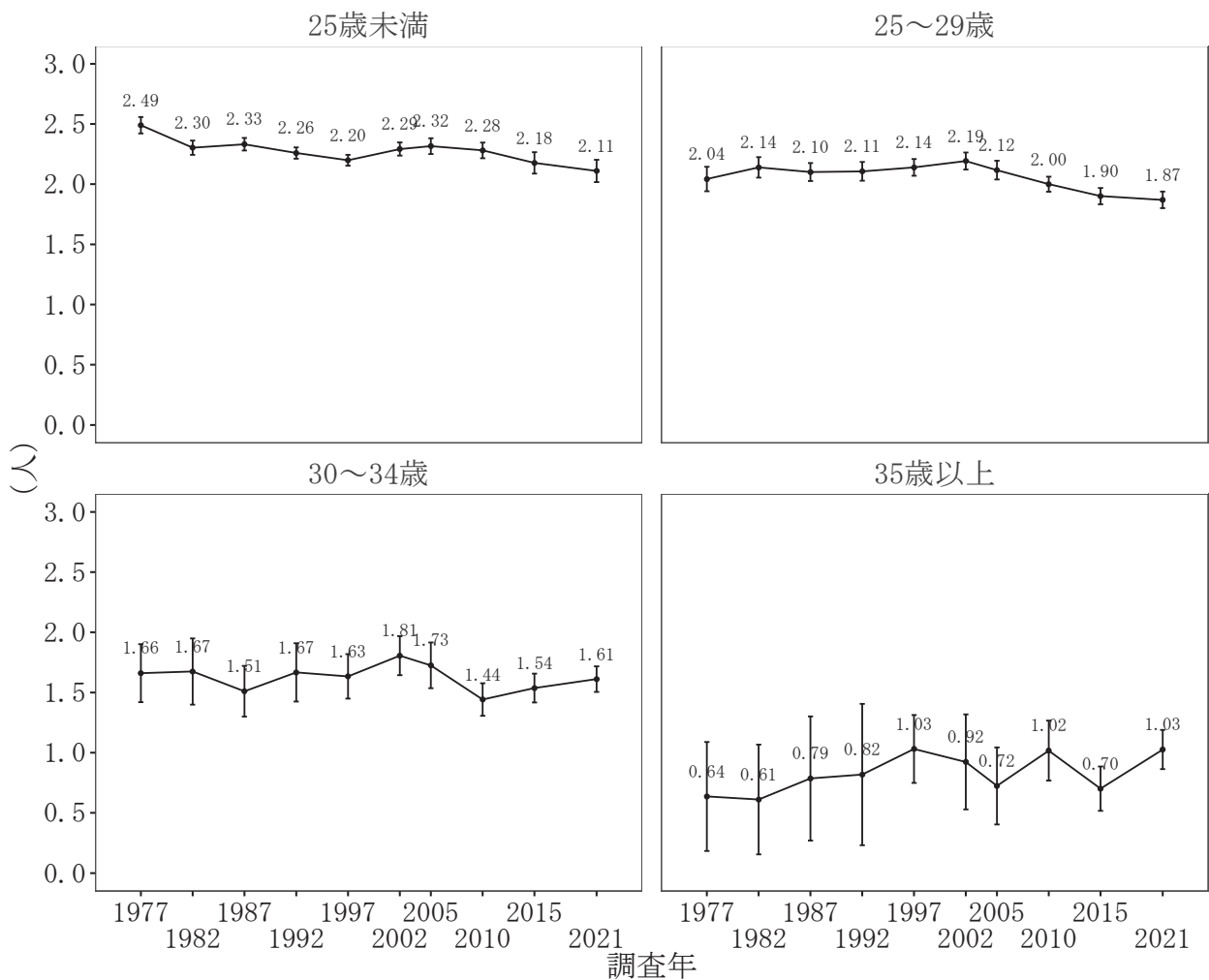


注：対象は妻の調査時年齢45～49歳の初婚どうしの夫婦。出生子ども数不詳を除く。
 【報告書図表6-1-4 調査別にみた、妻45～49歳夫婦の出生子ども数の分布】

＜妻の初婚年齢が高いほど平均出生子ども数は減少＞

妻 45～49 歳の夫婦について、妻の初婚年齢別に平均出生子ども数をみると、晩婚であるほど平均出生子ども数は少ない。妻が25歳未満で結婚した夫婦の子ども数は平均で2人を超えているが、30歳以上では2人を大きく下回る。結婚年齢が高いほど平均値が低いのは、出生過程に入る年齢が高くなると、加齢による不妊を早く迎えるため、再生産期間が短縮されることに加え、晩婚の夫婦では、もともと無子・少子志向である人々の割合が高い可能性もある。妻の初婚年齢が25～29歳の夫婦では、長く2人を上回る水準を示していたが、前回調査で2人を下回り、今回調査ではさらに低下して1.87人となった。

図表 6-1-5 調査・妻の初婚年齢別にみた、妻 45～49 歳夫婦の出生子ども数



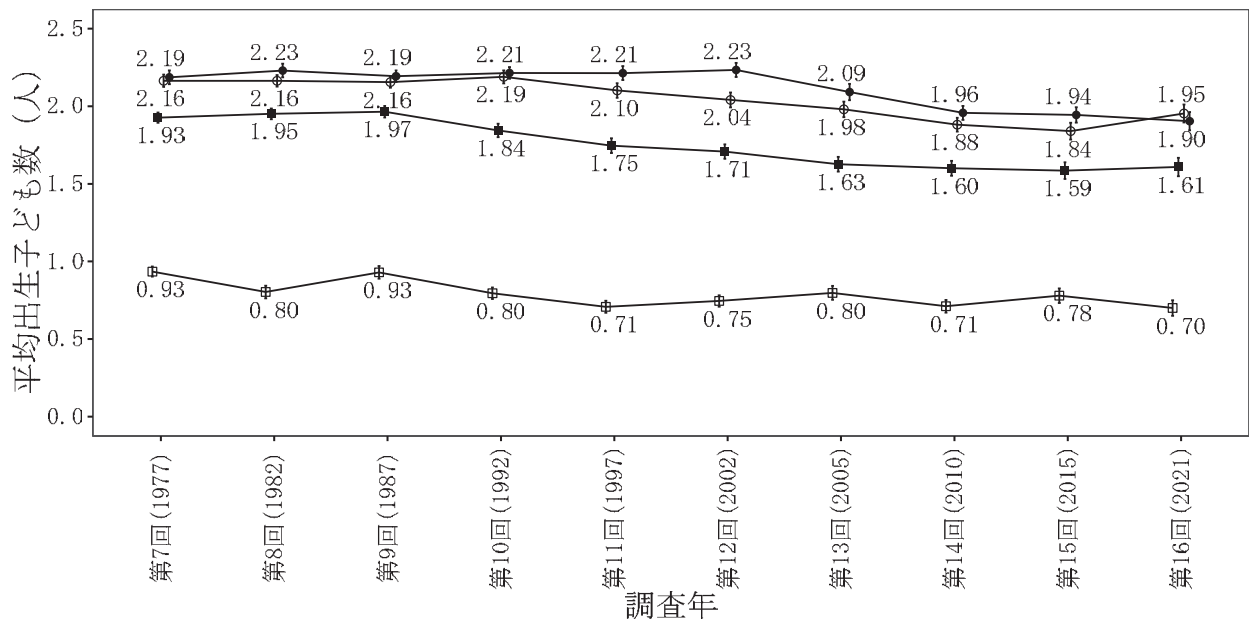
注：対象は妻の調査時年齢45～49歳の初婚どうしの夫婦。初婚年齢・出生子ども数不詳を除き、8人以上を8人として平均値を算出。図中のマーカー上のエラーバーは95%信頼区間を示している。客体数は、第7回（1977）（初婚年齢25歳未満837、25～29歳281、30～34歳56、35歳以上11）、第8回（1982）（同837、387、43、18）、第9回（1987）（同970、427、47、14）、第10回（1992）（同1,101、432、57、11）、第11回（1997）（同1,192、516、82、32）、第12回（2002）（同791、534、98、26）、第13回（2005）（同623、506、102、29）、第14回（2010）（同616、703、172、59）、第15回（2015）（同368、606、190、77）、第16回（2021）（同336、590、229、114）。
【報告書図表6-1-5 調査・妻の初婚年齢別にみた、妻45～49歳夫婦の出生子ども数】

6.2 出生過程の子ども数

＜結婚後5～9年、10～14年の夫婦では平均出生子ども数が下げ止まる＞

結婚からの経過期間、すなわち結婚持続期間別に夫婦の平均出生子ども数の推移を示した。子どもをまだ生み終えていない夫婦が多く含まれる結婚持続期間15年未満の出生子ども数をみると、ほぼ横ばいに推移しているが、一部では持ち直しも認められる。

図表 6-2-1 調査・結婚持続期間別にみた、夫婦の平均出生子ども数



□ 0～4年 ■ 5～9年 ○ 10～14年 ● 15～19年

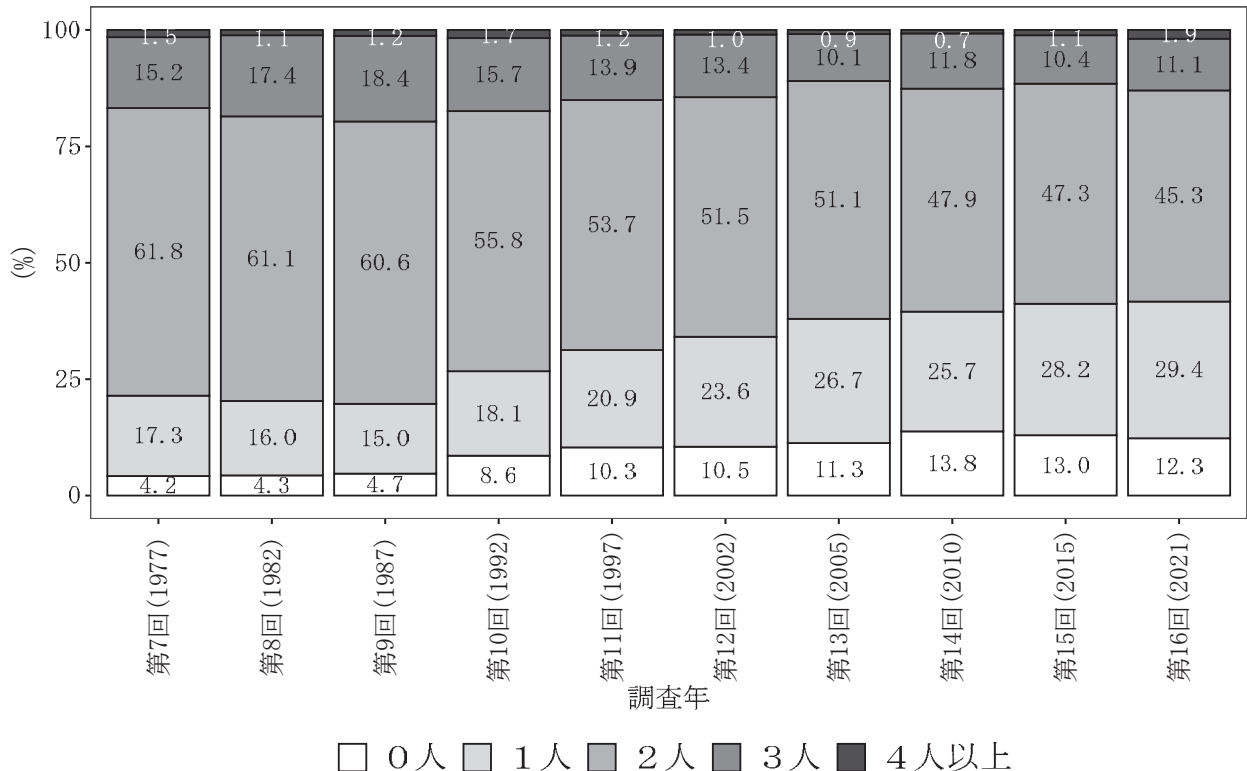
注：対象は第15回以前は妻の調査時年齢50歳未満、第16回は妻が50歳未満で結婚し、妻の調査時年齢55歳未満の初婚どうしの夫婦。出生子ども数不詳を除き、8人以上を8人として平均値を算出。図中のマーカー上のエラーバーは95%信頼区間を示している。客体数は、結婚持続期間0～4年（第15回 883、第16回 716）、5～9年（第15回1,056、第16回 902）、10～14年（第15回1,128、第16回1,033）、15～19年（第15回1,232、第16回 948）。

【報告書図表6-2-1 調査・結婚持続期間別にみた、夫婦の平均出生子ども数】

＜出生過程途上の夫婦「子ども1人」の増加が続く＞

出生過程の途上にある結婚持続期間5～9年の夫婦の出生子ども数の分布をみると、1990年代から「子ども1人の夫婦」の割合がゆるやかに増加している。今回調査でもその傾向は続き、「子ども1人」の割合は29.4%に増加した（前回調査28.2%）。一方、無子の夫婦の割合は2010年（第14回）調査の13.8%をピークに漸減傾向にある。

図表 6-2-2 調査別にみた、夫婦の出生子ども数の分布（結婚持続期間5～9年）



注：対象は結婚持続期間5～9年の初婚どうしの夫婦。第15回以前は妻の調査時年齢50歳未満、第16回は妻が50歳未満で結婚し、妻の調査時年齢55歳未満の夫婦について集計。出生子ども数不詳を除く。客体数は、第7回(1,957)、第8回(1,757)、第9回(1,608)、第10回(1,549)、第11回(1,276)、第12回(1,325)、第13回(1,233)、第14回(1,334)、第15回(1,056)、第16回(902)。

【報告書図表6-2-2 調査別にみた、夫婦の出生子ども数の分布（結婚持続期間5～9年）】

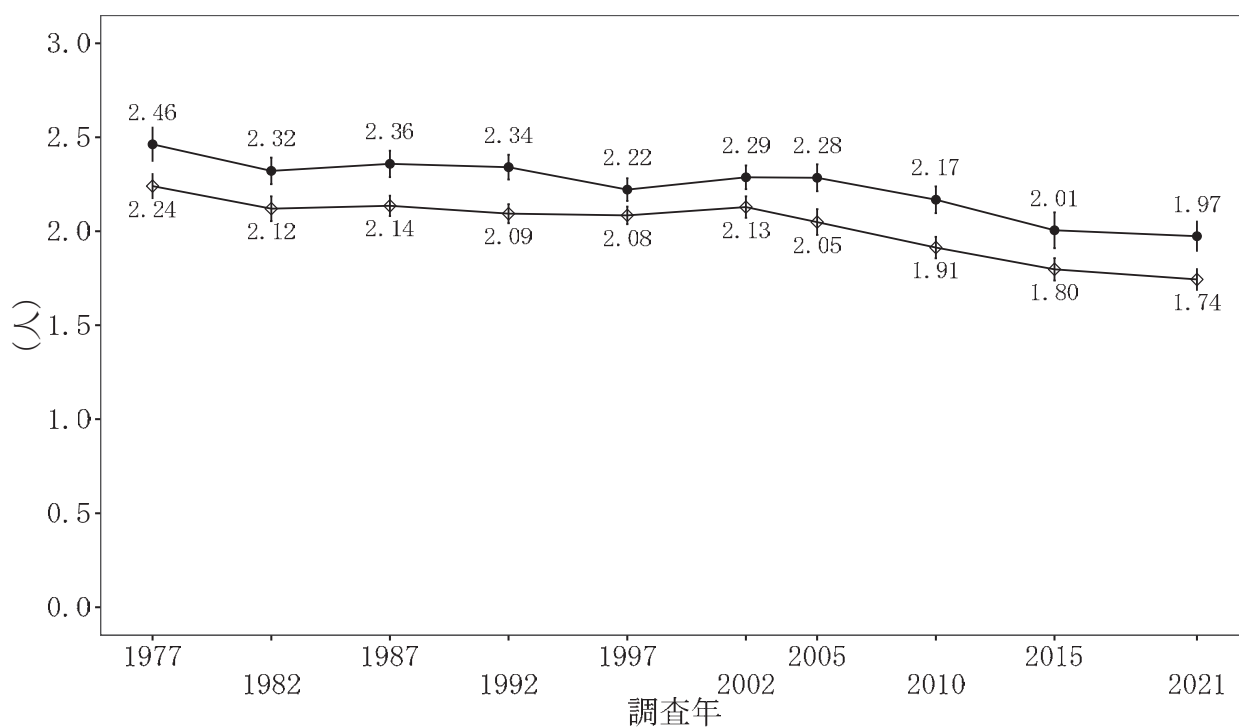
6.3 社会経済状況別にみた妻 45～49 歳夫婦の出生子ども数

ここでは、主要な社会経済状況（調査時点の居住地、夫と妻の教育水準、育児休業の利用経験）別に妻の年齢が 45～49 歳の夫婦の平均出生子ども数の推移を示す。

<非人口集中地区（非 DID）においても妻 45～49 歳夫婦の出生子ども数が 2 人を下回る>

妻 45～49 歳夫婦の平均出生子ども数の推移を調査時点の居住地の人口集中地区（DID）分類別に示した（DID はより都市的な地域であることを示す分類である。分類の詳細については注を参照）。2000 年代以降は、DID、非 DID ともに、妻 45～49 歳夫婦の出生子ども数が継続的に低下している。非 DID よりも DID に居住する夫婦のほうが一貫して平均出生子ども数が低い。また、今回調査では、非 DID において妻 45～49 歳夫婦の出生子ども数の平均値が初めて 2 人を下回り 1.97 人となった。

図表 6-3-1 調査・居住地（調査時）の人口集中地区分類別にみた、妻 45～49 歳夫婦の出生子ども数



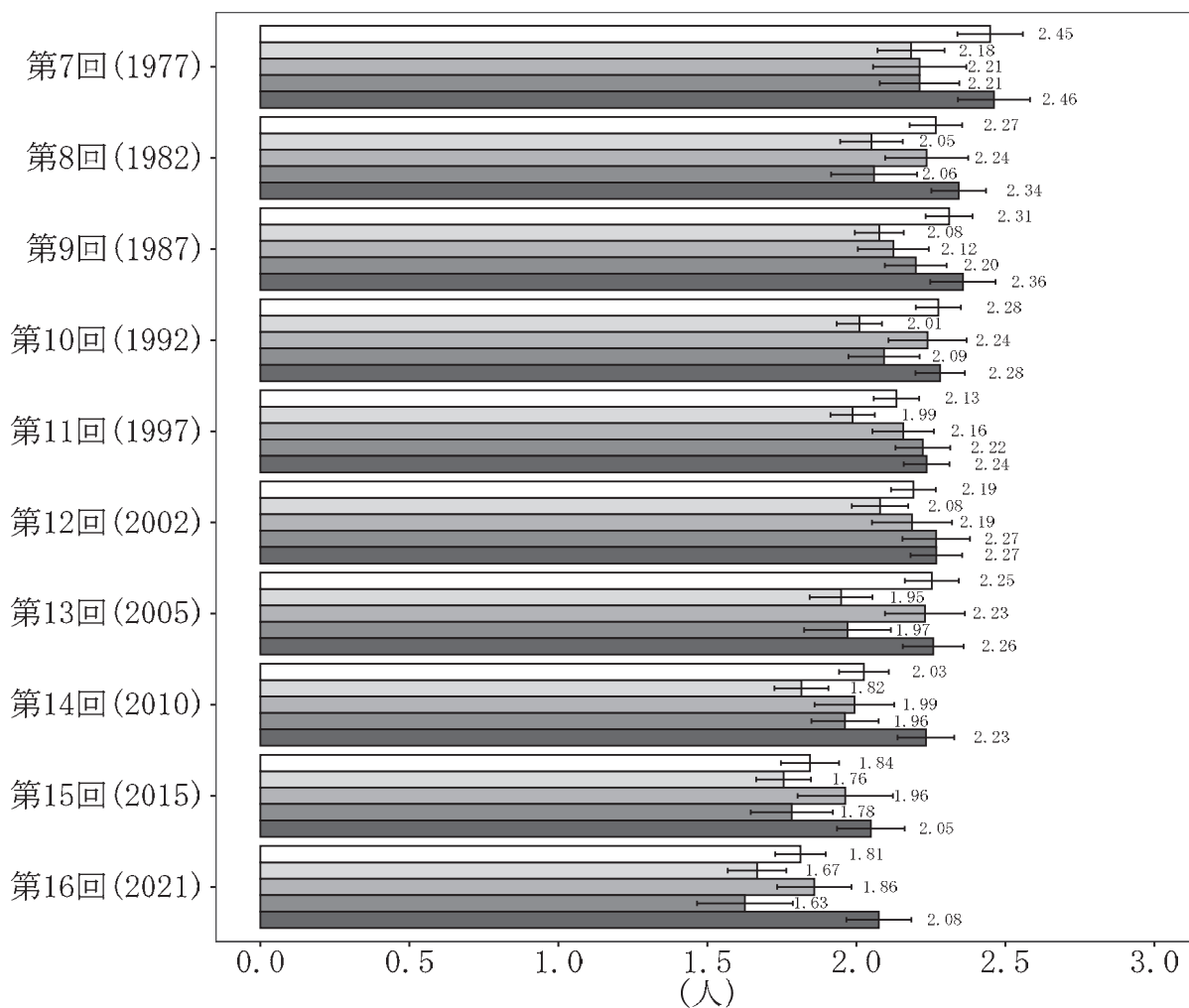
● 非人口集中地区（非DID） ◇ 人口集中地区（DID）

注：対象は妻の調査時年齢45～49歳の初婚どうしの夫婦。出生子ども数不詳を除き、8人以上を8人として平均値を算出。人口集中地区（DID）は、1)原則として人口密度が1平方キロメートル当たり4,000人以上の基本単位区等が市区町村の境域内で互いに隣接して、2)それらの隣接した地域の人口が国勢調査時に5,000人以上を有する地域。図中のマーカー上のエラーバーは95%信頼区間を示している。客体数は、非人口集中地区（第15回（2015） 360、第16回（2021） 381）、人口集中地区（同 915、916）。【報告書図表6-3-1 調査・居住地（調査時）の人口集中地区分類別にみた、妻45～49歳夫婦の出生子ども数】

<地域別では西日本の妻 45～49 歳夫婦の出生子ども数が高い傾向>

全国5つの地域ブロック別に妻 45～49 歳夫婦の出生子ども数の平均値を比較すると、今回調査では「東京圏」と「大阪圏」が低いが、もっとも低かったのは「大阪圏」で 1.63 人であった。3 都市圏で比較すると、「名古屋圏」は相対的に高く、今回調査では 1.86 人であった。5 地域の中でもっとも高いのは「西日本」で、今回調査でも 2.08 人であり、5 つの地域ブロックの中で唯一 2 人以上の平均値を示している。

図表 6-3-2 調査・居住地（調査時）の地域ブロック別にみた、妻 45～49 歳夫婦の出生子ども数



□ 東日本 □ 東京圏 ■ 名古屋圏 ■ 大阪圏 ■ 西日本

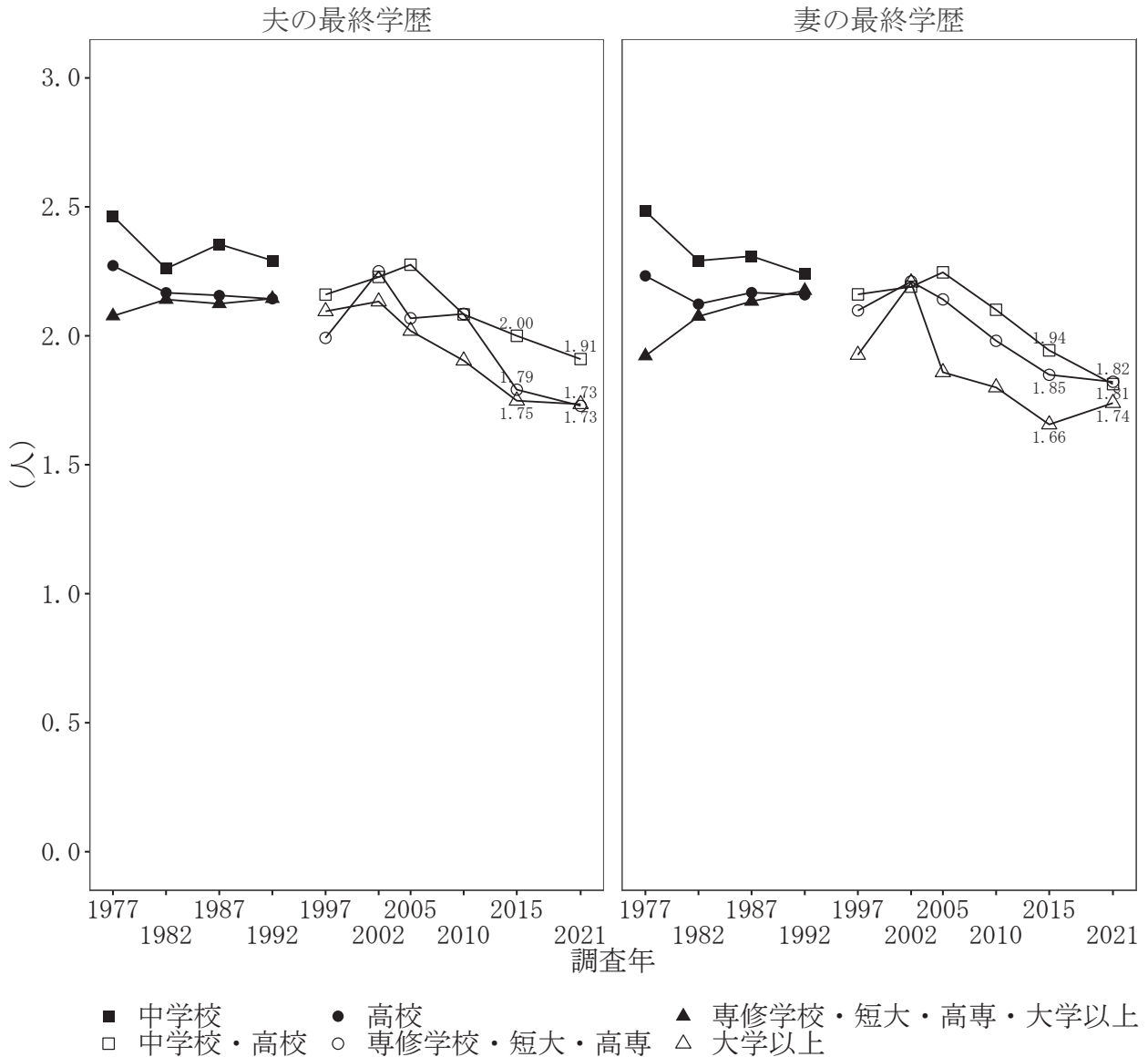
注：対象は妻の調査時年齢45～49歳の初婚どうしの夫婦。出生子ども数不詳を除き、8人以上を8人として平均値を算出。各地域ブロックには以下の都道府県が含まれる：【東京圏】埼玉、千葉、東京、神奈川、【名古屋圏】岐阜、愛知、三重、【大阪圏】京都、大阪、兵庫、奈良、【東日本】北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、茨城、栃木、群馬、新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、静岡、【西日本】滋賀、和歌山、鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知、福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄。図中の棒グラフ上のエラーバーは95%信頼区間を示している。第16回調査の対象夫婦数は、東日本（389）、東京圏（363）、名古屋圏（170）、大阪圏（123）、西日本（252）。

【報告書図表6-3-2 調査・居住地（調査時）の地域ブロック別にみた、妻45～49歳夫婦の出生子ども数】

＜夫と妻の学歴別にみた妻 45～49 歳夫婦の出生子ども数、妻では学歴間の差がやや縮小＞

夫と妻の最終学歴別に、妻 45～49 歳夫婦の出生子ども数を見ると、夫、妻ともに、これまでおむね学歴が高いほど平均値が低い傾向がみられたが、今回調査では、妻が大卒以上の夫婦で前回調査の 1.66 人から 1.74 人に上昇し、学歴間の差がやや縮小した。

図表 6-3-3 調査・夫と妻の最終学歴別にみた、妻 45～49 歳夫婦の出生子ども数



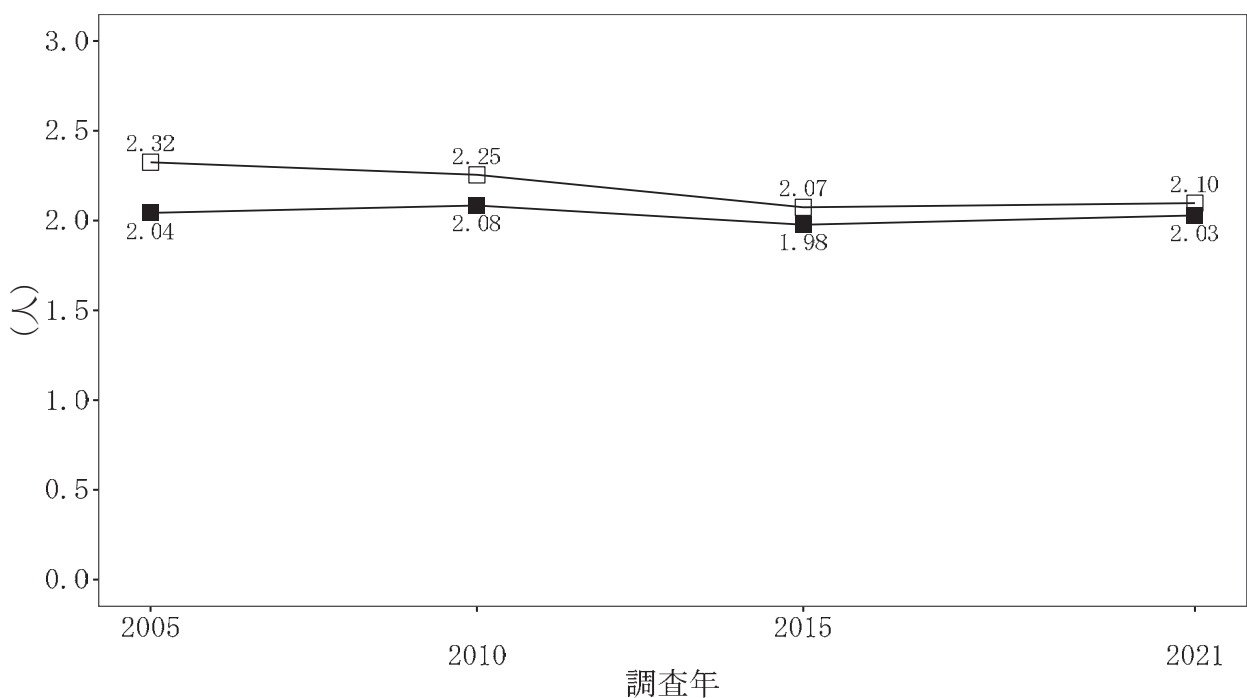
注：対象は妻の調査時年齢45～49歳の初婚どうしの夫婦。出生子ども数不詳を除き、8人以上を8人として平均値を算出。最終学歴は、第10回（1992）以前は「中学校」「高校」「専修学校・短大・高専・大学以上」、第11回（1997）以降は「中学校・高校」「専修学校・短大・高専」「大学以上」のそれぞれ3カテゴリ。客体数は、第15回（2015）調査の妻は中学校・高校（567）、専修学校・短大・高専（483）、大学以上（221）、夫は中学校・高校（521）、専修学校・短大・高専（206）、大学以上（541）。第16回（2021）調査の妻は中学校・高校（417）、専修学校・短大・高専（566）、大学以上（280）、夫は中学校・高校（477）、専修学校・短大・高専（232）、大学以上（547）。

【報告書図表6-3-3 調査・夫と妻の最終学歴別にみた、妻45～49歳夫婦の出生子ども数】

＜第1子出産前後に育児休業制度を利用して就業続した妻、出生子ども数に低下みられず＞

第1子の出産前後（妊娠判明時と子どもが1歳時点）に就業しており、調査時点で40～49歳の妻について、育児休業制度の利用の有無別に出生子ども数の平均値を調べた。2005年時点では、育児休業制度を利用して就業続した妻の平均出生子ども数は2.04人であり、育児休業制度を利用せずに続した妻（自営業やパートを含む）の2.32人よりも顕著に低い値であった。2021年の今回調査では、2005年当時と比べ、育児休業制度を利用していない妻の平均出生子ども数は2.10人へと低下した一方で、育児休業制度を利用した妻は2.03人と横ばいであり、両者の差が縮小している。

図表 6-3-4 調査・第1子における妻の育児休業制度利用有無別にみた、夫婦の出生子ども数
（妻40～49歳、第1子出産前後で就業続していた妻）



■ 育児取得あり □ 育児取得なし

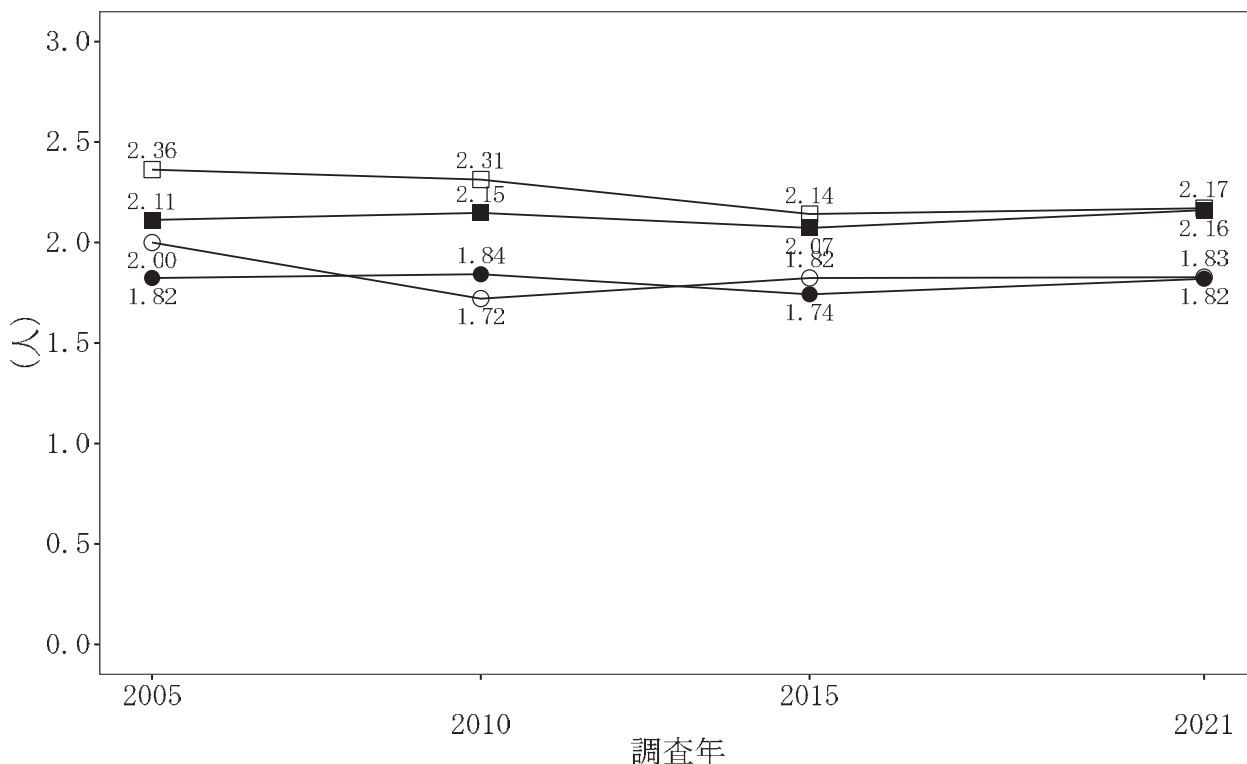
注：対象は第1子出産前後で妻が就業を続し、出生子ども数1人以上で、妻の調査時年齢40～49歳の初婚どうしの夫婦。出生子ども数不詳を除き、8人以上を8人として平均値を算出。ここでの就業には正規の職員、パート・アルバイト、派遣・嘱託・契約社員、自営業主・家族従業者・内職を含む。客体数は、第13回（2005）の育児取得あり（142）、育児取得なし（459）、第14回（2010）の育児取得あり（262）、育児取得なし（448）、第15回（2015）の育児取得あり（337）、育児取得なし（299）、第16回（2021）の育児取得あり（496）、育児取得なし（268）。

【報告書図表6-3-4 調査・第1子における妻の育児休業制度利用有無別にみた、夫婦の出生子ども数（妻40～49歳、第1子出産前後で就業続していた妻）】

＜妻の初婚年齢にかかわらず、育児休業制度の利用の有無による出生子ども数の差が縮小＞

ここでは、妻の初婚年齢が30歳未満の夫婦と30歳以上の夫婦に分け、第1子の出産前後に就業を継続した妻について、育児休業制度の利用の有無別に妻40～49歳時の平均出生子ども数を比較した。初婚年齢が30歳未満の妻をみると、2005年調査時には、育児休業を利用した妻の平均出生子ども数は、利用していない妻よりも低かったが、その後育児休業制度利用者の子どもの数はやや上昇し、2021年では両者の差はみられない。

図表 6-3-5 調査・妻の初婚年齢・第1子における妻の育児休業制度利用有無別にみた、夫婦の出生子ども数（妻40～49歳、第1子出産前後で就業継続していた妻）



■ 育休取得あり（初婚年齢30歳未満） ● 育休取得あり（初婚年齢30歳以上）
 □ 育休取得なし（初婚年齢30歳未満） ○ 育休取得なし（初婚年齢30歳以上）

注：対象は第1子出産前後で妻が就業を継続し、出生子ども数1人以上で、妻の調査時年齢40～49歳の初婚どうしの夫婦。出生子ども数不詳を除き、8人以上を8人として平均値を算出。ここでの就業には正規の職員、パート・アルバイト、派遣・嘱託・契約社員、自営業主・家族従業者・内職を含む。客体数は、第13回（2005）の育休取得あり（初婚年齢30歳未満107、初婚年齢30歳以上34）、育休取得なし（同411、48）、第14回（2010）の育休取得あり（203、57）、育休取得なし（402、43）、第15回（2015）の育休取得あり（234、97）、育休取得なし（240、51）、第16回（2021）の育休取得あり（304、183）、育休取得なし（199、58）。

【報告書図表6-3-5 調査・妻の初婚年齢・第1子における妻の育児休業制度利用有無別にみた、夫婦の出生子ども数（妻40～49歳、第1子出産前後で就業継続していた妻）】

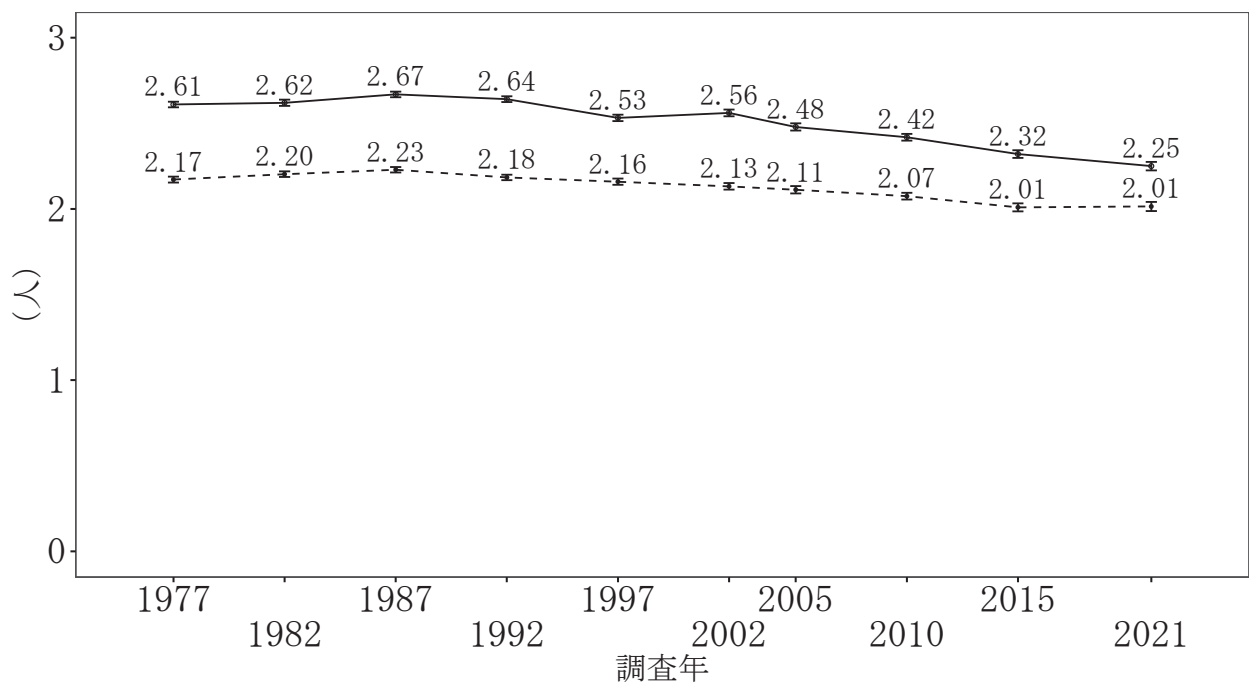
7 子ども数についての考え方

7.1 夫婦の理想子ども数・予定子ども数と男女児組合せ

＜平均理想子ども数は漸減が続き、平均予定子ども数は前回から横ばい＞

夫婦の平均理想子ども数は2000年代以降、ゆるやかに低下してきている。今回調査でも平均理想子ども数は前回調査の2.32人から2.25人へと小幅な低下がみられた。一方、1990年代以降、漸減傾向が続いてきた平均予定子ども数については、今回調査は前回と同じ2.01人であった。

図表 7-1-1 調査別にみた、夫婦の平均理想子ども数と平均予定子ども数



— 平均理想子ども数 -- 平均予定子ども数

注：対象は妻の年齢50歳未満の初婚どうしの夫婦。予定子ども数は現存子ども数と追加予定子ども数の和。理想・予定子ども数不詳を除き、8人以上を8人として平均値を算出。図中のマーカー上のエラーバーは95%信頼区間を示している。なお、未婚女性の希望子ども数との比較の観点から、妻の年齢を35歳未満に限定すると、平均理想子ども数は第7回(1977)2.52、第8回(1982)2.59、第9回(1987)2.61、第10回(1992)2.54、第11回(1997)2.43、第12回(2002)2.43、第13回(2005)2.40、第14回(2010)2.41、第15回(2015)2.43、第16回(2021)2.29、平均予定子ども数は、第7回(1977)2.18、第8回(1982)2.25、第9回(1987)2.31、第10回(1992)2.21、第11回(1997)2.18、第12回(2002)2.11、第13回(2005)2.15、第14回(2010)2.24、第15回(2015)2.28、第16回(2021)2.17である。設問①理想子ども数：「あなた方ご夫婦にとって理想的な子どもの数は何人ですか。」(0. 子どもはいらない、1. 1人、2. 2人、3. 3人、4. 4人、5. 5人以上()人)。②予定子ども数：「そうしますと、あなた方ご夫婦は全部で何人のお子さんを持つおつもりですか。」(0. 子どもは持たない、1. 1人、2. 2人、3. 3人、4. 4人、5. 5人以上()人)。

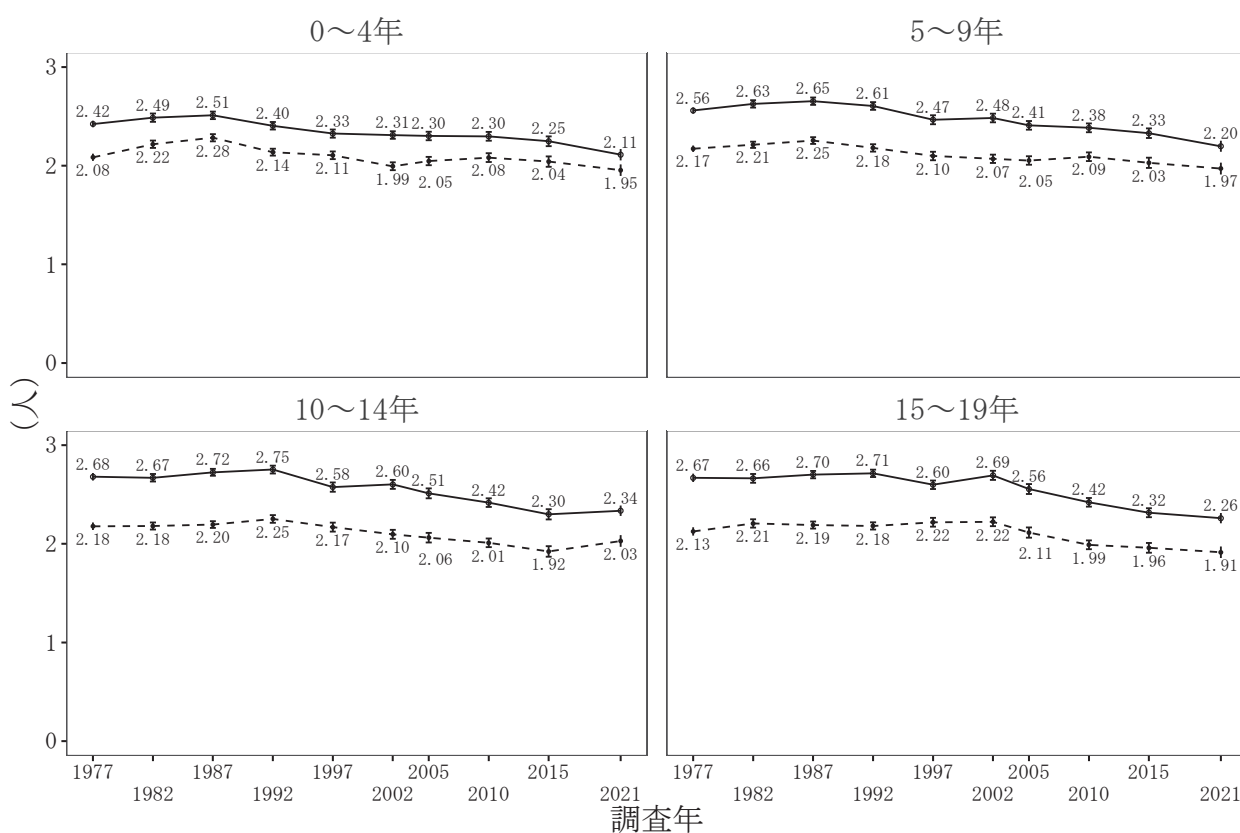
【報告書図表7-1-1 調査別にみた、夫婦の平均理想子ども数と平均予定子ども数】

<結婚持続期間 10 年未満の夫婦では平均理想子ども数、予定子ども数の低下が続く>

ここでは、結婚からの経過年、すなわち結婚持続期間別に理想子ども数、予定子ども数の推移を示した(※)。結婚持続期間 10～14 年の夫婦では、理想・予定子ども数ともにわずかに上昇がみられたが、結婚持続期間 10 年未満の夫婦については、理想・予定子ども数ともに小幅に低下し、予定子ども数の平均値は 2 人を下回った。

※近年、初婚年齢が高い夫婦が増加しているため、結婚持続期間別に表章するにあたり、第 16 回調査では妻の年齢 55 歳未満(ただし結婚年齢は 50 歳未満)で集計している(第 15 回以前は妻の年齢 50 歳未満で集計)。

図表 7-1-2 調査・結婚持続期間別にみた、夫婦の平均理想子ども数と平均予定子ども数



— 平均理想子ども数 -- 平均予定子ども数

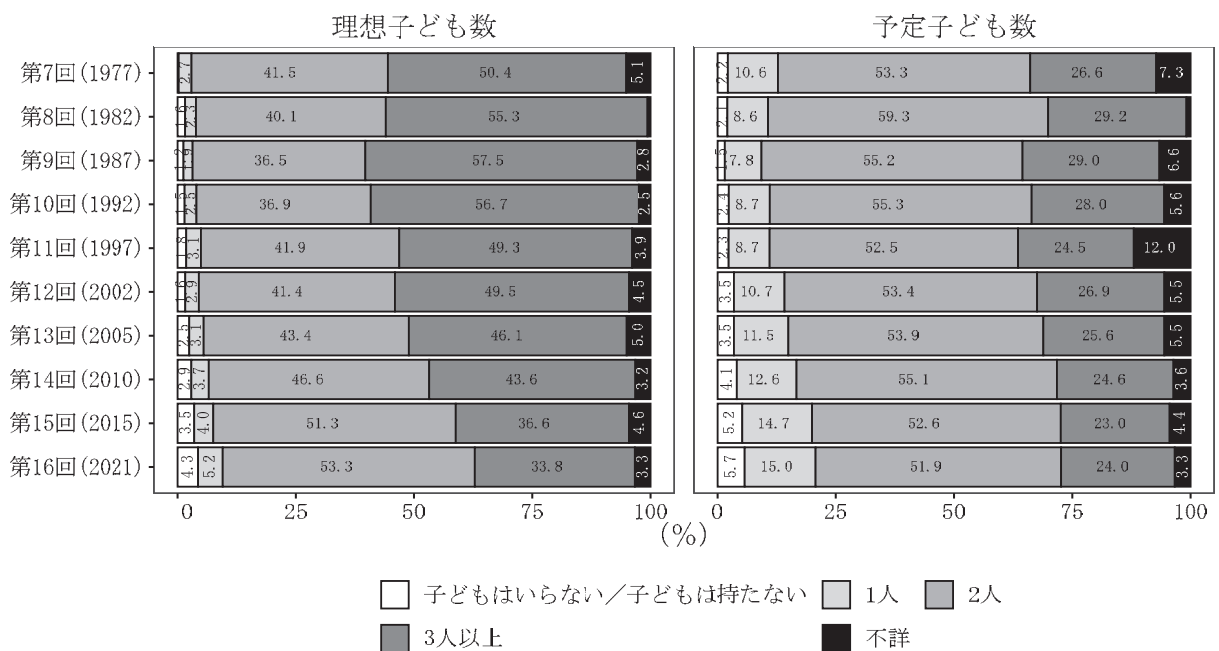
注：対象は第15回以前は妻の調査時年齢50歳未満、第16回は妻が50歳未満で結婚し、妻の調査時年齢55歳未満の初婚どうしの夫婦。予定子ども数は現存子ども数と追加予定子ども数の和。理想・予定子ども数不詳を除き、8人以上を8人として平均値を算出。図中のマーカー上のエラーバーは95%信頼区間を示している。平均理想子ども数の客体数は、0～4年(第15回(2015)864、第16回(2021)708)、5～9年(同1,034、879)、10～14年(1,093、1,002)、15～19年(1,176、916)。平均予定子ども数の客体数は、0～4年(第15回(2015)858、第16回(2021)703)、5～9年(同1,020、871)、10～14年(1,096、1,008)、15～19年(1,187、922)。設問①理想子ども数：「あなた方ご夫婦にとって理想的な子どもの数は何人ですか。」(0. 子どもはいらない、1. 1人、2. 2人、3. 3人、4. 4人、5. 5人以上()人)。②予定子ども数：「そうしますと、あなた方ご夫婦は全部で何人のお子さんを持つおつもりですか。」(0. 子どもは持たない、1. 1人、2. 2人、3. 3人、4. 4人、5. 5人以上()人)。

【報告書図表7-1-2 調査・結婚持続期間別にみた、夫婦の平均理想子ども数と平均予定子ども数】

<理想子ども数、予定子ども数ともに少子志向が進む>

夫婦の理想子ども数の分布をみると、1990年代後半に3人以上の割合が50%を下回り、その後も低下が進み、今回調査では33.8%にまで減少した。一方、理想子ども数2人の夫婦の割合は前回調査から5割を上回り、「子どもはほらない」(0人)、1人も漸増するなど、全体的に少ない子ども数を理想とする割合が増えている。予定子ども数は、2人が約半数を占めて最多ではあるが、今回調査では、予定子ども数が1人の割合が15.0%に達し、「子どもは持たない」(0人)を含めた予定子ども数が1人以下の夫婦が全体の2割を超えた。

図表 7-1-3 調査別にみた、夫婦の理想子ども数、予定子ども数の分布



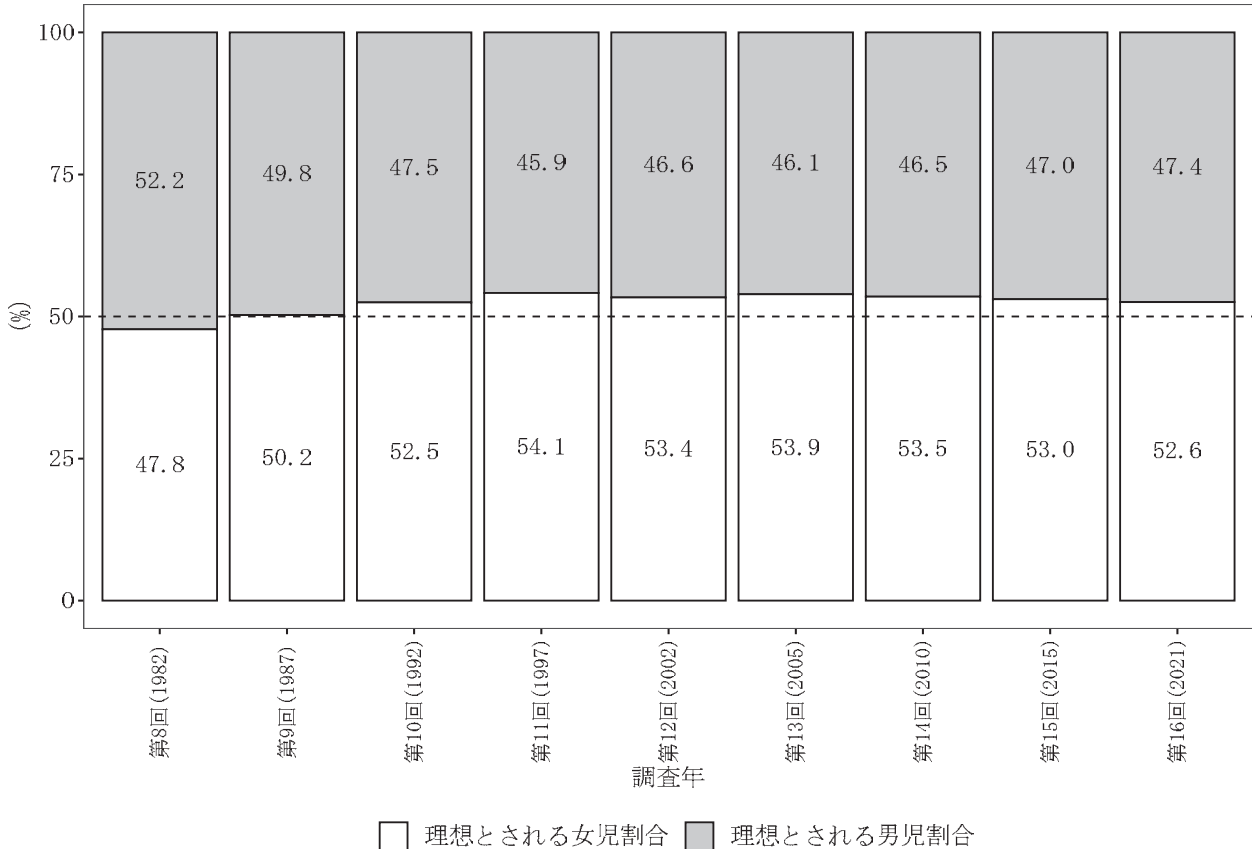
注：対象は妻の年齢50歳未満の初婚どうしの夫婦。予定子ども数は現存子ども数と追加予定子ども数の和。設問「あなた方ご夫婦が結婚された当時、全部で何人のお子さんを持つつもりでしたか。」設問①理想子ども数：「あなた方ご夫婦にとって理想的な子どもの数は何人ですか。」(0. 子どもはほらない、1. 1人、2. 2人、3. 3人、4. 4人、5. 5人以上()人)。②予定子ども数：「そうしますと、あなた方ご夫婦は全部で何人のお子さんを持つおつもりですか。」(0. 子どもは持たない、1. 1人、2. 2人、3. 3人、4. 4人、5. 5人以上()人)。

【報告書図表7-1-3 調査別にみた、夫婦の理想子ども数、予定子ども数の分布】

< 女兒選好が優勢の傾向が続く >

夫婦が回答した理想子ども数について、その男女児の組合せにも理想があると回答した場合の男女児構成割合を調べた。1990年代の調査で、理想とされる子ども数の総和に占める女兒の割合が男児の割合を上回り、以後、こうした女兒が男児よりも望まれやすい女兒選好が優勢の傾向が続いている。今回調査でも、理想とされる女兒の構成は52.6%と半数を上回っている。

図表 7-1-4 調査別にみた、夫婦の理想男女児数の総和の構成

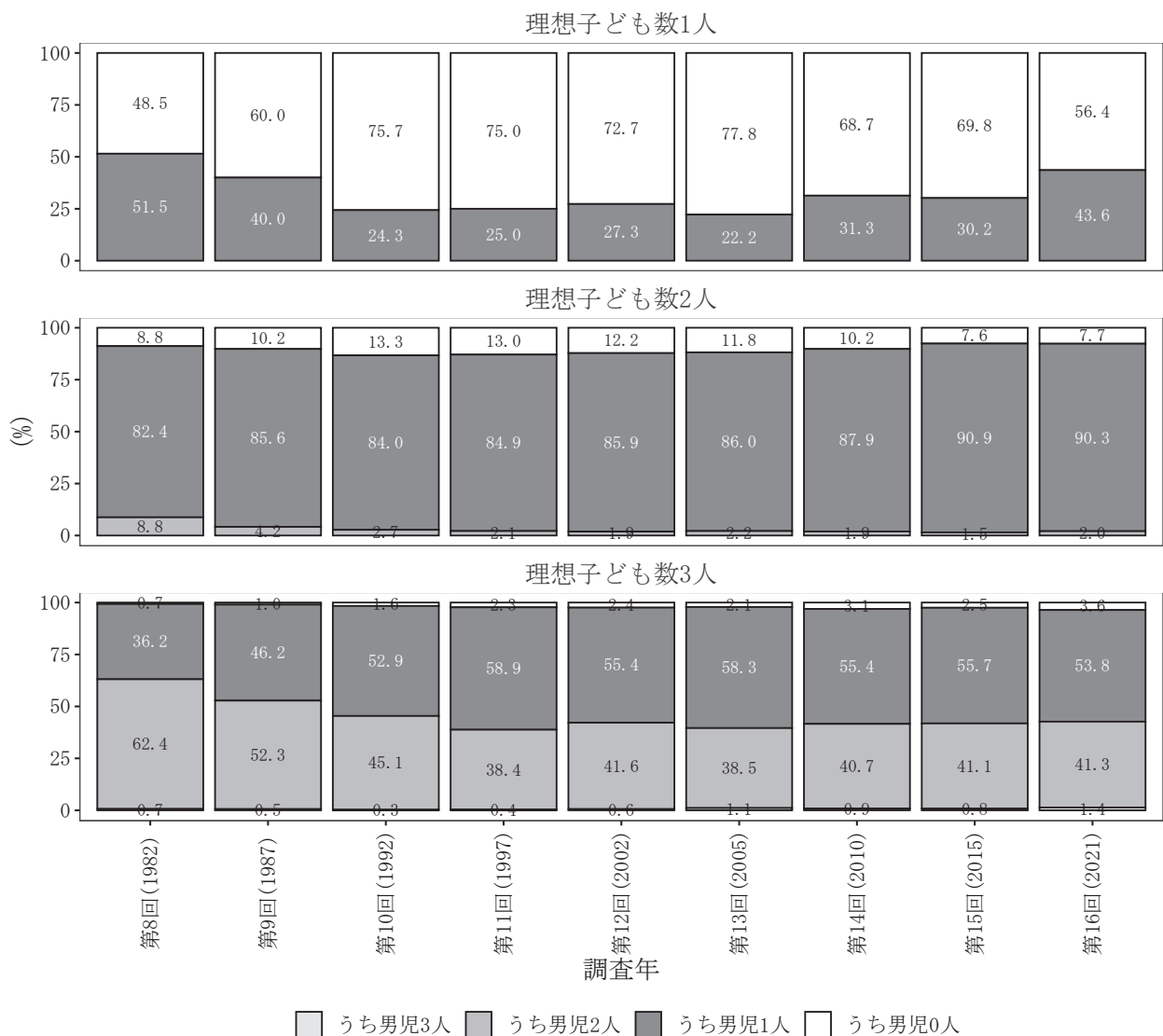


注：対象は理想子ども数が1人以上かつ男女児組み合わせに理想があったとした、妻の年齢が50歳未満の初婚どうしの夫婦。本図は回答された理想の男女児組み合わせにおける総男女児数の構成を示す。理想子ども数の内訳として、男女児組合せの理想があると回答した割合は、第8回 (64.2%)、第9回 (65.7%)、第10回 (61.4%)、第11回 (52.7%)、第12回 (60.3%)、第13回 (64.1%)、第14回 (61.9%)、第15回 (57.7%)、第16回 (50.9%)。各調査回における理想子ども数性比 (理想女兒数100に対する理想男児数) は、第8回 (109.4)、第9回 (99.0)、第10回 (90.6)、第11回 (84.7)、第12回 (87.4)、第13回 (85.5)、第14回 (87.0)、第15回 (88.5)、第16回 (90.3)。女兒選好が優勢であるほど、この値は小さくなる。
【報告書図表7-1-4 調査別にみた、夫婦の理想男女児数の総和の構成】

<多数派である「理想子ども数2人」の場合は、男児、女児を1人ずつ望むバランス選好が9割を占める>

理想子ども数について、その男女児組合せに理想があると回答した場合の組合せの回答構成割合をみると、「理想子ども数1人」と回答した夫婦では、女児を望む割合が前回の69.8%から56.4%に低下した。もっとも多く夫婦が該当する「理想子ども数2人」では、男女児を1人ずつ望むバランス選好が約9割を占めている。「理想子ども数3人」では、女児が多い組合せを希望する夫婦がおよそ6割を占める状態が長く続いており、今回調査でも同様であった。

図表 7-1-5 調査別にみた、夫婦の理想子ども数別子どもの性別組合せ



注：対象は理想子ども数が1人以上かつ男女児組み合わせに理想があったとした、妻の年齢が50歳未満の初婚どうしの夫婦。理想子ども数4人以上の組み合わせについては掲載を省略。第16回調査の客体数は、理想子ども数1人 (39)、理想子ども数2人 (1,272)、理想子ども数3人 (586)。
【報告書図表7-1-5 調査別にみた、夫婦の理想子ども数別子どもの性別組合せ】

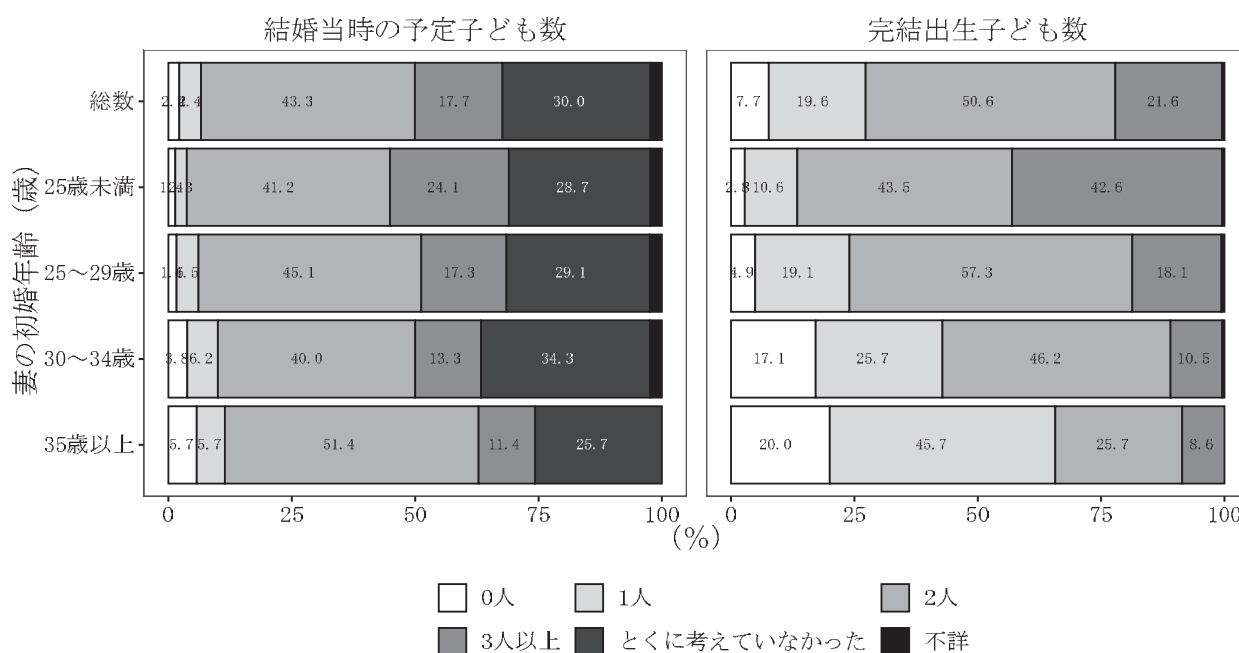
7.2 結婚当時の予定子ども数と現実の完結出生子ども数

<結婚当時の予定子ども数と現実の完結出生子ども数を比較すると、妻の初婚年齢が高いほど両者の差が大きく、実現できていない>

今回の調査では、夫婦が結婚したときに、何人くらいの子どもの持つつもりだったかをたずねている。結婚後15～19年が経過した夫婦が結婚ときに持つつもりであった子ども数の分布をみると、「2人」がもっとも多く40～50%ほどを占め、3人以上と回答した割合も2割近くあった。約3割の夫婦は「とくに考えていなかった」と回答している。これを初婚年齢別にみると、初婚年齢が高くなるほど、1人以下の子ども数を予定する割合が増え、3人以上を予定する割合が減る。

一方、同じ夫婦の結婚持続期間15～19年の出生子ども数分布をみると、総数では、結婚当時の予定では1割以下であった「1人以下」の割合（6.6%）は、現実には3割近く（27.3%）に達しており、予定と現実の乖離がみられる。またこうした乖離は初婚年齢が高くなるほど大きくなる傾向がある。

図表 7-2-1 妻の初婚年齢別にみた、結婚当時の予定子ども数と現実の完結出生子ども数の分布：第16回調査（2021年）（結婚持続期間15～19年）



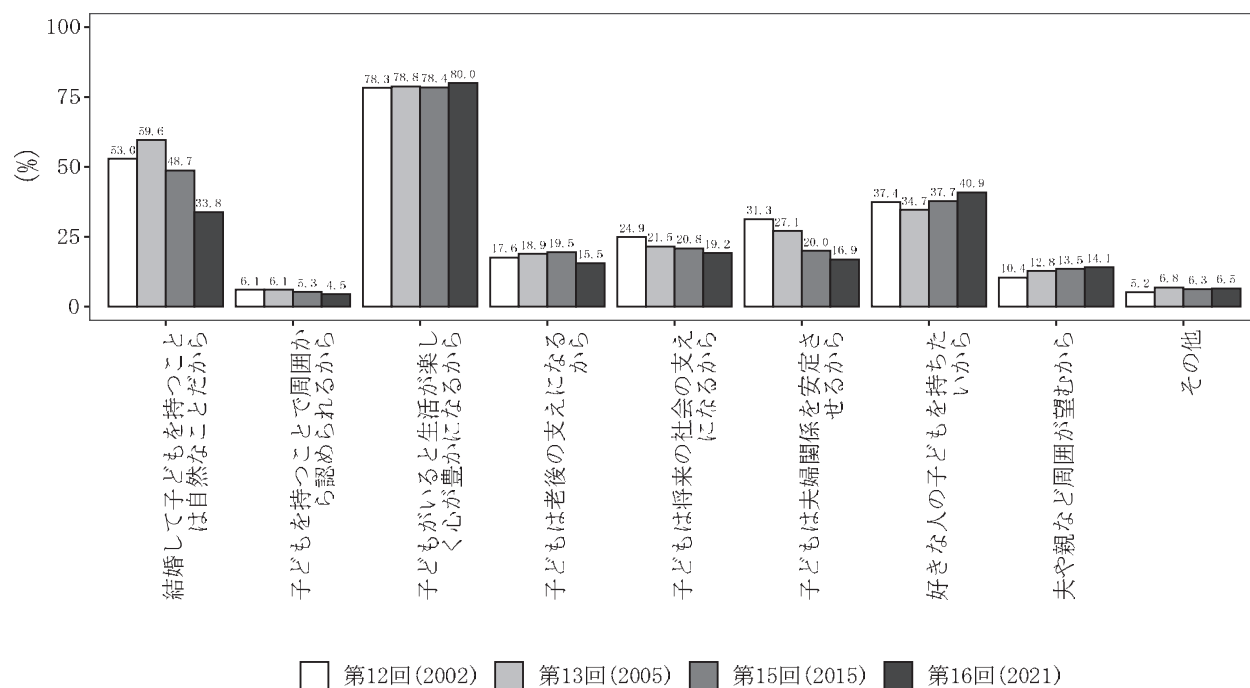
注：対象は結婚持続期間15～19年の初婚どうしの夫婦。妻が50歳未満で結婚し、妻の調査時年齢55歳未満の夫婦について集計。客体数は、妻の初婚年齢総数（953）、25歳未満（216）、25～29歳（492）、30～34歳（210）、35歳以上（35）。設問「あなた方ご夫婦が結婚された当時、全部で何人のお子さんを持つつもりでしたか。」「あなた方ご夫婦のお子さんについておたずねします。次の下線の欄に該当する人数を記入してください。これまでに生んだお子さんは全部で（ ）人」
【報告書図表7-2-1 妻の初婚年齢別にみた、結婚当時の予定子ども数と現実の完結出生子ども数の分布：第16回調査（2021年）（結婚持続期間15～19年）】

7.3 子どもを持つ理由

<子どもを持つ理由の最多は「子どもがいると生活が楽しく心が豊かになるから」、「子どもを持つことは自然」「子どもは夫婦関係を安定させる」は減少>

理想とする子ども数が1人以上であった夫婦に、子どもを持つ理由についてたずねた。各調査回で一貫してもっとも選択されているのは「子どもがいると生活が楽しく心が豊かになるから」であり、どの調査回でも8割程度の夫婦が選択している。「結婚して子どもを持つことは自然なことだから」「子どもは夫婦関係を安定させるから」といった考え方については、近年ほど選択率が下がっている。「子どもは老後の支えになるから」は前回までは選択率が漸増していたが、今回調査では低下した。

図表 7-3-1 調査別にみた、夫婦の子どもを持つ理由



注：対象は理想子ども数1人以上で、妻の調査時年齢50歳未満の初婚どうしの夫婦。不詳を含まない選択率。複数回答のため合計値は100%を超える。客体数は、第12回(6,455)、第13回(5,188)、第15回(4,647)、第16回(3,843)。設問「理想的な子どもの数を1人以上とお考えになる理由は何ですか。下の理由のうちから、あてはまる番号すべてに○をつけ、その中で最も重要な理由には◎をつけてください。」

【報告書図表7-3-1 調査別にみた、夫婦の子どもを持つ理由】

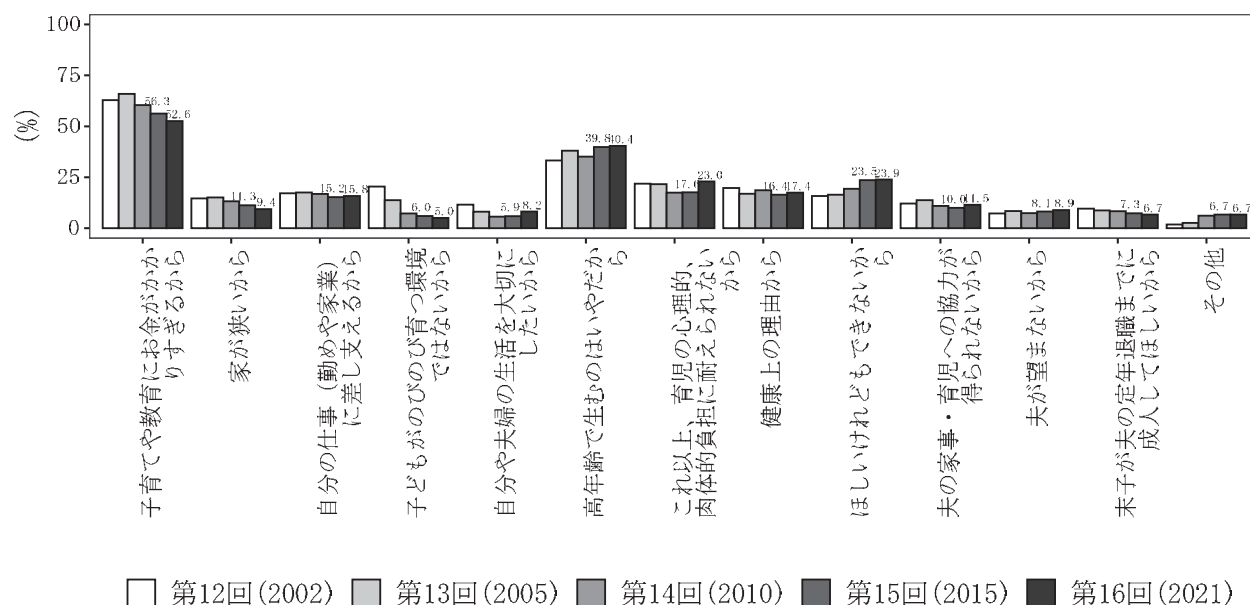
7.4 夫婦が理想の数の子どもを持たない理由

<理想の数の子どもを持たないのは「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」、妻 35 歳未満の夫婦での選択率は高いまま、妻 35 歳以上では選択率低下>

理想の数の子どもを実際には持たない理由としてもっとも選択率が高いのは「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」という経済的理由で、選択率は 52.6%であった。「子どもがのびのび育つ環境ではないから」を選択する割合は近年の調査ほど減っている。

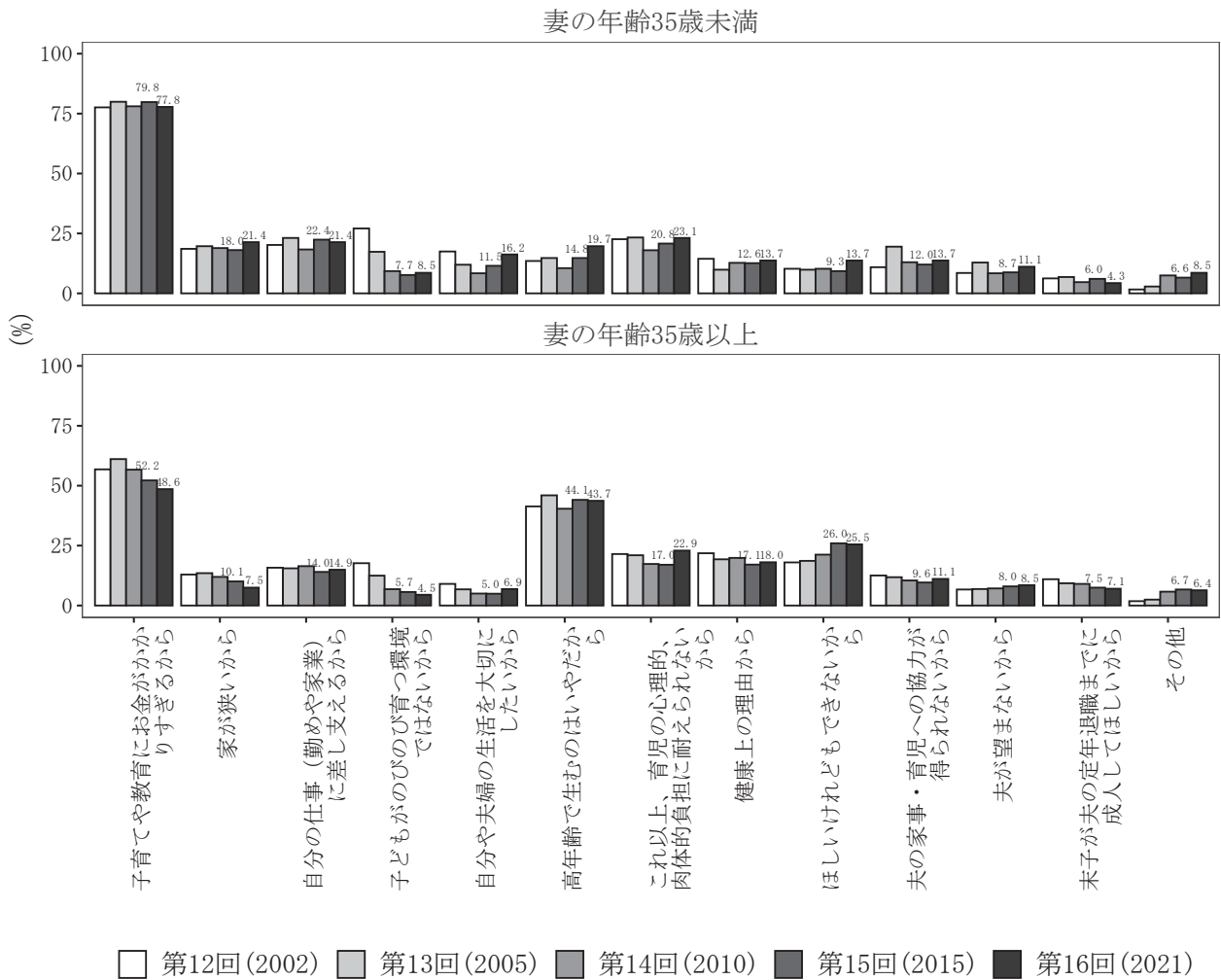
妻の年齢別にみると（図表 7-6）、妻の年齢 35 歳未満では経済的理由（子どもにかかる養育・教育費、住居、仕事）の選択率が高い傾向にあるが、妻が 35 歳以上の夫婦では、「高年齢で生むのはいやだから」「ほしいけれどもできないから」といった身体的な理由の選択率が高くなる。年齢層に分けた上で調査回ごとの変化をみると、妻 35 歳以上の夫婦では「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」の選択率が低下したが、「これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから」が増えた。他方、妻 35 歳未満の夫婦では「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」の選択率は高いままであるとともに、「自分や夫婦の生活を大切にしたいから」を選択する割合が 2010 年（第 14 回）調査以降、増えている。

図表 7-4-1 調査別にみた、理想の数の子どもを持たない理由
(予定子ども数が理想子ども数を下回る夫婦)



注：対象は予定子ども数が理想子ども数を下回る、妻の調査時年齢50歳未満の初婚どうしの夫婦。不詳を含まない選択率。複数回答のため合計値は100%を超える。客体数は、第12回(2,134)、第13回(1,831)、第14回(1,835)、第15回(1,253)、第16回(854)。予定子ども数が理想子ども数を下回る初婚どうしの夫婦の割合は、第12回(37.3%)、第13回(35.3%)、第14回(32.8%)、第15回(30.2%)、第16回(24.5%)。設問：「持つつもりの子どもの数が、理想的な子どもの数よりも少ないのはどうしてですか。下の理由のうちから、あてはまる番号すべてに○をつけ、その中で最も重要な理由には◎をつけてください。」
【報告書図表7-4-1 調査別にみた、理想の数の子どもを持たない理由（予定子ども数が理想子ども数を下回る夫婦）】

図表 7-4-2 調査・妻の年齢別にみた、理想の数の子どもを持たない理由
(予定子ども数が理想子ども数を下回る夫婦)



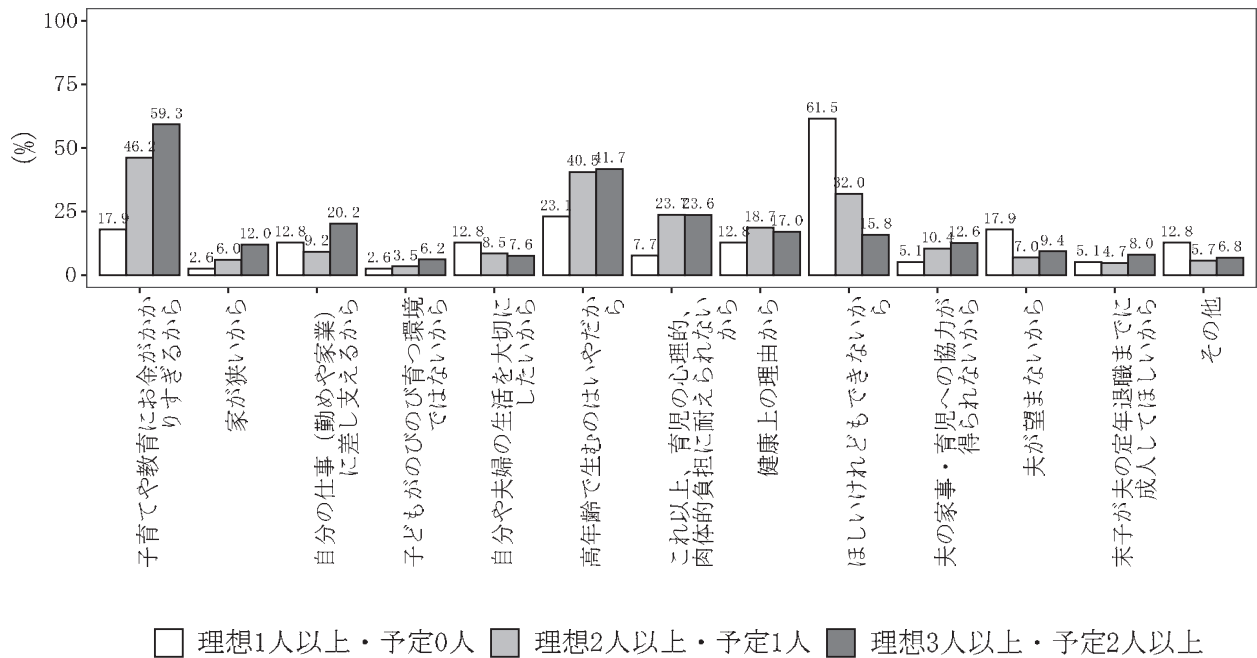
注：対象は予定子ども数が理想子ども数を下回る、妻の調査時年齢50歳未満の初婚どうしの夫婦。不詳を含まない選択率。複数回答のため合計値は100%を超える。客体数(35歳未満、35歳以上)は、第12回(624、1,510)、第13回(468、1,363)、第14回(323、1,512)、第15回(183、1,070)、第16回(117、737)。設問：「持つつもりの子どもの数が、理想的な子どもの数よりも少ないのはどうしてですか。下の理由のうちから、あてはまる番号すべてに○をつけ、その中で最も重要な理由には◎をつけてください。」

【報告書図表7-4-2 調査・妻の年齢別にみた、理想の数の子どもを持たない理由(予定子ども数が理想子ども数を下回る夫婦)】

<子どもを3人持たないのは「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」、1人も持たないのは「ほしいけれどもできないから」>

理想の数の子どもを持たない理由が、回答された理想子ども数と予定子ども数の組合せによって異なるかを調べた。理想子ども数が3人以上で予定子ども数が2人以上の夫婦（この多くは理想3人・予定2人の組合せ）では、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」の選択率が59.3%で最も多く、経済的理由が3人以上子どもを持つことの壁となっている。一方、理想的には1人以上の子どもを持ちたいが、予定は0人（子どもは持たない）と回答した夫婦の場合、「ほしいけれどもできないから」の選択率が61.5%にのぼる。

図表 7-4-3 理想・予定子ども数の組合せ別にみた、理想の子ども数を持たない理由：
第16回調査（2021年）（予定子ども数が理想子ども数を下回る夫婦）



□ 理想1人以上・予定0人 ■ 理想2人以上・予定1人 ■ 理想3人以上・予定2人以上

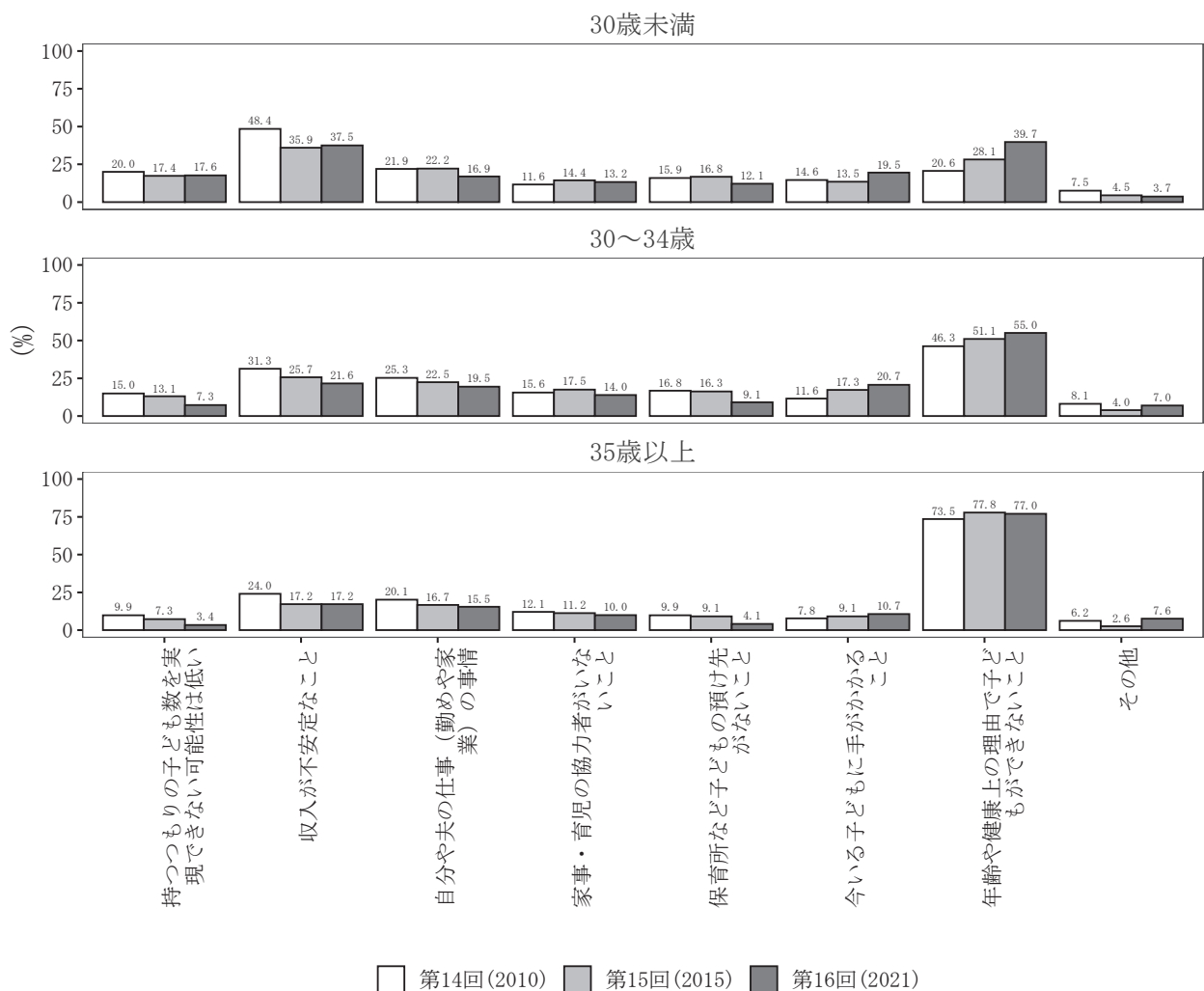
注：対象は予定子ども数が理想子ども数を下回る、妻の調査時年齢50歳未満の初婚どうしの夫婦。不詳を含まない選択率。複数回答のため合計値は100%を超える。客体数は、理想1人以上・予定0人（39）、理想2人以上・予定1人（316）、理想3人以上・予定2人以上（499）。設問：「持つつもりの子どもの数が、理想的な子どもの数よりも少ないのはどうしてですか。下の理由のうちから、あてはまる番号すべてに○をつけ、その中で最も重要な理由には◎をつけてください。」

【報告書図表7-4-3 理想・予定子ども数の組合せ別にみた、理想の子ども数を持たない理由：第16回調査（2021年）（予定子ども数が理想子ども数を下回る夫婦）】

＜予定子ども数の実現を阻みうる要因として「収入」「自分や夫の仕事」「育児の協力者」「子の預け先」を挙げる夫婦が減った一方で「年齢や健康上の理由」を挙げる夫婦は増加＞

追加予定子ども数が1人以上と回答した夫婦に、今後その持つつもりの子どもの持てない場合があるとすれば、どのような理由が想定されるかをたずねた。全ての年齢層で「年齢や健康上の理由で子どもができないこと」を選ぶ夫婦が最多であった。不妊のリスクが、妻の年齢を問わず広く認識されるようになってきている。一方、「収入が不安定なこと」や「自分や夫の仕事（勤めや家業）の事情」「家事・育児の協力者がいないこと」「保育所など子どもの預け先がないこと」を挙げる夫婦は、全般的に減少傾向にある。

図表 7-4-4 妻の年齢別にみた、予定子ども数を実現できない場合に想定される理由
(追加予定子ども数が1人以上の夫婦)



注：対象は追加予定子ども数1人以上で、妻の調査時年齢50歳未満の初婚どうしの夫婦。不詳を含まない選択率。複数回答のため合計値は100%を超える。客体数は、第14回(30歳未満465、30～34歳553、35歳以上487)、第15回(同334、405、383)、第16回(同272、329、291)。設問「今後持つおつもりのお子さんの数が、もし結果的に持てないことがあるとしたら、その原因は何である可能性が高いですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。」

【報告書図表7-4-4 妻の年齢別にみた、予定子ども数を実現できない場合に想定される理由(追加予定子ども数が1人以上の夫婦)】

8 妊娠・出産をめぐる状況

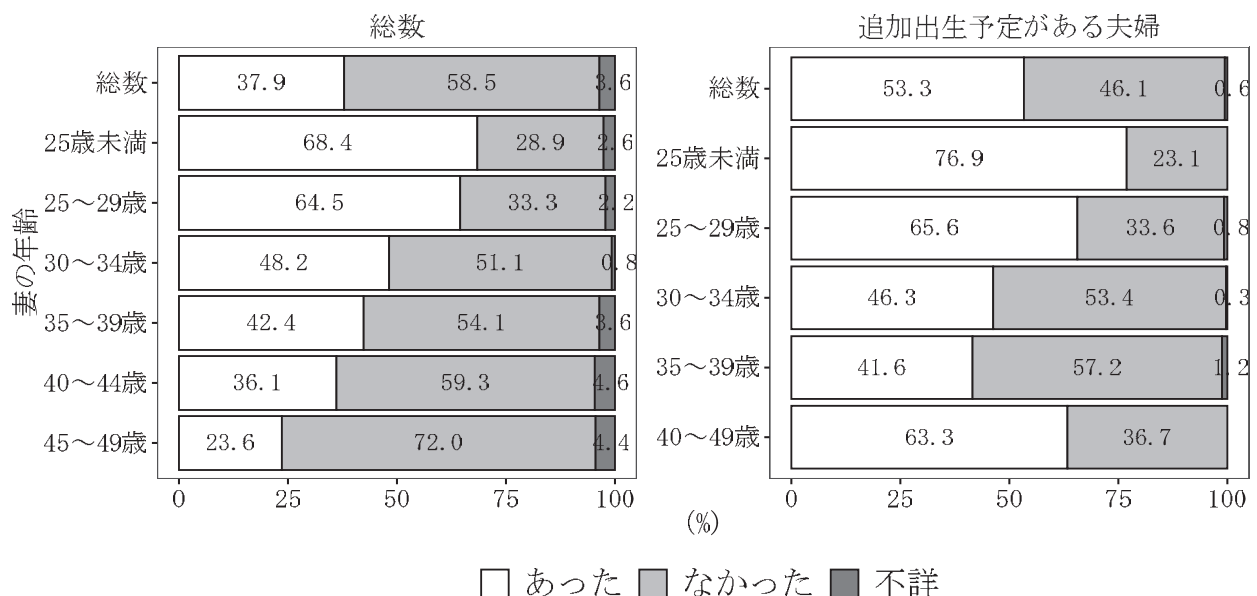
8.1 夫婦の性生活と避妊

＜妻 50 歳未満の夫婦で過去 1 か月間に性交があった割合は 37.9%、今後子どもを持つ予定の夫婦に限ると 53.3%＞

妻の年齢 50 歳未満の夫婦全体（総数）で見ると、過去 1 か月間に夫婦間で性交があった夫婦の割合は 37.9%であった。妻の年齢が 20 代の夫婦では 6 割を超えるが、30 代前半では 5 割を下回る。過去 1 か月間に性交がない場合を「セックスレス」と定義する場合、該当するケースは、妻 50 歳未満の初婚どうし夫婦の約 6 割となる。

この結果を、今後、子どもを持つ予定の夫婦（追加予定子ども数が 1 人以上の夫婦）に限定して示すと、妻の年齢総数では性交があった夫婦の割合は上昇し、「セックスレス」の割合は 46%となる。

図表 8-1-1 妻の年齢別にみた、過去 1 か月以内の夫婦間の性交の有無：第 16 回調査（2021 年）
（総数および追加出生予定がある夫婦）



注：対象は妻の調査時年齢50歳未満の初婚どうしの夫婦。「追加出生予定がある夫婦」は、さらに結婚持続期間10年未満で、追加予定子ども数が1人以上の夫婦に限定したもの。客体数（総数）は、年齢総数（4,351）、25歳未満（38）、25～29歳（321）、30～34歳（660）、35～39歳（925）、40～44歳（1,102）、45～49歳（1,305）。客体数（追加出生予定あり）は、年齢総数（842）、25歳未満（26）、25～29歳（253）、30～34歳（337）、35～39歳（166）、40～49歳（60）。設問：「あなた方ご夫婦の過去1か月以内の性交渉の有無と避妊についておたずねします。（1）過去1か月以内の性交渉有無」（1. なかった、2. あった）。

【報告書図表8-1-1 妻の年齢別にみた、過去1か月以内の夫婦間の性交の有無：第16回調査（2021年）（総数および追加出生予定がある夫婦）】

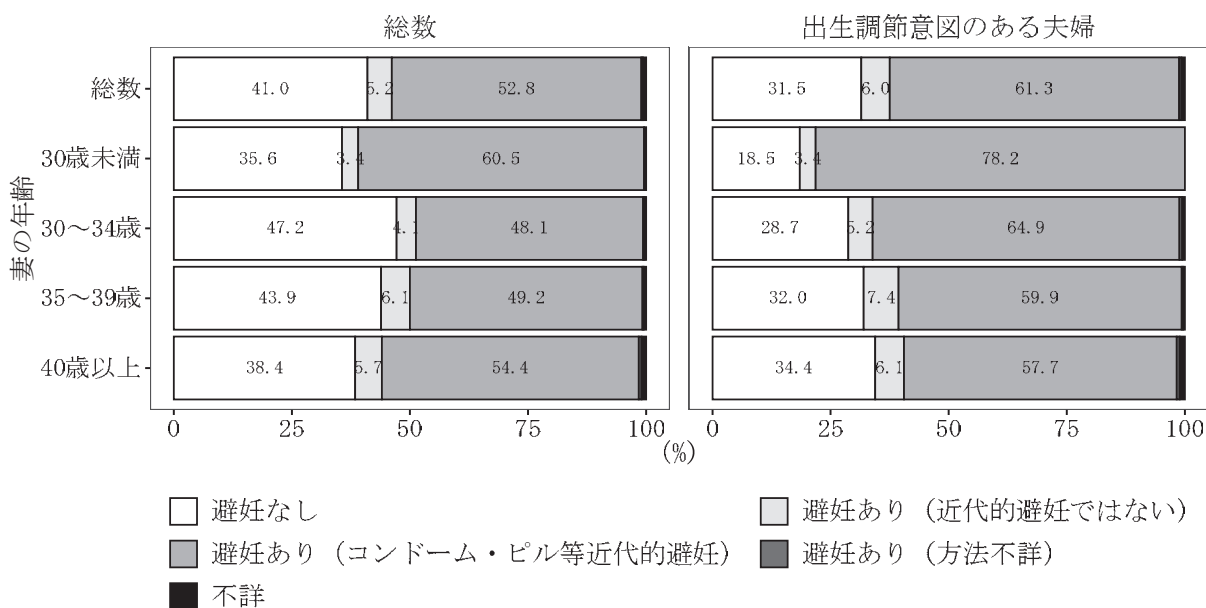
＜避妊を実行した夫婦は約6割、コンドームやピル等の近代的避妊法が大半を占める＞

過去1か月間に夫婦間で性交があった夫婦に、避妊の有無と使用した方法についてたずねた。方法を問わず避妊を実行した夫婦は、夫婦全体（年齢総数）で58.3%である（詳細は注に記載）。妻の年齢別にみると、30歳未満が63.9%でもっとも高く、30代前半が52.5%でもっとも低かった。また、避妊方法は大半が近代的避妊方法（※）であった。

この結果を、出生調節意図のある夫婦（今後子どもを持つつもりだが、現時点では希望しない夫婦（延期意図あり）と、今後子どもを追加するつもりがない夫婦（停止意図あり））に限ってみると、近代的避妊法による避妊を実行した割合は61.3%にとどまり、37.5%の夫婦が、早すぎる妊娠や望まない妊娠を経験するリスクを有していることを示している。

※近代的避妊方法とは、コンドーム、ピル（経口避妊薬）、IUD・リング、不妊手術、殺精子剤（錠剤、フィルム等）のいずれかを指す。他の方法に比べ避妊効率が相対的に高い。

図表 8-1-2 妻の年齢別にみた、過去1か月以内の夫婦間の性交における避妊の実行状況：第16回調査（2021年）（総数および出生調節意図のある夫婦）



注：対象は過去1か月以内に性交があった、妻の年齢50歳未満の初婚どうしの夫婦。「出生調節意図のある夫婦」は、さらに追加予定子ども数が0人（出産停止意図）の夫婦と、追加予定子ども数1人以上かつ次の子どもを希望する時期が「しばらく間をおいてから」（出産延期意図）の夫婦に限定したもの。近代的避妊とは、「コンドーム、ピル（経口避妊薬）、IUD・リング、不妊手術、殺精子剤（錠剤、フィルム等）のいずれか」を指す。過去1か月以内に性交渉があった夫婦数（客体数）は、総数（総数1,649、出生調節意図のある夫婦1,229）、30歳未満（同233、119）、30～34歳（318、174）、35～39歳（392、297）、40歳以上（706、639）。方法を問わず「避妊あり」の割合の合計値は、過去1か月間に性交渉があった夫婦の総数で58.3%、妻30歳未満で64.0%、30～34歳で52.5%、35～39歳で55.6%、40歳以上で60.6%。出生調節意図のある夫婦の総数で67.8%、妻30歳未満で81.5%、30～34歳で70.7%、35～39歳で67.7%、40歳以上で64.5%。設問：「あなた方ご夫婦の過去1か月以内の性交渉の有無と避妊についておたずねします。」（1）過去1か月以内の性交渉の有無（1.なかった、2.あった）、（2）（1）で「2.あった」と回答した人に対して）避妊の有無（一番最近の経験で）（1.避妊をした、2.避妊をしなかった）、（3）（2）で「1.避妊をした」と回答した人に対して）避妊方法はコンドーム、ピル（経口避妊薬）、IUD・リング、不妊手術、殺精子剤（錠剤、フィルム等）のいずれかでしたか？（一番最近の経験で）（1.はい、2.いいえ）。

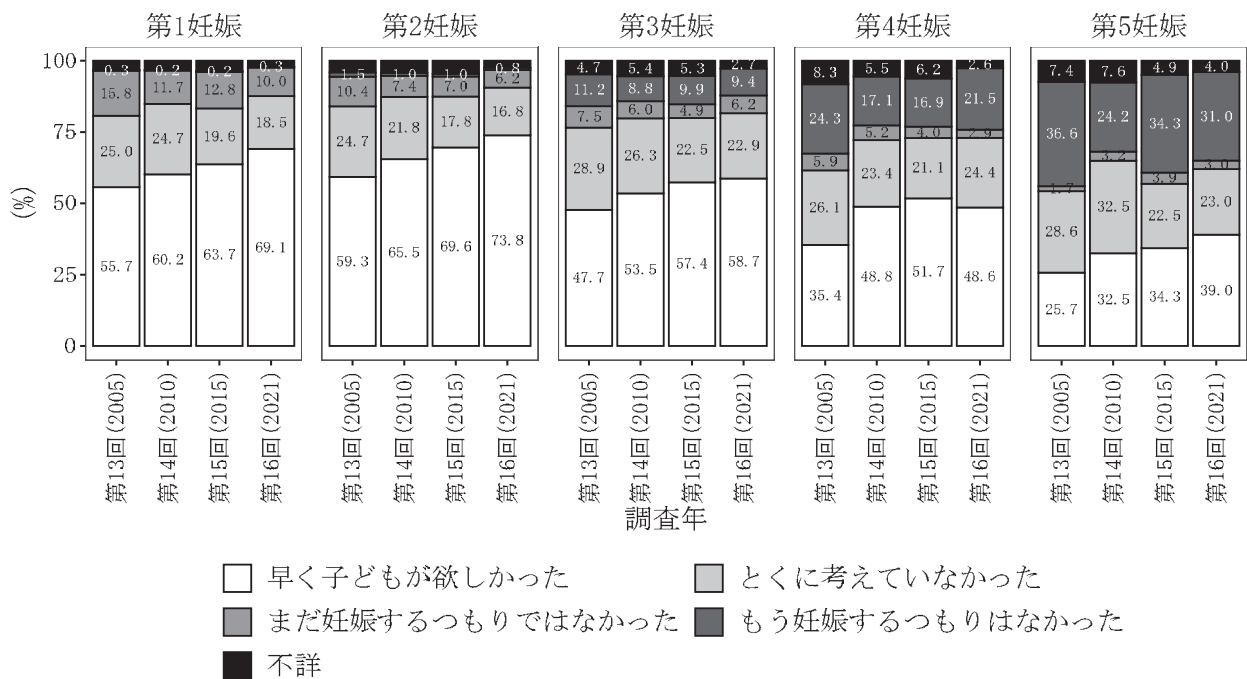
【報告書図表8-1-2 妻の年齢別にみた、過去1か月以内の夫婦間の性交における避妊の実行状況：第16回調査（2021年）（総数および出生調節意図のある夫婦）】

8.2 妊娠前の予定・流産の経験

<意図しない妊娠の割合は低下しているものの、第3妊娠の1割以上を占める一方、望んだ妊娠の割合は増える傾向>

本調査では、夫婦が過去に経験した妊娠について、妊娠する前の予定（「早く子どもが欲しかった」「まだ妊娠するつもりではなかった」「もう妊娠するつもりはなかった」「とくに考えていなかった」）をたずねている。妊娠順位別に妊娠前の予定の構成割合をみると、「まだ妊娠するつもりではなかった」（早すぎる妊娠）、「もう妊娠するつもりではなかった」（望まない妊娠）を合わせた「意図しない妊娠」の割合は、第2妊娠でもっとも低く、第3妊娠以降で高くなる。全体的に、近年になるほど「早く子どもが欲しかった」割合が高くなり、意図しない妊娠の割合は低下する傾向にある。しかし、意図しない妊娠の中でも「もう妊娠するつもりではなかった」の割合は、現在でも、第3妊娠で約1割、第4妊娠で約2割、第5妊娠で約3割を占めている。

図表 8-2-1 調査・妊娠順位別にみた、妊娠前の予定



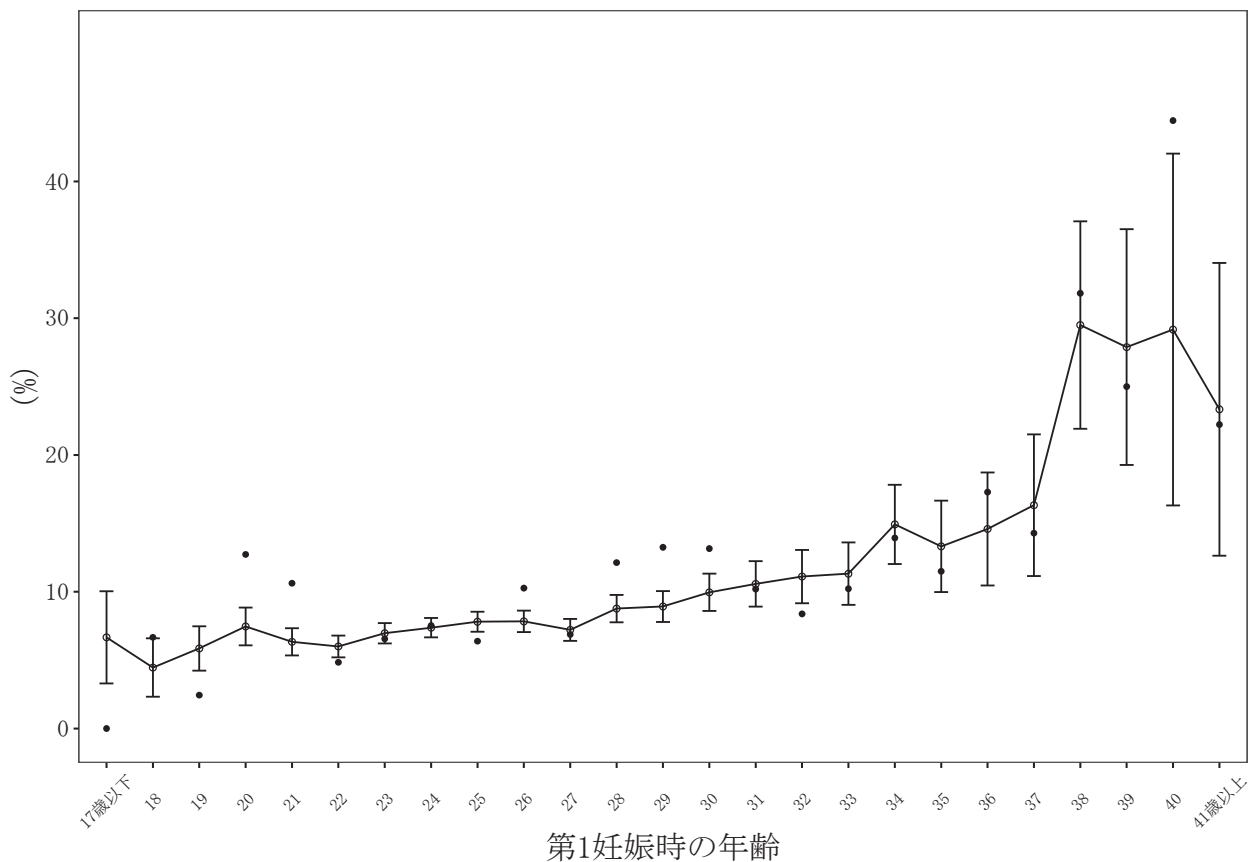
注：対象は妻の調査時年齢50歳未満で、妊娠5回までの結果がすべて判明し、出生数と整合的である初婚どうしの夫婦。これら夫婦が経験した第5妊娠までの妊娠について集計。第16回調査の客体数は、第1妊娠(3,821)、第2妊娠(2,917)、第3妊娠(1,316)、第4妊娠(418)、第5妊娠(100)。設問「あなた方ご夫婦が経験されたすべての妊娠・出産について、(1)妊娠の結果、(2)妊娠/出産の時期、(3)妊娠前の予定のあてはまる番号に○をつけ、下欄の欄に人数、年月、年齢を記入してください。」

【報告書図表8-2-1 調査・妊娠順位別にみた、妊娠前の予定】

<第1 妊娠の流死産確率は30代に入ると徐々に上昇し、38歳以降で大きく上昇>

第9回調査（1987年）から第16回調査（2021年）までのデータを合わせ、夫婦の第1妊娠について妻の妊娠時の年齢別に妊娠結果が流産（死産を含む）であった割合（流死産確率）を算出した（妊娠総数は、妊娠結果が出生、流産、死産、現在妊娠中の合計で、人工妊娠中絶、妊娠結果不詳は除いている）。妊娠時に妻が20代の場合は、流死産確率は10%を下回るが、30代に入ると1割を超え、その後加齢と共に上昇する。特に、妊娠時年齢が38歳以降では大きく数値が高まり、40歳前後の流死産確率は約3割となっている。

図表 8-2-2 第1 妊娠時の妊娠年齢別にみた流死産確率



○ 総数 ● (参考) 第16回(2021)

注：対象は妻の調査時年齢50歳未満で、第1妊娠の結果が判明し、妊娠歴と出生数が整合的である初婚どうしの夫婦。折れ線グラフおよび95%信頼区間は、第9回(1987)～第16回(2021)調査を合わせて集計。黒色の点は第16回(2021)調査のみの参考値。第1妊娠時の年齢不詳を除く。さらに第1妊娠の結果が「出生」「流産（死産を含む）」「現在妊娠中」に限定し、「人工妊娠中絶」および不詳のケースを除いた。第1妊娠の時点は、妊娠結果が「出生」「現在妊娠中」の場合は出生あるいは出生予定から9か月前、「流死産」の場合は流死産から3か月前と仮定し、年齢を推定した。グラフに示している流死産確率（総数）は、第1妊娠時の年齢20歳：7.5%、25歳：7.8%、30歳：10.0%、35歳：13.3%、40歳：29.2%。設問「あなた方ご夫婦が経験されたすべての妊娠・出産について、(1)妊娠の結果、(2)妊娠/出産の時期、(3)妊娠前の予定のあてはまる番号に○をつけ、下欄の欄に人数、年月、年齢を記入してください。」

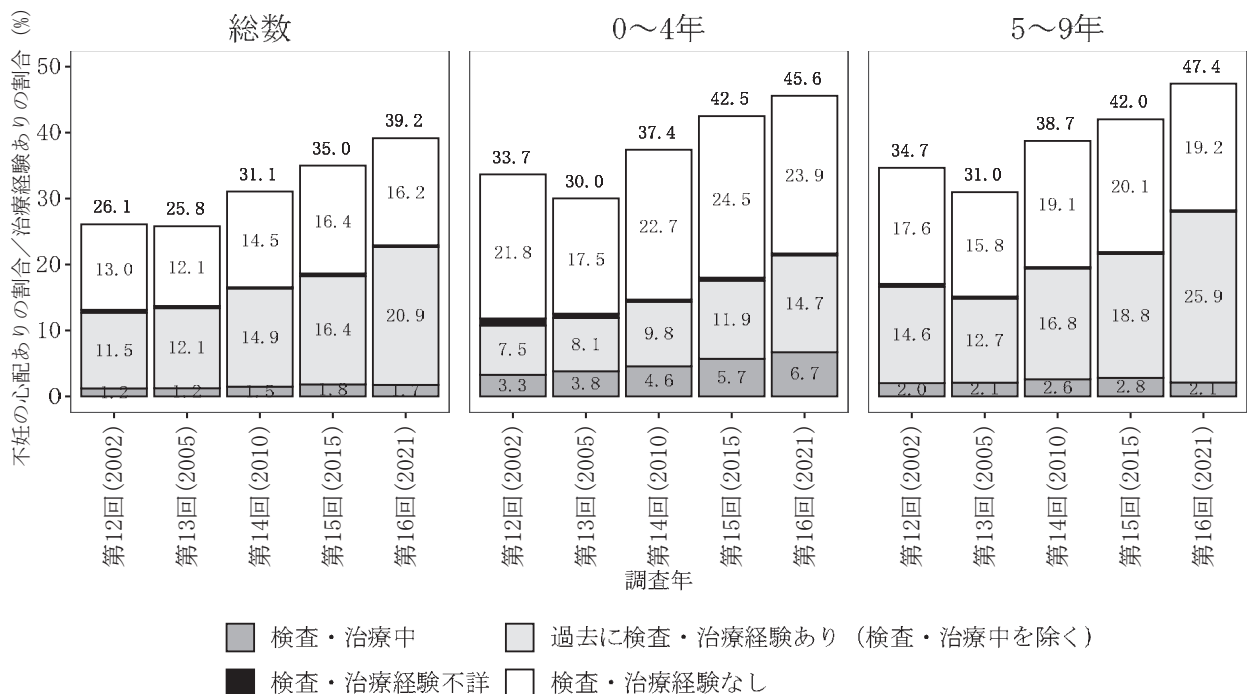
【報告書図表8-2-2 第1妊娠時の妊娠年齢別にみた流死産確率】

8.3 不妊についての心配と検査・治療経験

＜不妊を心配した夫婦は3組に1組以上、不妊の検査または治療経験がある夫婦は4.4組に1組に増加、結婚5年未満の夫婦の6.7%が不妊の検査・治療中＞

不妊について心配したことがある夫婦の割合は、夫婦全体（総数）でみると前回調査の35.0%から今回調査の39.2%へと増加した（3組に1組以上）。実際に不妊の検査または治療経験がある夫婦の割合（「検査・治療中」と「過去に検査・治療経験あり（検査・治療中を除く）」の合計）も、前回調査の18.2%（5.5組に1組）から今回調査の22.7%に増加した（4.4組に1組）。結婚5年未満の夫婦では6.7%が、不妊に関する検査や治療を現在受けていると回答している。

図表 8-3-1 調査・結婚持続期間別にみた、不妊について心配したことがある夫婦の割合と検査・治療経験



注：対象は妻の調査時年齢50歳未満の初婚どうしの夫婦。不妊について心配したことがある（心配している）と回答した夫婦の割合。総数には全結婚持続期間を含む。設問「あなた方ご夫婦は、不妊について不安や悩みがありますか。また、不妊治療の経験はありますか。あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。」(1)悩みの有無 (1.子どもができないことを心配したことはない、2.過去に子どもができないのではないかと心配したことがある、3.現在、子どもができないのではないかと心配している)、(2)((1)で2,3と回答した人に対して)不妊治療の経験の有無 (1.心配はしたが、特に医療機関にかかったことはない、2.過去に検査や治療を受けたことがある、3.現在、検査や治療を受けている)。

【報告書図表8-3-1 調査・結婚持続期間別にみた、不妊について心配したことがある夫婦の割合と検査・治療経験】

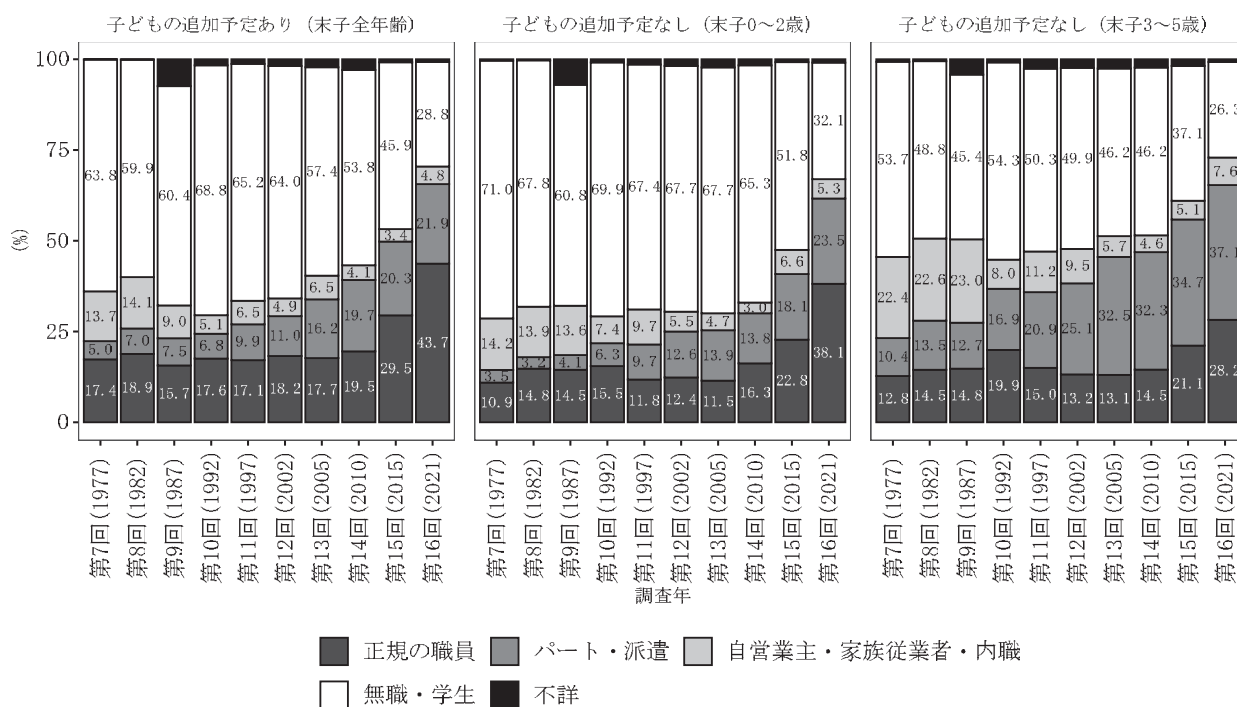
9 子育ての状況

9.1 妻の就業と出産

＜出産後に就業する妻の割合は大きく上昇、末子2歳以下の妻では就業割合が6割を超える＞

夫婦の追加出生意欲の有無と末子の年齢別に出生後の妻の就業状況を調べた。今回調査では、今後まだ子どもを追加するつもりの方の妻の70.4%が働いており、前回の53.2%から大幅に上昇した。子どもの追加予定がない夫婦（子どもを生み終えた夫婦）の妻についても、末子の年齢別に就業状況をみると、末子0～2歳の妻の就業割合が前回調査（47.5%）から上昇し、今回調査では67.0%と6割を超えた。従来から、再び働き始める妻が多い末子3～5歳のグループでも、妻の就業割合は増えており、今回調査では72.9%が就業していた（前回61.0%）。就業形態の内訳では、どの子育ての段階においても、就業継続率が比較的高い正規の職員として働いている妻の割合が増えている。

図表 9-1-1 調査・出産後の子育ての段階別に見た、妻の就業状況・従業上の地位の構成



注：対象は出生子ども数1人以上で、妻の調査時年齢50歳未満の初婚どうしの夫婦。妻が現在妊娠中の夫婦と末子年齢不詳を除く。第16回調査の客体数は、子どもの追加予定あり（末子全年齢）（538）、子どもの追加予定なし（末子0～2歳）（430）、子どもの追加予定なし（末子3～5歳）（528）。第16回調査の「パート・派遣」には「就労（従業上の地位不詳）」を含む。

【報告書図表9-1-1 調査・出産後の子育ての段階別に見た、妻の就業状況・従業上の地位の構成】

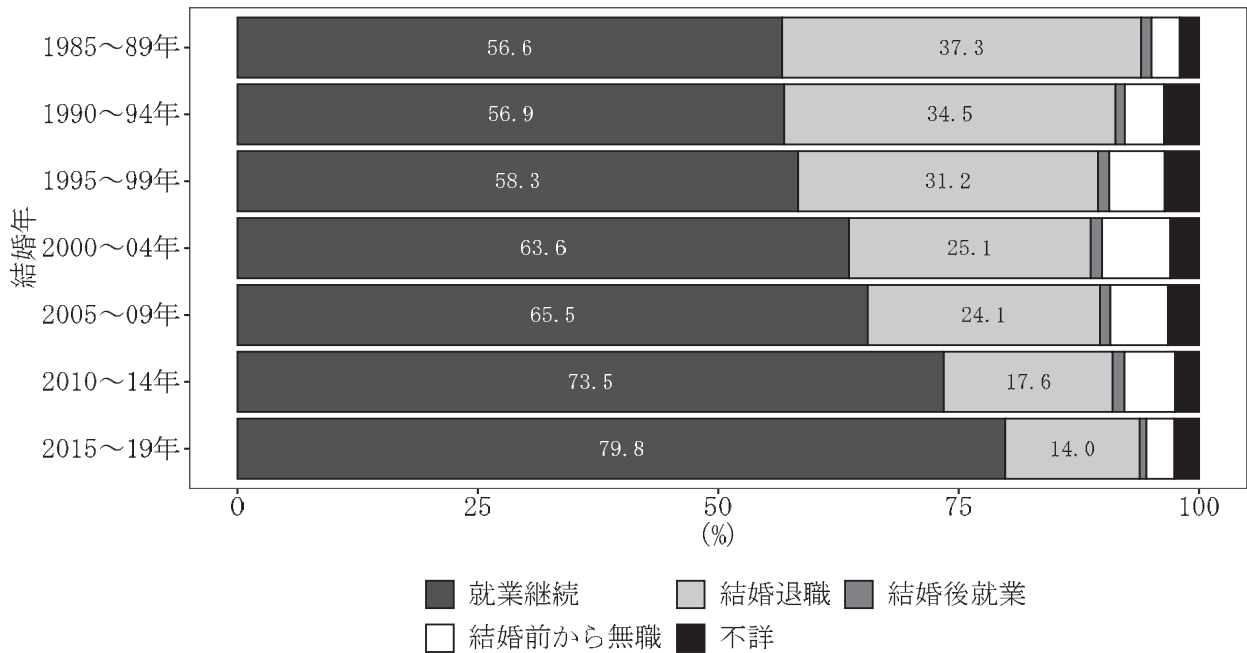
<結婚前後の妻の就業継続者割合は約8割に上昇>

妻の結婚前後（「結婚を決めたとき」と「結婚直後」の2時点）の就業変化を結婚年別にみると、両時点で就業していた割合（就業継続者割合）は、2015～2019年に結婚した夫婦の妻で79.8%であった（なお、仕事が変わっていても、両時点で就業していれば「就業継続」に含まれる）。結婚前後の就業継続者割合は2000年頃までは6割程度であったが、近年に結婚した夫婦では、約8割の妻が結婚後も仕事を続けている。

※妻の結婚前後の就業変化について以下のように定義

- ・ 就業継続：結婚を決めたとき就業～結婚直後就業
- ・ 結婚退職：結婚を決めたとき就業～結婚直後無職
- ・ 結婚後就業：結婚を決めたとき無職～結婚直後就業
- ・ 結婚前から無職：結婚を決めたとき無職～結婚直後無職

図表 9-1-2 結婚年別にみた、結婚前後の妻の就業変化



注：対象は第11回、第13～16回調査における結婚持続期間15年未満の初婚どうしの夫婦。第15回以前は妻の調査時年齢50歳未満、第16回は妻が50歳未満で結婚し、妻の調査時年齢55歳未満の夫婦について集計。客体数は1985～89年（1,294）、1990～94年（2,499）、1995～99年（3,247）、2000～04年（3,539）、2005～09年（3,027）、2010～14年（1,959）、2015～19年（858）。就業変化は、妻の結婚前と結婚直後の従業上の地位の変化を見たもの（仕事が変わっていても、両時点で就業していれば「就業継続」に含まれる）。

【報告書図表9-1-2 結婚年別にみた、結婚前後の妻の就業変化】

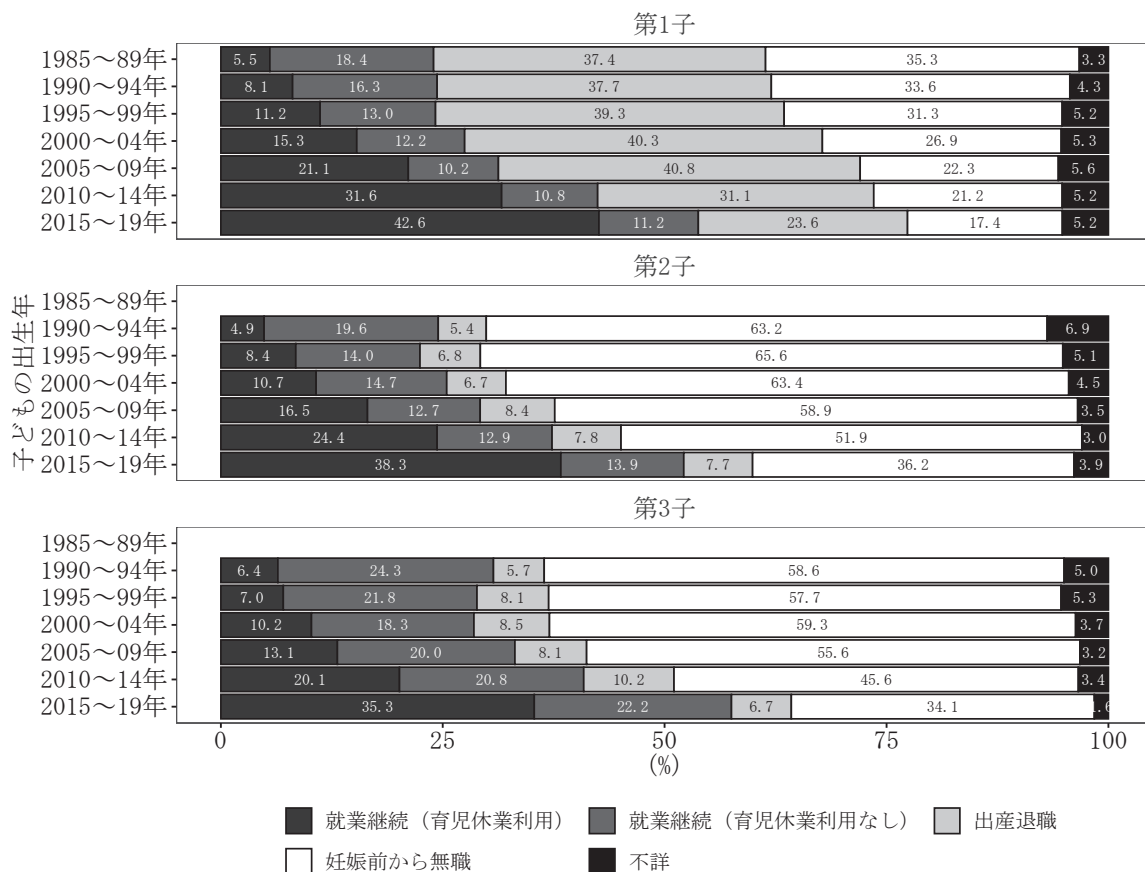
＜妊娠前の就業有無にかかわらず第1子を生んだ妻の就業継続者割合は5割超に上昇＞

妊娠前から無職の妻を含め、第1子を生んだすべての妻のうち、就業を継続した妻の割合（就業継続者割合）は近年ほど上昇している（なお、仕事が変わっていても、両時点で就業していれば「就業継続」に含まれる）。第1子が2015～19年に生まれた妻の就業継続者割合（育休利用あり・なしの合計）は53.8%で、2010～14年の42.5%から約11ポイント上昇し、5割を超えた。育児休業制度を利用して就業継続した妻の割合も、2010～14年の31.6%から2015～19年では42.6%へ大きく上昇した。

※第1子～第3子が1歳以上の夫婦について、妻の出産前後の就業変化を以下のように定義

- ・就業継続（育休休業利用）：妊娠判明時就業～育児休業取得～子ども1歳時就業
- ・就業継続（育休休業利用なし）：妊娠判明時就業～育児休業取得なし～子ども1歳時就業
- ・出産退職：妊娠判明時就業～子ども1歳時無職
- ・妊娠前から無職：妊娠判明時無職～

図表 9-1-3 子どもの出生年別に見た、出産前後の妻の就業変化



注：対象は出生子ども数1人以上で、第15回以前は妻の年齢50歳未満、第16回は妻が50歳未満で結婚し、妻の調査時年齢55歳未満の初婚どうしの夫婦。第1子は第12～16回調査、第2子・第3子は第13～16回調査について、子どもがそれぞれ1歳以上、15歳未満の夫婦を合わせて集計。就業変化は、妻の妊娠判明時と子ども1歳時の従業上の地位の変化を見たもの（仕事が変わっていても、両時点で就業していれば「就業継続」に含まれる）。「妊娠前から無職」には、子ども1歳時に就業しているケースを含む。育児休業制度の利用有無が不詳のケースは「育休休業利用なし」に含めている。育児休業制度の利用有無を問わず就業継続した割合の合計値は、子どもの出生年が2010～14年で第1子42.5%、第2子37.3%、第3子40.9%、2015～19年で第1子53.8%、第2子52.2%、第3子57.5%。客体数は2010～14年（第1子1,729、第2子1,375、第3子472）、2015～19年（第1子751、第2子671、第3子252）。

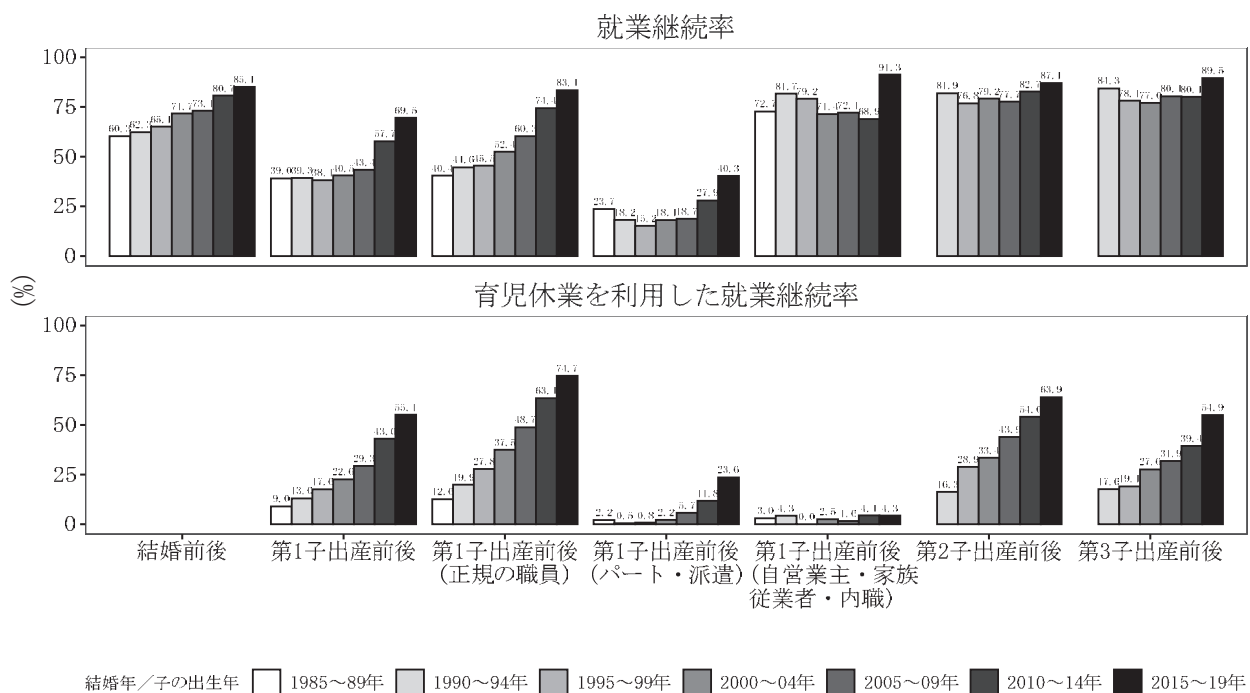
【報告書図表9-1-3 子どもの出生年別に見た、出産前後の妻の就業変化】

＜第1子の妊娠がわかったときに就業していた妻の就業継続率は69.5%に上昇＞

「第1子の妊娠がわかったとき」に就業していた妻に着目し、「第1子が1歳のとき」も就業していた割合（就業継続率）をみると、第1子出生年が2010～14年の57.7%から、2015～19年の69.5%へ大きく上昇した。育児休業制度を利用して就業継続をした妻は55.1%を占める（5年前は43.0%）。すなわち、就業継続者に占める育児休業制度の利用者割合は79.2%となった（5年前は74.5%）。

さらに第1子出産前後の就業継続率に従業上の地位別にみると、自身が正規の職員である妻の継続率が2000年代以降高まっており、第1子出生年が2015～19年で83.4%になった。パート・派遣等の有期雇用の妻でも2010年代以降に就業継続率が高まっており、2015～19年に40.3%となったが、依然として正規の職員と大きな差が認められる。

図表 9-1-4 結婚前／妊娠前の従業上の地位別にみた、結婚・出産前後に就業継続した妻の割合、および育児休業を利用して就業継続した妻の割合（結婚前／妊娠前に就業していた妻）



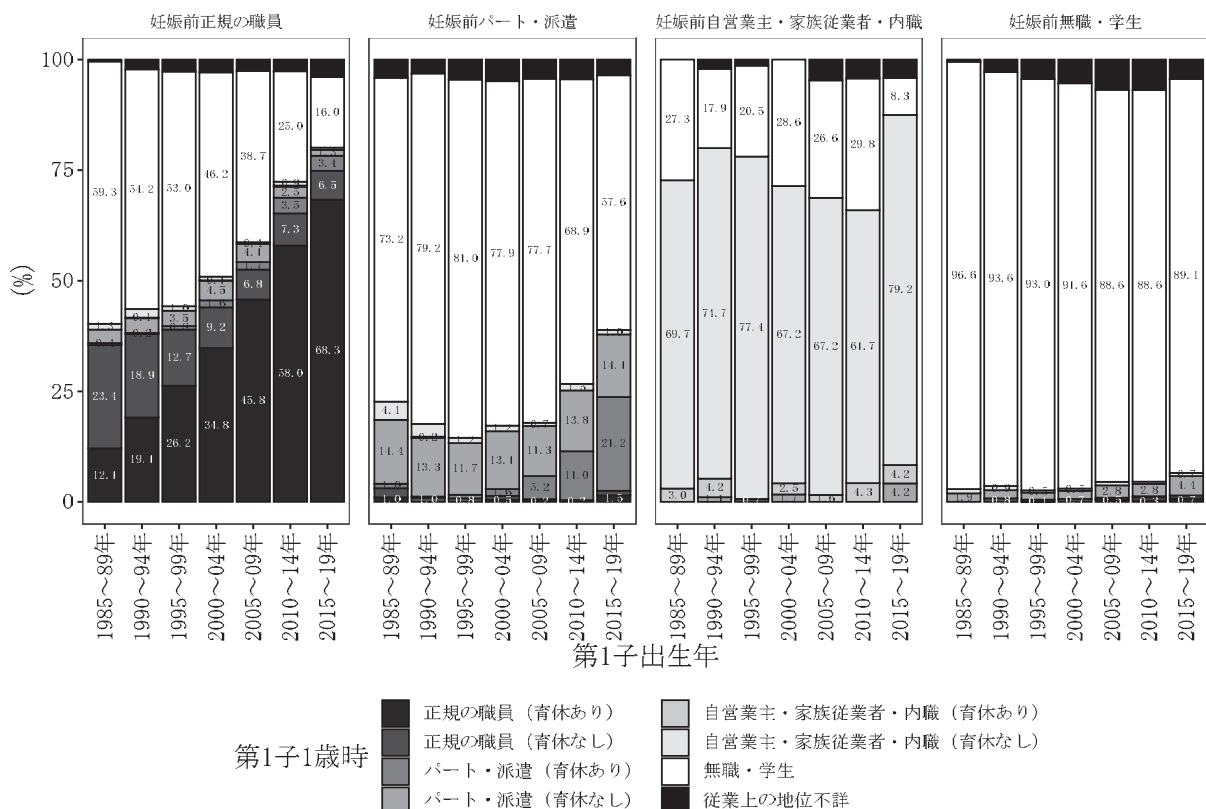
注：対象は第15回以前は妻の調査時年齢50歳未満、第16回は妻が50歳未満で結婚し、妻の調査時年齢55歳未満の初婚どうしの夫婦。結婚前／妊娠前に就業していた妻について。さらに、(1)結婚前後の就業継続率は、第11回、第13～16回調査における結婚持続期間15年未満の夫婦について集計し、(2)出産前後の就業継続率は、出生子ども数1人以上で、第1子は第12～16回調査、第2子・第3子は第13～16回調査について、子どもがそれぞれ1歳以上、15歳未満の夫婦を合わせて集計。結婚年／子の出生年が2015～19年の客体数は、結婚前後（805）、第1子出産前後（581）、第1子出産前後（正規の職員）（367）、第1子出産前後（パート・派遣）（191）、第1子出産前後（自営業主・家族従業者・内職）（23）、第2子出産前後（402）、第3子出産前後（162）。

【報告書図表9-1-4 結婚前／妊娠前の従業上の地位別にみた、結婚・出産前後に就業継続した妻の割合、および育児休業を利用して就業継続した妻の割合（結婚前／妊娠前に就業していた妻）】

＜第1子妊娠前に正規の職員だった妻、育児休業を利用し就業継続した割合が7割に上昇、非正規雇用の妻も同割合が2割に上昇し、全体的に育児休業の利用が進む＞

ここでは、第1子の妊娠が判明した時点の妻の働き方によって、第1子が1歳時の妻の働き方がどのように異なるのかについて、第1子出生年別にその変化を示した。妊娠時・第1子1歳時の両時点で正規の職員であり、育児休業を利用したと回答した妻の割合は、第1子出生年が2010～14年の58.0%から、2015～19年の68.3%に上昇した（育児休業を利用しなかった妻は2010～14年の7.3%から2015～19年の6.5%に低下）。育児休業を利用し、両時点ともパート・派遣であった妻の割合は、2010～14年の11.0%から、2015～19年の14.1%に上昇した（育児休業を利用しなかった妻は2010～14年13.8%、2015～19年14.1%）。妊娠時にパート・派遣だが第1子1歳時に正規の職員であった妻の割合は1～2%程度であり、ほぼ変化がない。また、妊娠時に自営業主・家族従業者等であった妻の場合は就業継続率が高く、子どもが1歳時にも働いている割合が8割を超える。妊娠時は無職だったが、第1子1歳時に就業していた妻の割合は、2015～19年で微増した（4.6%から6.6%）。

図表 9-1-5 第1子妊娠前の就業状況・従業上の地位・第1子出生年別にみた、第1子1歳時の従業上の地位および育児休業制度の利用の有無

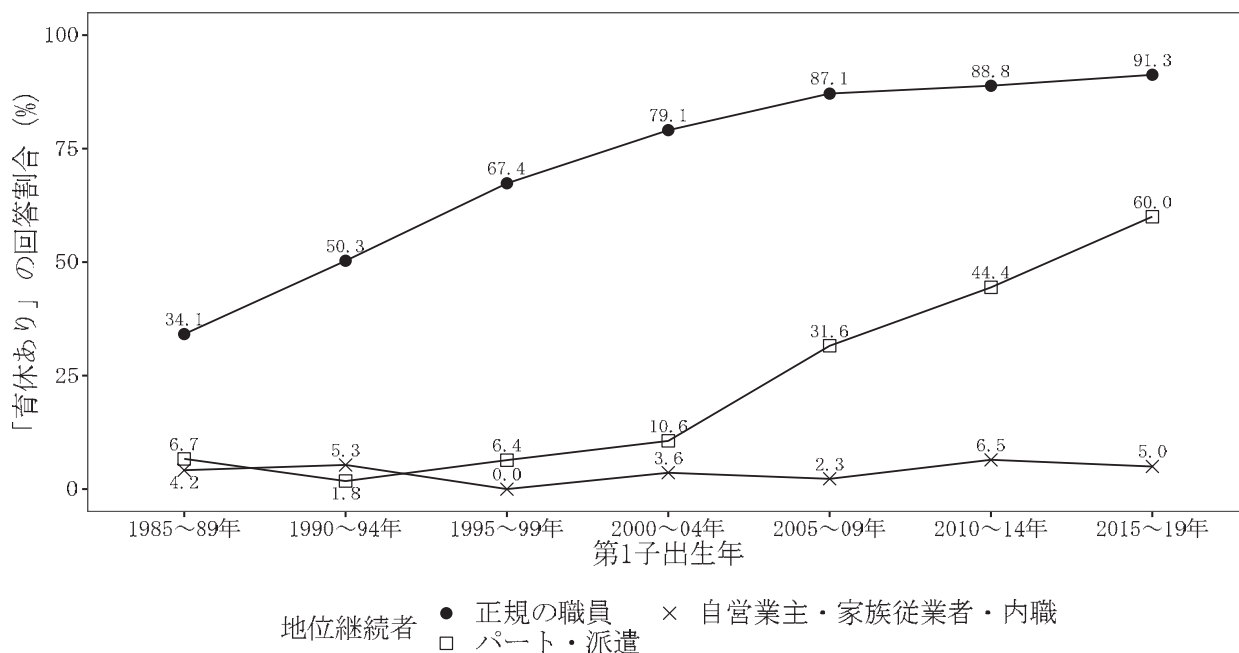


注：対象は第15回以前は妻の調査時年齢50歳未満、第16回は妻が50歳未満で結婚し、妻の調査時年齢55歳未満の初婚どうしの夫婦。第12～16回調査について、第1子が1歳以上、15歳未満の夫婦を合わせて集計。育児休業制度の利用有無が不詳のケースは「育休なし」に含めている。客体数は2010～14年（妊娠前正規の職員797、妊娠前パート・派遣472、妊娠前自営業主・家族従業者・内職47、妊娠前無職・学生394）、2015～19年（同382、198、24、137）。
【報告書図表9-1-5 第1子妊娠前の就業状況・従業上の地位・第1子出生年別にみた、第1子1歳時の従業上の地位および育児休業制度の利用の有無】

＜妊娠時と第1子1歳時に同じ就業形態であった妻の育児休業利用割合は、正規の職員である妻で9割を超え、パート・派遣等の妻でも6割に急増＞

妊娠時と第1子1歳時に従業上の地位が変わらなかった妻（地位継続者）のうち、育児休業を利用した割合の推移をみると、正規の職員として就業継続した妻では、第1子出生年が2010～14年の88.8%から、2015～19年の91.3%へ利用割合が上昇した。一方、両時点でパート・派遣であった妻では、2000～04年まで育児休業の利用はわずかであったが、2005年の改正育児・介護休業法施行により、一定の要件を満たした有期契約労働者も育児休業を取得することが可能になったことから、これ以降、育児休業を利用して就業継続する割合が上昇した。子どもが2015～19年に生まれた妻について、育児休業を利用してパート・派遣等で就業継続した妻の割合は、2010～14年の44.4%から2015～19年の60.0%へ大きく上昇した。

図表 9-1-6 第1子妊娠前の就業状況・従業上の地位・第1子出生年別にみた、第1子1歳時の地位継続者に占める育児休業制度利用割合



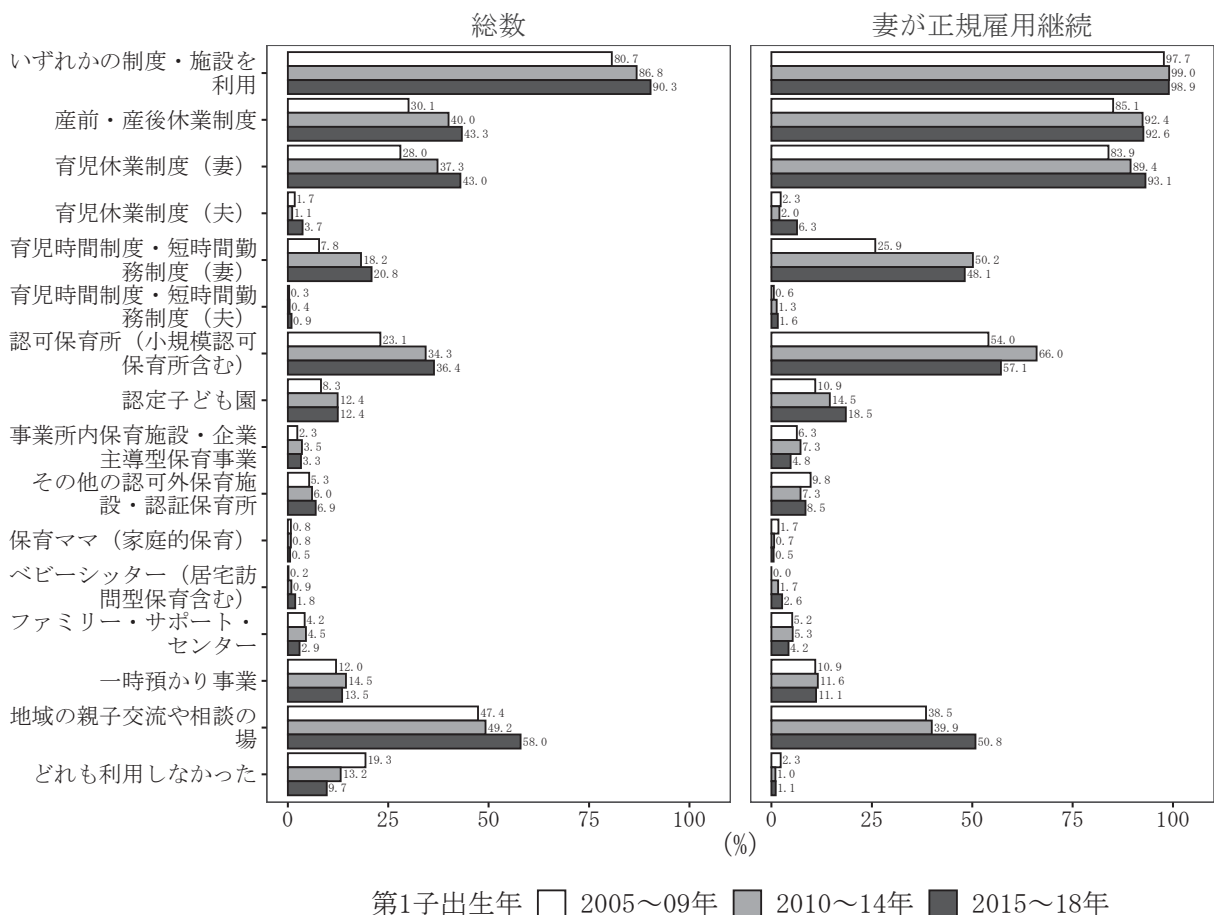
注：対象は第15回以前は妻の調査時年齢50歳未満、第16回は妻が50歳未満で結婚し、妻の調査時年齢55歳未満の初婚どうしの夫婦。第12～16回調査について、第1子が1歳以上、15歳未満の夫婦を合わせて集計。育児休業制度の利用有無が不詳のケースは「育休なし」に含めている。「地位継続者」は、第1子妊娠前と第1子1歳時の就業状況・従業上の地位が同じ者を指す。客体数は2010～14年（正規の職員520、パート・派遣117、自営業主・家族従業者・内職31）、2015～19年（同286、70、20）。【報告書図表9-1-6 第1子妊娠前の就業状況・従業上の地位・第1子出生年別にみた、第1子1歳時の地位継続者に占める育児休業制度利用割合】

9.2 子育て支援制度・施設の利用

<子育て支援制度・施設を利用する夫婦が増加>

第1子が3歳になるまでの間に利用した子育て支援制度や施設について調べた。図中の選択肢のいずれかを利用した夫婦の割合は近年になるほど上昇しており、2015～18年に生まれた第1子では、夫婦全体（総数）の90.3%にのぼる。2005年以降、特に利用率が上昇したのは「産前・産後休業制度」「育児休業制度（妻）」「育児時間制度・短時間勤務制度（妻）」「認可保育所」「地域の親子交流や相談の場」である。地域の親子交流や相談の場の利用率は伸びが大きく、今回調査では夫婦総数で58.0%、妻が正規雇用継続者でも50.8%の利用経験があった。

図表 9-2-1 第1子出生年別にみた、第1子が3歳になるまでに利用した子育て支援制度や施設：第16回調査（2021年）

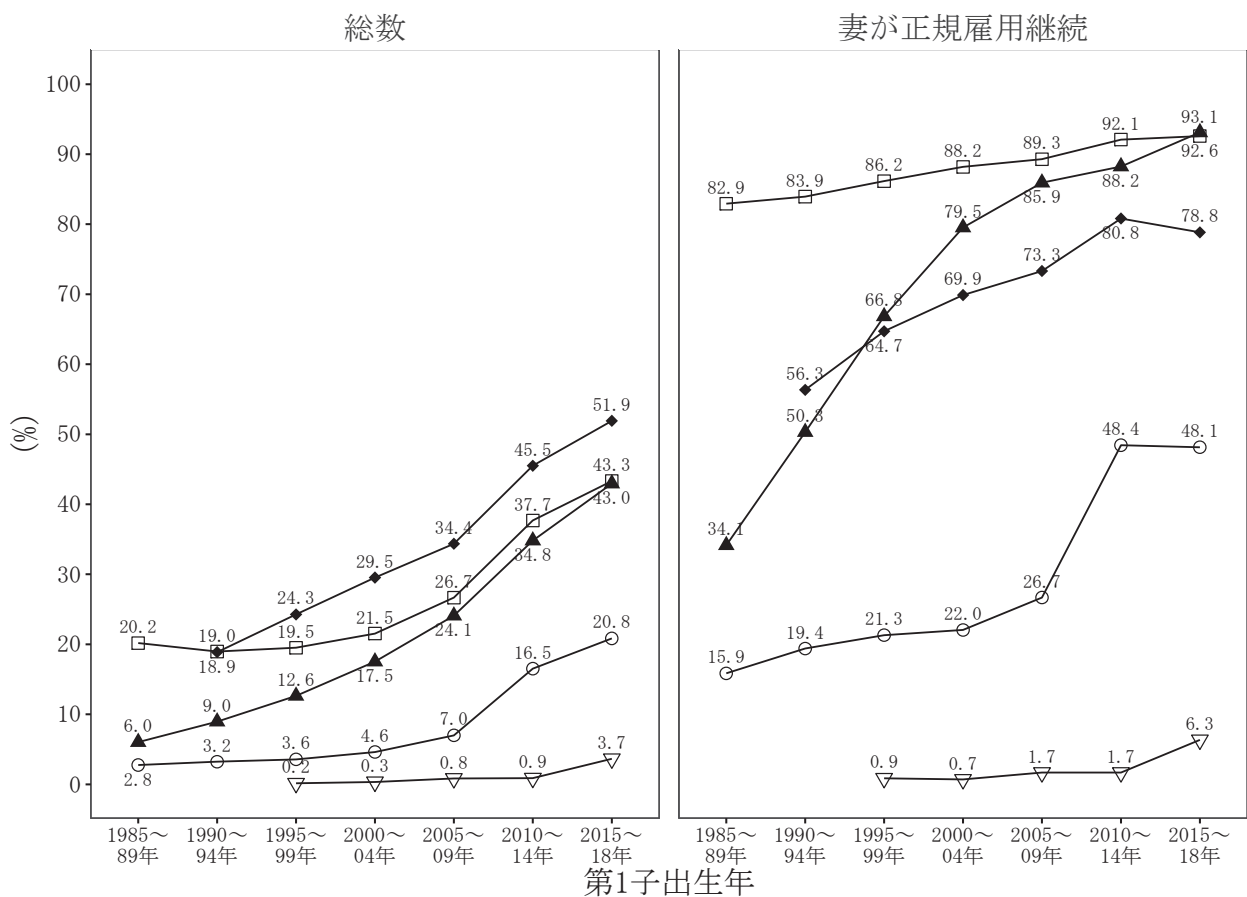


注：対象は妻が50歳未満で結婚し、妻の調査時年齢55歳未満の初婚どうしの夫婦。第1子が3歳以上、15歳未満の夫婦について集計。ここでの「妻が正規雇用継続」とは、「第1子の妊娠がわかったとき」「第1子が1歳になったとき」の2時点で正規雇用者であった者。調査票では、「その他の認可外保育施設・認証保育所」は「その他の認可外保育施設（保育室・ベビーホテルなど）・認証保育所」、「地域の親子交流や相談の場」は「子育て支援センター・つどいの広場など地域の親子交流や相談の場」。客体数と利用した制度・施設数の平均値は以下の通り。総数：2005～09年（642、1.71）、2010～14年（912、2.23）、2015～18年（547、2.48）。妻が正規雇用継続：2005～09年（174、3.35）、2010～14年（303、3.89）、2015～18年（189、4.00）。設問「あなた方ご夫婦のお子さんが3歳になるまでの間、（中略）以下の制度や施設を利用しましたか。」
 【報告書図表9-2-1 第1子出生年別にみた、第1子が3歳になるまでに利用した子育て支援制度や施設：第16回調査（2021年）】

＜第1子3歳までの保育所等の利用割合が半数を上回り、夫の育児休業利用割合も今回上昇＞

ここでは継続的に調査している子育て支援制度の利用状況の推移を示す。第1子が3歳までの保育所等（内訳は図表の注を参照）の利用割合は、夫婦全体（総数）でみると、第1子1990～94年生まれでは18.9%であったが、2015～18年生まれでは半数を上回り、51.9%となった。妻が正規雇用継続者では同時期に56.3%から78.8%に上昇した。また、同じく第1子2015～18年生まれの夫婦では、夫の育児休業利用割合が初めて大きな増加を示し、第1子2010～14年生まれの夫婦と比べると、夫婦全体（総数）では0.9%から3.7%に、妻が正規雇用継続者では1.7%から6.3%に増加した。

図表 9-2-2 第1子出生年別にみた、第1子が3歳になるまでの子育て支援制度・施設利用割合



- ◆ 保育所等（3歳未満） □ 産前産後休業（妻） ▲ 育児休業（妻）
- 短時間勤務制度（妻） ▽ 育児休業（夫）

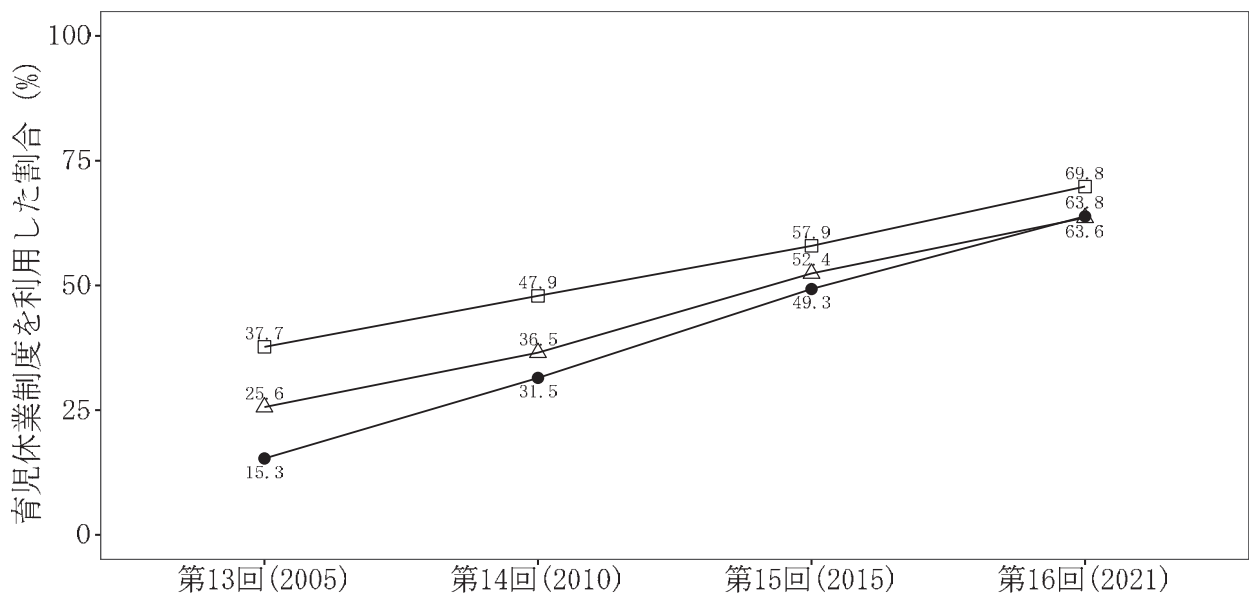
注：対象は第15回以前は妻の調査時年齢50歳未満、第16回は妻が50歳未満で結婚し、妻の調査時年齢55歳未満の初婚どうしの夫婦。第12～16回調査について、第1子が3歳以上、15歳未満の夫婦を合わせて集計。ただし、夫の育児休業は第14回～第16回調査のみ。保育所等は比較可能な第13回～第16回調査のみ。保育所等には、認可保育所、認定こども園、企業内保育施設、その他の保育施設を含むが、一時預かりは含まない。客体数は、第1子出生年が2010～14年（総数1,356、妻が正規雇用継続417）、2015～18年（同547、189）。設問「あなた方ご夫婦のお子さんが3歳になるまでの間、(1)ご夫婦のそれぞれのお母さまとは同居していましたか。また、(2)以下の制度や施設を利用しましたか。」

【報告書図表9-2-2 第1子出生年別にみた、第1子が3歳になるまでの子育て支援制度・施設利用割合】

<子どもを3人以上持つ就業継続の妻、育児休業制度の利用割合は2005年の15.3%から2021年には63.8%に>

子育てと仕事を両立する妻の間では、育児休業制度の利用が進んでいる。第1子の出産前後で就業を継続し、子どもを2人持つ40代の妻のうち、育児休業制度を利用した割合は、2005年時点では25.6%であったが、2021年の今回調査では63.6%に上昇している。また、子どもを3人以上持つ40代の妻のうち、育児休業制度を利用した割合は、2005年（第13回）調査時点では15.3%であったが、2021年の今回調査では63.8%に上昇している。働き続けながら子育てをする母親の間で、育児休業制度の利用が進んでいる。

図表 9-2-3 調査・出生子ども数別にみた、第1子出産前後の育児休業制度利用割合
(妻40～49歳、第1子出産前後で就業継続した妻)



□ 出生子ども数1人 △ 出生子ども数2人 ● 出生子ども数3人以上

注：対象は第1子出産前後で妻が就業を継続し、出生子ども数1人以上で、妻の調査時年齢40～49歳の初婚どうしの夫婦。ここでの就業には正規の職員、パート・アルバイト、派遣・嘱託・契約社員、自営業主・家族従業者・内職を含む。客体数（出生子ども数1人、2人、3人以上）は、第15回（145、353、138）、第16回（159、428、177）。

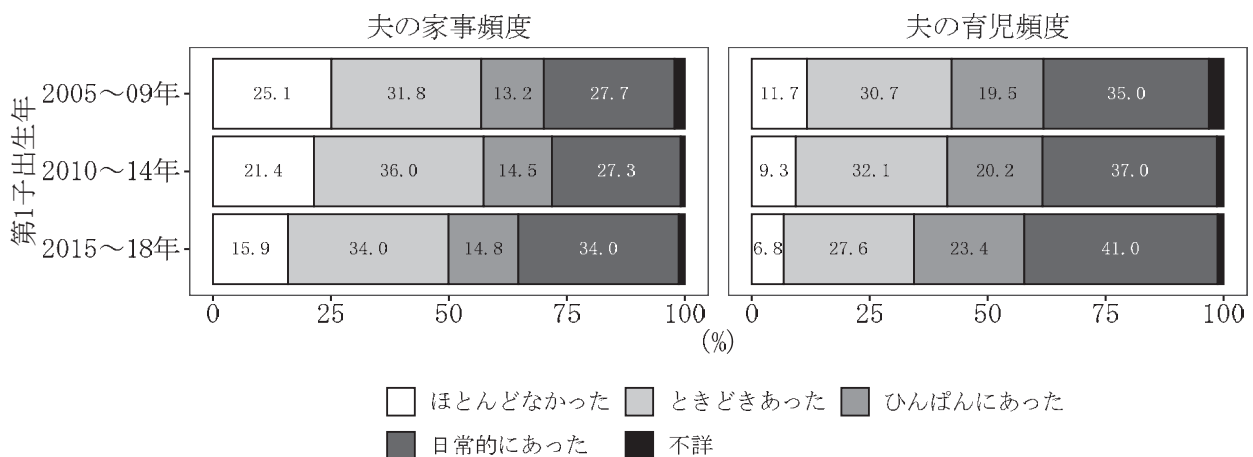
【報告書図表9-2-3 調査・出生子ども数別にみた、第1子出産前後の育児休業制度利用割合（妻40～49歳、第1子出産前後で就業継続した妻）】

9.3 夫の家事・育児

<2000年代半ば以降、夫の家事・育児頻度は増加傾向>

第1子が3歳になるまでの夫の家事・育児の頻度を調べた。第1子の出生年別に夫の家事・育児頻度の分布を示すと、「ひんぱんにあった」と「日常的にあった」の合計割合は近年ほど増加する傾向にある。子どもが3歳になるまでの間、夫が「ひんぱんに」または「日常的に」家事・育児を行っている割合は、第1子が2005～09年に生まれた夫婦では、家事が41.0%、育児が54.5%であったが、第1子が2015～18年に生まれた夫婦では、家事は48.8%、育児は64.4%に増加した。また、家事・育児ともに「ほとんどなかった」とする夫の割合は減少しており、2015～18年には、育児で6.8%と1割を下回っている。

図表 9-3-1 第1子出生年別にみた、第1子が3歳になるまでの夫の家事・育児頻度：第16回調査（2021年）



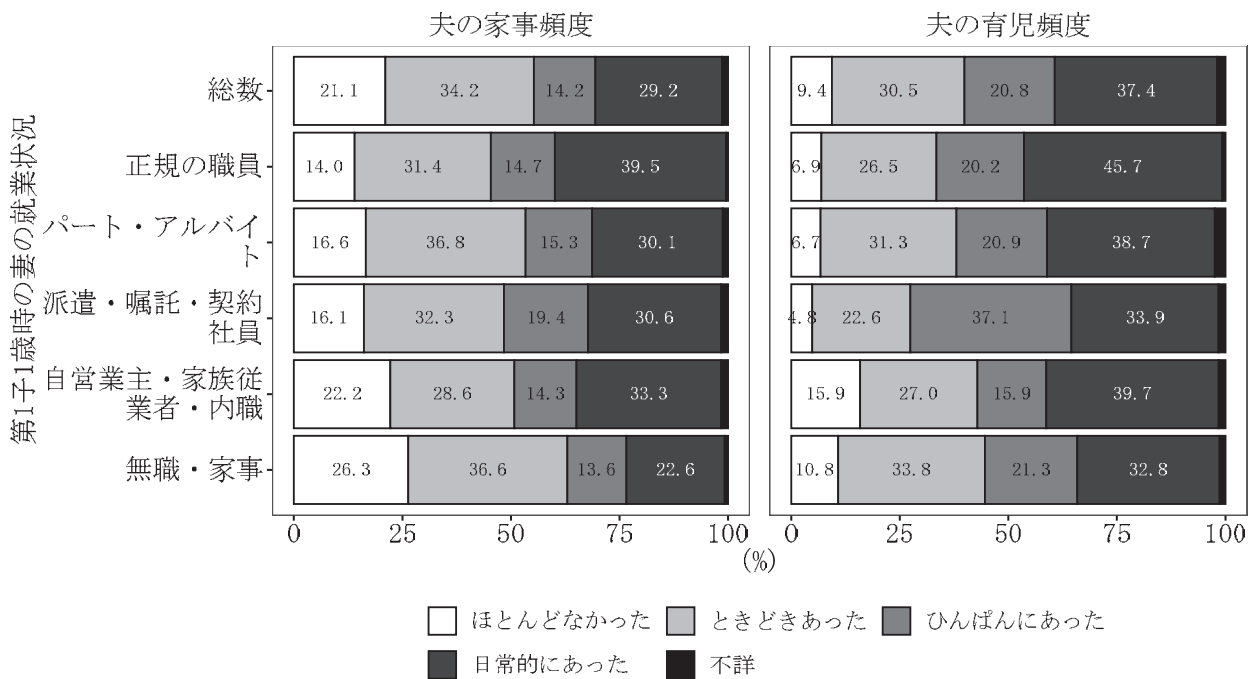
注：対象は妻が50歳未満で結婚し、妻の調査時年齢55歳未満の初婚どうしの夫婦。第1子が3歳以上、15歳未満の夫婦について集計。設問「あなた方ご夫婦のお子さんが3歳になるまでの間について、（中略）あなたの夫の家事・育児頻度はどのくらいでしたか。」
 【報告書図表9-3-1 第1子出生年別にみた、第1子が3歳になるまでの夫の家事・育児頻度：第16回調査（2021年）】

＜妻が正規の職員である場合、夫の4割が「日常的に」家事＞

子どもが3歳になるまでの夫の家事・育児頻度を、第1子1歳時の妻の就業状況別に調べた。家事については、妻が働いている場合でも、「ほとんどなかった」か「ときどき」の実施にとどまっている夫が5割前後を占める。ただし、妻が正規の職員である場合は約4割の夫が「日常的に」家事を行っており、妻の就業状況により夫の実施頻度には差がみられる。

育児頻度は、家事よりも「ほとんどなかった」夫の割合が大幅に低く、妻の働き方にかかわらず、半数以上の夫が「ひんぱんに」もしくは「日常的に」育児を行っている。

図表 9-3-2 第1子1歳時の妻の就業状況別にみた、第1子が3歳になるまでの夫の家事・育児頻度：第16回調査（2021年）



注：対象は妻が50歳未満で結婚し、妻の調査時年齢55歳未満の初婚どうしの夫婦。第1子が3歳以上、15歳未満の夫婦について集計。総数には妻の就業状況「その他・不詳」を含む。設問「あなた方ご夫婦のお子さんが3歳になるまでの間について、（中略）あなたの夫の家事・育児頻度はどのくらいでしたか。」

【報告書図表9-3-2 第1子1歳時の妻の就業状況別にみた、第1子が3歳になるまでの夫の家事・育児頻度：第16回調査（2021年）】

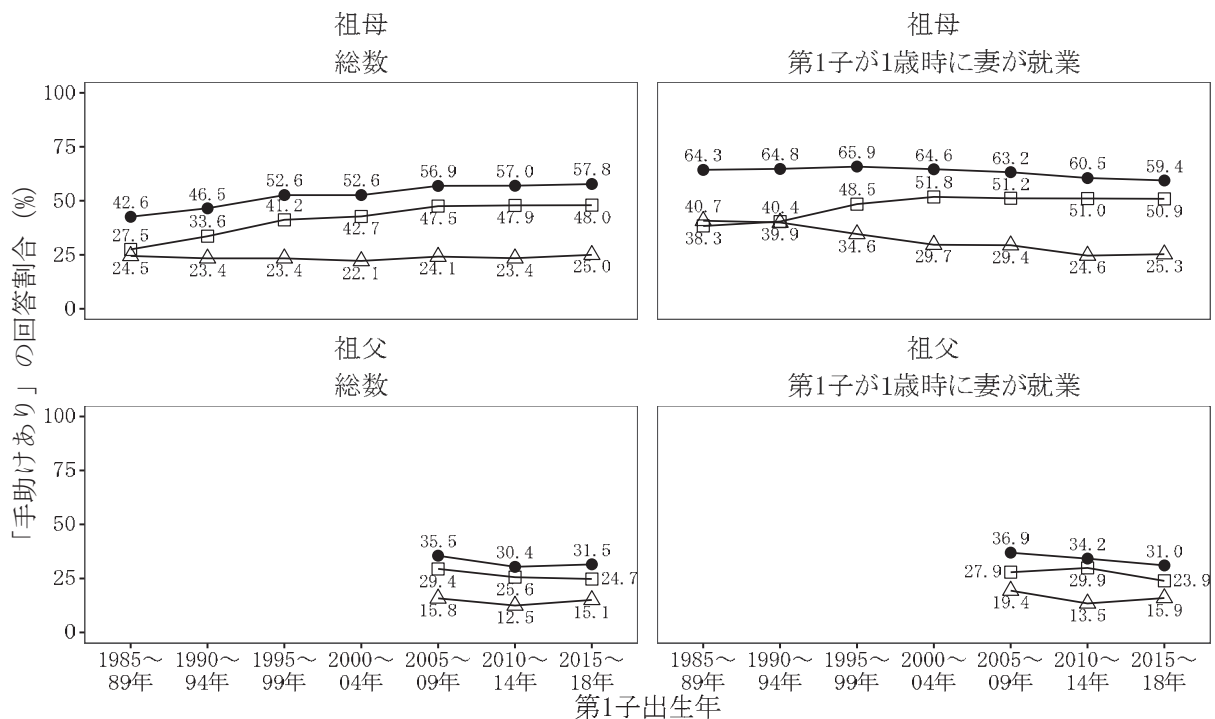
9.4 祖父母の子育て支援

＜乳幼児を育てる夫婦の6割が母親（子の祖母）の手助けを受ける、祖父も一定の役割果たす＞

第1子が3歳になるまでの間に夫または妻の母親（子の祖母）が子育ての手助けをした割合は上昇しており、夫婦全体（総数）では2015～18年生まれの子どもで57.8%であった。子育ての担い手として祖母の存在は重要な位置を占めている。内訳をみると、夫方祖母の手助け割合は2割強で横ばいだが、妻方祖母の手助けは増加傾向にある。一方、第1子が1歳時に就業していた妻に限ると、夫または妻の母親から手助けを受けた割合は2000年代以降、ゆるやかに低下している。背景には、育児休業制度や短時間勤務制度など、共働き夫婦が利用できる子育て支援制度・施設の利用が増えるなど、子育て環境の多様化があるとみられる。

また、今回調査では夫婦の父親（子の祖父）の手助けの頻度についてもたずねた。3割程度の夫婦が夫、妻の父親から子育ての手助けを受けており、祖父も子育てにおいて一定の役割を果たしている。

図表 9-4-1 第1子出生年別にみた、第1子が3歳になるまでに夫または妻の親（子の祖父母）から子育ての手助けを受けた割合



□ 妻方の親（子の祖母／祖父）からの手助け ● （再掲）夫妻どちらかの親（子の祖母／祖父）からの手助け
△ 夫方の親（子の祖母／祖父）からの手助け

注：対象は第15回以前は妻の調査時年齢50歳未満、第16回は妻が50歳未満で結婚し、妻の調査時年齢55歳未満の初婚どうしの夫婦。祖母からの手助けは第12～16回調査、祖父からの手助けは第16回調査について、第1子が3歳以上、15歳未満の夫婦を合わせて集計。「手助けあり」は夫方、妻方の母親、父親から「日常的に」「ひんぱんに」子育ての手助けを受けた場合。祖母からの手助けの客体数は、2010～14年（総数1,334、第1子が1歳時に妻が就業588）、2015～18年（同540、281）。祖父からの手助けの客体数は、2010～14年（総数892、第1子が1歳時に妻が就業424）、2015～18年（同536、277）。設問「あなた方ご夫婦のお子さんが3歳になるまでの間について、ご夫婦のそれぞれのお母さま、お父さまからのどのくらい子育ての手助けがありましたか。」

【報告書図表9-4-1 第1子出生年別にみた、第1子が3歳になるまでに夫または妻の親（子の祖父母）から子育ての手助けを受けた割合】

第Ⅲ部 未婚者と夫婦の就業・居住・価値観

第Ⅰ部、第Ⅱ部では、未婚者の結婚や家族に関する考え方や態度、夫婦の結婚過程や出生過程、子育ての状況や考え方の時代変化を見てきた。第Ⅲ部では、この間、未婚男女や夫婦の生活状況や価値観にどのような変化があったのかを示していく。

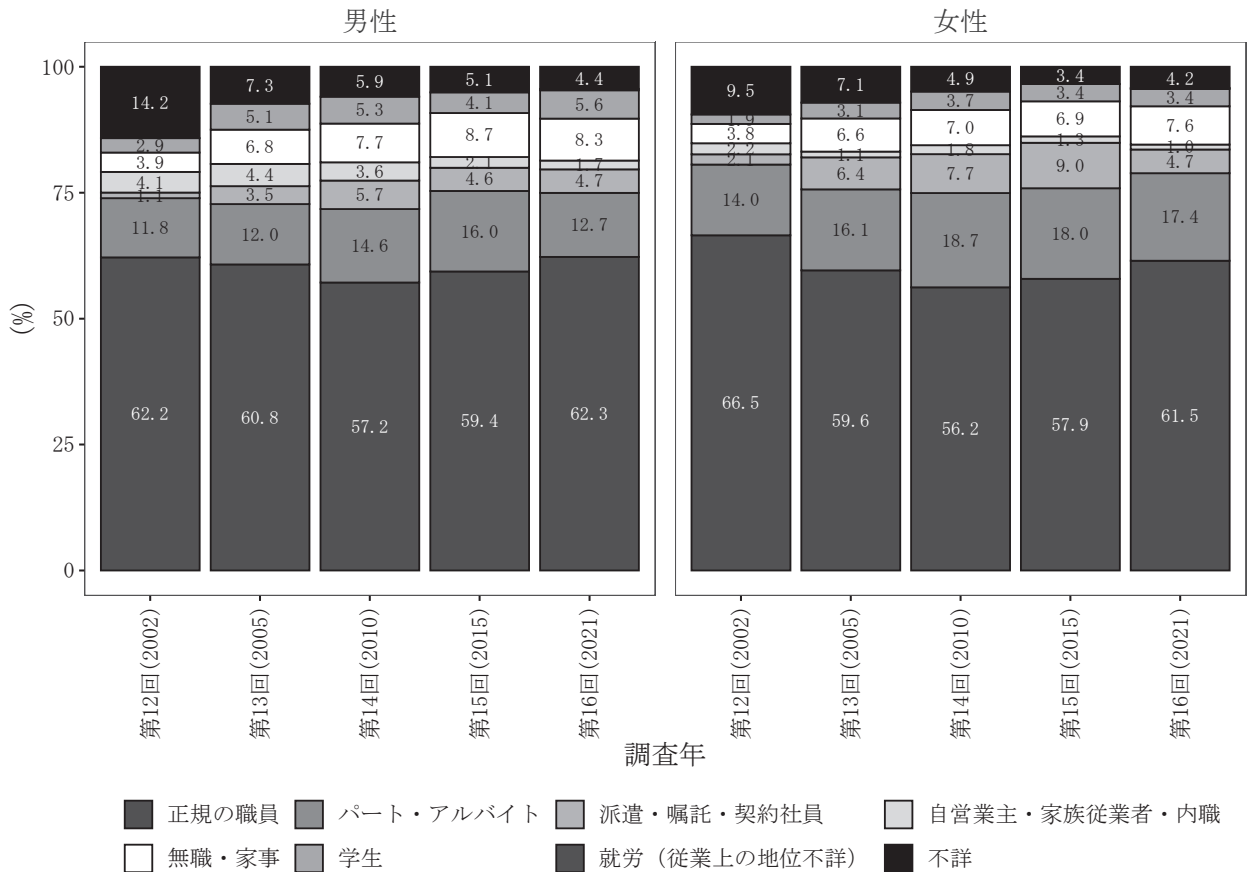
10 就業状況と親との居住

10.1 未婚者、夫と妻の就業状況

＜学卒時に正規の職員として就業する未婚者は、10年前の調査に比べ増加＞

25～34歳の未婚者について、最後に通っていた学校を卒業した後（学卒後）の就業状況を調べた。男女とも正規の職員の割合は2010年（第14回）調査で最も低く、男性57.2%、女性56.2%であった。その後は上昇に転じ、今回調査の正規職員割合は男性62.3%、女性61.5%となっている。パート・アルバイトや派遣等の非正規雇用者割合は、2010年調査における拡大後、いくぶん減少している。無職・家事の割合は男女とも1割弱となっている（今回調査では男性8.3%、女性7.6%）。

図表 10-1-1 調査別にみた、未婚者の学卒時の就業状況・従業上の地位（25～34歳未婚者）



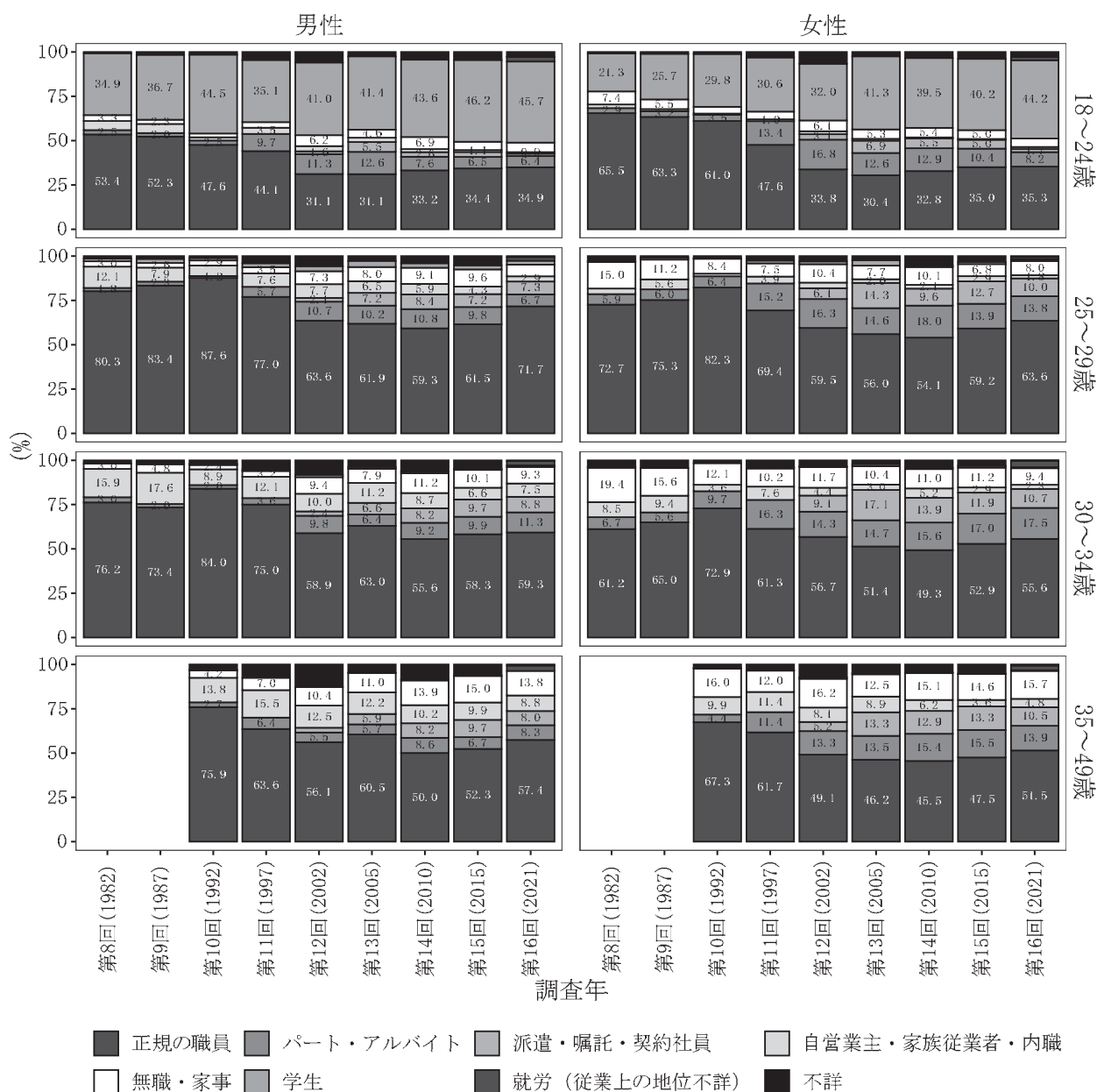
注：対象は25～34歳の未婚者。客体数は、第12回男性（1,786）、女性（1,509）、第13回男性（1,692）、女性（1,336）、第14回男性（1,873）女性（1,505）、第15回男性（1,363）、女性（1,166）、第16回男性（1,031）、女性（932）。第16回調査の設問「あなたとあなたの（ご両）親のおつとめの状況についておたずねします。あなたについては a、b の2つの時期について、また、（ご両）親については現在について、それぞれ（1）おつとめの状況、（2）職種、（3）おつとめ先の従業員数（ご両親については種別）のあてはまる番号に1つずつ○をつけてください（お仕事が複数の場合、主たる仕事が対象）。」（あなた、a. 最後に学校を卒業した直後）。

【報告書図表10-1-1 調査別にみた、未婚者の学卒時の就業状況・従業上の地位（25～34歳未婚者）】

<調査時の就業状況は10年前に比べ正規の職員が増加、ただし非正規雇用割合は女性でより高い>

年齢別に未婚者の現在（調査時点）の就業状況をみると、1980～2000年代にかけて正規の職員の割合が低下してきたが、前回調査から反転し、今回調査ではどの年齢層でも2000年代初頭の水準に戻りつつある。また、どの年齢層でも女性で非正規雇用者（パート・アルバイト、派遣等）の割合が高い。35～49歳では、2000年代以降、無職・家事の割合が男女ともに15%前後で推移している。

図表 10-1-2 調査・年齢別にみた、未婚者の現在（調査時）の就業状況・従業上の地位



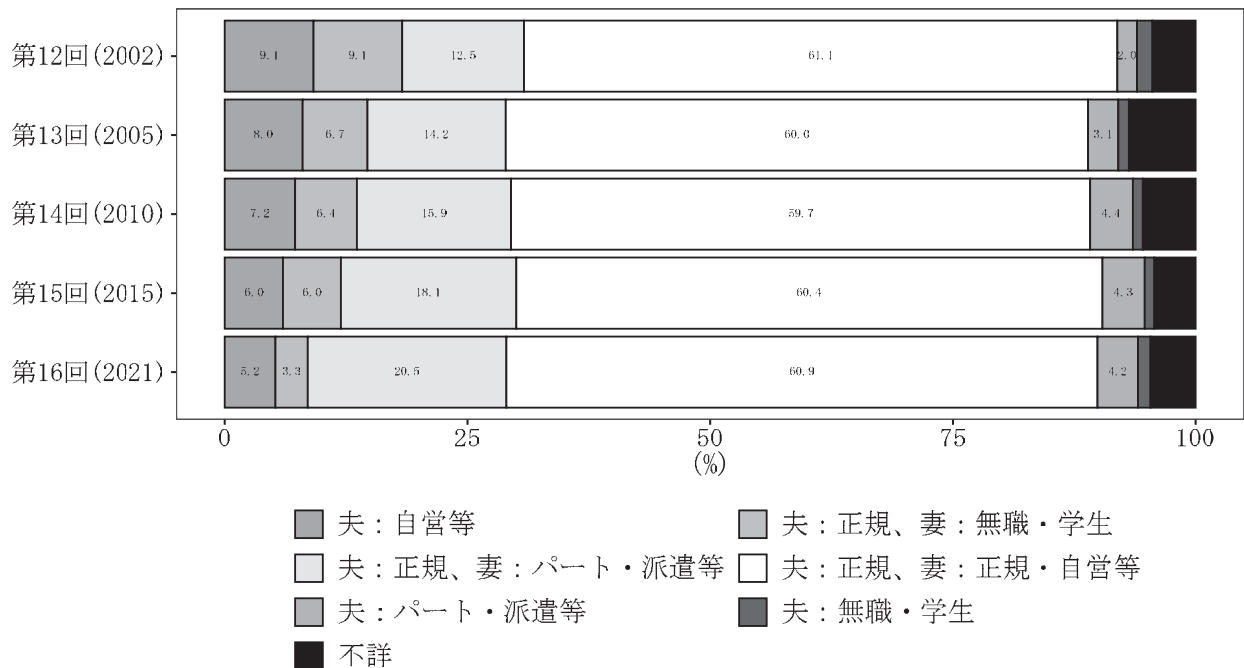
注：対象は18～49歳の未婚者。客体数は、第15回男性（18～24歳1,342、25～29歳788、30～34歳575、35～49歳1,237）、女性（同1,404、754、412、854）、第16回男性（1,002、579、452、1,085）、女性（1,121、549、383、820）。第16回調査の設問文は図表10-1-1の注を参照。

【報告書図表10-1-2 調査・年齢別にみた、未婚者の現在（調査時）の就業状況・従業上の地位】

＜結婚を決めたときの夫と妻の働き方の組合せ、いずれかが非正規職、無職である割合は3割＞

現在の結婚を決めた時の夫と妻の就業状況の組合せは、夫が正規の職員で、妻は正規の職員または自営等であった夫婦がもっとも多く、2002年（第12回）調査以降ではおよそ6割で推移している。次いで多いのは、夫が正規の職員で、妻はパート・アルバイト・派遣・嘱託・契約社員で、今回調査では2割を超え、20.5%を占めた。一方で夫が正規の職員で妻が無職・学生であった夫婦は、2002年（第12回）調査では9.1%であったが、その後減少し、今回調査では3.3%であった。

図表 10-1-3 調査別にみた、夫と妻が結婚を決めたときの就業状況組合せの構成



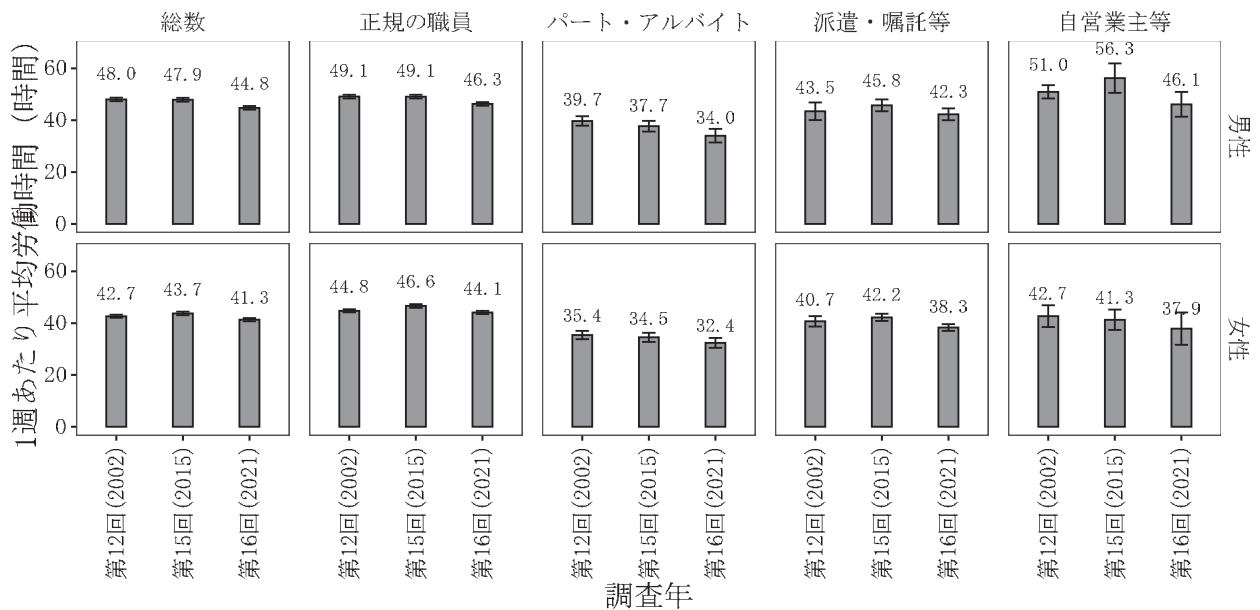
注：対象は妻の調査時年齢50歳未満の初婚どうしの夫婦。「自営等」は「自営業主・家族従業者・内職」、「正規」は「正規の職員」、「パート・派遣等」は「パート・アルバイト」と「派遣・嘱託・契約社員」、「無職・学生」は「無職・家事」と「学生」を指す。「不詳」には夫の就業状況が不詳か、夫が正規で妻の就業状況が不詳の場合が含まれる。就業状況・従業上の地位に「契約社員」が追加されたのは第13回以降。客体数は、第12回（6,949）、第13回（5,932）、第14回（6,705）、第15回（5,334）、第16回（4,351）。第16回調査の設問：「あなた方ご夫婦のいろいろな時期のおつとめの状況についておたずねします。下のa～gの各時期における(1)おつとめの状況、(2)職種、(3)おつとめ先の従業員数について、回答欄のあてはまる番号に1つずつ○をつけてください（お仕事が複数の場合、主たる仕事を対象）。」（あなた、b. 現在の結婚を決めたとき、夫、f. あなたとの結婚を決めたとき）。

【報告書図表10-1-3 調査別にみた、夫と妻が結婚を決めたときの就業状況組合せの構成】

<未婚者の週労働時間は前回調査よりも減少>

25～34歳の未婚者の一週間の平均的な労働時間は、25～34歳の未婚者全体（総数）およびいずれの従業上の地位においても、20年前よりも減少傾向にある。なお今回調査（第16回）については2021年6月に実施されたため、新型コロナウイルス感染拡大に関連する一時的な働き方の変化（休業・時短要請、リモートワークの増加等）を反映している可能性もある。

図表 10-1-5 調査・就業する未婚者の現在（調査時）の就業状況・従業上の地位別にみた、平均週労働時間（調査時点で就業している25～34歳未婚者）



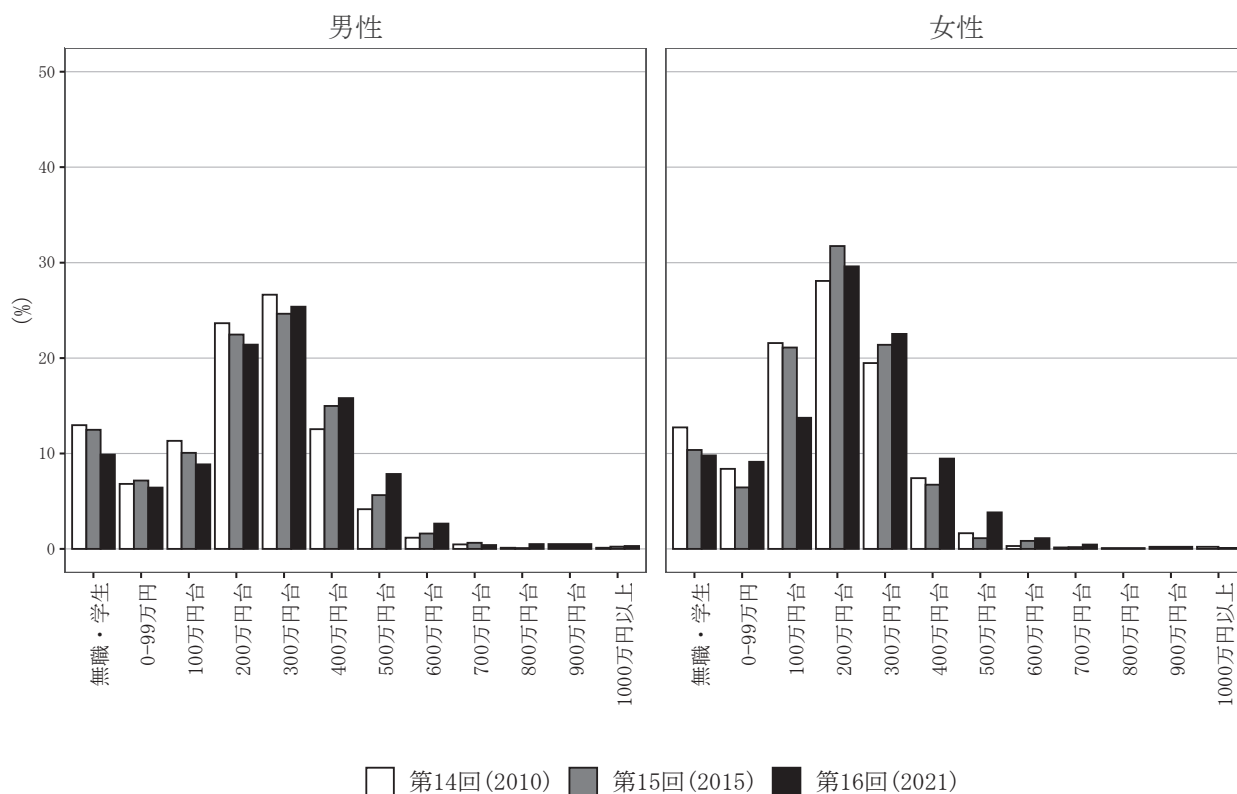
注：対象は調査時点で就業している25～34歳の未婚者。「派遣・嘱託等」は「派遣・嘱託・契約社員」、「自営業主等」は「自営業主・家族従業者・内職」。図中の棒グラフ上のエラーバーは95%信頼区間を示している。第16回調査の設問「あなたの現在のお仕事（収入を伴うもの。複数ある場合、主たる仕事の対象）について、次の(1)～(4)には該当する数字を記入し、(5)については、あてはまる番号1つに○をつけてください。」（あなたの仕事について、(1)勤務する日1日の平均的な労働時間、1日あたり平均□時間□分〈残業時間も含めた平均的な労働時間をご記入ください。〉、(2)1週間の平均的な労働日数、週あたり□日）。

【報告書図表10-1-5 調査・就業する未婚者の現在（調査時）の就業状況・従業上の地位別にみた、平均週労働時間（調査時点で就業している25～34歳未婚者）】

<年収分布は未婚者、有配偶者ともに10年前より上方に推移している>

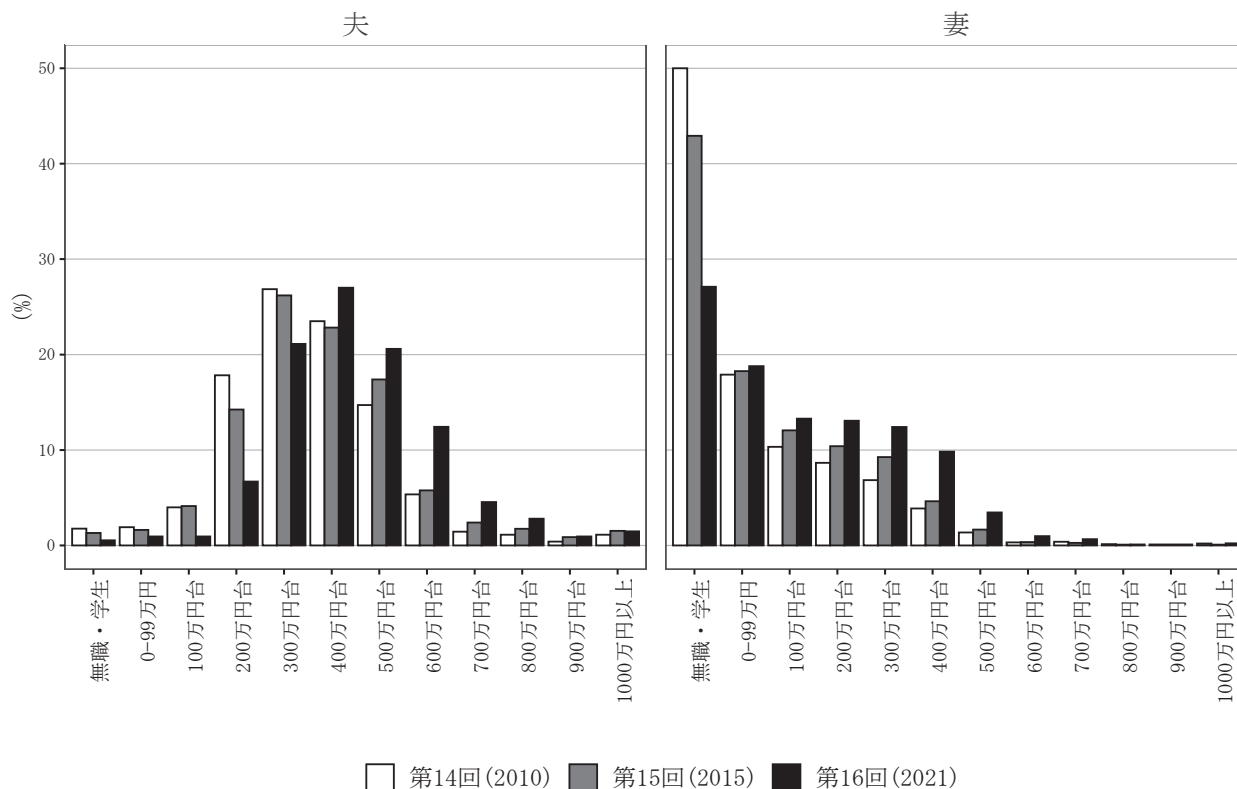
ここでは、結婚や出産の中心世代である25～34歳の未婚男女および夫婦の夫と妻について、調査時点の就業状況と、就業している場合には調査前年の年収を示す。2010年（第14回）調査、2015年（第15回）調査に比べ、今回調査（2021年）では、全般的に年収の分布は上方に推移している。今回調査における年収のピークは、未婚男性では300万円台、未婚女性では200万円台、また、夫の年収では400万円台である。妻は「無職・学生」がもっとも多く、年収では100万円未満が最多である。

図表 10-1-6 調査別にみた、未婚者の現在（調査時）の就業有無および昨年（調査前年）の年収の分布（25～34歳未婚者）



注：対象は25～34歳の未婚者。調査時の就業状況と昨年の年収の不詳は除く。客体数は、第14回男性（1,704）、女性（1,335）、第15回男性（1,242）、女性（1,071）、第16回男性（981）、女性（888）。対象者の平均年齢は、第14回（男性29.5、女性29.4）、第15回（29.5、29.0）、第16回（29.5、29.3）。設問「あなたとあなたの（ご両）親のおつとめの状況についておたずねします。あなたについては a、b の2つの時期について、（中略）、それぞれ（1）おつとめの状況、（2）職種、（3）おつとめ先の従業員数（ご両親については種別）のあてはまる番号に1つずつ○をつけてください（お仕事が複数の場合、主たる仕事を対象）。（1）おつとめの状況、b. 現在。」設問「あなたの現在のお仕事（収入を伴うもの。複数ある場合、主たる仕事を対象）について、（中略）、（5）については、あてはまる番号1つに○をつけてください。（5）昨年（2020年）の年収。」
【報告書図表10-1-6 調査別にみた、未婚者の現在（調査時）の就業有無および昨年（調査前年）の年収の分布（25～34歳未婚者）】

図表 10-1-7 調査別にみた、夫と妻の現在（調査時）の就業有無および
昨年（調査前年）の年収の分布（25～34歳の夫、妻）



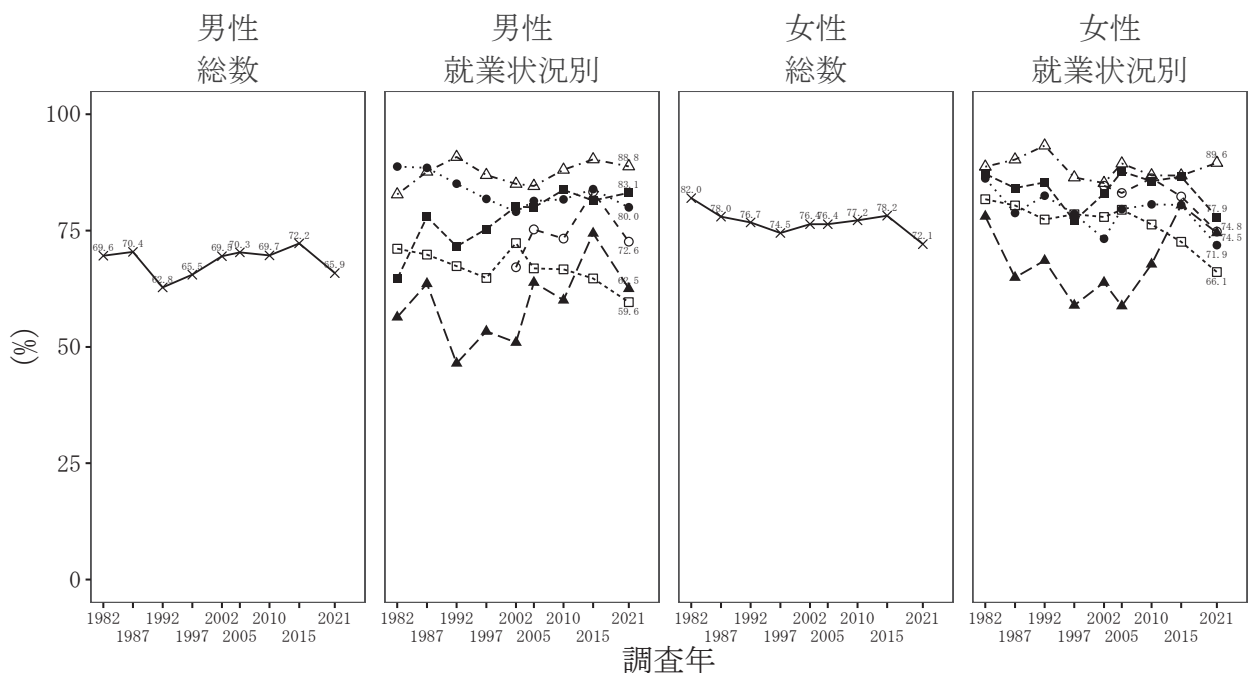
注：対象は初婚どうしの夫婦で、25～34歳の夫と妻。調査時の就業状況と昨年の年収の不詳は除く。客体数は、第14回夫(1,251)、妻(1,548)、第15回夫(920)、妻(1,144)、第16回夫(748)、妻(926)。対象者の平均年齢は、第14回(男性31.2、女性31.1)、第15回(31.2、31.2)、第16回(31.4、31.1)。設問「あなた方ご夫婦のいろいろな時期のおつとめの状況についておたずねします。下のa～gの各時期における(1)おつとめの状況、(2)職種、(3)おつとめ先の従業員数について、回答欄のあてはまる番号に1つずつ○をつけてください(お仕事が複数の場合、主たる仕事を対象)。あなた、(1)おつとめの状況、d.現在、夫、(1)おつとめの状況、g.現在。」設問「あなた方ご夫婦の現在のお仕事(収入を伴うもの。複数ある場合、主たる仕事を対象)について、(中略)、(5)については、あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。(5)昨年(2020年)の年収。」
【報告書図表10-1-7 調査別にみた、夫と妻の現在(調査時)の就業有無および昨年(調査前年)の年収の分布(25～34歳の夫、妻)】

10.2 未婚者と夫婦の親との居住

<親と同居する未婚者の割合は、男女ともに低下>

両親または父母いずれかと同居している未婚者の割合について、未婚者全体（総数）と就業状況別の推移を示した。男女とも1990年代以降は親との同居割合が上昇傾向にあったが、今回調査では前回から低下した（男性72.2%から65.9%、女性78.2%から72.1%）。男女別にみると、女性のほうが親と同居する割合が高い。未婚者の従業上の地位別にみると、男性では、派遣・嘱託と学生で親との同居割合が大きく下がっている。女性では、無職・家事以外で同居割合が低下した。

図表 10-2-1 調査・現在（調査時）の就業状況・従業上の地位別に見た、親と同居する未婚者の割合



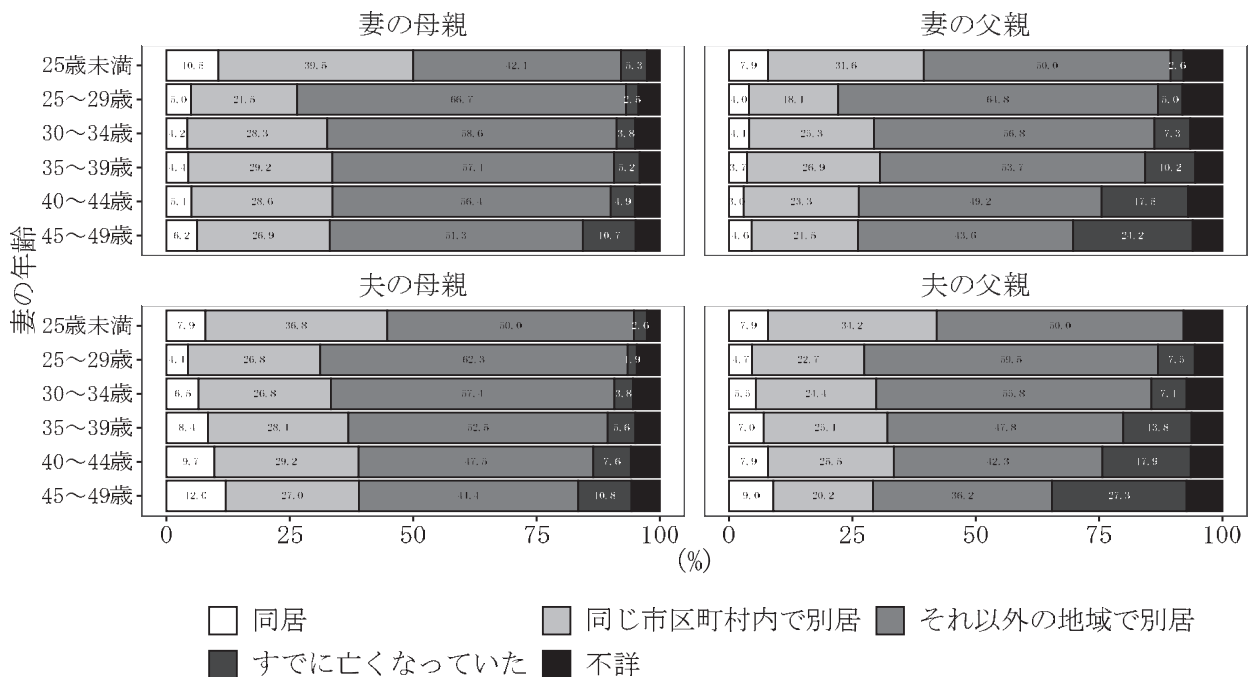
※ 総数 ■ パート・アルバイト ● 自営・家族従業等 ▲ 学生
 □ 正規の職員 ○ 派遣・嘱託 △ 無職・家事

注：対象は18～34歳の未婚者。客体数は、第8回（1982）男性2,732、女性2,110、第9回（1987）男性3,299、女性2,605、第10回（1992）男性4,215、女性3,647、第11回（1997）男性3,982、女性3,612、第12回（2002）男性3,897、女性3,494、第13回（2005）男性3,139、女性3,064、第14回（2010）男性3,667、女性3,406、第15回（2015）男性2,705、女性2,570、第16回（2021）男性2,033、女性2,053。派遣・嘱託の区分は第12回（2002）調査で選択肢に追加（第13回（2005）調査では、さらに同区分に「契約社員」も追加）。総数には就業状況・従業上の地位不詳を含む。第16回（2021）調査の設問「あなたの（ご両）親の（中略）（2）現在のあなたとの同居/別居（中略）についておたずねします。あてはまる番号に○をつけ、下線の欄に数字を記入してください。」（お父さま/お母さま、（2）現在のあなたとの同居/別居、〈1. 同居、2. 同じ市区町村内で別居、3. それ以外の地域で別居、4. すでに亡くなられた〉）。少なくとも父母いずれかと同居している場合を同居と定義。
 【報告書図表10-2-1 調査・現在（調査時）の就業状況・従業上の地位別に見た、親と同居する未婚者の割合】

<妻の年齢が高い夫婦で、夫方の親との同居が多い>

妻の年齢別に、妻、夫それぞれの母親、父親との現在（調査時）の居住状況を調べた。妻が若い夫婦では、妻方、夫方で顕著な違いはみられないが、妻の年齢が高い夫婦は夫の母親または父親と同居している割合がやや高い。全体として、妻または夫の両親と同居あるいは近居（同じ市区町村内で別居）している割合は、25歳未満を除くと3～4割程度である。

図表 10-2-2 妻の年齢別にみた、妻と夫それぞれの母親、父親との居住状況（現在（調査時））：
第16回調査（2021年）



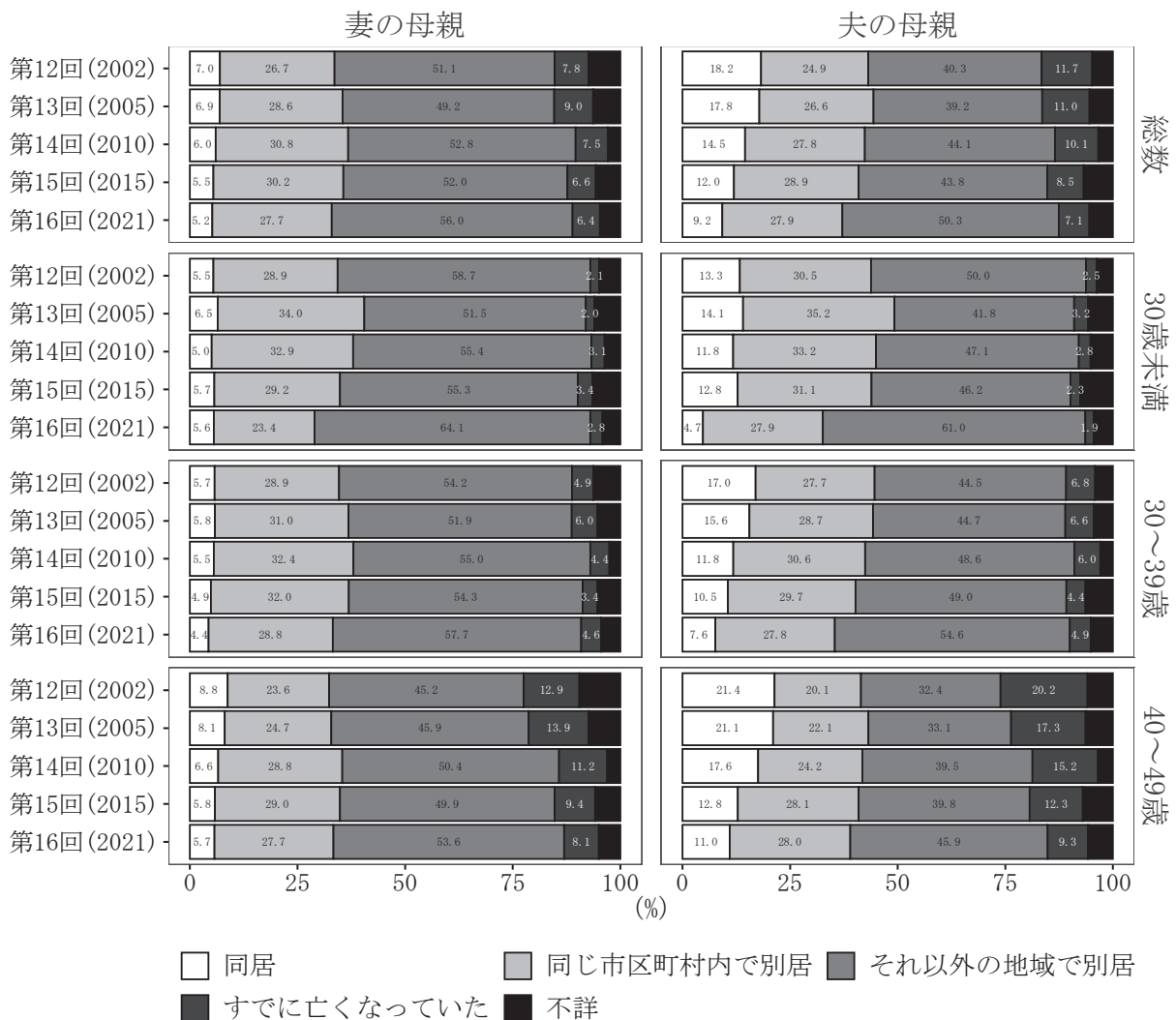
注：対象は妻の調査時年齢50歳未満の初婚どうしの夫婦。設問「あなた方ご夫婦のご両親との同居／別居について、あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。」（(1)あなた（妻）のお母さま／(2)あなた（妻）のお父さま／(3)夫のお母さま／(4)夫のお父さま、〈1. 同居、2. 同じ市区町村内で別居、3. それ以外の地域で別居、4. すでに亡くなっていた（いる）〉、c. 現在）。

【報告書図表10-2-2 妻の年齢別にみた、妻と夫それぞれの母親、父親との居住状況（現在（調査時））：第16回調査（2021年）】

＜夫方の母親との同居は減少傾向＞

妻の年齢別に、夫と妻の母親との居住状況の推移をみると、妻の母親との同居割合はほぼ変わらないが、夫の母親との同居割合は低下している。夫の母親との同居は2000年代初頭には2割程度であったが、その後低下しており、今回調査では妻が30歳未満の夫婦で4.7%、妻30代の夫婦で7.6%、妻40代の夫婦で11.0%であった。また、母親と近居（同じ市区町村内で別居）している割合は、妻方・夫方とも全体的に前回調査から減少した。妻40代では、母親が亡くなっている割合が最近の調査ほど低下しており、母親が生存し、遠居（同じ市区町村以外で別居）している状況が増えている。

図表 10-2-3 調査・妻の年齢別にみた、妻と夫それぞれの母親との居住状況（現在（調査時））



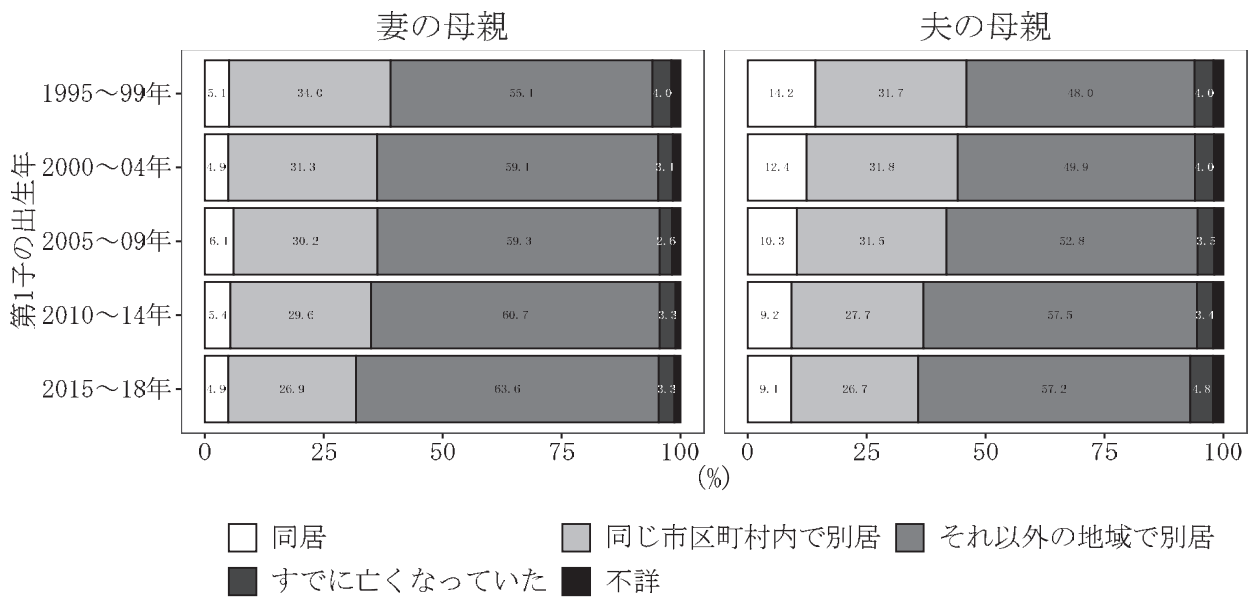
注：対象は妻の調査時年齢50歳未満の初婚どうしの夫婦。第16回調査の設問「あなた方ご夫婦のご両親との同居／別居について、あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。」（(1)あなた(妻)のお母さま／(2)あなた(妻)のお父さま／(3)夫のお母さま／(4)夫のお父さま、〈1.同居、2.同じ市区町村内で別居、3.それ以外の地域で別居、4.すでに亡くなっていた(いる)〉、c.現在）。

【報告書図表10-2-3 調査・妻の年齢別にみた、妻と夫それぞれの母親との居住状況（現在（調査時））】

<子育て中の夫婦、子の祖母と遠居が増加>

第1子が3歳までの間、夫婦がそれぞれの母親と同居していたかを第1子の出生年別に調べた。最近の出生ほど、同居あるいは近居（同じ市区町村内で別居）している割合が下がり、それ以外の地域での別居（遠居）が増えている。妻の母親と同居している割合は、5%前後で変わらない。一方、夫の母親との同居は、第1子出生が1995～99年の夫婦では14.2%であったが、出生年が最近になるほど低くなり、第1子出生が2010年代である夫婦では約9%である。

図表 10-2-4 第1子の出生年別にみた、妻と夫それぞれの母親との居住状況（第1子3歳まで）



注：対象は第15回以前は妻の調査時年齢50歳未満、第16回は妻が50歳未満で結婚し、妻の調査時年齢55歳未満の初婚どうしの夫婦。第14～16回調査について、第1子が3歳以上、15歳未満の夫婦について集計。客体数は、第1子の出生年1995～99年（1,257）、2000～04年（2,310）、2005～09年（2,130）、2010～14年（1,356）、2015～18年（547）。第16回調査の設問「あなた方ご夫婦のお子さんが3歳になるまでの間、(1)ご夫婦のそれぞれのお母さまとは同居していましたか。(中略)第1子、第2子、第3子について、あてはまる番号に○をつけてください。」（(1)お母様との同別居、あなたのお母さま/夫のお母さま、(1.同居、2.同じ市区町村内で別居、3.それ以外の地域で別居、4.すでに亡くなっていた）、第1子）。

【報告書図表10-2-4 第1子の出生年別にみた、妻と夫それぞれの母親との居住状況（第1子3歳まで）】

11 子どもとのふれあい経験・周囲の結婚への評価

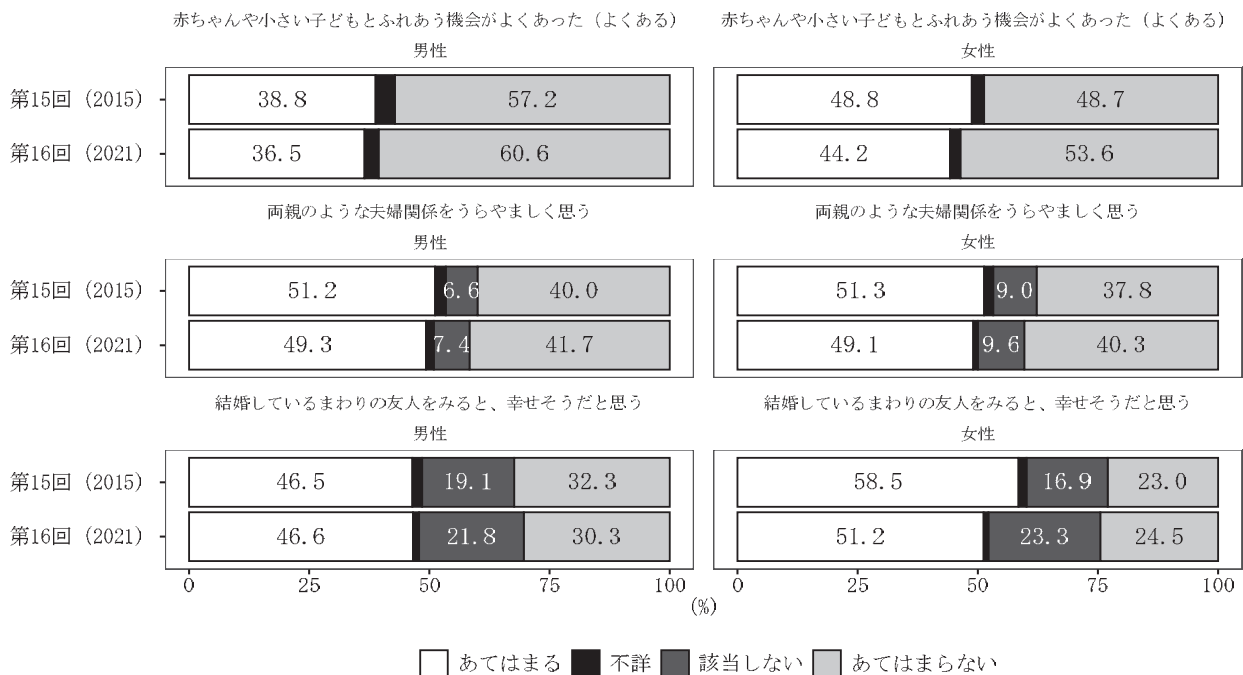
11.1 未婚者のこれまでの子どもとのふれあい経験・周囲の結婚に対する評価

<子どもとのふれあい頻度、友人の結婚に対する肯定的評価は、男性よりも女性で高いものの、今回は女性でいずれも低下>

未婚者に、これまでに赤ちゃんや幼い子どもとふれあった経験があるかをたずねた。「赤ちゃんや小さい子どもとふれあう機会がよくあった（よくある）」と答えた未婚者は4割前後で、男性より女性のほうが多い。ただし、2015年の前回調査に比べると、男女とも「機会がよくあった（よくある）」割合は低下した。

両親の夫婦関係や結婚している周囲の友人の結婚に対しては、半数程度の人が「両親のような夫婦関係をうらやましく思う」「結婚しているまわりの友人をみると、幸せそうだと思う」と答え、周囲の結婚を肯定的にとらえている。なお、「結婚しているまわりの友人をみると、幸せそうだと思う」と回答し、友人の結婚を肯定的にとらえる割合は、男性よりも女性のほうが高い。ただし、女性ではその割合が前回の58.5%から今回の51.2%に低下した。

図表 11-1-1 調査別にみた、子どもとのふれあい経験や周囲の結婚に対する評価（未婚者）

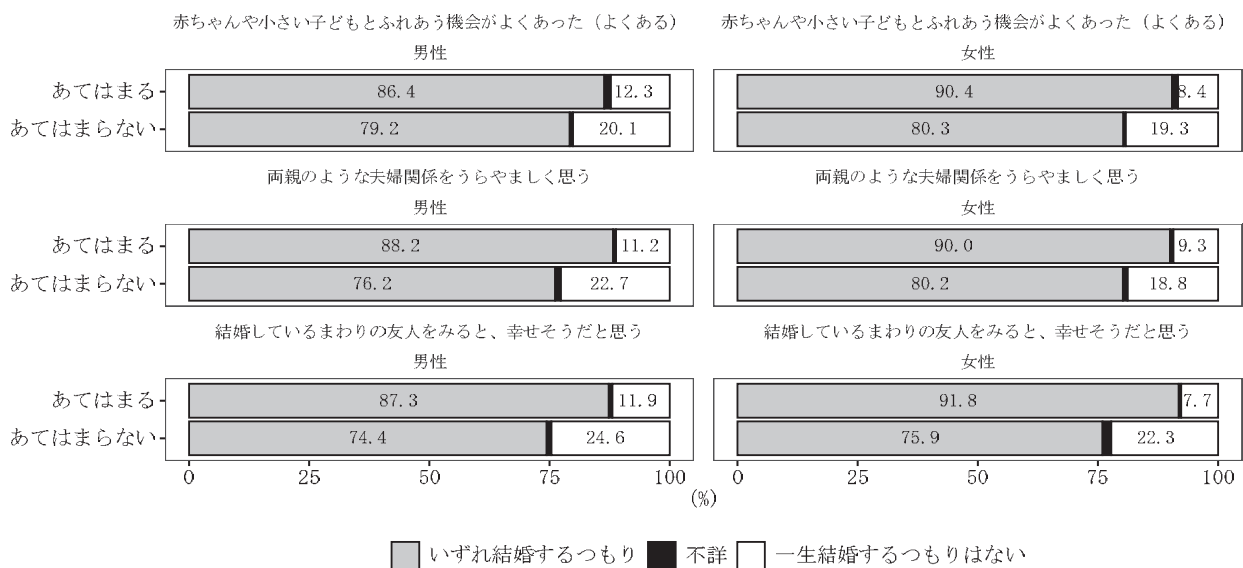


注：対象は18～34歳の未婚者。客体数は、第15回男性（2,705）、第15回女性（2,570）、第16回男性（2,033）、第16回女性（2,053）。設問「あなたの身近な状況について、おたずねします。（中略）、それぞれ右の欄のあてはまる番号1つに○をつけてください。質問項目に該当する相手がいない（いなかった）場合は、5に○をつけてください。」（1. あてはまる、2. どちらかといえばあてはまる、3. どちらかといえばあてはまらない、4. あてはまらない、5. 該当しない）。
【報告書図表11-1-1 調査別にみた、子どもとのふれあい経験や周囲の結婚に対する評価（未婚者）】

<子どもとのふれあい経験が多い未婚者、周囲の結婚を肯定的にとらえている未婚者は結婚意欲が高い傾向>

子どもとのふれあい経験、両親や友人の結婚への評価によって、未婚者の生涯の結婚意思に違いがあるかを調べた。赤ちゃんや幼い子どもとふれあう機会がよくあった（よくある）人や、両親の夫婦関係を肯定的にとらえている人、結婚している周囲の友人を幸せそうだと思う人は、そうでない人よりも「いずれ結婚するつもり」と回答する割合が高い。

図表 11-1-2 調査・子どもとのふれあい経験や周囲の結婚に対する評価別にみた、未婚者の生涯の結婚意思：第16回調査（2021年）



注：対象は18～34歳の未婚者。設問「あなたの身近な状況について、おたずねします。（中略）、それぞれ右の欄のあてはまる番号1つに○をつけてください。質問項目に該当する相手がない（いなかった）場合は、5に○をつけてください。」（1. あてはまる、2. どちらかといえばあてはまる、3. どちらかといえばあてはまらない、4. あてはまらない、5. 該当しない）。設問「自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちどちらですか。」（1. いずれ結婚するつもり、2. 一生結婚するつもりはない）。図では「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を合わせて「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」を合わせて「あてはまらない」としている。

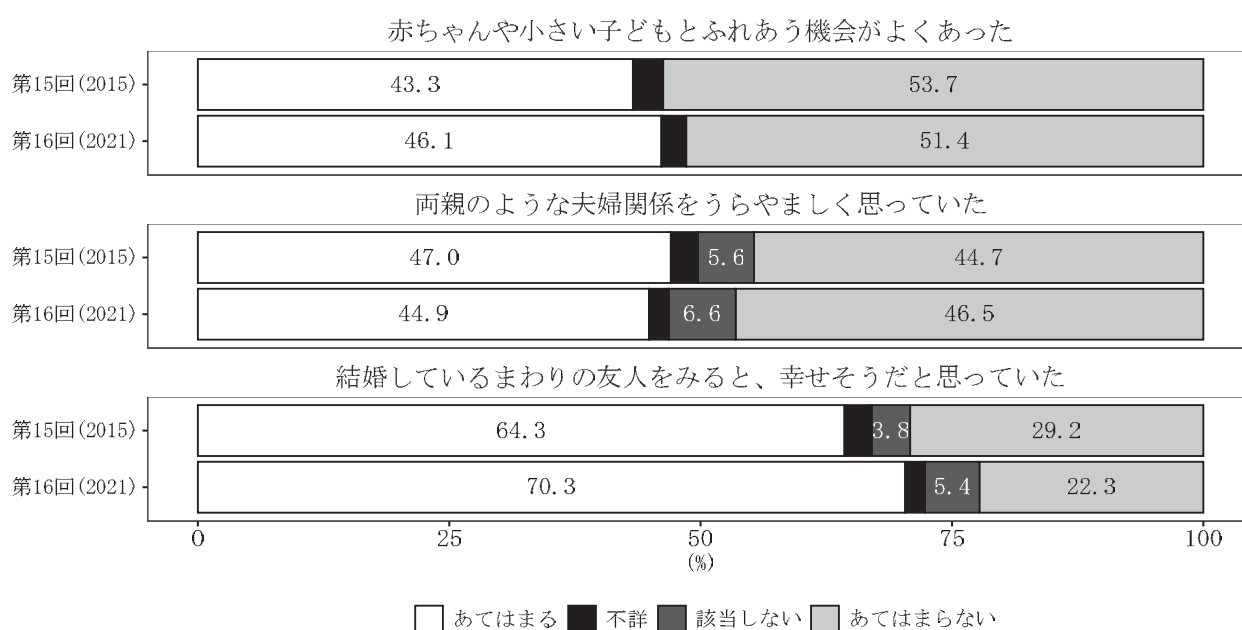
【報告書図表11-1-2 調査・子どもとのふれあい経験や周囲の結婚に対する評価別にみた、未婚者の生涯の結婚意思：第16回調査（2021年）】

11.2 妻の結婚前までの子どもとのふれあい経験・周囲の結婚に対する評価

<妻の結婚前までの子どもとのふれあい、周囲の友人の結婚への肯定的評価が増加>

夫婦の妻に、結婚以前に赤ちゃんや小さい子どもとふれあう機会があったかをたずねた。赤ちゃんや小さい子どもとふれあう機会がよくあったと答えた妻は、前回調査よりも増加し、46.1%であった。周囲の友人の結婚に対する評価も前回調査より高まっており、今回調査では妻の70.3%が「幸せそうだと思っていた」と回答している。両親のような夫婦関係をうらやましく思っていた妻は、前回からやや減少し、44.9%であった。

図表 11-2-1 調査別にみた、妻の結婚以前の子どものふれあい経験や周囲の結婚に対する評価
(結婚持続期間 10 年未満の夫婦の妻)



注：対象は結婚持続期間10年未満の初婚どうしの夫婦。第15回以前は妻の調査時年齢50歳未満、第16回は妻が50歳未満で結婚し、妻の調査時年齢55歳未満の夫婦について集計。客体数は、第15回(1,958)、第16回(1,625)。設問「あなたの結婚前までの身近な状況について、おたずねします。(中略)、それぞれ右の欄のあてはまる番号1つに○をつけてください。質問項目に該当する相手がない(いなかった)場合は、5に○をつけてください。」(1. あてはまる、2. どちらかといえばあてはまる、3. どちらかといえばあてはまらない、4. あてはまらない、5. 該当しない)。
【報告書図表11-2-1 調査別にみた、妻の結婚以前の子どものふれあい経験や周囲の結婚に対する評価(結婚持続期間10年未満の夫婦の妻)】

12 結婚・家族に関する意識

12.1 結婚・家族に関する未婚者の意識

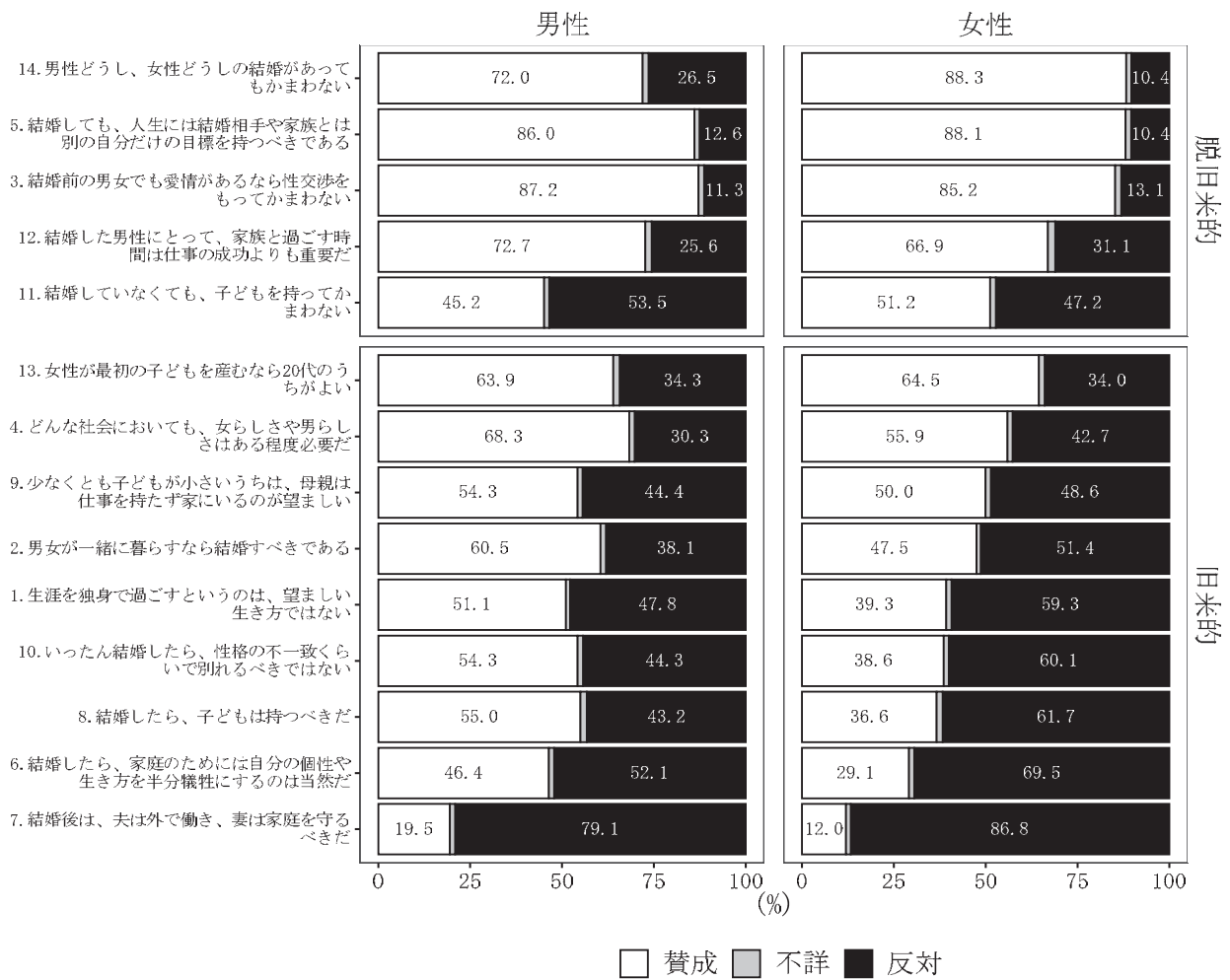
＜「結婚したら子どもを持つべき」「家庭のための自己犠牲は当然」「男性どうし、女性どうしの結婚かまわない」賛否で男女差＞

未婚者に結婚や家族、男女のあり方、働き方に関する考え方をたずねた。脱旧来的な考え（一般に過去の調査回ほど、また高い年齢で支持されにくい考え）への賛成割合をみると、「5.結婚しても、人生には結婚相手や家族とは別の自分だけの目標を持つべきである」「3.結婚前の男女でも愛情があるなら性交渉をもってかまわない」は約9割、「12.結婚した男性にとって、家族と過ごす時間は仕事の成功よりも重要だ」は7割程度、「11.結婚していなくても、子どもを持ってかまわない」では半数程度であった。

旧来的な考え（一般に過去の調査回ほど、また高い年齢で支持されやすい考え）では、「13.女性が最初の子どもを産むなら20代のうちがよい」「4.どんな社会においても、女らしさや男らしさはある程度必要だ」は男女ともに賛成が過半数を占め、「6.結婚したら、家庭のためには自分の個性や生き方を半分犠牲にするのは当然だ」「7.結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」は、男女とも反対が過半数を占めた。「9.少なくとも子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たず家にいるのが望ましい」「2.男女が一緒に暮らすなら結婚すべきである」「1.生涯を独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない」「10.いったん結婚したら、性格の不一致くらいで別れるべきではない」「8.結婚したら、子どもは持つべきだ」は賛否が二分している。

男女で大きく差がみられた項目は、「8.結婚したら、子どもは持つべきだ」「6.結婚したら、家庭のためには自分の個性や生き方を半分犠牲にするのは当然だ」「10.いったん結婚したら、性格の不一致くらいで別れるべきではない」（男性のほうが女性より賛成割合が高い）、「14.男性どうし、女性どうしの結婚があってもかまわない」（女性のほうが男性より賛成割合が高い）であった。

図表 12-1-1 結婚・家族に関する未婚者の意識：第16回調査（2021年）



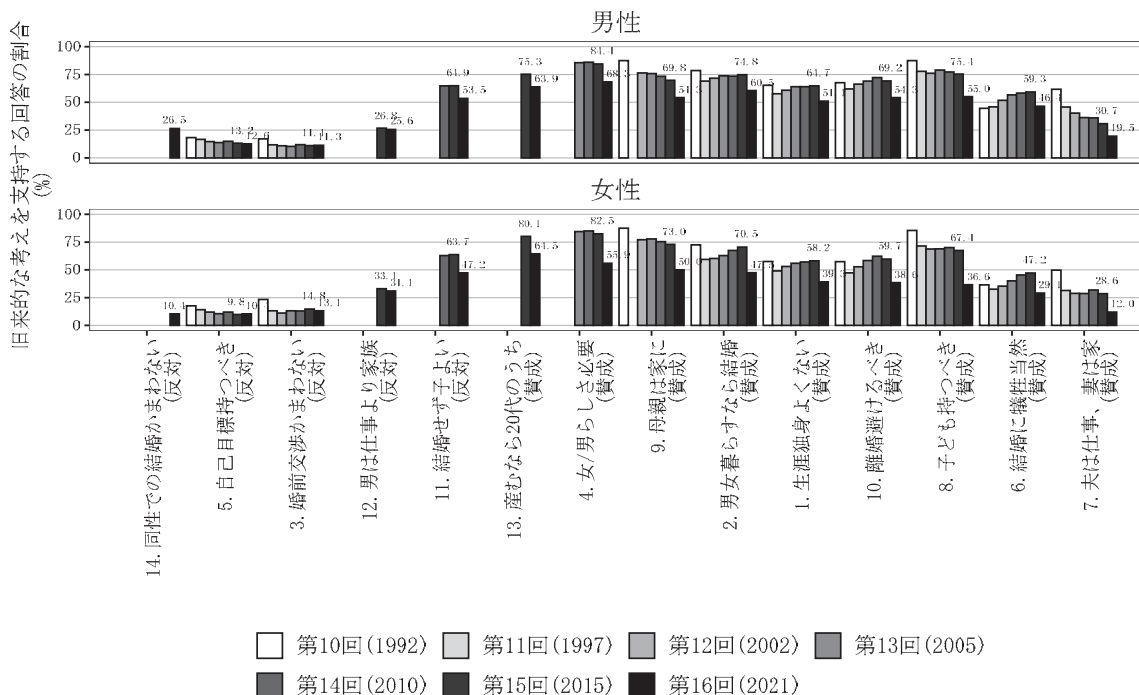
注：対象は18～34歳の未婚者。各項目の番号は、調査票において示されたもの。客体数は、男性（2,033）、女性（2,053）。ここでの「旧来的」は、一般に過去の調査回ほど、また高い年齢で支持されやすい考えであることを示している。
 【報告書図表12-1-1 結婚・家族に関する未婚者の意識：第16回調査（2021年）】

＜「結婚したら子どもを持つべき」「女らしさや男らしさは必要」への支持が低下＞

結婚や家族、男女のあり方、働き方に対する旧来的な考え（一般に過去の調査回ほど、また高い年齢で支持されやすい考え）を支持する割合の推移をみると、ほぼすべての項目で前回から支持割合が低下した。とくに「8.子ども持つべき（賛成）」は変化が大きく、女性では67.4%から36.6%に、男性では75.4%から55.0%に低下した。次に変化が大きいのは、「4.女/男らしさ必要（賛成）」で、女性では82.5%から55.0%に、男性では84.4%から68.3%に低下した。子どもを持つべきという意識、女らしさや男らしさへのこだわりが減退したといえる。

そのほかの項目では、女性では「2.男女暮らすなら結婚（賛成）」「9.母親は家に（賛成）」「10.離婚避けるべき（賛成）」で20ポイント以上、「1.生涯独身よくない（賛成）」「6.結婚に犠牲当然（賛成）」「7.夫は仕事、妻は家（賛成）」「11.結婚せず子よい（反対）」「13.産むなら20代のうち（賛成）」で15ポイント以上の支持割合の低下がみられた。男性では「9.母親は家に（賛成）」「10.離婚避けるべき（賛成）」で15ポイント以上、「2.男女暮らすなら結婚（賛成）」「1.生涯独身よくない（賛成）」「6.結婚に犠牲当然（賛成）」「11.結婚せず子よい（反対）」「7.夫は仕事、妻は家（賛成）」で10ポイント以上低下した。全体的に女性のほうが支持割合の低下幅が大きい。

図表 12-1-2 調査別にみた、結婚・家族に関する未婚者の意識（旧来的な考えを支持する割合）



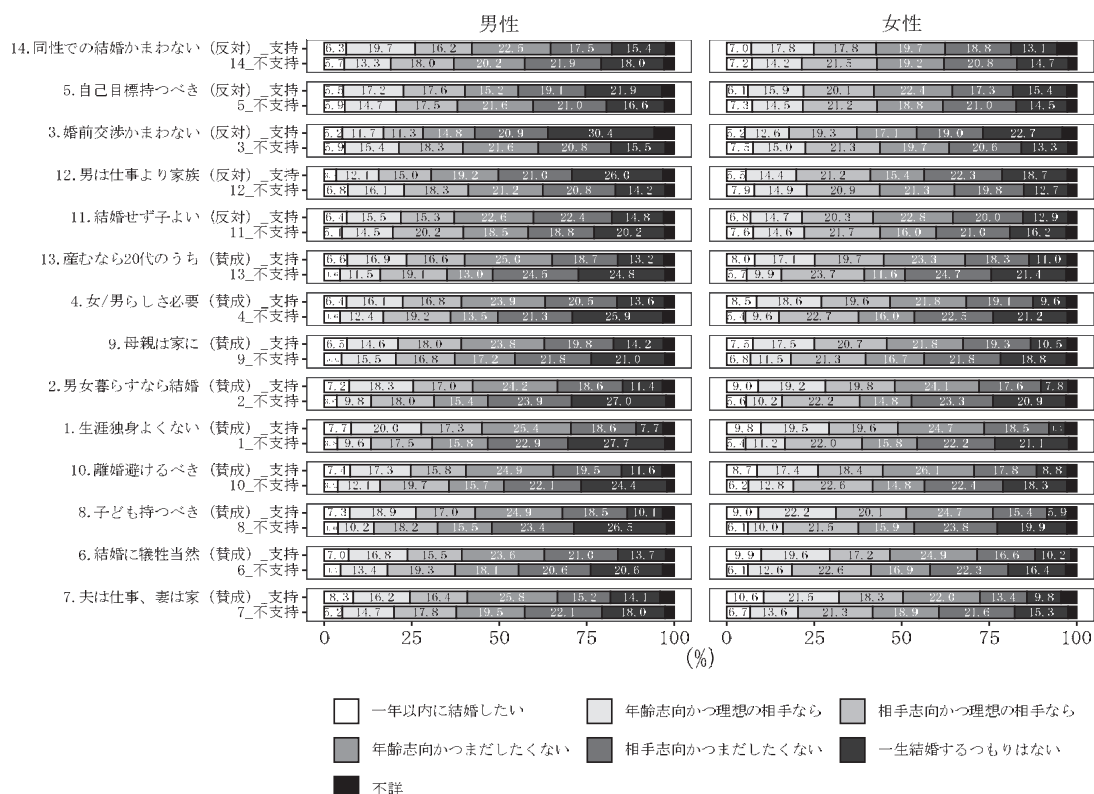
注：対象は18～34歳の未婚者。1, 2, 4, 6, 7, 8, 9, 10, 13は賛成の割合（「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計割合）を用いて、3, 5, 11, 12, 14は反対の割合（「まったく反対」と「どちらかといえば反対」の合計割合）を用いて、旧来的な考えを支持する割合として示している。ここで「旧来的」は、一般に過去の調査回ほど、また高い年齢で支持されやすい考えであることを示している。客体数は、第10回男性（4,215）、女性（3,647）、第11回男性（3,982）、女性（3,612）、第12回男性（3,897）、女性（3,494）、第13回男性（3,139）、女性（3,064）、第14回男性（3,667）、女性（3,406）、第15回男性（2,705）、女性（2,570）、第16回男性（2,033）、女性（2,053）。4は第13回調査（2005年）から、11は第14回調査（2010年）から、12, 13は第15回調査（2015年）から、14は第16回調査（2021年）から追加された。9は第11回調査（1997年）には含まれていない。図表横軸の各項目の全文は図表12-1-1を参照。

【報告書図表12-1-2 調査別にみた、結婚・家族に関する未婚者の意識（旧来的な考えを支持する割合）】

＜旧来的な考えを支持する未婚者は、結婚意欲が高い傾向＞

未婚者の結婚意欲は、結婚や家族に関する考え方によって異なるのだろうか。未婚者にたずねた結婚や家族、男女のあり方、働き方に関する考え方をもとに、未婚者を旧来的な考えを支持するグループと支持しないグループに分け、結婚意欲の高さを示す指標に違いがあるかを調べた。全般的に、旧来的な考えを支持する人は結婚意欲が高く、旧来的な考えを支持しない人は結婚意欲が低い傾向がみられる。たとえば「一生結婚するつもりはない」の割合は、男女とも「5 自己目標持つべき」、「3 婚前交渉かまわない」、「12 男性は仕事より家庭」を除くすべての項目で、旧来的な考えを支持しない人のほうが高い。「相手志向、まだしたくない」の割合も同様に旧来的な考えを支持しない人が高い。例外は、男女とも「12 男は仕事より家庭」、男性では「3 婚前交渉かまわない」、「11 結婚せず子よい」、「6 結婚に犠牲当然」であり、必ずしも旧来的とは言いえない考え方が結婚意欲の高さと結びついている。結婚意欲がもっとも高いことを示す「一年以内に結婚したい」の割合は、旧来的な考えを支持するほうで高い。例外は、他と同様、男女とも「5 自己目標持つべき」「3 婚前交渉かまわない」「12 男性は仕事より家庭」、女性については、「11 結婚せず子よい」、「14 同性での結婚かまわない」である。

図表 12-1-3 結婚・家族に関する未婚者の意識（旧来的な考えを支持するか否か）別にみた、結婚意欲の指標：第16回調査（2021年）



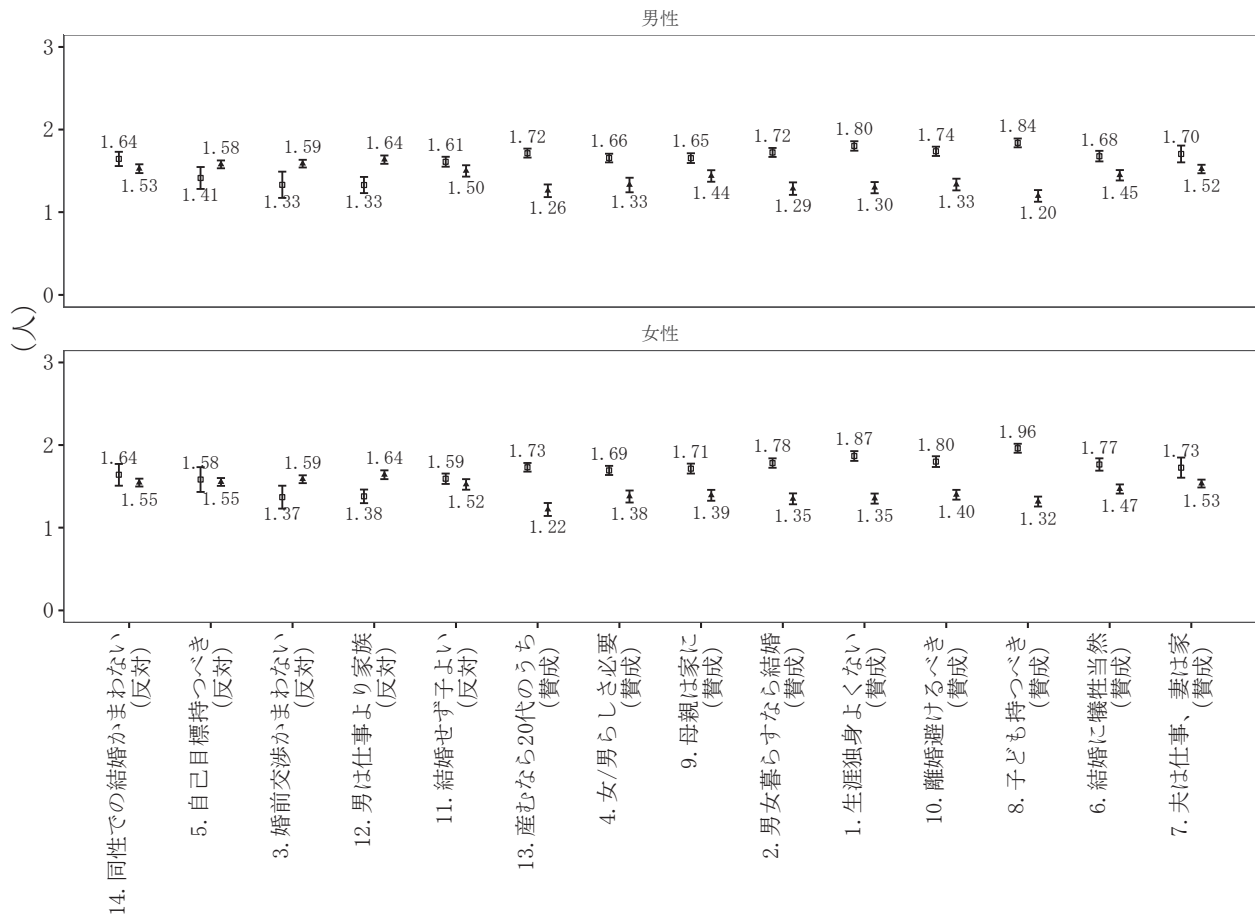
注：対象は18～34歳の未婚者。1, 2, 4, 6, 7, 8, 9, 10, 13は賛成（「まったく賛成」か「どちらかといえば賛成」）、3, 5, 11, 12, 14は反対（「まったく反対」か「どちらかといえば反対」）と答えた人を、旧来的な考えを支持する層として示している。ここでの「旧来的」は、一般に過去の調査回ほど、また高い年齢で支持されやすい考えであることを示している。客体数は、第16回男性（2,033）、女性（2,053）。図表縦軸の各項目の全文は図表12-1-1を参照。

【報告書図表12-1-3 結婚・家族に関する未婚者の意識（旧来的な考えを支持するか否か）別にみた、結婚意欲の指標：第16回調査（2021年）】

＜旧来的な考えを支持する未婚者は、希望子ども数が多い＞

ここでは、結婚や家族、男女のあり方、働き方に対するそれぞれの考え方をもとに、旧来的な考えを支持する未婚者と支持しない未婚者に分け、平均希望子ども数を比較した。おおむね、旧来的考えの支持者のほうが、希望子ども数が多く、その差は「13 産むなら20代のうち」では男性0.46、女性0.51、「8 子ども持つべき」では男性0.64、女性0.65である。子どもに直接関連のない考え方においても、「2 男女暮らすなら結婚」(男性0.44、女性0.43)、「1 生涯独身よくない」(男性0.50、女性0.51)、「10 離婚避けるべき」(男性0.40、女性0.40)で顕著な差がみられる。例外として、「14 同性での結婚かまわない」、「5 自己目標持つべき」、「3 婚前交渉かまわない」では、差が小さい、もしくは旧来的考えを支持しない方が、希望子ども数が多い。

図表 12-1-4 結婚・家族に関する未婚者の意識（旧来的な考えを支持するか否か）別にみた、平均希望子ども数：第16回調査（2021年）



◦ 支持 ◦ 不支持

注：対象は18～34歳の未婚者。平均希望子ども数は5人以上を5として算出。希望子ども数不詳を除く。図中のマーカー上のエラーバーは95%信頼区間を示している。1, 2, 4, 6, 7, 8, 9, 10, 13は賛成（「まったく賛成」か「どちらかといえば賛成」）、3, 5, 11, 12, 14は反対（「まったく反対」か「どちらかといえば反対」）と答えた人を、旧来的な考えを支持する層として示している。ここでの「旧来的」は、一般に過去の調査回ほど、また高い年齢で支持されやすい考えであることを示している。客体数は、第16回男性（2,033）、女性（2,053）。図表横軸の各項目の全文は図表12-1-1を参照。【報告書図表12-1-4 結婚・家族に関する未婚者の意識（旧来的な考えを支持するか否か）別にみた、平均希望子ども数：第16回調査（2021年）】

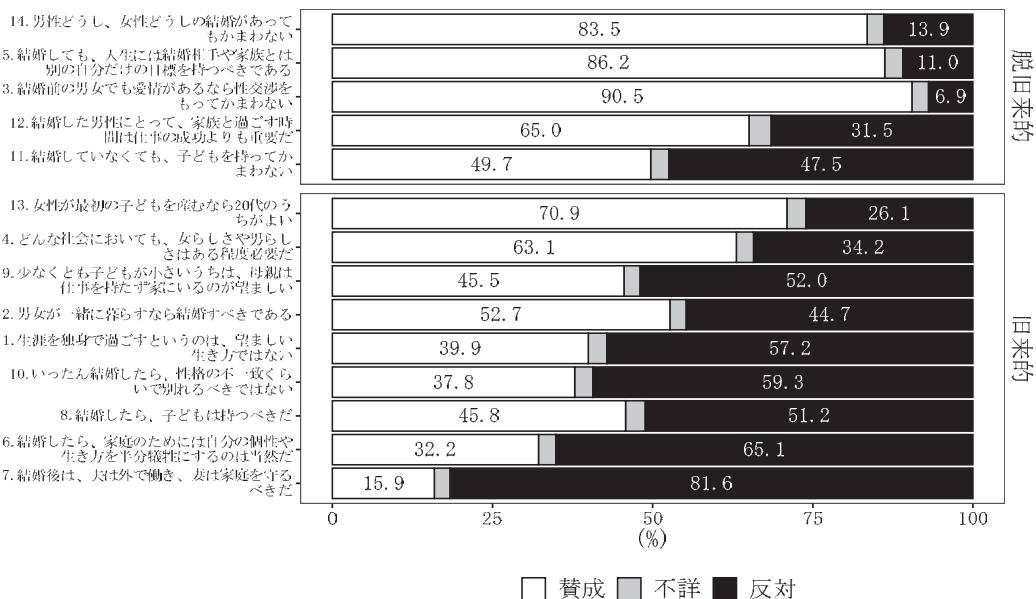
12.2 結婚・家族に関する結婚している女性の意識

<結婚している女性の65.0%が「男性は仕事の成功よりも家族」を支持>

結婚している女性（夫婦調査に回答している妻）に結婚や家族、男女のあり方や働き方に対する考えをたずねた。脱旧来的な考え（一般に過去の調査回ほど、また高い年齢で支持されにくい考え）をみると、「3.結婚前の男女でも愛情があるなら性交渉をもってかまわない」「5.結婚しても、人生には結婚相手や家族とは別の自分だけの目標を持つべきである」「14.男性どうし、女性どうしの結婚があってもかまわない」は、8割以上が支持している。「12.結婚した男性にとって、家族と過ごす時間は仕事の成功よりも重要だ」は、3人に2人が支持し（賛成65.0%）、「11.結婚していなくても、子どもを持ってかまわない」は賛否が二分している。

旧来的な考え（一般に過去の調査回ほど、また高い年齢で支持されやすい考え）をみると、賛成が多いのは「13.女性が最初の子どもの産むなら20代のうちがよい」（賛成70.9%）、「4.どんな社会においても、女らしさや男らしさはある程度必要だ」（賛成63.1%）であった。一方、反対が多いのは「7.結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」（反対81.6%）、「6.結婚したら、家庭のためには自分の個性や生き方を半分犠牲にするのは当然だ」（反対65.1%）である。また、賛否が二分しているのは「2.男女が一緒に暮らすなら結婚すべきである」（賛成52.7%、反対44.7%）、「8.結婚したら、子どもは持つべきだ」（賛成45.8%、反対51.2%）、「9.少なくとも子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たず家にいるのが望ましい」（賛成45.5%、反対52.0%）であった。また、反対がやや多いのは「1.生涯を独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない」（賛成39.9%、反対57.2%）、「10.いったん結婚したら、性格の不一致くらいで別れるべきではない」（賛成37.8%、反対59.3%）であった。

図表 12-2-1 結婚・家族に関する結婚している女性（夫婦の妻）の意識：第16回調査（2021年）



注：対象は妻の調査時年齢50歳未満の初婚どうしの夫婦。各項目の番号は、調査票において示されたものの。客体数は4,351。ここでの「旧来的」は、一般に過去の調査回ほど、また高い年齢で支持されやすい考えであることを示している。

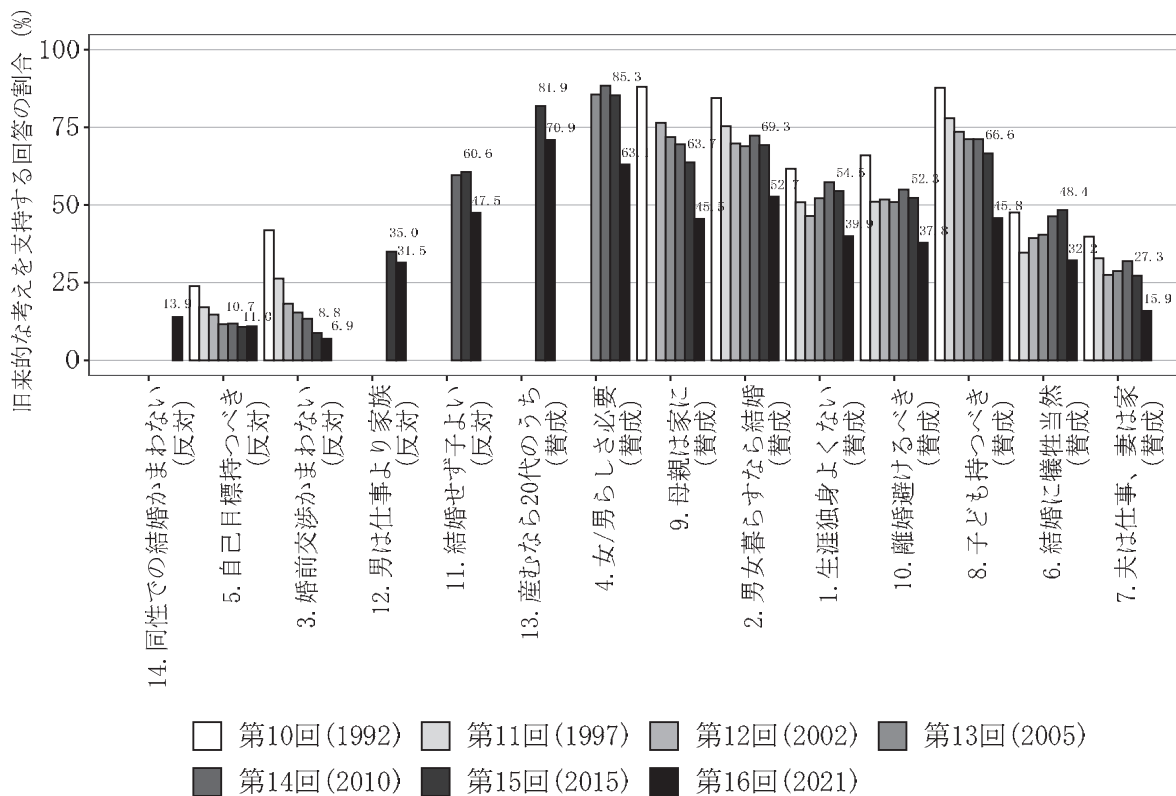
【報告書図表12-2-1 結婚・家族に関する結婚している女性（夫婦の妻）の意識：第16回調査（2021年）】

＜「女らしさや男らしさは必要」「結婚したら子どもを持つべき」と考える結婚している女性は大幅に減少＞

結婚や家族、男女のあり方、働き方に対する考え方の推移をみると、旧来的な考え（一般に過去の調査回ほど、また高い年齢で支持されやすい考え）を支持する妻の割合は、今回調査では前回に比べ全体的に低下した。前回調査からの減少幅が特に大きいのは、「4.女/男らしさ必要」への賛成割合（85.3%から 22.3 ポイント減の 63.1%）と「8.子ども持つべき」への賛成割合（66.6%から 20.8 ポイント減の 45.8%）である。

その他の項目でも、「9.母親は家に（賛成）」、「2.男女暮らすなら結婚（賛成）」、「6.結婚に犠牲当然（賛成）」で 15 ポイント以上の支持の低下、「1.生涯独身よくない（賛成）」、「10.離婚避けるべき（賛成）」、「11.結婚せず子よい（反対）」、「7.夫は仕事、妻は家（賛成）」、「13.産むなら 20 代のうち（賛成）」で 10 ポイント以上の支持の低下がみられた。

図表 12-2-2 調査別にみた、結婚・家族に関する結婚している女性（夫婦の妻）の意識（旧来的な考えを支持する割合）



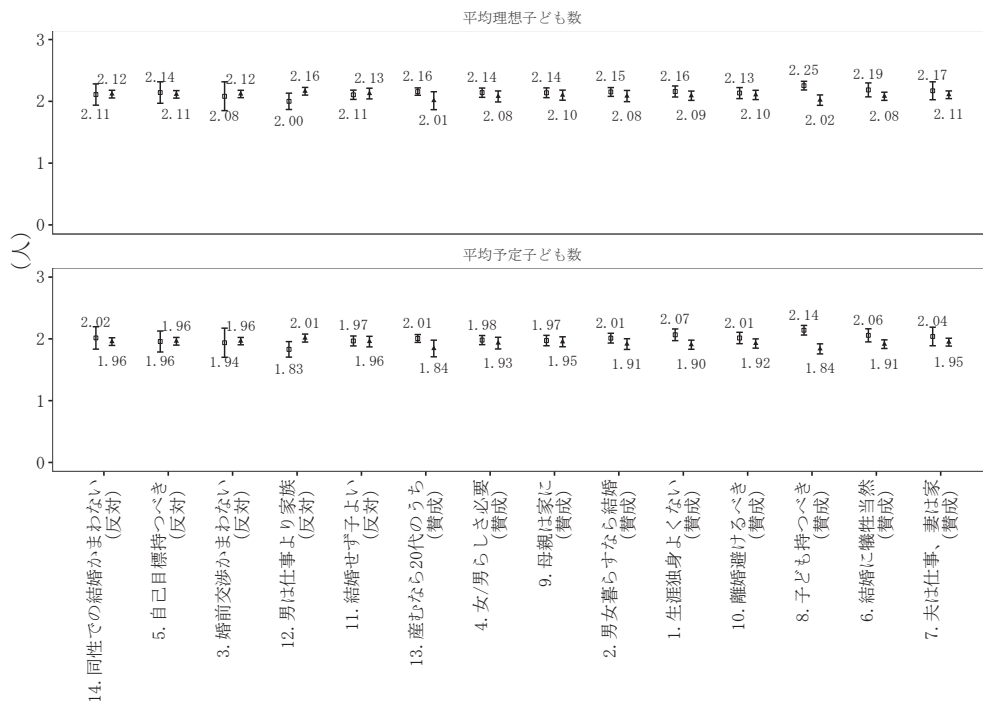
注：対象は妻の調査時年齢50歳未満の初婚どうしの夫婦。「（賛成）」は賛成の割合（「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計割合）を用いて、「（反対）」は反対の割合（「まったく反対」と「どちらかといえば反対」の合計割合）を用いて、旧来的な考えを支持する割合として示している。ここでの「旧来的」は、一般に過去の調査回ほど、また高い年齢で支持されやすい考えであることを示している。客体数は、第10回調査（8,844）、第11回調査（7,354）、第12回調査（6,949）、第13回調査（5,932）、第14回調査（6,705）、第15回調査（5,334）、第16回調査（4,351）。4は第13回調査（2005年）から、11は第14回調査（2010年）から、12,13は第15回調査（2015年）から、14は第16回調査（2021年）から追加された。9は第11回調査（1997年）には含まれていない。図表横軸の各項目の全文は図表12-2-1を参照。

【報告書図表12-2-2 調査別にみた、結婚・家族に関する結婚している女性（夫婦の妻）の意識（旧来的な考えを支持する割合）】

＜旧来的な考えを支持する結婚している女性では、理想子ども数も予定子ども数も多い傾向＞

結婚している女性（夫婦の妻）の結婚や家族、男女のあり方、働き方に対する考え方によって、理想および予定子ども数に違いがあるかを調べた。旧来的な考えを支持する女性のほうが、子どもを持つ意欲が高い傾向がみられ、その差は理想子ども数よりも予定子ども数で顕著である。子どもに関する考え方である「8 結婚したら子持つべき」に対する態度では、予定子ども数で0.30人、理想子ども数で0.23人、「13 産むなら20代のうち」に対する態度では、予定子ども数0.16人、理想子ども数0.15人ほど旧来的考えの支持者が多く、出生意欲が顕著に高い。また、「6 結婚に犠牲当然」でも、予定子ども数では0.14人、理想子ども数では0.10人の差が見られた。これらのほか、予定子ども数、理想子ども数のいずれかで0.1人以上の差があるのは、「1 生涯独身よくない」（予定0.16人）、「男女が暮らすなら結婚」（予定0.10人）である。なお、「12 男は仕事より家庭」では、この考えに賛成する、つまり旧来的な考えを支持しない妻のほうが、予定子ども数が0.18人、理想子ども数が0.16人多い。男性に仕事も家庭も求める妻のほうが、予定および理想子ども数が多いということである。

図表 12-2-3 結婚している女性（夫婦の妻）の結婚・家族に関する意識（旧来的な考えを支持するか否か）別にみた、理想・予定子ども数：第16回調査（2021年）（結婚持続期間0～4年の妻）



。支持 ・ 不支持

注：対象は、結婚持続期間5年未満で妻の調査時年齢が50歳未満の、初婚どうしの夫婦。予定子ども数は現存子ども数と追加予定子ども数の和。理想・予定子ども数不詳を除き、8人以上を8人として平均値を算出。 図中のマーカー上のエラーバーは95%信頼区間を示している。 1, 2, 4, 6, 7, 8, 9, 10, 13は賛成の割合（「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計割合）、3, 5, 11, 12, 14は反対の割合（「まったく反対」と「どちらかといえば反対」の合計割合）を、旧来的な考えを支持する割合として示している。ここで「旧来的」は、一般に過去の調査回ほど、また高い年齢で支持されやすい考えであることを示している。 客体数は705。図表横軸の各項目の全文は図表12-2-1を参照。

【報告書図表12-2-3 結婚している女性（夫婦の妻）の結婚・家族に関する意識（旧来的な考えを支持するか否か）別にみた、理想・予定子ども数：第16回調査（2021年）（結婚持続期間0～4年の妻）】

付 属 資 料
＜調査関係資料＞

2021 年社会保障・人口問題基本調査

『結婚と出産に関する全国調査』要綱

第 16 回出生動向基本調査

【調査目的】

国立社会保障・人口問題研究所は、戦前の 1940（昭和 15）年に夫婦の出生力の実態を明らかにするため、初めて出産力調査を実施した。戦後は 1952（昭和 27）年に第 2 回調査を行って以降、ほぼ 5 年毎に「出産力調査」という名称で定期的実施し、1950 年代の夫婦出生児数の急速な減少や 1970 年代半ばからの出生率低下について、その実態と要因を明らかにしてきた（第 10 回調査からは名称を「出生動向基本調査」と変更）。1982（昭和 57）年に実施された第 8 回調査からは、少子化の進行にともなって結婚動向把握の重要性が増したことから、夫婦調査に加えて独身者の結婚観・家族観などを調べる独身者調査を実施してきている。これら長年にわたる継続調査の結果として、戦後のわが国における出生動向の実態とその要因ならびに背景が明らかにされてきており、その社会的、学術的意義は高く評価されている。とりわけ、現在進行している少子化過程については、当初の晩婚化や近年の夫婦の子どもの産み方の変化など、出生力低下の要因変化をいち早く捉え、その背後にある生活状況や意識変化の姿とともに描き出しており、関連施策や見通しの策定に欠くことのできない資料となっている。

2021（令和 3）年に実施する第 16 回調査においては、大きく変化しつつある結婚ならびに夫婦の子どもの産み方の動向を見極めるとともに、その関連要因と変化メカニズムを究明することが目的である。夫婦調査においては、結婚過程と夫婦出生力の変化進展の実態が把握される。独身者調査では独身者の置かれた生活状況とともに、今後の結婚・出生行動に関わる結婚意欲・家族意識などが把握される。この調査によって新たな世代の結婚・出生行動、意識を詳細かつ正確に把握することは、関連諸施策の立案・策定に必要であるとともに、今後の日本社会を大きく左右する人口減少と人口高齢化の行方を定量的に描き出す上で欠くことができない。

【調査の対象および客体】

この調査は、全国に居住する 18 歳以上 55 歳未満の独身の男女、および妻の年齢 55 歳未満の夫婦を母集団とする標本調査である。

調査客体は、2021（令和 3）年度に実施される国民生活基礎調査の調査地区

から無作為抽出された 1,000 調査地区内に居住する妻の年齢 55 歳未満の夫婦（約 9,400 組、回答者は妻）と 18 歳以上 55 歳未満の独身の男女（約 14,000 人）である。

【調査日】

2021（令和 3）年 6 月 30 日

【おもな調査事項】

「夫婦調査」

- 1) 夫婦（およびその両親）の人口学的・社会経済的属性
- 2) 夫婦の結婚過程に関する事項
- 3) 夫婦の妊娠・出産・避妊・不妊に関する事項
- 4) 妻の就業と出産・子育てに関する事項
- 5) 保育環境・保育資源に関する事項
- 6) 妻の結婚・子ども・家族に関する意識

「独身者調査」

- 1) 独身者（および両親）の人口学的・社会経済的属性
- 2) 結婚への意欲・態度およびその背景に関する事項
- 3) パートナーシップに関する事項
- 4) ライフコースに対する考え方
- 5) 結婚・子ども・家族に関する意識

【調査の方法】

この調査は、国立社会保障・人口問題研究所が厚生労働省政策統括官（統計・情報政策、政策評価担当）、都道府県（または政令指定都市・中核市・保健所設置市・特別区）および保健所の協力を得て実施する。記入・回収は、配票自計・密封回収方式によって行う。

【調査結果の集計および公表】

国立社会保障・人口問題研究所が行い、2022（令和 4）年 8 月頃に結果概要を公表予定。

2021年社会保障・人口問題基本調査

結婚と出産に関する全国調査
(第16回出生動向基本調査)

調査の手引き

厚生労働省

 国立社会保障・人口問題研究所

〒100-0011

東京都千代田区内幸町2-2-3 日比谷国際ビル6階

電話 (03)3595-2984 内線 4477/4474/4472

<http://www.ipss.go.jp/>

まえがき

このたび、厚生労働省 国立社会保障・人口問題研究所の「第16回出生動向基本調査－結婚と出産に関する全国調査－」の実施にあたり、皆さまには、調査員としてご協力いただくことになりました。

本調査の結果は、わが国の少子化や家族変容の現状を捉えるとともに、これからの日本社会のあり方や施策を考える上で、かけがえのない資料となるものです。

調査の環境が厳しくなる中、皆さまには多くのご苦勞をおかけすることになりますが、一票一票がよりよい社会を築く礎となることを思い、私たちと共にご尽力をいただければ幸いに存じます。

お忙しい中たいへん恐縮に存じますが、皆さまのご協力を、切にお願い申し上げます。

令和3年 6月

厚生労働省
国立社会保障・人口問題研究所
所長 田辺国昭

目 次

I	調査の概要	1
1.	調査の目的	1
2.	調査の対象および客体	1
3.	調査日	2
4.	調査票の種類と主な調査事項	2
5.	調査の方法	2
6.	調査の系統	2
7.	調査結果の公表	2
II	調査実施の手順と注意	3
	業務1 調査票配布前の準備作業	3
	(1) 保健所から手渡される書類の確認	3
	(2) 単位区別世帯名簿の作成	3
	(3) 調査関係書類の調査員記入欄への記入	4
	(4) 回収用封筒、郵送提出用封筒を2つ折りにする	4
	業務2 調査対象者の確認と調査票等の配布	5
	(1) 調査世帯を訪問する	5
	(2) 調査対象者の確認を行う	6
	(3) 調査関係書類を配布する	7
	(4) 回収予定日と回収方法の確認を行う	8
	(5) 単位区別世帯名簿へ記入する	8
	業務3 調査票の回収	8
	(1) 調査票を回収する	8
	業務4 調査実施状況の取りまとめ	9
	(1) 調査票回収後の単位区別世帯名簿への記入	9
	(2) 単位区全体の実施状況を記入する	9
	業務5 調査関係資料の保健所への提出	10
	(1) 調査票の整理	10
	(2) 調査関係書類の保健所への提出	10
	【単位区別世帯名簿の記入例（うら面）】	11
	【単位区別世帯名簿の記入例（おもて面）】	12
	調査票の配布・回収時の注意事項	13
	(1) 調査への協力を難色を示す世帯への対応	13
	(2) 不在世帯への対応	13

(3) 特定の質問に回答したくないという対象者への対応	15
(4) マンション（アパート、寮、社宅）等への対応	15
(5) 調査票の内容に関して、調査員のかたが対応できない質問があったときの対応	16
(6) プライバシーの保護について	17
Ⅲ 参考資料	18
参考1 単位区別世帯名簿の調査対象外、調査(回収)不能の理由一覧	18
参考2 学校の分類	19
参考3 「おつとめの状況」の各選択肢についての具体的内容	21
参考4 年齢早見表	22
参考5 質問があった場合の応接の例	23
参考6 調査の活用事例	24
訪問予定メモ	25

I 調査の概要

1. 調査の目的

出生動向基本調査（旧称、出産力調査）は、初回を戦前の1940(昭和15)年に行い、戦後はほぼ5年おきに実施をしてきました。今年が第16回目に当たります。近年わが国では、家族のあり方や個人の生き方の変化を背景に、出生率が大幅な低下を示し、「少子化」として社会的問題となっていることは周知のとおりです。こうした傾向が今後も続けば、人口減少や人口高齢化が著しく促進されるなど、わが国の社会、経済への影響は測り知れないものがあります。

国立社会保障・人口問題研究所では、かねてよりこうした出生力変動の要因と背景を解明する努力を続けてまいりました。本調査は、日本の人々の結婚の過程ならびに夫婦の子どもの生み方、育て方などに関する科学的データをもたらすものであり、とくに夫婦出生力については、全国的動向と背景を把握するわが国で唯一の調査であることから、その実施には最大限の努力を傾けております。

今回の調査では、これまでの調査から明らかとなった夫婦の子どもの生み方の変化について観察を続けるとともに、その変化の原因を解明したり、あるいは結婚をしていない若者たちの結婚や家族に対する考え方や社会関係の実態について詳細に把握したりすることを目的としています。

調査結果は統計の形で報告書や研究資料としてまとめられ、政府において施策立案等の基礎データとして用いられるほか、自治体等においても同様の目的で活用されます。さらに、本調査から算出された各種の指標は、当研究所が定期的に公表している公的な将来推計人口（全国、地域）および世帯数将来推計（全国、地域）に不可欠のデータとして用いられており、それらの推計は、政府における厚生労働行政をはじめとした広範な分野で重要な役割を果たしております。

以上のように、たいへん重要な役割を担っている調査ですので、できるだけ正確な回答と高い回答率が得られますよう、以下の要領に従って調査の実施にご尽力いただければ幸いです。

2. 調査の対象および客体

令和3年国民生活基礎調査の1,106調査区から無作為に1,000調査区を選定し、各地区内にお住まいの以下の条件に該当する独身男女と夫婦が調査対象です。

- (1) 6月30日時点で独身で、18歳以上55歳未満（満54歳以下）の男女
（昭和41(1966)年7月生まれから平成15(2003)年6月生まれまでのかた）
- (2) 6月30日時点で妻の年齢が55歳未満（満54歳以下）の夫婦
（6月30日までに結婚生活を始めており、昭和41(1966)年7月以降に生まれた妻のかた）※妻の年齢の下限はありません。

3. 調査日

令和3（2021）年6月30日です。

4. 調査票の種類と主な調査事項

(1) 「独身の方への調査票（緑色）」

独身者の人口学的・社会経済的屬性、結婚意欲、パートナーシップ、ライフコースに対する考え、結婚・子ども・家族に関する意識

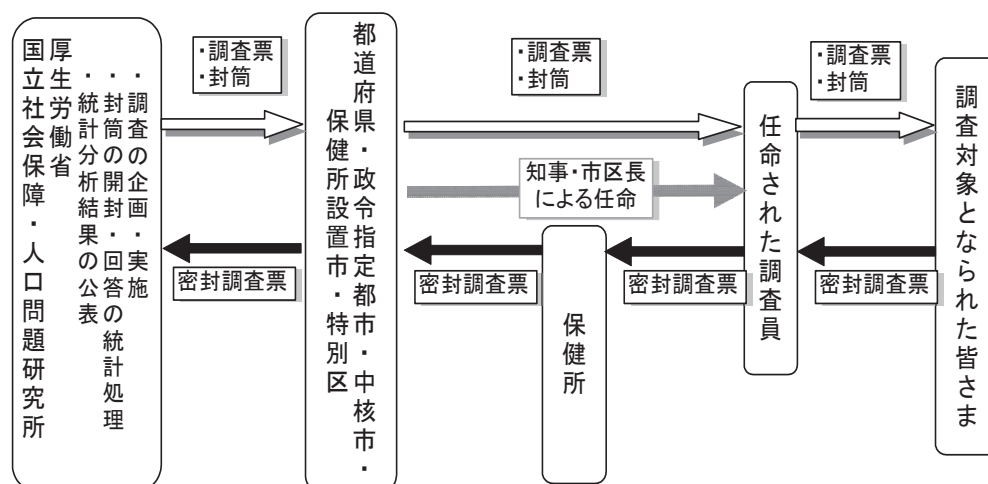
(2) 「結婚されている方への調査票（黄色）」

夫婦の人口学的・社会経済的屬性、結婚過程、妊娠・出産・避妊・不妊、妻の就業、子育て環境、結婚・子ども・家族に関する意識

5. 調査の方法

調査員が世帯を訪問して、調査対象となる世帯員がいるかどうか確認し、いる場合は調査票を配布していただきます。調査票への記入は調査対象者ご自身にしていただきます。記入済みの調査票は、対象者ご自身が所定の封筒に入れて密封します。調査員は、記入済み調査票の入った密封封筒を回収します。調査票の内容を点検する必要はありませんので、封筒は開封せずに保健所に提出します。

6. 調査の系統



7. 調査結果の公表

国立社会保険・人口問題研究所において集計を行い、その結果概要や報告書、集計表は、研究所ホームページおよび政府統計の総合窓口（e-Stat）にて、2022（令和4）年8月頃から順次公表予定です。

II 調査実施の手順と注意

【調査員の方にお願ひする業務】

業務1	調査票配布前の準備作業
------------	--------------------

(1)保健所から手渡される書類の確認

調査実施に必要な関係書類を保健所から受け取り、不足がないか確認します。

- ① 調査員証 …………… 1部
- ② 調査の手引き …………… 1部
- ③ 国民生活基礎調査の単位区別世帯名簿の写し …………… 1単位区につき1部
- ④ 本調査の単位区別世帯名簿（未記入） …………… 1単位区につき1部
- ⑤ 単位区要図の写し …………… 1単位区につき1部
- ⑥ 調査ご協力のお願ひ …………… 担当地区に応じた部数
- ⑦ 調査票（独身の方への調査票）（緑色） …………… 同上
- ⑧ 調査票（結婚されている方への調査票）（黄色） …………… 同上
- ⑨ 密封回収用封筒（独身の方への調査票）（緑色） …………… 同上
- ⑩ 密封回収用封筒（結婚されている方への調査票）（黄色） …………… 同上
- ⑪ 連絡メモ …………… 担当地区の世帯数に応じた部数
- ⑫ 連絡メモ用封筒（茶色） …………… 同上
- ⑬ 調査対象者への謝礼品 …………… 担当地区に応じた個数
- ⑭ 郵送提出用封筒（茶色） …………… 担当地区に応じた部数
- ⑮ 郵送提出のお願ひ …………… 同上
- ⑯ 調査関係資料配布用封筒（オレンジ色） …………… 担当地区に応じた部数
- ⑰ マンション管理組合用パンフレット …………… 1調査区につき3部
- ⑱ ポスター …………… 1調査区につき3部
- ⑲ 調査関係書類携行袋 …………… 1部

(2)単位区別世帯名簿の作成

- ①保健所から受け取った「単位区別世帯名簿の写し（令和3(2021)年国民生活基礎調査（世帯票）の名簿の写し）」から、すでに記入済みの(1)世帯番号、(2)世帯主氏名、(3)世帯員数、(4)まかない付きの寮等の欄を切り取り、第16回出生動向基本調査の「単位区別世帯名簿」の同欄に、そのまま貼りつけてください。
手書きで転記してもかまいませんが、世帯番号がずれないように、国民生活基礎

調査実施時に調査対象外になった世帯を含めてそのまま転記してください。

⇒11 ページ参照

②「単位区別世帯名簿」のおもて・うらの両面にある「地区番号・単位区番号」欄に担当地区の番号を記入します。そして、おもて面にある「調査地（都道府県・市区町村名）」、「保健所名」、「調査員氏名」の各欄に必要な事項を記入します。

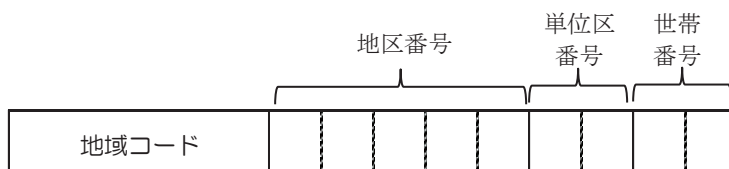
⇒11・12 ページ参照

③ひとつの単位区の世帯数が30世帯を超える場合は「単位区別世帯名簿」が複数必要になります。貼り付け（または転記）後、名簿おもて面にある「（ ）枚のうち（ ）枚目」の欄も記入してください。

(3)調査関係書類の調査員記入欄への記入

①保健所から受け取った独身者調査票とその密封回収用封筒（緑色）、夫婦調査票とその密封回収用封筒（黄色）、郵送提出用封筒（茶色）、調査関係資料配布用封筒（オレンジ色）の調査員記入欄にもれなく記入します。「地域コード」欄は最初の7桁（地区番号(5桁)+単位区番号(2桁)）を記入します。最後の2桁（世帯番号）は、調査票配布時に世帯名簿を参照して記入します。

※地域コードは非常に重要な情報ですので、必ず世帯への配布前に地区番号、単位区番号をもれなく記入しておきます。



②「調査ご協力をお願い」「連絡メモ」「連絡メモ用封筒」「マンション管理組合用パンフレット」「郵送提出のお願い」「ポスター」「調査関係資料配布用封筒」の「お問い合わせ先」に保健所名とその連絡先が記入されているか確認し、未記入の場合は記入してください。

(4)回収用封筒、郵送提出用封筒を2つ折りにする

回収用封筒（緑色・黄色）と郵送提出用封筒（茶色）は、調査関係資料配布用封筒（オレンジ色）に入れやすいように、二つ折りにしておきます。

(1)調査世帯を訪問する

保健所から受領した調査関係書類（⇒3 ページ参照）を調査関係書類携行袋に入れ、「単位区別世帯名簿」「単位区要図」にもとづいて、調査地区の世帯を訪問します。国民生活基礎調査で調査協力が得られなかった世帯についても、訪問していただきますようお願いいたします。

（訪問時の注意点）

- ・ 国民生活基礎調査後に、転入等により「単位区別世帯名簿」や「単位区要図」に記載されていない世帯があった場合は、その世帯も訪問し、「単位区別世帯名簿」の最後（空いている欄）に追加記載します。転入世帯については、備考欄に「転入」と記入してください。⇒11 ページ参照
 - ・ 国民生活基礎調査後に転居した世帯や、長期不在となった世帯があった場合は、調査対象外とし、「単位区別世帯名簿」の該当世帯欄に二重線を引いてください。⇒11 ページ参照
 - ・ 国民生活基礎調査で調査対象外となった世帯（単位区別世帯名簿で最初から二重線が引かれている世帯）は、転居か長期不在が理由です。このうち、転居理由の世帯については、新しい世帯が転入していないか確認してください。転入が判明した場合は訪問し、「単位区別世帯名簿」の最後（空いている欄）に追加記載して、備考欄に「転入」と記入してください。⇒11 ページ参照
 - ・ 国民生活基礎調査で一時不在・面接不能となった世帯や、世帯主氏名に一本線の抹消線が引かれている世帯（回収不能、拒否、外国人、その他）は、必ず再度訪問し、本調査へのご協力をお願いしてください。
 - ・ 留守の世帯については、「連絡メモ」の活用により、円滑に配布を進めていただきますようお願いいたします。できるだけ回収率を高めるよう、不在世帯にはできる限り再訪問していただくなど、格別のご尽力をお願いいたします。なお、「連絡メモ」は、個人情報保護のため、「連絡メモ用封筒」に入れて世帯の郵便受け等に残すようにしてください。
- 調査実施にあたっては、巻末の「訪問予定メモ」をご活用ください。
 - 3回訪問しても一度も面接ができなかった世帯は、担当地区内の配布・回収の目処がついた段階で、可能な範囲で郵送回収に切替えます。⇒14 ページ参照

(2)調査対象者の確認を行う

世帯を訪問したら、まず、調査員証を提示して自己紹介と訪問理由の説明を行います。この際、感染予防のため直接対面してのご説明が適切でない場合は、非接触とするために玄関やインターホン越しでのご説明でもかまいません。

次に、調査対象者の確認を行います。**この調査で対象となるのは、独身者、夫婦それぞれについて、次のA、Bの条件の両方を満たす方々**です。世帯を訪問したら、各世帯にこれらの条件を満たす独身者や夫婦がいるかどうかを確認し、いる場合には、独身者が何人いるか、夫婦が何組いるかを確認してください。**年齢・配偶関係とも、調査日である6月30日時点の状況**で判断してください。

独身者調査の対象者

- A. 6月30日時点で、独身（離別、死別を含む）であると調査対象者みずからが認めている場合（婚姻届け出の有無や訪問時の同別居について別途確認する必要はありません）
- B. 6月30日時点で、18歳以上（18歳を含む）55歳未満（満54歳以下）である場合（昭和41（1966）年7月生まれ～平成15（2003）年6月生まれ）

夫婦調査の対象者

- A. 6月30日時点で、夫婦である（結婚している状態である）と調査対象者みずからが認めている場合（婚姻届け出の有無や訪問時の同別居について別途確認する必要はありません）
- B. 6月30日時点で、妻の年齢が55歳未満（満54歳以下）である場合（昭和41（1966）年7月生まれ～）

※夫の年齢は何歳でもかまいません。また、妻の年齢に下限はありません。

- 年齢確認の際は、「参考4 年齢早見表」をご活用ください。 ⇒22 ページ

【調査対象者かどうかの確認におけるその他の注意事項】

① 調査対象者が外国人の場合

この調査では、調査対象者の国籍は問いません。対象者が日本人でない場合も配布してください。ただし、対象者が日本語の理解に困難があり、調査票への回答は難しいと判断した場合は配布せず、単位区別世帯名簿の(10)又は(15)欄に「⑧」（外国人のため調査不能）と記入してください。 ⇒11 ページ参照

② 調査対象者が『21世紀出生児縦断調査』または『21世紀成年者縦断調査』の調査対象者である場合（調査重複）

調査対象者が、厚生労働省が2001年から実施している『21世紀出生児縦断調査』または『21世紀成年者縦断調査』の調査対象者であるとおっしゃる場合には、

調査票を配布しません（回答負担の軽減措置です）。

この理由により本調査の調査対象外となる場合には、単位別世帯名簿の(10)又は(15)欄に「③」（調査重複）と記入してください。

⇒11 ページ参照

③夫婦のうち妻または夫のみ居住している場合

夫婦であると自己申告されているケースで、調査票の配布・回収の全期間にわたって夫不在で妻のみが対象世帯に住んでいる場合は、結婚されている方への調査票を配布してください。

逆に、調査全期間にわたって妻不在で夫のみが対象世帯に住んでおり、妻本人が調査票に回答できない場合は、調査票は配布しません（夫婦票は妻が記入することとなっているため）。

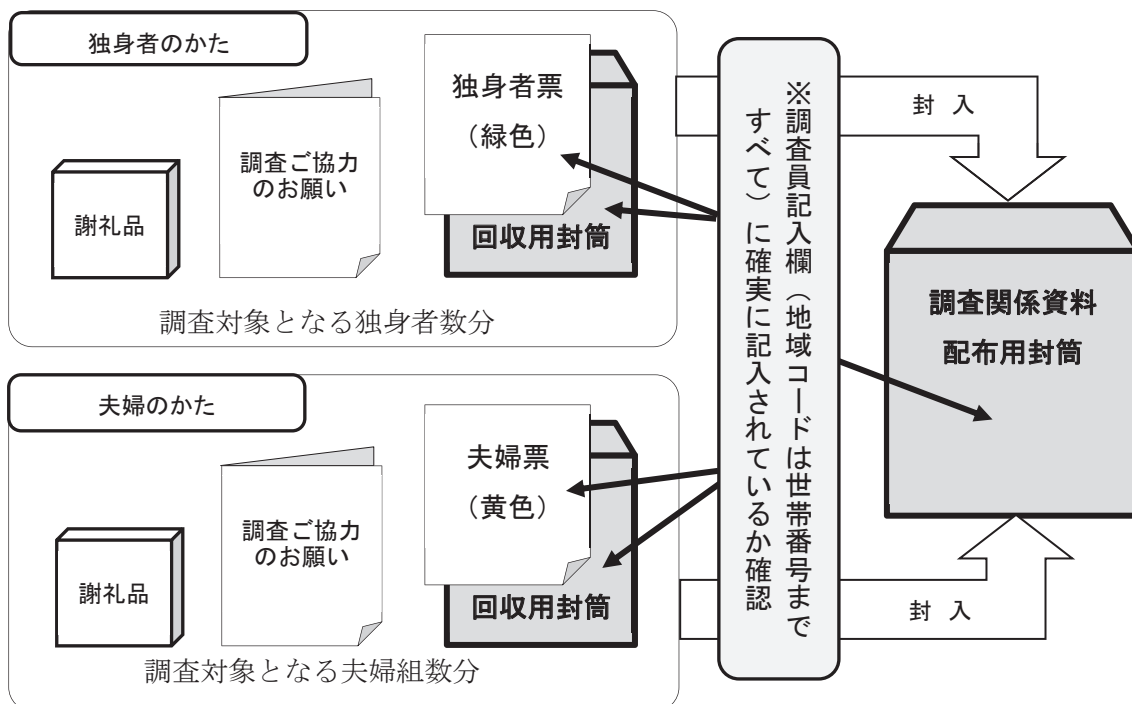
この理由により本調査の調査対象外となる場合には、単位別世帯名簿の(10)又は(15)欄に「④」（夫のみ）と記入してください。

⇒11 ページ参照

(3)調査関係書類を配布する

調査対象者のいる世帯に、調査の趣旨を丁寧にご説明して、協力していただけるようお願いしてください。本調査は統計目的以外には使用しないこと、統計法の規定で公益性のある統計作成以外には調査結果を利用することはできないこと、プライバシーは厳重に保護されることも、一通りご説明ください。

そのうえで、以下の通り調査関係書類をお渡しします。このとき、**調査票と密封回収用封筒の地域コード欄に世帯番号（最後の2桁）を必ず記入するとともに、調査員記入欄にもれなく必要事項が記入されているか確認**します。



(4)回収予定日と回収方法の確認を行う

調査票の回収予定日を調査対象者に知らせ、調査対象者の都合がつかない場合には、回収方法を打ち合わせていただくようお願いいたします。**回答が終わった調査票は、調査対象者ご自身が回収用封筒に入れ、シールをはがして密封するよう**にお願いしてください。

- 回収に関して、調査対象者から、郵送ならば回答に協力する等、郵送提出に強いご希望があった場合には、郵送回収に切替えます。

⇒13 ページ参照

(5)単位別世帯名簿へ記入する

(2)で確認した、調査対象となる独身者数または夫婦組数を「単位別世帯名簿」の(6)、(11)欄（独身者数、夫婦組数）に記入します。**対象となる独身者または夫婦がいない場合は、空欄にせず、必ず0（ゼロ）を記入**してください。

対象となる独身者／夫婦がいた世帯については、(7)・(12)欄（配布数）に、調査票の配布数を記入してください。

※対象者がいる世帯の人に会えたが、配布できなかった場合は、配布数0（ゼロ）と記入し、(10)又は(15)欄に調査不能の理由番号を記入します。

⇒18 ページ参照

※3回訪問しても世帯の人に会えなかった（面接不能）の場合は、(5)欄に訪問回数を記入し、(10)および(15)欄に「⑤」または「⑥」の該当する番号を記入します。

業務3 調査票の回収

(1)調査票を回収する

回収予定日に、再び調査対象世帯を訪ねて調査票を回収してください。

本調査のような無作為抽出調査は小さな標本規模に基づいて全国の動向を把握しようとするものですから、回収率の高さが決め手になります。一度で回収できなかった場合は、再訪問していただき、できるだけ回収率を高めるようご協力をお願いします。

なお、感染予防のため手渡しでの回収が適切でない場合は、世帯の郵便受け等を介した回収も一つの手段となります。ただし、この場合は、第三者による持ち

去りを防止するため、「インターホン越しに在宅を確認して、その場で郵便受け等に入れていただいて回収する」という方法に限り行っていただきますようお願いいたします。

- 3回訪問しても不在等で回収ができなかった場合は、郵送回収に切替えます。

⇒13 ページ参照

業務4 調査実施状況の取りまとめ

(1)調査票回収後の単位区別世帯名簿への記入

⇒11 ページ参照

- ①単位区内のすべての調査票が回収されましたら、単位区別世帯名簿の(5)欄に訪問回数、(8)または(13)欄に回収数を記入してください。
- ②不在等で回収できず、郵送回収に切替えた場合は、回収数の欄には数字を記入せず、(10)又は(15)欄に「⑦」(回収不能)を記入し、(9)又は(14)欄(郵送切替)に必ず「○」をつけてください。
- ③対象者のご希望により郵送回収に切替えた場合は、回収数の欄には数字を記入せず、(10)又は(15)欄に「⑩」(郵送提出を希望)を記入し、(9)又は(14)欄(郵送切替)に必ず「○」をつけてください。
- ④面接不能世帯のうち、調査関係資料をポストイングした世帯については、回収数の欄には数字を記入せず、(10)又は(15)欄に「⑥」(面接不能)を記入し、(9)又は(14)欄(郵送切替)に必ず「○」をつけてください。ポストイングしなかった世帯は、(10)又は(15)欄に「⑥」を記入するだけで、郵送切替欄に○はつけません。
- ④最後に、世帯名簿の最下行に、各事項の合計数をご記入ください。

(2)単位区全体の実施状況を記入する

単位区別世帯名簿のおもて面下部の「単位区全体の実施状況」欄に最終的な回収状況を記入します。 ⇒12 ページ参照

その際、裏面の世帯名簿で(8)または(13)欄の合計回収数に記載した数と、実際に回収した密封封筒の数が一致することを確認してください。

なお、単位区別世帯名簿が複数枚ある場合(単位区内の世帯数が31世帯以上ある場合)は、左上をホッチキスで留めて、まとめてください。

※調査票の回答状況を点検していただく必要はありませんので、回収した封筒は開封せず、密封のまま保健所に提出してください。封がされていない状態で回収してしまった封筒があった場合は、その中に調査票が入っていることを確認してから、調査員の方が密封をしてください。

業務5	調査関係資料の保健所への提出
------------	-----------------------

(1)調査票の整理

密封された回収用封筒に入った調査票を、独身者票（緑色の封筒）、夫婦票（黄色の封筒）のそれぞれについて、単位区番号ごとに世帯番号の小さい順に並べてまとめます。

(2)調査関係書類の保健所への提出

「単位区別世帯名簿」、「単位区要図」の写し、および密封された回収用封筒に入った「調査票」は、所定の期日までに、一括して保健所に提出してください。

同時に、調査員証、調査員証用ケース、調査票等携行袋、使用しなかった調査関係書類は、保健所に返納してください。

【単位別世帯名簿の記入例(うら面)】

第16回出生動向基本調査 単位別世帯名簿

地区番号	1 3 0 0 9	単位区番号	0 1
------	-----------	-------	-----

「(10)/(15) 欄」に、調査対象外は①～④、調査(回収)不能は⑤～⑩の番号を記入します。
 調査対象外…①転居、②長期不在(おおむね3ヶ月以上)・死亡、③調査重複、④夫のみ
 調査(回収)不能…⑤一時不在、⑥面接不能、⑦回収不能、⑧外国人のため調査不能、⑨拒否、
 ⑩郵送提出を希望、⑪その他

(1) 世帯 番号	(2) 世帯主氏名	(3) 世帯員数 (人)	(4) まかない 付きの 寮 等	(5) 訪問回数 (回)	【18～55歳未満の独身者】					【妻が55歳未満の夫婦】					(16) 備 考
					(6) 対象 独身 者数	(7) 配布数	(8) 回収数	(9) 郵送 切替 ※	(10) 調査対象外、 調査(回収) 不能の理由	(11) 対象 夫婦 組数	(12) 配布数	(13) 回収数	(14) 郵送 切替 ※	(15) 調査対象外、 調査(回収) 不能の理由	
記入例	社人 研子	1		3	1	1		○	⑦	0					「(10)/(15)欄」が「⑦、⑩」の場合、及び「⑧」のうちポスト テイングした場合は「(9)(14)欄」に「○」をします。
01	河田 一郎	4		2	1	1	1			0					独身者のみ調査 重複
02	春日 武雄	5		1	1	0			③	1	1	1			夫婦のみ拒否
03	柳町 四朗	3		2	1	1	1			1	0			⑨	
04	神楽 実	3		3	1	1	1			1	1	1			
05	四谷 美奈子	1		0	0	0	0			0					
06	目黒 清	7		0	0	0	0			1	1	1			
07	三田 洋子	2							①						① 転居
08	神保	4		3					⑥						⑥ 面接不能
09	田中 昌平	1		1	0					0					
10	坂上 浩志	4		2	2	2	1	○	⑦	1	1	1			独身1票回収不 能⇒郵送切替
11	ジョン・テラー	3		1	1	0			⑧	1	0				⑧ 外国人のため調 査不能
12	岡本 雅俊	2		1	0					0					
13	伊藤 ひろみ	1	○	3	1	1	1			0					
14	石田 博行	6		2	2	2	2			1	1	1			
15	山田 秀樹	4		1	0					1	0				④ 夫のみ
16	宮本 孝敏	5		2	2	2	2			1	1	1			
17	藤崎 雄一	2		1	0					0					
18	梁瀬 則和	3		5	1	1	0	○	⑦	1	1	0	○	⑦	⑦ 回収不能
19	加藤 慶子	1		1					②						② 長期不在
20	西田 京子	4		3	1	1	1			1	1	1			転入
21															
合計					1	40	16	14	12	2	11	8	7	1	

※ 郵送回収に切替えるのは、郵送提出したいと希望した対象者、回収不能の対象者、及び調査関係資料の残部がありポストインできた面接不能世帯です。

国民生活基礎調査(世帯票)の「単位別世帯名簿」の写しを貼り付ける

最初から二重線が引かれている世帯(国民生活基礎調査で調査対象外となった世帯)は、新しい世帯が転居してきていないか確認し、いることが判明した場合は、名簿の一番後ろの空欄に記入してください。

再三訪問しても回収できない場合は、郵送切替欄に○をして調査書類を郵便受けに投函してください。

最初から一重線が引かれている世帯も、再度訪問して調査へのご協力をお願いしてください。

【破線内の記入は例であり、実際には記入不要です】
 記入例のため、調査対象外・調査(回収)不能の理由を記載していますが、実際は、(10)又は(15)欄に該当する番号を記入するだけで結構です。備考欄は、該当番号がない場合に理由を記入したり、アパート・寮などの名称、管理員の有無の状況など、調査を進めるうえで参考となる事柄を記入したりする際にお使いください。
 新たに、①転居又は②長期不在と判明した世帯は、(2)世帯主氏名欄に二重抹消線を引きます。

【単位区別世帯名簿の記入例(おもて面)】

2021年社会保障・人口問題基本調査
結婚と出産に関する全国調査（第16回出生動向基本調査）
単位区別世帯名簿

◎黒のボールペンで記入してください。

地区番号	1	3	0	0	9	単位区番号	0	1
------	---	---	---	---	---	-------	---	---

() 枚のうち () 枚目

東京 都道府県 市郡 千代田 区町村
 保健所名 千代田保健所 調査員氏名 社人 研太郎

【記入の際の注意点】

- 1 「(1)、(2)、(3)、(4)」欄は、「令和2年国民生活基礎調査・世帯票」の「単位区別世帯名簿」から記入済みの内容を複写して貼り付けること（転記しても可）。
- 2 「(5)」欄は、調査票配布時からの世帯への訪問回数を記入すること。
- 3 「(6)」欄の18～55歳未満の独身者数、「(11)」欄の妻が55歳未満の夫婦組数は、その世帯に該当者がいない場合、必ず「0(ゼロ)」を記入すること。
- 4 「(9)」及び「(14)」欄は、回収不能の場合や、郵送提出の希望申し出により郵送回収へ切替えた場合、さらに面接不能世帯のうち調査関係資料をポストインして郵送回収へ切替えた場合に、○印を記入すること。
- 5 「(10)」及び「(15)」欄は、調査対象外、調査(回収)不能となった世帯について、その理由を該当する番号で記入すること。該当番号がない理由が判明した場合は、備考欄にその理由を具体的に記入すること。
- 6 「(16)」の備考欄は、上記5のような特殊理由の記載のほか、アパート・寮などの名称、管理員の有無等の状況など、調査を進めるうえで参考となる事柄がある場合に使用すること。

< 単位区全体の実施状況 > ※ この単位区のすべての調査票を回収したあとに記入

	独身者票	夫婦票
単位区内の世帯数	(20) 世帯	
調査対象独身者数／夫婦組数	16 人	11 組
調査票配布数 ^{※1}	14 部	8 部
調査票回収数 ^{※2}	12 部	7 部
郵送に切替えた調査票数	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有→ 2 世帯	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有→ 1 世帯

※1 対象者数を確認して渡した調査票の枚数を記入すること。面接不能世帯への配布分はカウントしない。

※2 実際に調査票を回収した夫婦や独身者の調査票の部数を記入すること（郵送切替分はカウントしない）。

備考

調査票の配布・回収時の注意事項

(1)調査への協力を難色を示す世帯への対応

調査に当たっては、さまざまな誤解から、はじめは調査協力への理解を得られにくいことがあるかもしれません。このような場合は、世帯の人の話をよく聞くなどして問題点を整理し、説得に努めます。

どうしても理解が得られない場合は、この手引の裏表紙「連絡先」に連絡し状況を説明して、保健所からの指示を受けます。その後、保健所からの指示に従い、再依頼・配布・回収等を行います。

【郵送による提出なら協力すると言われたとき】

調査票配布のために世帯を訪問した際に、感染予防の観点から調査員との接触を減らしたい、郵送で提出できるなら協力するなどの申し出が強くあった場合は、郵送を希望した対象者数と同数の「郵送提出のお願い」と「郵送提出用封筒」をその場でお渡ししてください。

このとき、単位区別世帯名簿の(9)または(14)の「**郵送切替**」欄に必ず「○」を記入し、(10)または(15)の理由欄に「⑩」（郵送提出を希望）を記入してください。

(2)不在世帯への対応

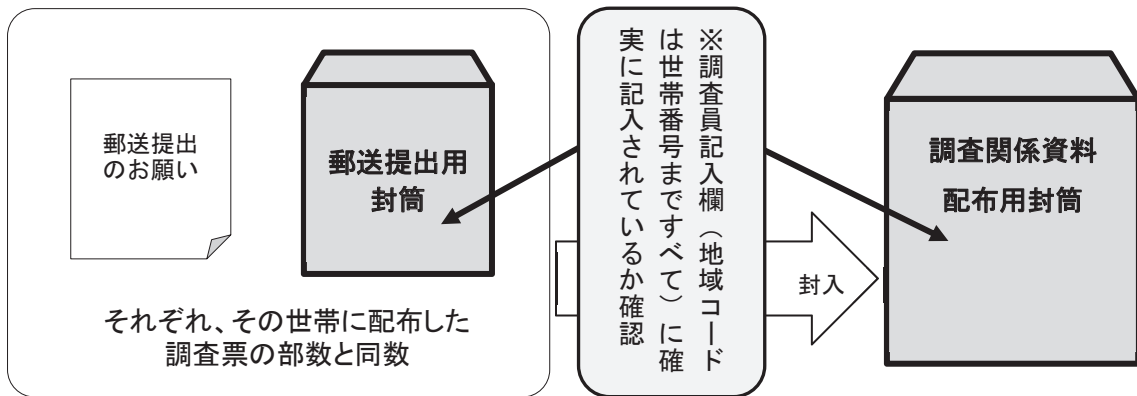
調査票配布・回収時に不在の世帯があった場合、「連絡メモ」を用いたり、訪問時間帯を変えたりして再訪問し、世帯の人に直接会って調査するようにしてください。「連絡メモ」には、再訪問予定日時のほか、世帯の人に伝えておきたい事柄などのメモを書き添え、「連絡メモ用封筒」に入れて世帯の郵便受け等に残すようにしてください。

【3回訪問しても調査票を回収できなかったとき】

世帯の人に会って調査票の配布したあと、3回訪問しても不在等で回答済み調査票を回収できなかった場合は、郵送回収へ切替え、次ページに示した調査関係書類を世帯の郵便受け等に投函します。

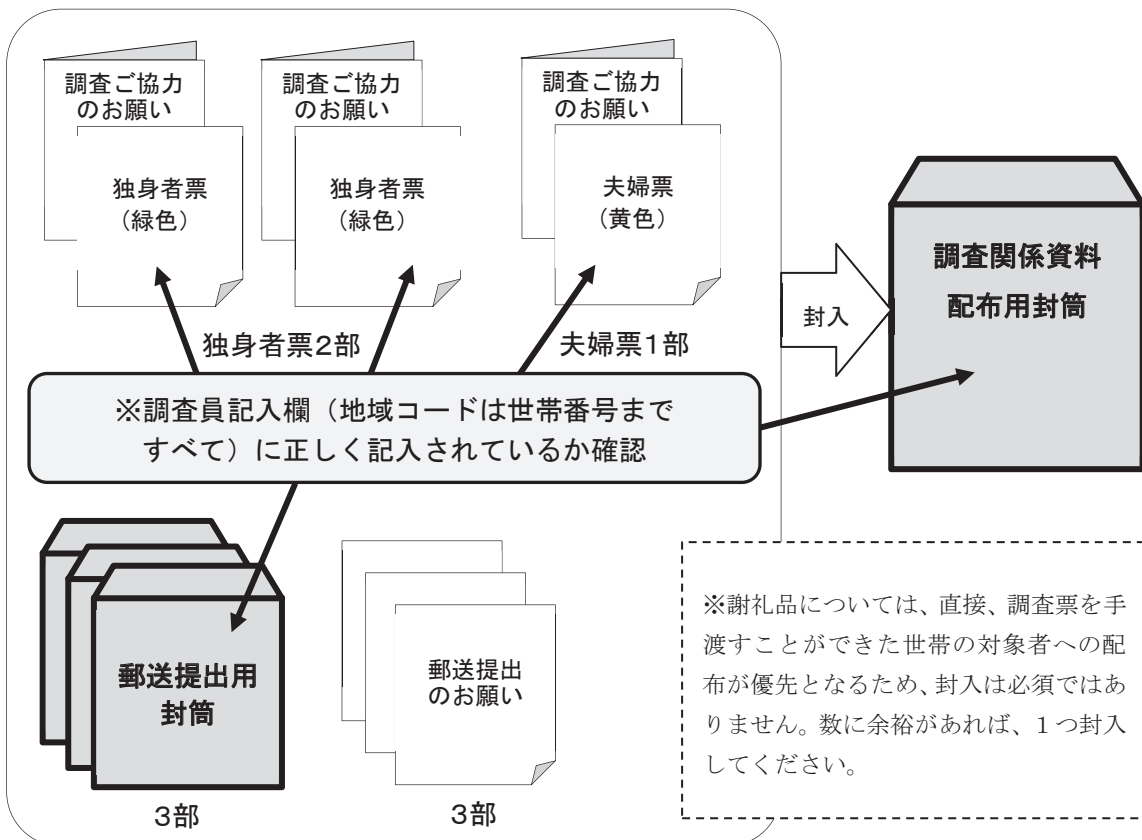
このとき、単位区別世帯名簿の(9)または(14)の「**郵送切替**」欄に必ず「○」を記入し、(10)または(15)の理由欄に「⑦」（回収不能）を記入してください。

<3回訪問しても調査票を回収できなかったときの追加配布書類>



【3回訪問しても世帯の人に会えなかったとき(面接不能世帯)】

連絡メモを用いたり、訪問する時間帯を変えたりして3回訪問しても世帯の人に会えなかった「面接不能」の世帯については、他の面接できた世帯への配布・回収に目処がついた段階で、調査票等の残部があれば『調査関係資料配布用封筒』に以下のものを入れて、世帯の郵便受け等に配布（ポストイング）します。残部が少なく、すべての面接不能世帯に配布できない場合は、住宅等の状況から対象者がいる可能性が高そうな世帯に優先してポストイングをしてください。



(3)特定の質問に回答したくないという対象者への対応

本来、すべての質問項目について答えていただくのが理想ですが、「答えたくない質問がある」という方には、答えられる一部の質問項目だけでも回答していただくようご説明ください（23ページの「応接の例」もご参照ください。）

どうしても理解を得られない場合は、この手引きの裏表紙「連絡先」に連絡して状況を説明し、保健所からの指示を受けます。

(4)マンション(アパート、寮、社宅)等への対応

【調査票の配布時】

- ① まず、管理員（管理者）等の有無を確認します。
- ② 管理員（管理者）等をおいているマンション等の場合
 - ア)『結婚と出産に関する全国調査（第16回出生動向基本調査）のお知らせ（マンション・アパート等の管理員、管理会社、管理組合の皆さまへ）』を配布して調査の趣旨を説明し、入居世帯に調査関係書類の配布や調査票の回収を行うので、度々訪問することへの理解を求めます。また、『第16回出生動向基本調査ポスター』の掲示も依頼します。
 - イ) 管理員等への説明後、各戸（居住者）を訪問します。
 - ウ) 管理員等と会えなかった場合は、管理員室などに調査に伺った旨のメモを残し、訪問時間帯や日にちを変えたりして再訪問します。
- ③ 管理員（管理者）等をおいていない場合
マンション等の管理組合の代表者や管理会社へ、調査に伺うことを伝えた上で、各戸（居住者）を訪問します。
- ④ どうしても理解を得られない場合は、この手引きの裏表紙「連絡先」に連絡して状況を説明し、保健所からの指示を受けます。

【不在世帯か空き室か不明な場合】

適宜、管理員等に空き室状況の情報提供を依頼します。

【オートロックマンションの対応】

「オートロックマンション」とは、建物の出入口のドアが、その建物の居住者にしか開けることができないようになっている共同住宅をいいます。

調査区内にこのようなマンションがあった場合は、次のように調査を行います。

○建物の出入口（共用玄関）に設置されたインターホンにより各世帯の人と連絡

をとった上で、共用玄関を開けてもらい、中に入って各戸（居住者）を訪問します。

● オートロックマンションに関する注意事項 ●

- ①ここで示したオートロックマンションの対応は一般的なシステムを基にしていますので、必ずしもすべてのオートロックマンションにあてはまるとは限りません。
- ②マンション内の世帯を続けて訪問する場合でも、例えば1フロアごとにまとめて連絡をとるなど、必ず共有玄関で各世帯に連絡をとります。これはオートロックマンションにおける一般的なマナーとなっていますので、面倒でも守るようにします。
- ③インターホンは、いろいろなものがありますので、必ず実物を見て確認します。使い方がわからない、あるいは、使い方が示されていない場合には、管理組合の代表者や管理員等に聞いて確認します。

(5)調査票の内容に関して、調査員のかたが対応できない質問があったときの対応

具体的な質問内容をお聞きいただき、調査員のかたから直接、あるいは各保健所の担当者のかたを通じて国立社会保障・人口問題研究所までご連絡いただくようお願いいたします。調査対象者ご本人から、直接、研究所宛てにご連絡いただいてもかまいません。このときの問い合わせ先は以下の通りです。

●国立社会保障・人口問題研究所

調査内容に関するお問合せ用メールアドレス nfs16info@ipss.go.jp

電話 03-3595-2984（平日10～17時）

なお、調査対象者向けの調査ご説明ページも開設されています。こちらでも調査の概要、調査のしくみ、個人情報保護、調査の成果、よくある質問、問い合わせ先が掲載されていますので、調査対象者のかたに適宜お知らせください。

調査対象者向けホームページのアドレス（URL）

<http://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/nfs16info/index.asp>

(6) プライバシーの保護について

回答者のプライバシーを保護するため、調査対象者には調査票記入後、ご本人が調査票を所定の回収用封筒に入れ密封するよう依頼してください。回収された封筒は、密封のまま直接、国立社会保障・人口問題研究所へ送られ、途中で開封されることは決してありません。また、ご記入いただいた内容は同研究所において、すべて統計的に処理され、調査結果の公表は統計数字の形をとりますので、一人一人の回答が他に漏れることは一切ありません。

なお、回答者のプライバシー保護に対する心情に配慮し、調査員記入欄にある「都道府県名」「保健所名」「地域コード」以外の個人を特定するような情報（対象者の名前や住所等）は、調査票・回収用封筒、郵送回収用封筒、調査関係資料配布用封筒に記入しないようお願いいたします。

Ⅲ 参考資料

参考1 単位区別世帯名簿の調査対象外、調査(回収)不能の理由一覧

調査対象外	<p>調査票等の配布の際に、名簿に記載されている世帯が以下の理由により、調査対象外であることが判明した場合</p> <p>① 転居 ② 長期不在 } 世帯主氏名欄に二重抹消線を引く</p> <p>おおむね3ヶ月以上の長期出張、出張、長期旅行等や、死亡、行方不明、事務所、店舗、別荘、空き家(空き室)等</p> <p>③ 調査重複 厚生労働省が実施する「21世紀出生児縦断調査」「21世紀成年者縦断調査」の対象者である(出生時縦断調査(平成13年出生児)は、平成29年(2017)年から文部科学省と共管)</p> <p>④ 夫のみ 調査実施の全期間にわたり、妻が不在で夫だけが対象世帯に住んでおり、妻本人が調査票に回答できない場合</p>
調査(回収)不能	<p>⑤ 一時不在 おおむね3ヶ月未満の出張・旅行中、入院のため不在、親類の家に行っていて不在等</p> <p>⑥ 面接不能 世帯の方が不在のため会えない、留守、居留守等</p> <p>⑦ 回収不能 世帯の方が不在のため回収できない</p> <p>⑧ 外国人のため調査不能 外国人のため言葉が通じない、質問の意味が理解できない、日本語が読めない等</p> <p>⑨ 拒否</p> <p>⑩ 郵送提出を希望</p> <p>⑪ その他 ⑤～⑩以外で調査不能の場合(備考欄にその状況をなるべく具体的に記入してください)</p>

参考2 学校の分類

1. 中学校（※小学校もここに含めます。）

- ・中学校
- ・小学校
- ・中等教育学校の前期課程
- ・義務教育学校
- ・国民学校の初等科・高等科
- ・尋常小学校
- ・高等小学校
- ・中卒後専修学校や専門学校に行っているが、卒業年齢が18歳未満または卒業年齢不詳
- ・特別支援学校（盲学校・ろう学校・養護学校）の小学部・初等部・中学部
- ・通信講習所普通科
- ・青年学校普通科
- ・実業補習学校
- ・高校中退

2. 高校（※共学か別学かは回答者ご本人の判断に任せてください。）

- ・新制の高等学校
- ・中等教育学校の後期課程
- ・特別支援学校（盲学校・ろう学校・養護学校）の高等部
- ・通信制・定時制高校
- ・准看護師（婦）養成所
- ・旧制の中学校・高等女学校・実業学校
- ・青年学校本科
- ・陸海軍工員養成所
- ・師範学校予科または師範学校一部（3年修了のもの）
- ・鉄道教習所中等部・普通部（昭和24年までの卒業生）
- ・通信講習所高等科
- ・あんまマッサージ指圧師・はり師・きゅう師等に関する法律による指定の学校又は養成施設（4新中卒を入学資格とする修業年限4年のもの）
- ・陸軍幼年学校
- ・海軍甲種・乙種飛行予科練習生
- ・保育士（保母）養成所（旧制中卒を入学資格とする修業年限2年以上のもの）
- ・専検（専門学校入学者検定試験）・実検（実業学校卒業程度検定試験）・高検（高等学校高等科入学資格試験）・大検（大学入学資格検定）・高認（高等学校卒業程度認定試験）合格者
- ・専修学校高等課程・各種学校（中卒を入学資格とする修業年限3年以上のもの）
- ・海員学校・海上技術学校
- ・大学中退

3. 専修・専門学校（高卒後）

- ・専修学校（高卒を入学資格とする専門課程）
- ・専門学校・各種学校（高卒を入学資格とする修業年限2年以上のもの）
- ・看護師（婦）養成所・看護学校・看護専門学校
- ・保健師（婦）養成学校
- ・あんまマッサージ指圧師・はり師・きゅう師等に関する法律による指定の学校又は養成施設（新高卒を入学資格とする修業年限2年以上のもの）
- ・助産師（婦）養成所
- ・保育士（保母）養成所（新制高卒を入学資格とする修業年限2年以上のもの）
- ・都道府県立農業講習所・農業大学校
- ・歯科技工士学校

4. 短大・高専

- ・短期大学
- ・高等専門学校(新制)
- ・旧制の高等学校・大学予科・専門学校・高等師範学校
- ・師範学校本科
- ・高等通信講習所本科
- ・陸軍士官学校
- ・海軍兵学校
- ・水産講習所本科(昭和27年までの卒業生)
- ・短期大学の夜間課程・通信課程
- ・青年学校教員養成所
- ・図書館職員養成所
- ・職業能力開発大学校(専門課程)
- ・職業能力開発短期大学校

5. 大学(※共学か女子大学かは回答者ご本人の判断にらせてください。)

- ・大学
- ・水産大学校
- ・防衛大学校
- ・防衛医科大学校
- ・海上保安大学校本科
- ・航空大学校(昭和45年までの卒業生と平成元年11月からの卒業生・現在在学中の者)
- ・気象大学校
- ・職業能力開発総合大学校
- ・職業能力開発大学校(応用課程)
- ・国立看護大学校
- ・放送大学(全科履修生のみ)
- ・国立工業教員養成所
- ・専門学校・各種学校(大卒後)
- ・海外の大学への留学
- ・大学専攻科
- ・大学の夜間課程・夜間部・通信課程

6. 大学院

- ・大学院(修士課程、博士課程)
- ・法科大学院
- ・ビジネススクール(経営学修士(MBA)・博士(DBA)の取得を目的としたもの)

参考3 「おつとめの状況」の各選択肢についての具体的内容

おつとめの状況の区分	具体的な内容
1. 正規の職員	会社・団体・官公庁・個人商店などに、雇用期間の定めなく雇われている人。
2. パート・アルバイト	会社・団体・官公庁・個人商店などに雇われている者のうち、勤め先で「パート」または「アルバイト」と呼ばれている人。
3. 派遣・嘱託・ 契約社員	会社・団体・官公庁・個人商店などに雇われている人のうち、勤め先に直接雇用されておらず、人材派遣会社から給与を受けて派遣先に役務を提供している人(派遣社員)や、嘱託社員として勤め先と契約している人(嘱託社員)、また、専門的職種に従事することを目的に契約に基づき雇用され、雇用期間に定めのある人(契約社員)。
4. 自営業主・家族従業者・ 内職	個人経営の商店主・工場主・農業主などの事業主、開業医・弁護士・著述家・行商従業者(自営業主)、農家や個人商店などで農仕事や店の仕事などを手伝っている家族(家族従業者)、委託を受けて在宅で仕事を行い収入を得ている人(内職)。在宅ワーカー、SOHO など個人事業主、個人請負、販売目的の物品・サービスを在宅で自主製作している人もここに含みます。
5. 無職・家事	収入をとまなう仕事をもっていない人。
6. 学生	学校や通信教育課程に在籍している人で、ふだん通学がおもな人。

参考4 年齢早見表

満年齢	生まれた年	西暦	満年齢	生まれた年	西暦	満年齢	生まれた年	西暦	
118	明治 36 年	1903	80	昭和 16 年	1941	40	昭和 56 年	1981	
117	37	1904	79	17	1942	39	57	1982	
116	38	1905	78	18	1943	38	58	1983	
115	39	1906	77	19	1944	37	59	1984	
114	40	1907	76	20	1945	36	60	1985	
113	41	1908	75	21	1946	35	61	1986	
112	42	1909	74	22	1947	34	62	1987	
111	43	1910	73	23	1948	33	63	1988	
110	44	1911	72	24	1949	32	64	1989	
109	大正 元 年	1912	71	25	1950	平成 元 年	2	1990	
108		2	1913	70	26		1951	3	1991
107	3	1914	69	27	1952	29	4	1992	
106	4	1915	68	28	1953	28	5	1993	
105	5	1916	67	29	1954	27	6	1994	
104	6	1917	66	30	1955	26	7	1995	
103	7	1918	65	31	1956	25	8	1996	
102	8	1919	64	32	1957	24	9	1997	
101	9	1920	63	33	1958	23	10	1998	
100	10	1921	62	34	1959	22	11	1999	
99	11	1922	61	35	1960	21	12	2000	
98	12	1923	60	36	1961	20	13	2001	
97	13	1924	59	37	1962	19	14	2002	
96	14	1925	58	38	1963	18	15	2003	
95	昭和 元 年	1926	57	39	1964	17	16	2004	
94		2	1927	56	40	1965	16	17	2005
93	3	1928	55	41	1966	15	18	2006	
92	4	1929	54	42	1967	14	19	2007	
91	5	1930	53	43	1968	13	20	2008	
90	6	1931	52	44	1969	12	21	2009	
89	7	1932	51	45	1970	11	22	2010	
88	8	1933	50	46	1971	10	23	2011	
87	9	1934	49	47	1972	9	24	2012	
86	10	1935	48	48	1973	8	25	2013	
85	11	1936	47	49	1974	7	26	2014	
84	12	1937	46	50	1975	6	27	2015	
83	13	1938	45	51	1976	5	28	2016	
82	14	1939	44	52	1977	4	29	2017	
81	15	1940	43	53	1978	3	30	2018	
			42	54	1979	2	令和 元 年	31	2019
			41	55	1980	1		2	2020
						0		3	2021

誕生日が7月1日以降の人の満年齢は、この早見表の「満年齢」から1を引いたものです。

参考5 質問があった場合の応接の例

忙しい（面倒な）ので、調査票を書いている暇はない

*お忙しいところおそれいます。

*調査票への記入方法は該当する番号に○をつけていただくものが多く、見かけよりも簡単で時間もそれほどかかりませんので、よろしくご協力をお願いいたします。

*記入していただいて、どうしても分からないところがありましたら、調査票の回収に伺ったときに、その場で質問していただいても結構です。

調査票が課税の資料に使われるのではないか

*そのようなことは絶対にありません。

*調査票に書いていただいた事柄は、お配りした「ご協力のお願い」にも書いてありますように、統計をつくるためだけに使われるもので、これが課税の資料など、統計以外の目的で使われることは決してありません。統計以外の目的に使うことは、法律でも固く禁じられております。

*出生動向基本調査は、わたくしどもと皆様との信頼関係の上で成り立っています。もし、皆様との約束を守らなければ、これからの調査には協力していただけなくなり、正確な統計資料をつくることができなくなってしまいます。

わたしのところが調査の対象になったのはどういうわけか

*ご存じのとおり、現在、我が国の世帯数は約5,000万世帯、また、人口は1億人をはるかに超えております。したがって、これらの世帯・人口のすべてについて調査をお願いするとしますと、膨大な経費・人員・日時がかかります。

こうしたことから、出生動向基本調査では、一部の世帯について調査を行い、その結果から全体の状況を推定する方法で実施することにしております。

*具体的には、国民生活基礎調査にご協力いただいた地域の中から無作為に選ばれた地域にお住まいの世帯の方々にご回答をお願いしています。今回は皆さまがお住まいの地域が調査の対象に選ばれました。ご面倒をおかけしますが、大変重要な調査ですので、よろしくご協力をお願いいたします。

調査の結果は行政に利用されているのか

*行政サービスには、公営住宅を建てたり、道路をつくったり、橋をかけたりというように目に見える直接的なものがありますが、統計調査は、いったん国民の

皆様のご協力を得てからサービスに生かしていく間接的なものであります。

*この調査は、わが国の結婚・出産の実態と背景を調べる唯一の公的全国調査です。今日の日本では少子化が進行し、これにともなう人口減少と高齢化、そして人々の生き方の変化は、今後の日本社会に大きな影響を与えるものです。この少子化の現状を把握し原因を解明することは、本調査の大切なテーマです。

*過去に行われた出生動向基本調査の結果は、子育て支援策、ワークライフバランスなど労働政策、男女共同参画政策、地方創生政策等の幅広い分野において、国の審議会の資料や各種白書で利用され、それらの諸施策の政策目標データとしても活用されています。また、本調査のデータは、日本の将来人口推計において、出生率の将来見通しを設定する際の基礎資料となっています。

*どうぞこれらの点をご理解いただいて、調査へのご協力をお願いいたします。

*なお、調査の結果および国立社会保障・人口問題研究所の紹介は、ホームページ (<http://www.ipss.go.jp>) においても行っております。

参考6 調査活用事例

○調査結果の公表時や、結婚・出産・子育てにかかわるテーマを扱う際、テレビ、雑誌、新聞など様々なマスコミ媒体でデータが広く活用されています。

○国や都道府県、地方自治体の将来人口推計における出生率仮定設定に利用されています。

○男女共同参画基本計画、少子化社会対策大綱、仕事と生活の調和推進のための行動指針、まち・ひと・しごと創生総合戦略における政策目標の評価データとして利用されています。

○厚生労働白書、少子化社会対策白書、男女共同参画白書などの政府刊行物や、各種審議会・検討会などにおいて、少子化の現状や課題を示す資料として幅広く活用されています。

訪問予定メモ

地区番号

単位区番号

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

世帯番号		最終状況			完了日	世帯番号		最終状況			完了日
15		<input checked="" type="checkbox"/> 回収済 <input type="checkbox"/> 郵送切替 <input type="checkbox"/> 調査不能 <input type="checkbox"/> 調査対象外 <input type="checkbox"/> その他()			6/5			<input type="checkbox"/> 回収済 <input type="checkbox"/> 郵送切替 <input type="checkbox"/> 調査不能 <input type="checkbox"/> 調査対象外 <input type="checkbox"/> その他()			/
1	5/3	13:30	<input type="checkbox"/> 手渡し <input checked="" type="checkbox"/> 投函 <input type="checkbox"/> 面接不能 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> その他()			1	/	:	<input type="checkbox"/> 手渡し <input type="checkbox"/> 投函 <input type="checkbox"/> 面接不能 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> その他()		
2	5/25	14:00	<input type="checkbox"/> 手渡し <input type="checkbox"/> 投函 <input checked="" type="checkbox"/> 面接不能 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> その他()			2	/	:	<input type="checkbox"/> 手渡し <input type="checkbox"/> 投函 <input type="checkbox"/> 面接不能 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> その他()		
3	5/27		<input type="checkbox"/> 手渡し <input type="checkbox"/> 投函 <input checked="" type="checkbox"/> 面接不能 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> その他()			3	/	:	<input type="checkbox"/> 手渡し <input type="checkbox"/> 投函 <input type="checkbox"/> 面接不能 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> その他()		
4	5/30	16:00	<input checked="" type="checkbox"/> 手渡し <input type="checkbox"/> 投函 <input type="checkbox"/> 面接不能 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> その他()			4	/	:	<input type="checkbox"/> 手渡し <input type="checkbox"/> 投函 <input type="checkbox"/> 面接不能 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> その他()		
5	6/5	15:25	<input type="checkbox"/> 手渡し <input type="checkbox"/> 投函 <input type="checkbox"/> 面接不能 <input checked="" type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> その他()			5	/	:	<input type="checkbox"/> 手渡し <input type="checkbox"/> 投函 <input type="checkbox"/> 面接不能 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> その他()		
6	/	:	<input type="checkbox"/> 手渡し <input type="checkbox"/> 投函 <input type="checkbox"/> 面接不能 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> その他()			6	/	:	<input type="checkbox"/> 手渡し <input type="checkbox"/> 投函 <input type="checkbox"/> 面接不能 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> その他()		
世帯番号		最終状況			完了日	世帯番号		最終状況			完了日
		<input type="checkbox"/> 回収済 <input type="checkbox"/> 郵送切替 <input type="checkbox"/> 調査不能 <input type="checkbox"/> 調査対象外 <input type="checkbox"/> その他()			/			<input type="checkbox"/> 回収済 <input type="checkbox"/> 郵送切替 <input type="checkbox"/> 調査不能 <input type="checkbox"/> 調査対象外 <input type="checkbox"/> その他()			/
1	/	:	<input type="checkbox"/> 手渡し <input type="checkbox"/> 投函 <input type="checkbox"/> 面接不能 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> その他()			1	/	:	<input type="checkbox"/> 手渡し <input type="checkbox"/> 投函 <input type="checkbox"/> 面接不能 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> その他()		
2	/	:	<input type="checkbox"/> 手渡し <input type="checkbox"/> 投函 <input type="checkbox"/> 面接不能 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> その他()			2	/	:	<input type="checkbox"/> 手渡し <input type="checkbox"/> 投函 <input type="checkbox"/> 面接不能 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> その他()		
3	/	:	<input type="checkbox"/> 手渡し <input type="checkbox"/> 投函 <input type="checkbox"/> 面接不能 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> その他()			3	/	:	<input type="checkbox"/> 手渡し <input type="checkbox"/> 投函 <input type="checkbox"/> 面接不能 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> その他()		
4	/	:	<input type="checkbox"/> 手渡し <input type="checkbox"/> 投函 <input type="checkbox"/> 面接不能 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> その他()			4	/	:	<input type="checkbox"/> 手渡し <input type="checkbox"/> 投函 <input type="checkbox"/> 面接不能 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> その他()		
5	/	:	<input type="checkbox"/> 手渡し <input type="checkbox"/> 投函 <input type="checkbox"/> 面接不能 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> その他()			5	/	:	<input type="checkbox"/> 手渡し <input type="checkbox"/> 投函 <input type="checkbox"/> 面接不能 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> その他()		
6	/	:	<input type="checkbox"/> 手渡し <input type="checkbox"/> 投函 <input type="checkbox"/> 面接不能 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> その他()			6	/	:	<input type="checkbox"/> 手渡し <input type="checkbox"/> 投函 <input type="checkbox"/> 面接不能 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> その他()		
世帯番号		最終状況			完了日	世帯番号		最終状況			完了日
		<input type="checkbox"/> 回収済 <input type="checkbox"/> 郵送切替 <input type="checkbox"/> 調査不能 <input type="checkbox"/> 調査対象外 <input type="checkbox"/> その他()			/			<input type="checkbox"/> 回収済 <input type="checkbox"/> 郵送切替 <input type="checkbox"/> 調査不能 <input type="checkbox"/> 調査対象外 <input type="checkbox"/> その他()			/
1	/	:	<input type="checkbox"/> 手渡し <input type="checkbox"/> 投函 <input type="checkbox"/> 面接不能 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> その他()			1	/	:	<input type="checkbox"/> 手渡し <input type="checkbox"/> 投函 <input type="checkbox"/> 面接不能 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> その他()		
2	/	:	<input type="checkbox"/> 手渡し <input type="checkbox"/> 投函 <input type="checkbox"/> 面接不能 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> その他()			2	/	:	<input type="checkbox"/> 手渡し <input type="checkbox"/> 投函 <input type="checkbox"/> 面接不能 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> その他()		
3	/	:	<input type="checkbox"/> 手渡し <input type="checkbox"/> 投函 <input type="checkbox"/> 面接不能 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> その他()			3	/	:	<input type="checkbox"/> 手渡し <input type="checkbox"/> 投函 <input type="checkbox"/> 面接不能 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> その他()		
4	/	:	<input type="checkbox"/> 手渡し <input type="checkbox"/> 投函 <input type="checkbox"/> 面接不能 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> その他()			4	/	:	<input type="checkbox"/> 手渡し <input type="checkbox"/> 投函 <input type="checkbox"/> 面接不能 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> その他()		
5	/	:	<input type="checkbox"/> 手渡し <input type="checkbox"/> 投函 <input type="checkbox"/> 面接不能 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> その他()			5	/	:	<input type="checkbox"/> 手渡し <input type="checkbox"/> 投函 <input type="checkbox"/> 面接不能 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> その他()		
6	/	:	<input type="checkbox"/> 手渡し <input type="checkbox"/> 投函 <input type="checkbox"/> 面接不能 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> その他()			6	/	:	<input type="checkbox"/> 手渡し <input type="checkbox"/> 投函 <input type="checkbox"/> 面接不能 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> その他()		

記入例

調査関係書類の保健所への提出期限

- 単位区別世帯名簿 月 日 ()
- 回収した調査票 月 日 ()

事故などのため日程どおりに調査を完了できない場合や、調査に当たって解決できない問題がおきた場合は、下の「連絡先」に連絡してください。

連絡先

電 話 () 番 (内線)

あなたの受持ちの調査区番号

--	--	--	--	--

結婚と出産に関する全国調査 ＜第16回出生動向基本調査＞

調査ご協力をお願い ～2021(令和3)年6月30日現在の事実を調査します～

- 本調査は、厚生労働省実施の「国民生活基礎調査」の後続調査です。厚生労働省の研究機関である国立社会保障・人口問題研究所が実施しています。
- 6月30日時点で、以下の条件に当てはまるかたが調査対象です。
18～55歳未満の独身男女のかた（昭和41(1966)年7月生まれ～平成15(2003)年6月生まれ）
55歳未満の結婚している女性のかた（昭和41(1966)年7月生まれ以降）
※これに当てはまるかたがない場合は、ご回答いただく必要はありません。
- 次ページ以降に掲載している調査の目的などをご理解いただき、調査票へのご記入をお願いします。
- 調査票に書かれた事柄は厳しく秘密が守られます。調査データは、統計法に基づいて統計を作るためだけに用いられ、その他の目的に使うことはありません。

※ 調査の結果は、政府が行う各種施策の基礎資料として、幅広く活用されています。

※ 詳しくは、国立社会保障・人口問題研究所ホームページまたは厚生労働省ホームページに情報を掲載していますので、ご参照ください。

● 対象者向けホームページ

<http://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/nfs16info/index.asp>

● 厚生労働省ホームページ

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/118-1.html>



調査票の配布と回収のため、 調査員が皆様のお宅にうかがいます。

調査員は、この調査の期間中、都道府県知事または指定都市・中核市長等から任命された地方公務員として調査活動に当たっています。

記入方法など、ご不明な点がございましたら、調査員におたずねいただくか、下記のお問い合わせ先までご連絡ください。

▼ この調査に関するお問い合わせは、以下までお願いします。

【調査票の不足・提出等、調査実施に関するお問合せ】

【調査票の内容に関するお問合せ】

国立社会保障・人口問題研究所
東京都千代田区内幸町2-2-3
日比谷国際ビル6階

メール nfs16info@ipss.go.jp

電話 03-3595-2984（平日10～17時）

「結婚と出産に関する全国調査」の概要

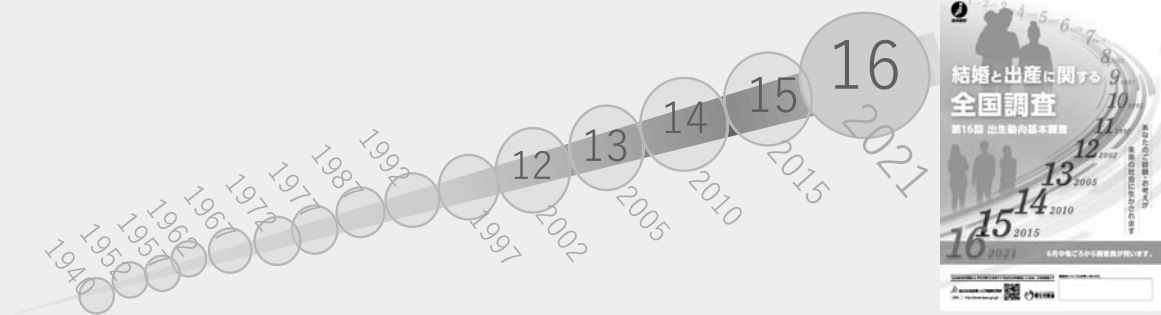
本調査は、わが国における結婚、出産、子育て等の現状と課題を調べるために、定期的実施されている全国標本調査です。戦前の1940（昭和15）年に第1回調査を行い、戦後はほぼ5年ごとに実施してきました。今回は第16回目の調査に当たります。

近年わが国では、家族のあり方や個人の生き方の変化を背景に、出生率が低下し、「少子化」として社会問題となっています。こうした傾向が今後も続けば、人口減少や人口高齢化が著しく進むなど、わが国の社会、経済への影響は計り知れないものがあります。

国立社会保障・人口問題研究所では、かねてよりこうした出生力変動の要因と背景を解明する努力を続けてまいりました。本調査は、日本の人々の結婚の過程ならびに夫婦の子どもを生み方、育て方などに関する科学的データをもたらすもので、とくに夫婦の出生力については、全国的動向とその背景を把握するわが国で唯一の調査です。

今回の調査結果は、統計の形で報告書や研究資料としてまとめられ、政府や自治体の政策立案等の基礎データとして用いられます。また、本調査データは、国立社会保障・人口問題研究所が定期的に公表している公的な将来推計人口（全国、地域）および世帯数将来推計（全国、地域）にも用いられ、これらの推計は、行政をはじめとした広範な分野において重要な役割を果たしております。

このように、本調査は、人口減少あるいは少子高齢化が進むこれからの日本社会のあり方や施策を考える上で、たいへん重要な調査と位置づけられております。何とぞご協力をいただけますよう、切にお願い申し上げます。



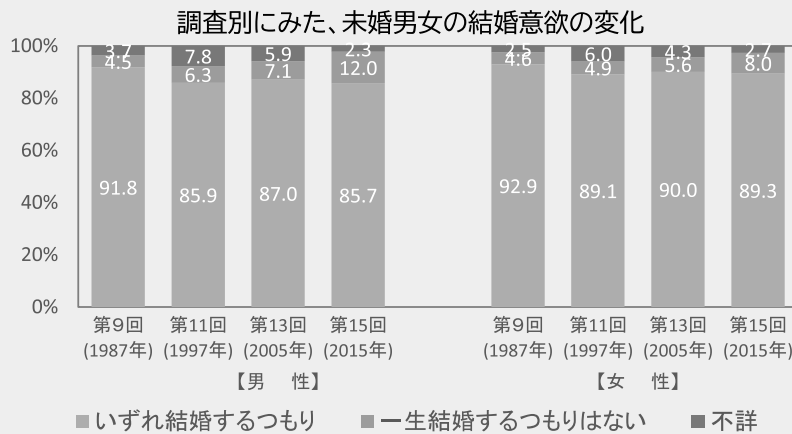
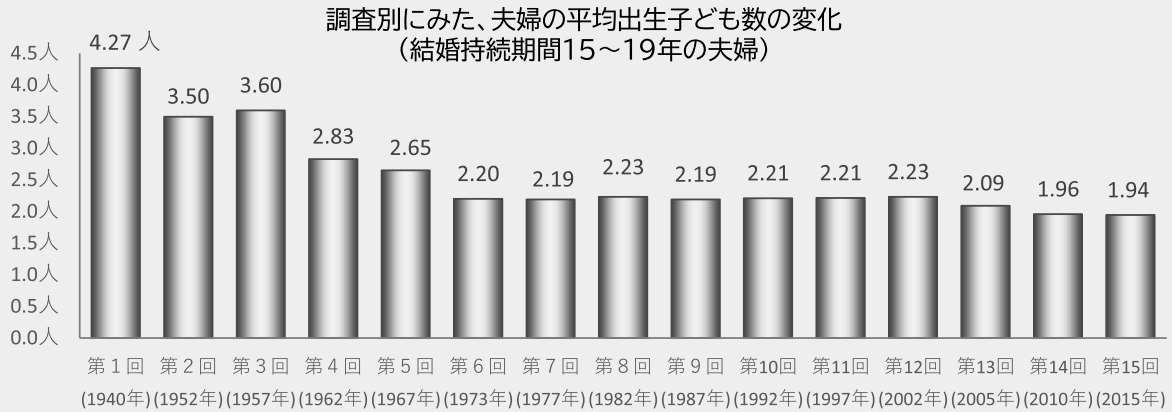
個人情報保護を徹底しています

- 本調査は、統計法の規定により、個人情報は厳重に保護されます。
- 調査票の回答は厳しく秘密が守られ、統計を作るためだけに用いられます。その他の目的に用いることは、統計法で禁止されています。

詳しくは、調査ホームページ（URLは表紙に記載）もご覧ください。

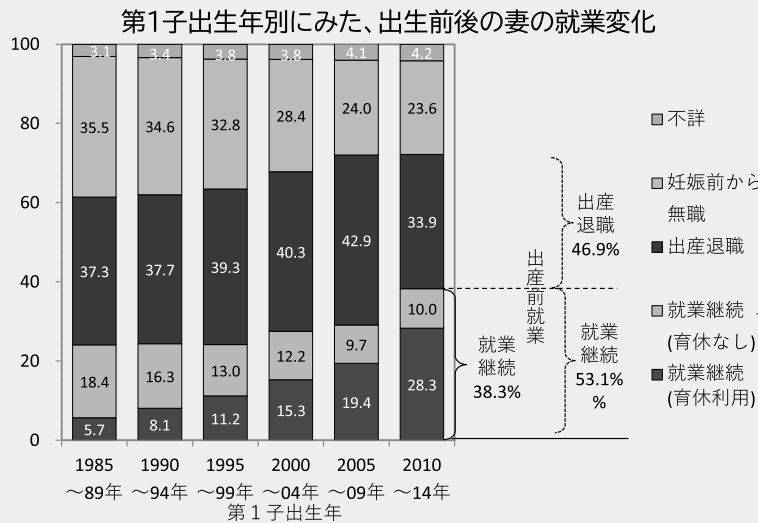
「結婚と出産に関する全国調査」の結果と活用

これまでの調査で、例えば下のような統計が得られています。これらの情報は、少子化社会対策大綱等における政策目標の評価に利用されたり、厚生労働白書等の政府刊行物や、政府や地方自治体の各種審議会等において少子化の現状や課題を示す資料として幅広く活用されたりしています。



結婚した夫婦の最終的な平均出生子ども数は、1970年代から長く安定していましたが、2000年代以降、低下傾向にあります。

未婚者の結婚意欲は、男女とも高い水準にあります。しかし、2015年の調査では、結婚するつもりはないという回答が、特に男性で少し増加しました。



第1子出生前後に働いている妻の割合は、2010～14年に大きく上昇しました。とくに、育児休業制度を利用して働き続ける妻が増えています。

「結婚と出産に関する全国調査」について、よくあるご質問

Q1 どうして私の世帯が調査対象になったのですか？

- A 本来は、すべての世帯に調査を実施するのが望ましいのですが、そうした場合、膨大な費用と人手がかかります。そこで、本調査では、一部の世帯について調査を行い、その結果から全体の状況を推定する方法で実施することにしています。
- 具体的には、令和3年国民生活基礎調査が行われた調査区の中から1,000地区を無作為に選び、その地域にお住まいの方々にご回答をお願いしています。今回は、皆さまがお住まいの地域が調査対象に選ばれました。ご面倒をおかけしますが、大変重要な調査ですので、ご協力いただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

Q2 提出した調査票が課税などの資料に使われることはないですか？

- A そのようなことは絶対にありません。
- 調査票に回答していただいた内容は、統計を作るためだけに使われるもので、これが課税の資料など、統計以外の目的で使われることは「統計法」において固く禁じられております。

Q3 生年月や学歴などを書いたら、誰だかわかってしまいませんか？

- A 記入された調査票は、密封され当研究所に届くまで開封は禁じられております。調査に用いた世帯名簿は、国立社会保障・人口問題研究所内で厳重に管理され、調査終了後速やかに内容が漏れない形で処分されます。
- 調査票は、世帯名簿とは別に、調査地区番号だけで管理されますので、個人を特定することはできません。また、回答結果を統計作成以外に使用することは「統計法」で禁じられ、結果の公表の際も、回答はすべて統計的に処理されますので、個人を特定することはできません。

Q4 調査結果は、いつ頃どこでわかるのですか？

- A 2022年夏ごろに調査結果の速報が公表され、最終的な集計結果は2023年夏ごろ公表する予定です。集計結果については、国立社会保障・人口問題研究所のホームページや、政府統計ポータルサイトe-Statに掲載されます。また、速報公表時は、例年、新聞各紙やテレビのニュースでも取り上げられています。

Q5 調査に答えなくてもいいですか？

- A この調査は、統計理論に基づいて対象者に選ばれた皆さまに回答していただくことによって、結婚と出産に関する意識や実態について、日本全国の状況が正しく推測できるように設計されています。回答は任意ですが、本調査の趣旨と重要性をご理解いただき、皆さまのお考えを正しく結果に反映するために、ぜひとも、ご協力をお願いいたします。

統計法に基づく
一般統計調査



政府統計

秘

2021年社会保障・人口問題基本調査

結婚と出産に関する全国調査

第16回出生動向基本調査

〔独身の方への調査票〕

(令和3(2021)年 6月30日 現在の事実)

対象となられた皆さまへ

このたびは調査にご協力いただきまして、まことにありがとうございます。

この調査は、わが国における結婚、出産、子育ての現状と課題を調べるために、国立社会保障・人口問題研究所が全国的に行う標本調査です。これからの日本社会の見通しや施策を考える上で、大切な資料となるものです。この調査票への回答は統計を作成する目的だけに用いられ、それ以外での使用は法律で固く禁じられています。お答えいただいた内容が他にもれることは絶対にありませんので、どうぞ安心してありのままをお答えくださいますようお願いいたします。

(調査の詳しいご説明は、13ページにございます)

なお、この調査票の配布と回収(密封封筒)には、都道府県知事(市長・区長)の任命を受けた調査員が皆さまのお宅にうかがいます。ご不明の点は調査員におたずねください。

記入上のお願い

- この調査票は、6月30日時点で **18歳以上55歳未満の独身の方(離別・死別の方を含む)** に答えていただくためのものです。
- 令和3(2021)年6月30日現在の事実について、黒のボールペンや鉛筆でご記入ください。
- 回答のしかたは、あてはまる番号に○をつけるものと、必要なことがらを書きこむものがあります。
- 回答後の調査票は、回収用の封筒に入れ、ノリづけしたうえで調査員にお渡しください。封筒はそのまま国立社会保障・人口問題研究所に届けられ、決して途中で開封されることはありません。

厚生労働省
国立社会保障・人口問題研究所

〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-3
日比谷国際ビル6階

電話 (03) 3595-2984 内線4477 / 4474

<http://www.ipss.go.jp>

調査員記入欄

都道府県	
保健所	
地域コード	

問1 あなたの(1)出生年月を記入し、(2)性別の欄は、あてはまる番号に○をつけてください。

(1) 出生年月	(2) 性別
1. 昭和 2. 平成 3. 西暦 _____年__月	1. 男 2. 女

問2 あなたの(1)在学・卒業の別(卒業された方は卒業した年齢を下線に記入)と、(2)その学校について、あてはまる番号に○をつけてください。

(1) 在学・卒業の別	(2) 在学中または最後に卒業した学校
あてはまる番号に○ 1. 現在、在学中(休学等を含む) → 在学中の学校 2. すでに卒業 → 最後の学校を卒業した年齢 () 歳 数字を記入 → 最後に卒業した学校	あてはまる番号1つに○ 1. 中学校 2. 男女共学の高校 3. 男女別学の高校 4. 専修・専門学校(高卒後) 5. 短大・高専 6. 女子大学 7. 共学の大学 8. 大学院 9. その他 ()

※ 大学、大学院(5~8)卒業後に専門学校などに通った場合、大学または大学院を「最後に卒業した学校」としてご回答ください。
 ※ 中途退学した場合は、その前の卒業学校を「最後に卒業した学校」としてご回答ください。

問3 あなたとあなたの(ご両)親のおつとめの状況についておたずねします。あなたについては a、b の2つの時期について、また、(ご両)親については現在について、それぞれ(1)おつとめの状況、(2)職種、(3)おつとめ先の従業員数(ご両親については種別)のあてはまる番号に1つずつ○をつけてください(お仕事が複数の場合、主たる仕事を対象)。

おたずねの対象者 ⇓	おたずねの時期 ⇓	(1)おつとめの状況 ^{※1}						(2)職 種							(3)おつとめ先の従業員数(本社・支社を含む)						
		1 正 規 の 職 員	2 パ ー ト ・ ア ル バ イ ト	3 派 遣 ・ 嘱 託 ・ 契 約 社 員	4 自 営 業 主 ・ 家 族 従 業 者 ・	5 内 職 ・ 家 事	6 無 職 ・ 学 生	1 主 と し て 農 林 漁 業	2 農 林 漁 業 以 外 の 自 営 業	3 専 門 職	4 管 理 職	5 事 務 職	6 販 売 ・ サ ー ビ ス 職	7 工 場 な ど の 現 場 労 働	1 1 人	2 10 人	3 30 人	4 100 人	5 300 人	6 1000 人 以 上	7 官 公 庁
あなた	a. 最後に学校を卒業した直後 ^{※2}	回答欄 1~6のあてはまる番号に○をつける 1~4に○をつけたときは右の欄に進む						(1)で1~4に○をつけたときだけ あてはまる番号に○をつける							(1)で1~4に○をつけたときだけ あてはまる番号に○をつける						
	b. 現在	1 2 3 4 5 6						1 2 3 4 5 6 7							1 2 3 4 5 6 7						

※1 学業のかたわらアルバイトをしている場合は、「おつとめの状況」で「学生」に○をつけてください。
 ※2 現在在学中の方は、前の学校を卒業した直後の状況についてご記入ください。

【(ご両)親がご健在の方のみ記入】

お父さま	c. 現在	1 2 3 4 5 6						1 2 3 4 5 6 7							あてはまる番号1つに○ 1 大手企業 2 中小企業 3 官公庁		
		1 2 3 4 5 6						1 2 3 4 5 6 7							1 大手企業 2 中小企業 3 官公庁		
お母さま	d. 現在	1 2 3 4 5 6						1 2 3 4 5 6 7							1 大手企業 2 中小企業 3 官公庁		

● 現在 収入を伴うお仕事をお持ちの方 にかがいます。お仕事をお持ちでない方は問5へ進んでください。

問4 あなたの現在のお仕事（収入を伴うもの。複数ある場合、主たる仕事を対象）について、次の(1)～(4)には該当する数字を記入し、(5)については、あてはまる番号1つに○をつけてください。

		あなたのお仕事について (収入を伴う仕事に就いている場合ご記入ください)			
(1) 勤務する日1日の平均的な労働時間	1日あたり平均	<input type="text"/>	時間	<input type="text"/>	分 <small>〔残業時間も含めた平均的な労働時間をご記入ください。〕</small>
(2) 1週間の平均的な労働日数	週あたり平均	<input type="text"/>	日		
(3) 現在の仕事の勤続または継続年数*	およそ	<input type="text"/>	年	<1年未満の場合は、1年としてください>	
(4) 今年の5月の収入	税込み 約	<input type="text"/>	万円	〔事業収入の場合は、売上から諸経費を差し引いた額を記入してください。次の(5)も同様です。〕	
(5) 昨年(2020年)の年収	税込み	0. 1～99万円	3. 300万円台	6. 600万円台	9. 900万円台
		1. 100万円台	4. 400万円台	7. 700万円台	10. 1000万円以上
		2. 200万円台	5. 500万円台	8. 800万円台	11. なし

※ 休業からの復帰や社内の業務異動後からではなく、その勤め先に勤め始めた時期からの年数をお書きください。

● **すべての方**にかがいます。

問5 あなたの（ご両）親の(1)出生年と年齢、(2)現在のあなたとの同居/別居、(3)最後に卒業した学校についておたずねします。あてはまる番号に○をつけ、下線の欄に数字を記入してください。

	お父さま	お母さま
(1) 出生年	[1. 大正 2. 昭和 3. 西暦] _____年 生まれ (満____歳) <small>※ 満年齢の記入はご健在の方のみで結構です</small>	[1. 大正 2. 昭和 3. 西暦] _____年 生まれ (満____歳) <small>※ 満年齢の記入はご健在の方のみで結構です</small>
(2) 現在のあなたとの同居/別居	1. 同居 2. 同じ市区町村内で別居 3. それ以外の地域で別居 4. すでに亡くなられた	1. 同居 2. 同じ市区町村内で別居 3. それ以外の地域で別居 4. すでに亡くなられた
(3) 最後に卒業した学校 <small>※ 旧制の高等小学校、小学校は中学校卒としてください。旧制の高等女学校は高校卒としてください。</small>	1. 中学校 2. 高校 3. 専修・専門学校(高卒後) 4. 短大・高専 5. 大学 6. 大学院 7. その他 (_____)	1. 中学校 2. 高校 3. 専修・専門学校(高卒後) 4. 短大・高専 5. 大学 6. 大学院 7. その他 (_____)

問6 あなたの兄弟姉妹の数を () 内に記入してください(亡くなられた方は含めません)。

あなたを含めて合計 (_____)人	→ あなたの兄弟姉妹の内訳	兄(_____)人 <small>いない場合は○を記入</small>	姉(_____)人 <small>いない場合は○を記入</small>	弟(_____)人 <small>いない場合は○を記入</small>	妹(_____)人 <small>いない場合は○を記入</small>
-------------------------	---------------	--	--	--	--

● **すべての方** にかがいます。

問10 結婚、男女関係、家庭、子どもを持つことについてはいろいろな考え方がありますが、下に例として①～⑭のような考え方を示しました。それぞれについて、あなたご自身はどのようにお考えでしょうか。それぞれの右の欄のあてはまる番号1つに○をつけてください。

※本問では賛成・反対の立場が取りやすいよう断定的な表現を用いています。また必ずしも一般的でない考え方も含まれています。

	(左の考え方に)			
	1 ま っ た く 賛 成	2 い ど え ち ば ら 賛 成 と	3 い ど え ち ば ら 反 か 対 と	4 ま っ た く 反 対
	それぞれ番号1つに○			
① 生涯を独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない	1	2	3	4
② 男女と一緒に暮らすなら結婚すべきである	1	2	3	4
③ 結婚前の男女でも愛情があるなら性交渉をもってかまわない	1	2	3	4
④ どんな社会においても、女らしさや男らしさはある程度必要だ	1	2	3	4
⑤ 結婚しても、人生には結婚相手や家族とは別の自分だけの目標を持つべきである	1	2	3	4
⑥ 結婚したら、家庭のためには自分の個性や生き方を半分犠牲にするのは当然だ	1	2	3	4
⑦ 結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ	1	2	3	4
⑧ 結婚したら、子どもは持つべきだ	1	2	3	4
⑨ 少なくとも子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たず家にいるのが望ましい	1	2	3	4
⑩ いったん結婚したら、性格の不一致くらいで別れるべきではない	1	2	3	4
⑪ 結婚していなくても、子どもを持ってかまわない	1	2	3	4
⑫ 結婚した男性にとって、家族と過ごす時間は仕事の成功よりも重要だ	1	2	3	4
⑬ 女性が最初の子どもの産むなら20代のうちがよい	1	2	3	4
⑭ 男性どうし、女性どうしの結婚があってもかまわない	1	2	3	4

問11 あなたの身近な状況について、おたずねします。以下の①～③について、それぞれ右の欄のあてはまる番号1つに○をつけてください。質問項目に該当する相手がいない(いなかった)場合は、5に○をつけてください。

	(左の状況に)				
	1 あ て は ま る	2 あ ど ち は ら ま か と い え ば	3 あ ど ち は ら ま か と い え ば	4 あ て は ま ら な い	5 該 当 し な い
	それぞれ番号1つに○				
① 赤ちゃんや小さい子どもとふれあう機会がよくあった(よくある)	1	2	3	4	—
② 両親のような夫婦関係をうらやましく思う	1	2	3	4	5
③ 結婚しているまわりの友人をみると、幸せそうだと思う	1	2	3	4	5

● このページでは、結婚経験をはじめ個人的なことからについてうかがいます。
 ※ 立ちいった内容も含まれますが、社会関係の時代的な変化をとらえ、施策を考える上で大切な資料となります。
 調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をいただけますようお願いいたします。

問12 あなたはこれまでに結婚（届け出をしたもの）をしたことがありますか。あてはまる番号に○をつけてください。

- | |
|-------------|
| 1. ない |
| 2. ある（離別した） |
| 3. ある（死別した） |

問13 あなたはこれまでに同棲の経験（特定の異性と結婚の届け出なしで一緒に生活したこと）がありますか。あてはまる番号1つに○をつけ、該当する方は同棲をした（している）時期（年齢）を下線の欄に記入してください。

(1) 同棲の経験	(2) 同棲の時期（一番最近の経験について）
1. ない 2. 以前はあるが現在はしていない 3. 現在している	()歳から()歳まで

問14 あなたはこれまでに異性と性交渉をもったことがありますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

- | |
|-------|
| 1. ある |
| 2. ない |

問15 あなた（男性の場合は妻やパートナー）が、(1)これまでに生んだお子さんについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。お子さんがいらっしゃる場合は、(2)該当するお子さんの出生年月を記入し、(3)そのお子さんと同居しているかについて、それぞれあてはまる番号1つに○をつけてください。

(1) これまでに生んだお子さんの数	(2) お子さんの出生年月	(3) そのお子さんと同居しているか
0. 子どもはいない		
1. 1人	[1. 昭和 2. 平成 3. 令和 4. 西暦] _____年 ____月	1. 同居 2. 別居・その他
2. 2人	[1. 昭和 2. 平成 3. 令和 4. 西暦] _____年 ____月	1. 同居 2. 別居・その他
3. 3人	[1. 昭和 2. 平成 3. 令和 4. 西暦] _____年 ____月	1. 同居 2. 別居・その他
4. 4人以上 ()人		

※ 4人以上いらっしゃる方は、3人目までのご記入でかまいません。

問16 あなたには、(1)交際している異性がありますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。また、その回答の後の矢印にしたがって、(2) 交際の希望、(3)交際相手との結婚希望（最も親しい相手）、(4) 結婚予定の年月のいずれかについて回答してください。

(1) 異性との交際の状況	(2) 異性との交際の希望
1. 交際している異性はいない	1. 交際を望んでいる
2. 友人として交際している異性がいる	2. とくに異性との交際を望んでいない
3. 恋人として交際している異性がいる	
4. 婚約者がいる	
(4)結婚予定は [1. 令和 2. 西暦] _____年 ____月頃	
	(3) (最も親しい)交際相手との結婚の希望
	1. 結婚したいと思っている
	2. とくに結婚は考えていない

問17 あなたのこれまでの交際経験（恋人として交際）についておたずねします。あてはまる番号に○をつけてください。

(1) 恋人として交際した経験	(2) 交際相手の性別
1. ない 2. ある	1. 男性 2. 女性

● 現在 交際相手がいる方 (問16(1)で2~4に○をつけた方) にかがいます。
いない方は 問19へ進んでください。

問18 (最も親しい)交際相手とは、いつ頃どのようなきっかけで知り合いましたか。(1)知り合った年月を記入し、(2)知り合ったきっかけのあてはまる番号1つに○をつけてください。また、交際相手の(3)現在年齢、(4)最後に卒業した(または在学中の)学校、(5)現在のおつとめの状況についてお答えください。

(1)知り合った年月	(2)知り合ったきっかけ	交 際 相 手 に つ い て		
		(3)現在年齢	(4)最後に卒業した(または在学中の)学校	(5)現在のおつとめ状況 ^{※1}
1. 昭和 2. 平成 3. 令和 4. 西暦 ____年__月頃	1. 学校で <small>あてはまる番号1つに○</small> 2. 職場や仕事の関係で 3. 幼なじみ・隣人関係 4. 学校以外のサークル活動やクラブ活動・習いごとで 5. 友人や兄弟姉妹を通じて 6. 見合いで(親せき・上役などの紹介も含む) 7. 結婚相談所で(オンラインを含む) 8. 街なかや旅先で 9. アルバイトで 10. (上記以外で) ネット(インターネット)で ^{※2} ↳ (具体的に _____) 11. その他 → (具体的に _____)	(____)歳	あてはまる番号1つに○ 1. 中学校 2. 高 校 3. 専修・専門 学校(高卒後) 4. 短大・高専 5. 大 学 6. 大学院 7. その他 (_____)	あてはまる番号1つに○ 1. 正規の職員 2. パート・アルバイト 3. 派遣・嘱託・契約社員 4. 自営業主・家族従業員・内職 5. 無職・家事 6. 学生

※1 交際相手が学業のかたわらアルバイトをしている場合は、「おつとめの状況」で「学生」に○をつけてください。

※2 「ネット(インターネット)で」は、SNS、ウェブサイト、アプリ等によるやりとりがきっかけで知り合った場合をさします。

● すべての方 に子どもについての希望をかがいます。

問19 あなたは、(1)子どもは何人くらいほしいですか。また、(2)子どもの男女の組合せには希望がありますか。あてはまる番号に○をつけ、下線の欄に人数を記入してください。また、子どもを希望する方は、(3)最初の(次の)お子さんを持ちたい年齢を下線の欄に記入してください。

(1) 希望する子どもの数		(2) 男女の組合せの希望	(3) 最初の(次の)お子さんを持ちたい年齢
0. 子どもはいらない→ 問21へ 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人 5. 5人以上 (____)人	→	男女の組合せに、 1. 希望がある → { 男の子(____)人 女の子(____)人 } 2. とくに希望はない →	あなたが (____)歳くらいのとき

● 前問(問19(1))で、希望する子どもの数が1人以上と答えた方(1~5に○をつけた方)にかがいます。

問20 1人以上の子どもをほしいとお考えになる理由は何ですか。下の理由のうちから、あてはまる番号すべてに○をつけ、その中で最も重要な理由には◎をつけてください。

あてはまる最も重要な理由すべてに◎をつけてください。	1. 結婚して子どもを持つことは自然なことだから 2. 子どもを持つことで周囲から認められるから 3. 子どもがいると生活が楽しく心が豊かになるから 4. 子どもは老後の支えになるから 5. 子どもは将来の社会の支えになるから 6. 子どもは夫婦関係を安定させるから 7. 好きな人の子どもの持ちたいから 8. 交際相手や親など周囲が望むから 9. その他 (_____)
----------------------------	--

● **すべての方** に生活スタイルについてうかがいます。

問21 あなたの生活スタイルについておたずねします。下の①～⑦のそれぞれの生活スタイルがあなたご自身にあてはまるかどうかについて、それぞれの右の欄のあてはまる番号1つに○をつけてください。

	(左の考え方に)			
	1 あ て は ま る	2 あ ど ち は ら ま か と い え ば	3 あ ど ち は ら ま か と い え ば	4 あ て は ま ら な い
	それぞれ番号1つに○			
① 仕事以外で、国内旅行や海外旅行によく出かける	1	2	3	4
② 衣服や持ちものには、こだわりが強い方だ	1	2	3	4
③ 欲しいものを買ったり、好きなことに使えるお金が少ない	1	2	3	4
④ 気軽に一緒に遊べる友人が多い	1	2	3	4
⑤ 生きがいとなるような趣味やライフワークを持っている	1	2	3	4
⑥ 一人の生活を続けても寂しくないと思う	1	2	3	4
⑦ 【職業をお持ちの方のみ】 仕事のために、私生活を犠牲にすることがよくある	1	2	3	4

● **すべての方** に現在の健康状態についてうかがいます。

問22 あなたの現在の健康状態はいかがですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. よい 2. まあよい 3. ふつう 4. あまりよくない 5. よくない

問23 あなたの現在の身長、体重、および喫煙習慣についてお答えください。

あてはまる番号1つに○

身長 cm 体重 kg 喫煙習慣 (1. ない 2. 以前あった 3. 現在ある)

※ 妊娠中の方は、妊娠前の体重をご記入ください。

● **すべての方** に結婚に関する意識についてうかがいます。

問24 自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちどちらですか。

1. いずれ結婚するつもり
2. 一生結婚するつもりはない → 問31へ

問25 同じく自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちどちらですか。

1. ある程度の年齢までには結婚するつもり
2. 理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない

● これまでに結婚した経験がある方にうかがいます。

問33 あなたの最初の結婚についての年月と、これまで経験した結婚回数を下線の欄に記入してください。

あなたの最初の結婚について		(3) これまで経験した結婚回数
(1) 結婚生活を始めた年月	(2) 同居をやめたとき、または死別をした年月	
[1. 昭和 2. 平成 3. 令和 4. 西暦] _____年____月	[1. 昭和 2. 平成 3. 令和 4. 西暦] _____年____月	(__)回

問34 最初の結婚相手とは、いつ頃どのようなきっかけで知り合いましたか。(1)知り合った年月を記入し、(2)知り合ったきっかけのあてはまる番号1つに○をつけてください。また、相手の(3)結婚時の年齢、(4)最後に卒業した(または在学中だった)学校(結婚時)についてお答えください。

(1)知り合った年月	(2)知り合ったきっかけ	最初の結婚相手について	
		(3)結婚時の年齢	(4)最後に卒業した(または在学中だった)学校(結婚時)
1. 昭和 2. 平成 3. 令和 4. 西暦 _____年____月頃	あてはまる番号1つに○ 1. 学校で 2. 職場や仕事の関係で 3. 幼なじみ・隣人関係 4. 学校以外のサークル活動やクラブ活動・習いごとで 5. 友人や兄弟姉妹を通じて 6. 見合いで(親せき・上役などの紹介も含む) 7. 結婚相談所で(オンラインを含む) 8. 街なかや旅先で 9. アルバイトで 10. (上記以外で) ネット(インターネット)で※ ↳(具体的に) 11. その他 →(具体的に)	(__)歳	あてはまる番号1つに○ 1. 中学校 2. 高校 3. 専修・専門学校(高卒後) 4. 短大・高専 5. 大学 6. 大学院 7. その他 ()

※「ネット(インターネット)で」は、SNS、ウェブサイト、アプリ等によるやりとりがきっかけで知り合った場合をさします。

● 以上で質問は終わりです。次ページは自由記述欄です(ご意見等が無ければ空欄のままでかまいません)。

皆様が日頃の生活を通じて、導入してほしい、あるいは充実してほしいと感じている施策はありますか。また、結婚、出産、子育て、人口問題などについてご意見などはございますか。下の欄に自由にご記入ください。

そのほか、本調査について、言葉がわかりづらい、回答が難しいところがありましたか。また、回答方法について、紙面ではなく、オンライン上での回答を希望されますか。今後の調査改善に役立てますので、下の欄に自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。
ご回答いただいた調査票は回収用の封筒に入れ、ノリづけしたうえで調査員にお渡してください。
封筒は国立社会保障・人口問題研究所へ届くまで、途中で開封されることはありません。

※ 貴重なお時間をいただきましたことをこころから感謝申し上げます。本調査の結果は当研究所における統計分析を通して、国民の皆様の生活向上に役立てられることとなります。なお、過去の結果については、下記に掲載しています。

出生動向基本調査ホームページ・アドレス（対象者用）
<http://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/nfs16info/index.asp>

§ 調査についてのご説明

◇ 結婚と出産に関する全国調査（出生動向基本調査）とは？

この調査は、国民の皆さまの結婚、出産、子育てについて調べる全国標本調査で、ほぼ5年ごとに実施されてきました。今回は16回目にあたります。ご夫婦の方への調査と、独身の方への調査の2種類があります。

◇ 調査の目的

国や自治体は、さまざまな施策を実施するにあたって、住民のおかれた状況や問題を把握しておかなくてはなりません。この調査は、国民の皆さまの結婚、出産、子育ての状況を把握し、これにかかわる政策的な課題を社会科学的立場から探ることが主な目的です。とりわけ今日の日本では少子化が進行しており、これにともなう人口の減少と高齢化、そしてひとりひとりの生き方の変化が、今後の日本社会に大きな影響を与えるとの指摘がされています。この少子化の現状を把握し、原因を究明することは、本調査の大切な課題のひとつです。

◇ 調査の対象

この調査は、全国から無作為に選ばれた地域にお住まいの方々を対象としており、以下の2つのグループの方々に別々の調査票を用意しています。

【結婚されている方への調査票】（黄色の調査票）

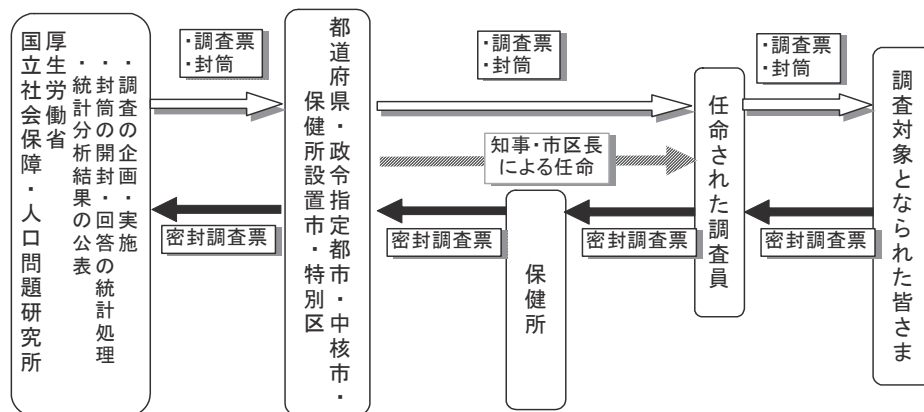
—— 届出の有無を問わず、6月30日時点で結婚されている55歳未満の女性の方すべてが対象です。

【独身の方への調査票】（緑色の調査票）

—— 6月30日時点で18歳以上55歳未満の独身の方（男性および女性）すべてが対象です。

◇ 調査のしくみ

この調査は、国立社会保障・人口問題研究所（厚生労働省に所属する国立の研究機関）が、統計法に基づく総務大臣の承認を受けて、国、都道府県（または政令指定都市・中核市・保健所設置市・特別区）、地域の保健所と連携して実施します。調査は、知事（市長・区長）から任命された調査員が皆さまのお宅にうかがい、調査票の配布、および回答いただいた調査票（封筒に入れて密封したもの）を回収する方法で行います。



◇ プライバシー・個人情報の保護について

この調査票上の回答はすべて統計を作成する目的だけに用いられ、それ以外の使用は「統計法」という法律で固く禁じられています。皆さまに回答いただき回収用封筒に密封された調査票は、調査員が回収した後も開封されることなく国立社会保障・人口問題研究所に届けられ、その後は厳重な管理の下に置かれます。統計を作成する過程では個人を特定する情報はすべて除外されます。したがって、個人情報がもれることは絶対にありません。

◇ その他のお問い合わせ

回答方法などについてのお問い合わせは、調査員におたずねください。また、本調査の詳細情報、これまでの調査結果、よくあるお問い合わせなどについては、インターネット上に出生動向基本調査のホームページを開設して紹介しています。そちらをご参照ください。

出生動向基本調査ホームページ（対象者用） <http://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/nfs16info/index.asp>

結婚と出産に関する全国調査（出生動向基本調査）
を含む公的統計の作成は統計法によって行われます

- ◆ 統計法は、社会に必要な情報基盤としての統計を整備するためのルールです。
- ◆ 統計法は、役に立つ統計の整備を通じ、国民生活を向上させます。
- ◆ 結婚と出産に関する全国調査（出生動向基本調査）の結果は、国や自治体の施策・サービスの提供に役立てられています。

個人情報 は 厳重 に 保護 されます

- ◆ 結婚と出産に関する全国調査（出生動向基本調査）では、統計法の規定により、個人情報は厳重に保護されます。
- ◆ 調査票に書かれた事柄は厳しく秘密が守られ、統計を作るためだけに用いられます。その他の目的に用いることは、統計法で禁止されています。

統計法に基づく
一般統計調査



政府統計



2021年社会保障・人口問題基本調査

結婚と出産に関する全国調査

第16回出生動向基本調査

〔結婚されている方への調査票〕

(令和3(2021)年 6 月 30日 現在の事実)

対象となられた皆さまへ

このたびは調査にご協力いただきまして、まことにありがとうございます。

この調査は、わが国における結婚、出産、子育ての現状と課題を調べるために、国立社会保障・人口問題研究所が全国的に行う標本調査です。これからの日本社会の見通しや施策を考える上で、大切な資料となるものです。この調査票への回答は統計を作成する目的だけに用いられ、それ以外の使用は法律で固く禁じられています。お答えいただいた内容が他にもれることは絶対にありませんので、どうぞ安心してありのままをお答えくださいますようお願いいたします。

(調査の詳しいご説明は、13ページにございます)

なお、この調査票の配布と回収(密封封筒)には、都道府県知事(市長・区長)の任命を受けた調査員が皆さまのお宅にうかがいます。ご不明の点は調査員におたずねください。

記入上のお願い

- この調査票は6月30日時点で**結婚している55歳未満の女性の方**に、ご夫婦のことについて答えていただくためのものです(「結婚している」とは、届出の有無にかかわらず配偶者がいることです)。
- 令和3(2021)年**6月30日現在の事実**について、黒のボールペンや鉛筆でご記入ください。
- 回答のしかたは、あてはまる番号に○をつけるものと、必要なことらを書きこむものがあります。
- 回答後の調査票は、**回収用の封筒に入れ、ノリづけしたうえで調査員にお渡しください**。封筒はそのまま国立社会保障・人口問題研究所に届けられ、決して途中で開封されることはありません。

厚生労働省
国立社会保障・人口問題研究所

〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-3
日比谷国際ビル6階

電話 (03) 3595-2984 内線4477 / 4474
<http://www.ipss.go.jp>

調査員記入欄

都道府県	
保健所	
地域コード	

問1 あなた方ご夫婦の(1)出生年月、(2)結婚生活を始めた年月、(3)結婚を届け出た年月、および(4)初再婚の別と再婚回数について、あてはまる番号に○をつけ、下線の欄に数字を記入してください。

	(1) 出生年月	(2) 結婚生活を始めた年月	(3) 結婚を届け出た年月	(4) 初再婚の別
あなた	1. 昭和 2. 平成 ____年__月 3. 西暦	1. 昭和 2. 平成 3. 令和 4. 西暦	1. 結婚生活開始と同時に 2. 下の年月に届け出た ↳ 1. 昭和 2. 平成 ____年__月 3. 令和 4. 西暦	1. 初婚 2. 離婚後再婚 } 再婚 3. 死別後再婚 } () 回目
夫	1. 昭和 2. 平成 ____年__月 3. 西暦	____年__月	3. (まだ)届出はしていない	1. 初婚 2. 離婚後再婚 } 再婚 3. 死別後再婚 } () 回目

問2 あなた方ご夫婦が、(1)初めてお知り合いになったのはいつですか。(2)婚約あるいは結婚の合意をなされたのはいつですか。また、(3)結婚する前に同棲をしていた期間がありましたか。

(1) 初めて知り合った年月	(2) 婚約または結婚の合意の年月	(3) 同棲期間の有無※
1. 昭和 2. 平成 ____年__月 3. 令和 4. 西暦	1. 昭和 2. 平成 ____年__月 3. 令和 4. 西暦	1. ない 2. あった ↳ ____年__か月くらい

※同棲期間とは、結婚生活を始める前に生活を共にした期間のことです。

問3 あなた方ご夫婦はどのようなきっかけでお知り合いになりましたか。あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

あてはまる番号1つに○	
1. 学校で	7. 結婚相談所で（オンラインを含む）
2. 職場や仕事の関係で	8. 街なかや旅先で
3. 幼なじみ・隣人関係	9. アルバイトで
4. 学校以外のサークル活動やクラブ活動・習いごとで	10. (1～9以外で) ネット（インターネット）で※ ↳ (具体的に)
5. 友人や兄弟姉妹を通じて	11. その他 → (具体的に)
6. 見合いで（親せき・上役などの紹介も含む）	

※「ネット（インターネット）で」は、SNS、ウェブサイト、アプリ等によるやりとりがきっかけで知り合った場合をさします。

問4 あなた方ご夫婦が、最終的に結婚を決めたときの直接のきっかけは何ですか。次の中からあてはまる番号を2つまで選んで○をつけてください。

最終的に結婚を決めたときの直接のきっかけ	
あてはまる番号を2つまで選んで○	1. 結婚資金（挙式や新生活の準備のための費用）が用意できた
	2. 収入や住居など結婚生活のための経済的基盤ができた
	3. 自分または相手の仕事の事情
	4. できるだけ早く一緒に暮らしたかった
	5. 年齢的に適当な時期だと感じた
	6. できるだけ早く子どもがほしかった
	7. 子どもができた
	8. 友人や同年代の人たちの結婚
	9. 親や周囲のすすめ
	10 その他 ()

問5 あなた方ご夫婦について、それぞれ (1)在学・卒業の別（卒業された方は卒業した年齢を下線に記入）と、(2)その学校について、あてはまる番号に○をつけてください。

	(1) 在学・卒業の別	(2) 在学中の方→現在在学中の学校 卒業の方→最後に卒業した学校
あなた	あてはまる番号に○ 1. 現在、在学中(休学等を含む) → 2. すでに卒業 → <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 20px;"> 最後の学校を卒業した年齢 () 歳 数字を記入 </div>	あてはまる番号1つに○ 1. 中学校 2. 男女共学の高校 3. 男女別学の高校 4. 専修・専門学校(高卒後) 5. 短大・高専 6. 女子大学 7. 共学の大学 8. 大学院 9. その他 ()
夫	あてはまる番号に○ 1. 現在、在学中(休学等を含む) → 2. すでに卒業 → <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 20px;"> 最後の学校を卒業した年齢 () 歳 数字を記入 </div>	あてはまる番号1つに○ 1. 中学校 2. 男女共学の高校 3. 男女別学の高校 4. 専修・専門学校(高卒後) 5. 短大・高専 6. 大学 7. 大学院 8. その他 ()

※ 大学、大学院卒業後に専門学校などに通った場合、大学または大学院を「最後に卒業した学校」としてご回答ください。
 ※ 中途退学した場合は、その前の卒業学校を「最後に卒業した学校」としてご回答ください。

問6 あなた方ご夫婦のいろいろな時期のおつとめの状況についておたずねします。下のa~gの各時期における(1)おつとめの状況、(2)職種、(3)おつとめ先の従業員数について、回答欄のあてはまる番号に1つずつ○をつけてください（お仕事が複数の場合、主たる仕事が対象）。

おたずねの対象者 ↓	おたずねの対象の時期 ↓	(1)おつとめの状況※1						(2)職 種							(3)おつとめ先の従業員数 (本社・支社を含む)						
		1 正規の職員	2 パート・アルバイト	3 派遣・嘱託・契約社員	4 自営業主・家族従業者・	5 内職・家事	6 無職・学生	1 主として農林漁業	2 農林漁業以外の自営業	3 専門職	4 管理職	5 事務職	6 販売・サービス職	7 工場などの現場労働	1 1人	2 10人	3 30人	4 100人	5 300人	6 1000人以上	7 官公庁
あなた	a. 最後に学校を卒業した直後※2	1~6のあてはまる番号に○をつける 1~4に○をつけたときは右の欄に進む						(1)で1~4に○をつけたときだけあてはまる番号に○をつける							(1)で1~4に○をつけたときだけあてはまる番号に○をつける						
	b. 現在の結婚を決めたとき	1 2 3 4 5 6						1 2 3 4 5 6 7							1 2 3 4 5 6 7						
	c. 結婚直後	1 2 3 4 5 6						1 2 3 4 5 6 7							1 2 3 4 5 6 7						
	d. 現在	1 2 3 4 5 6						1 2 3 4 5 6 7							1 2 3 4 5 6 7						
夫	e. 最後に学校を卒業した直後※2	1 2 3 4 5 6						1 2 3 4 5 6 7							1 2 3 4 5 6 7						
	f. あなたとの結婚を決めたとき	1 2 3 4 5 6						1 2 3 4 5 6 7							1 2 3 4 5 6 7						
	g. 現在	1 2 3 4 5 6						1 2 3 4 5 6 7							1 2 3 4 5 6 7						

※1 産休・育児休業中の場合は、就業とみなします。休業前のおつとめの状況に○をつけてください。
 ※2 在学中の方は、前の学校を卒業した直後の状況についてご記入ください。

問7 あなた方ご夫婦の現在のお仕事（収入を伴うもの。複数ある場合、主たる仕事を対象）について、次の(1)～(4)には該当する数字を記入し、(5)については、あてはまる番号に1つずつ〇をつけてください。

	あなたの仕事について (収入を伴う仕事に就いている場合ご記入ください)	夫の仕事について (収入を伴う仕事に就いている場合ご記入ください)
(1) 勤務する日1日の平均的な労働時間	1日あたり 平均 <input type="text"/> 時間 <input type="text"/> 分 <small><残業時間も含めた平均的な労働時間をご記入ください></small>	1日あたり 平均 <input type="text"/> 時間 <input type="text"/> 分
(2) 1週間の平均的な労働日数	週あたり平均 <input type="text"/> 日	週あたり平均 <input type="text"/> 日
(3) 現在の仕事の勤続または継続年数*	およそ <input type="text"/> 年 <small>(1年未満の場合は、1年として下さい。)</small>	およそ <input type="text"/> 年
(4) 今年の5月の収入	税込み 約 <input type="text"/> 万円 <small><事業収入の場合は、売上から諸経費を差し引いた額を記入してください。次の(5)も同様です></small>	税込み 約 <input type="text"/> 万円
(5) 昨年(2020年)の年収	税込み 0. 1～99万円 6. 600万円台 1. 100万円台 7. 700万円台 2. 200万円台 8. 800万円台 3. 300万円台 9. 900万円台 4. 400万円台 10. 1000万円以上 5. 500万円台 11. なし	税込み 0. 1～99万円 6. 600万円台 1. 100万円台 7. 700万円台 2. 200万円台 8. 800万円台 3. 300万円台 9. 900万円台 4. 400万円台 10. 1000万円以上 5. 500万円台 11. なし

* 休業からの復帰や社内の業務異動後からではなく、その勤め先に勤め始めた時期からの年数をお書きください。

● 次の問は、**現在お仕事をもちでない方** にかかっています。収入を伴うお仕事をお持ちの方（育児休業中の方を含む）は問9へ進んでください。

問8 あなたは今後、(1)収入を伴うお仕事をしたいですか。お仕事をしたい場合、(2)どのようなお仕事にしたいですか。あてはまる番号1つに〇をつけてください。

(1) 就業希望の有無	(2) 希望する就業形態
あてはまる番号1つに〇	あてはまる番号1つに〇
1. すぐにも働きたい	1. 正規の職員
2. しばらく間をおいてから働きたい ↳ () 年後くらい	2. パート・アルバイト
3. とくに時期の希望はないが いずれ働きたい	3. 派遣・嘱託・契約社員
4. 今後も仕事をするつもりはない	4. 自営業主・家族従業者・内職
5. その他 ()	

● **すべての方** に、あなた方ご夫婦のお子さんの数についてうかがいます。

問9 あなた方ご夫婦のお子さんについておたずねします。次の下線の欄に該当する人数を記入してください。

	全部で	男の子	女の子
これまでに生んだお子さんは ※死産は含みません。	() 人 いない場合は0を記入	() 人 いない場合は0を記入	() 人 いない場合は0を記入
そのうち生存している お子さんは	() 人 いない場合は0を記入	() 人 いない場合は0を記入	() 人 いない場合は0を記入

● ここからは、あなた方ご夫婦の妊娠・出産にかかわる事柄についてうかがいます。
立ち入った内容も含まれますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をよろしくお願いいたします。

問10 あなた方ご夫婦が、これまでに経験した妊娠の回数を（ ）内に記入してください。

妊娠（ ）回 一度も経験していない場合には0を記入

● 妊娠経験のある方にうかがいます。妊娠経験のない方は問12へ進んでください。

問11 あなた方ご夫婦が経験されたすべての妊娠・出産について、(1)妊娠の結果、(2)妊娠/出産の時期、(3)妊娠前の予定のあてはまる番号に○をつけ、下線の欄に人数、年月、年齢を記入してください。

	(1) 妊娠の結果	(2) 妊娠/出産の時期	(3) 妊娠前の予定
● 現在のご結婚以前については、後ほど別の設問でおたずねします。			
第1回 目の 妊娠	1. 出生 → $\left\{ \begin{array}{l} 1. \text{男} \\ 2. \text{女} \\ 3. \text{ふたご以上} \rightarrow \left\{ \begin{array}{l} \text{男}(\quad)\text{人} \\ \text{女}(\quad)\text{人} \end{array} \right. \end{array} \right.$ 2. 流産（死産を含む） 3. 人工妊娠中絶 4. 現在妊娠中	→ $\left\{ \begin{array}{l} [1. \text{昭和} \ 2. \text{平成} \ 3. \text{令和} \ 4. \text{西暦}] \\ \text{ } \text{年} \text{ } \text{月} \text{ 出産} \end{array} \right.$ → あなたが（ ）歳のとき → $\left\{ \begin{array}{l} [1. \text{令和} \ 2. \text{西暦}] \\ \text{ } \text{年} \text{ } \text{月} \text{ 出産予定} \end{array} \right.$	1回目妊娠をしたとき 1. 早く子どもが欲しかった 2. まだ妊娠するつもりではなかった 3. もう妊娠するつもりはなかった 4. とくに考えていなかった
第2回 目の 妊娠	1. 出生 → $\left\{ \begin{array}{l} 1. \text{男} \\ 2. \text{女} \\ 3. \text{ふたご以上} \rightarrow \left\{ \begin{array}{l} \text{男}(\quad)\text{人} \\ \text{女}(\quad)\text{人} \end{array} \right. \end{array} \right.$ 2. 流産（死産を含む） 3. 人工妊娠中絶 4. 現在妊娠中	→ $\left\{ \begin{array}{l} [1. \text{昭和} \ 2. \text{平成} \ 3. \text{令和} \ 4. \text{西暦}] \\ \text{ } \text{年} \text{ } \text{月} \text{ 出産} \end{array} \right.$ → あなたが（ ）歳のとき → $\left\{ \begin{array}{l} [1. \text{令和} \ 2. \text{西暦}] \\ \text{ } \text{年} \text{ } \text{月} \text{ 出産予定} \end{array} \right.$	2回目妊娠をしたとき 1. 早く子どもが欲しかった 2. まだ妊娠するつもりではなかった 3. もう妊娠するつもりはなかった 4. とくに考えていなかった
第3回 目の 妊娠	1. 出生 → $\left\{ \begin{array}{l} 1. \text{男} \\ 2. \text{女} \\ 3. \text{ふたご以上} \rightarrow \left\{ \begin{array}{l} \text{男}(\quad)\text{人} \\ \text{女}(\quad)\text{人} \end{array} \right. \end{array} \right.$ 2. 流産（死産を含む） 3. 人工妊娠中絶 4. 現在妊娠中	→ $\left\{ \begin{array}{l} [1. \text{昭和} \ 2. \text{平成} \ 3. \text{令和} \ 4. \text{西暦}] \\ \text{ } \text{年} \text{ } \text{月} \text{ 出産} \end{array} \right.$ → あなたが（ ）歳のとき → $\left\{ \begin{array}{l} [1. \text{令和} \ 2. \text{西暦}] \\ \text{ } \text{年} \text{ } \text{月} \text{ 出産予定} \end{array} \right.$	3回目妊娠をしたとき 1. 早く子どもが欲しかった 2. まだ妊娠するつもりではなかった 3. もう妊娠するつもりはなかった 4. とくに考えていなかった
第4回 目の 妊娠	1. 出生 → $\left\{ \begin{array}{l} 1. \text{男} \\ 2. \text{女} \\ 3. \text{ふたご以上} \rightarrow \left\{ \begin{array}{l} \text{男}(\quad)\text{人} \\ \text{女}(\quad)\text{人} \end{array} \right. \end{array} \right.$ 2. 流産（死産を含む） 3. 人工妊娠中絶 4. 現在妊娠中	→ $\left\{ \begin{array}{l} [1. \text{昭和} \ 2. \text{平成} \ 3. \text{令和} \ 4. \text{西暦}] \\ \text{ } \text{年} \text{ } \text{月} \text{ 出産} \end{array} \right.$ → あなたが（ ）歳のとき → $\left\{ \begin{array}{l} [1. \text{令和} \ 2. \text{西暦}] \\ \text{ } \text{年} \text{ } \text{月} \text{ 出産予定} \end{array} \right.$	4回目妊娠をしたとき 1. 早く子どもが欲しかった 2. まだ妊娠するつもりではなかった 3. もう妊娠するつもりはなかった 4. とくに考えていなかった
第5回 目の 妊娠	1. 出生 → $\left\{ \begin{array}{l} 1. \text{男} \\ 2. \text{女} \\ 3. \text{ふたご以上} \rightarrow \left\{ \begin{array}{l} \text{男}(\quad)\text{人} \\ \text{女}(\quad)\text{人} \end{array} \right. \end{array} \right.$ 2. 流産（死産を含む） 3. 人工妊娠中絶 4. 現在妊娠中	→ $\left\{ \begin{array}{l} [1. \text{昭和} \ 2. \text{平成} \ 3. \text{令和} \ 4. \text{西暦}] \\ \text{ } \text{年} \text{ } \text{月} \text{ 出産} \end{array} \right.$ → あなたが（ ）歳のとき → $\left\{ \begin{array}{l} [1. \text{令和} \ 2. \text{西暦}] \\ \text{ } \text{年} \text{ } \text{月} \text{ 出産予定} \end{array} \right.$	5回目妊娠をしたとき 1. 早く子どもが欲しかった 2. まだ妊娠するつもりではなかった 3. もう妊娠するつもりはなかった 4. とくに考えていなかった

※ 6回以上の妊娠経験がある方は、5回目までのご記入でかまいません。

● **すべての方** にかがいます。
 ※ここからの質問の回答は、不妊に悩むご夫婦の実情を全国的に把握し、施策を検討するために必要な資料となります。

問12 あなた方ご夫婦の過去1か月以内の性交渉の有無と避妊についておたずねします。

(1)過去1か月以内の性交渉有無	(2)避妊有無(一番最近の経験で)	避妊方法はコンドーム、ピル(経口避妊薬)、IUD・リング、不妊手術、殺精子剤(錠剤、フィルム等)のいずれかでしたか？
1. なかった 2. あった	1. 避妊をした 2. 避妊をしなかった	1. はい 2. いいえ (あてはまる番号1つに○)

問13 あなた方ご夫婦は、不妊について不安や悩みがありますか。また、不妊治療の経験はありますか。あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

(1)悩みの有無 (1つだけに○)	(2)不妊治療の経験の有無 (1つだけに○)
1. 子どもができないことを心配したことはない → 問15へ 2. 過去に子どもができないのではないかと心配したことがある 3. 現在、子どもができないのではないかと心配している	1. 心配はしたが、特に医療機関にかかったことはない → 問15へ 2. 過去に検査や治療を受けたことがある → 問14へ 3. 現在、検査や治療を受けている

● 前問(問13(2))で、不妊治療について「2. 過去に検査や治療を受けたことがある」「3. 現在、検査や治療を受けている」とお答えになった方 にかがいます。

問14 (1)不妊治療の結果、お子さんが生まれましか。生まれている場合、(2)治療内容別に該当するお子さんをお答えください。

(1)治療の結果、お子さんが生まれましか (あてはまる番号1つに○)	(2)実施した不妊治療と該当するお子さん (あてはまるお子さんすべてに○)
1. いいえ 2. はい	体外受精、顕微授精 1. 第1子 2. 第2子 3. 第3子 4. 第4子以上 その他の不妊治療※ 1. 第1子 2. 第2子 3. 第3子 4. 第4子以上

※ その他の不妊治療：タイミング法、排卵誘発法、人工授精、その他男性・女性が受ける妊娠のための治療や手術など

● ここからは、**すべての方** に、子どもを持つことについてのお考えをうかがいます。

問15 あなた方ご夫婦にとって (1)理想的な子どもの数は何人ですか。また、(2)子どもの男女の別や組合せには理想がありますか。それぞれあてはまる番号1つに○をつけ、組合せに理想のある方は男の子、女の子の数を下線の欄に記入してください。

(1)理想的な子どもの数	(2)子どもの男女の別や組合せの理想
0. 子どもはいらない → 問17へ 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人 5. 5人以上 ()人	1. 理想あり → 男の子 ()人 女の子 ()人 2. とくに理想はない

● 前問(問15(1))で、理想的な子どもの数が1人以上と答えた方(1~5に○をつけた方) にかがいます。

問16 理想的な子どもの数を1人以上とお考えになる理由は何ですか。下の理由のうちから、あてはまる番号すべてに○をつけ、その中で最も重要な理由には◎をつけてください。

あてはまる最も重要な理由番号すべてに◎をつけてください。	1. 結婚して子どもを持つことは自然なことだから
	2. 子どもを持つことで周囲から認められるから
	3. 子どもがいると生活が楽しく心が豊かになるから
	4. 子どもは老後の支えになるから
	5. 子どもは将来の社会の支えになるから
	6. 子どもは夫婦関係を安定させるから
	7. 好きな人の子どもを持ちたいから
	8. 夫や親など周囲が望むから
	9. その他 ()

● すべての方 にかがいます。

問17 あなた方ご夫婦の今後のお子さんの予定についておたずねします。(1)お子さんの数と、(2)希望の時期について、あてはまる番号に○をつけてください。(2)で「しばらく間をおいてから」とお答えになった場合は、(3)次のお子さんを持ちたい年齢を下線の欄にご記入ください。

(1) 今後のお子さんの予定 (現在妊娠中のお子さんも含めて)	(2) お子さんを希望する時期
<p>あてはまる番号1つに○</p> <p>0. (もう) 生むつもりはない</p> <p>1. (あと) 1人生むつもり</p> <p>2. (あと) 2人生むつもり</p> <p>3. (あと) 3人生むつもり</p> <p>4. (あと) 4人以上生むつもり</p>	<p>1. できるだけ早く</p> <p>2. しばらく間をおいてから</p> <p>(3)次のお子さんを持ちたい年齢 あなたが () 歳くらいのとき</p> <p>3. とくに考えていない</p> <p>4. 現在妊娠中</p>

問18 そうしますと、あなた方ご夫婦は全部で何人のお子さんを持つおつもりですか。

0. 子どもは持たない	3. 3人
1. 1人	4. 4人
2. 2人	5. 5人以上 () 人

※ 現在の結婚後に持つつもり(持った)お子さんの数をお答えください。

● 今後1人以上のお子さんを生むつもりの方(問17(1)の答えが1人以上の方) にかがいます。

問19 今後持つおつもりのお子さんの数が、もし結果的に持てないことがあるとしたら、その原因は何である可能性が高いですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

持つつもりの子どもの数を実現できない原因(可能性)
あてはまる番号すべてに○
1. 収入が不安定なこと
2. 自分や夫の仕事(勤めや家業)の事情
3. 家事・育児の協力者がいないこと
4. 保育所など子どもの預け先がないこと
5. 今いる子どもに手がかかること
6. 年齢や健康上の理由で子どもができないこと
7. その他 ()
8. 持つつもりの子どもの数を実現できない可能性は低い

● 持つつもりの子どもの数(問18の答)が、理想的な子どもの数(問15(1)の答)より少ない方 にかがいます。

問20 持つつもりの子どもの数が、理想的な子どもの数より少ないのはどうしてですか。下の理由のうちから、あてはまる番号すべてに○をつけ、その中で最も重要な理由には◎をつけてください。

あてはまる最も重要な理由すべに◎に○をつけ	1. 子育てや教育にお金がかかりすぎるから
	2. 家が狭いから
	3. 自分の仕事(勤めや家業)に差し支えるから
	4. 子どもがのびのび育つ環境ではないから
	5. 自分や夫婦の生活を大切にしたいから
	6. 高齢で生むのはいやだから
	7. これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから
	8. 健康上の理由から
	9. ほしいけれどもできないから
	10. 夫の家事・育児への協力が得られないから
	11. 夫が望まないから
	12. 末子が夫の定年退職までに成人してほしいから
	13. その他 ()

● ここからは、現在の結婚で生まれたお子さんの育児期の状況についてうかがいます。
 お子さんが生まれていない方は、問25へ進んでください。

問21 あなた方ご夫婦がお子さんをお持ちになったときのあなたのおつとめの状況についておたずねします。
 下のa~fの各時期における(1)おつとめの状況、(2)おつとめ先の従業員数について、あてはまる番号に
 1つずつ○をつけてください。

おたずねの対象者の時期 ↓	おたずねの時期 ↓	(1)おつとめの状況※1						(2)おつとめ先の従業員数 (本社・支社を含む)						
		1 正規の職員	2 パート・アルバイト	3 派遣・嘱託・契約社員	4 自営業主・家族従業者・内職	5 無職・家事	6 学生	1 1人	2 10人	3 30人	4 100人	5 300人	6 1000人以上	7 官公庁
生第1 だ子 方を	●現在の結婚後に生まれたお子さんについて	1~6のあてはまる番号に○をつける 1~4に○をつけたときは右の欄に進む						(1)で1~4に○をつけたときだけ あてはまる番号に○をつける						
	a. 第1子の妊娠がわかったとき	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	7
生第2 だ子 方を	b. 第1子が1歳になったとき	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	7
	c. 第2子の妊娠がわかったとき	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	7
生第3 だ子 方を	d. 第2子が1歳になったとき	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	7
	e. 第3子の妊娠がわかったとき	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	7
生第3 だ子 方を	f. 第3子が1歳になったとき	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	7

※1 産休・育児休業中の場合は就業とみなします。休業前のおつとめの状況に○をつけてください。

※ お子さんが4人以上いらっしゃる方は、3人目までのご記入でかまいません。

※ 生んだお子さんが1歳未満の場合は、「1歳になったとき」について空欄のまま結構です。

問22 一番下のお子さん(末子)を生んだあとと現在までの間に、(1)お仕事(収入を伴うもの)につきましたか。
 お仕事についての場合、そのお仕事の(2)就業形態と、(3)従業員数、(4)就業した時期についてお答えくだ
 さい。

※ 末子出産後、異なる仕事に複数回つきた場合は、最初についたお仕事についてお答えください。

(1)一番下のお子さん(末子)を出産したあとの就業の有無	(4)就業時期										
1. 出産前の仕事・職場に復帰した	一番下のお子さんが ()歳のとき ※1歳未満の場合は ()か月のとき										
2. 新たに仕事についた											
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>(2)就業形態</th> <th>(3)おつとめ先の従業員数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 正規の職員</td> <td>1. 1~9人 5. 300~999人</td> </tr> <tr> <td>2. パート・アルバイト</td> <td>2. 10~29人 6. 1000人以上</td> </tr> <tr> <td>3. 派遣・嘱託・契約社員</td> <td>3. 30~99人 7. 官公庁</td> </tr> <tr> <td>4. 自営業主・家族従業者・内職</td> <td>4. 100~299人</td> </tr> </tbody> </table>		(2)就業形態	(3)おつとめ先の従業員数	1. 正規の職員	1. 1~9人 5. 300~999人	2. パート・アルバイト	2. 10~29人 6. 1000人以上	3. 派遣・嘱託・契約社員	3. 30~99人 7. 官公庁	4. 自営業主・家族従業者・内職	4. 100~299人
(2)就業形態		(3)おつとめ先の従業員数									
1. 正規の職員	1. 1~9人 5. 300~999人										
2. パート・アルバイト	2. 10~29人 6. 1000人以上										
3. 派遣・嘱託・契約社員	3. 30~99人 7. 官公庁										
4. 自営業主・家族従業者・内職	4. 100~299人										
3. 末子出産後、仕事にはついていない											
4. 現在、末子の産後休業または育児休業中											

● ひきつづき、現在の結婚で生まれたお子さんの育児期の状況 についてうかがいます。

問23 あなた方ご夫婦のお子さんが3歳になるまでの間について、ご夫婦のそれぞれのお母さま、お父さまからどのくらい子育ての手助けがありましたか。また、あなたの夫の家事・育児頻度はどのくらいでしたか。第1子、第2子、第3子について、それぞれあてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

おたすねのお子さん ↓	(1)あなた(妻)のお母さま					(2)あなた(妻)のお父さま					(3)夫のお母さま					(4)夫のお父さま					(5)あなたの夫												
	家事頻度				育児頻度																												
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	
	1 ほとんどなかった	2 ときどきあった	3 ひんばんにあった	4 日常的にあった	5 すでに亡くなっていました	1 ほとんどなかった	2 ときどきあった	3 ひんばんにあった	4 日常的にあった	5 すでに亡くなっていました	1 ほとんどなかった	2 ときどきあった	3 ひんばんにあった	4 日常的にあった	5 すでに亡くなっていました	1 ほとんどなかった	2 ときどきあった	3 ひんばんにあった	4 日常的にあった	5 すでに亡くなっていました	1 ほとんどなかった	2 ときどきあった	3 ひんばんにあった	4 日常的にあった	1 ほとんどなかった	2 ときどきあった	3 ひんばんにあった	4 日常的にあった					
	●現在の結婚後に生まれたお子さんについてあてはまる番号1つに○										●現在の結婚後に生まれたお子さんについてあてはまる番号1つに○										●現在の結婚後に生まれたお子さんについてあてはまる番号1つに○												
第1子	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2	3	4
第2子	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2	3	4
第3子	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2	3	4

※ お子さんが4人以上いらっしゃる方は、3人目までのご記入でかまいません。

※ お子さんが3歳になるまでに状況が変わった場合は、おもな状況についてお答えください。

問24 あなた方ご夫婦のお子さんが3歳になるまでの間、(1)ご夫婦のそれぞれのお母さまとは同居していましたか。また、(2)以下の制度や施設を利用しましたか。第1子、第2子、第3子について、あてはまる番号に○をつけてください。

おたすねのお子さん ↓	(1)お母さまとの同居								(2)利用した制度・施設														
	あなたのお母さま				夫のお母さま				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	1	2	3	4	1	2	3	4	産前・産後休業制度	育児休業制度(妻)	育児休業制度(夫)	育児時間制度・短時間勤務制度	認可保育所(小規模認可保育所含む)	認定こども園	事業所内保育施設・企業主導型保育	その他の認可外保育施設(保育室・ベビーホテルなど)・認証保育所	保育ママ(家庭的保育)	ファミリー・サポート・センター	ベビーシッター(居宅訪問型保育含む)	一時預かり事業	子育て支援センター・つどいの広場	など地域の親子交流や相談の場	どれも利用しなかった
	●現在の結婚後に生まれたお子さんについてご記入ください。								●現在の結婚後に生まれたお子さんについてご記入ください。														
第1子	それぞれ、あてはまる番号1つに○								あてはまる番号すべてに○														
第1子	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
第2子	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
第3子	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15

※ お子さんが4人以上いらっしゃる方は、3人目までのご記入でかまいません。

※ お子さんが3歳になるまでに状況が変わった場合は、おもな状況についてお答えください。

● **すべての方**に、あなた方ご夫婦のご両親とごきょうだいについてうかがいます。

問25 あなた方ご夫婦のご両親の(1)出生年と年齢、(2)最後に卒業した学校についておたずねします。あてはまる番号に○をつけ、下線の欄には数字を記入してください。

	あなた(妻)のお母さま	あなた(妻)のお父さま	夫のお母さま	夫のお父さま
(1) 出生年	[1.大正 2.昭和 3.西暦] _____年 生まれ (満____歳)	[1.大正 2.昭和 3.西暦] _____年 生まれ (満____歳)	[1.大正 2.昭和 3.西暦] _____年 生まれ (満____歳)	[1.大正 2.昭和 3.西暦] _____年 生まれ (満____歳)
※ 満年齢の記入は、ご健在の方のみで結構です。				
(2) 学校最後に卒業した	1. 中学校 2. 高校 3. 専修・専門学校(高卒後) 4. 短大・高専 5. 大学 6. 大学院 7. その他 ()	1. 中学校 2. 高校 3. 専修・専門学校(高卒後) 4. 短大・高専 5. 大学 6. 大学院 7. その他 ()	1. 中学校 2. 高校 3. 専修・専門学校(高卒後) 4. 短大・高専 5. 大学 6. 大学院 7. その他 ()	1. 中学校 2. 高校 3. 専修・専門学校(高卒後) 4. 短大・高専 5. 大学 6. 大学院 7. その他 ()
※ 旧制の高等小学校、小学校は中学校卒として下さい。旧制の高等女学校は高校卒として下さい。				

問26 あなた方ご夫婦のご両親との同居/別居について、あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

おたずねの対象時期 ↓		(1)あなた(妻)のお母さま	(2)あなた(妻)のお父さま	(3)夫のお母さま	(4)夫のお父さま
			1 同居 2 同じ市区町村内で別居 3 それ以外の地域で別居 4 すでに亡くなっていた(いる)	1 同居 2 同じ市区町村内で別居 3 それ以外の地域で別居 4 すでに亡くなっていた(いる)	1 同居 2 同じ市区町村内で別居 3 それ以外の地域で別居 4 すでに亡くなっていた(いる)
各欄のあてはまる番号に1つずつ○					
a. 現在の結婚を決めたとき	あなた	1 2 3 4	1 2 3 4	/	/
	夫	/	/	1 2 3 4	1 2 3 4
b. 結婚直後		1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4
c. 現在		1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4

問27 あなた方ご夫婦の兄弟姉妹の数を下線の欄に記入してください(亡くなられた方は含めません)。

あなた	あなたを含めて合計 ()人	あなたの兄弟姉妹の内訳	兄()人 いない場合は0を記入	姉()人 いない場合は0を記入	弟()人 いない場合は0を記入	妹()人 いない場合は0を記入
	夫を含めて合計 ()人		夫の兄弟姉妹の内訳	兄()人 いない場合は0を記入	姉()人 いない場合は0を記入	弟()人 いない場合は0を記入

● **すべての方** にかがいます。

問28 結婚、男女関係、家庭、子どもを持つことについてはいろいろな考え方がありますが、下に例として①～⑭のような考え方を示しました。それぞれについて、あなたご自身はどのようにお考えでしょうか。それぞれの右の欄のあてはまる番号1つに○をつけてください。

※本問では賛成・反対の立場が取りやすいよう断定的な表現を用いています。また、必ずしも一般的でない考え方も含まれています。

(左の考え方に)			
1	2	3	4
ま	い	い	ま
っ	ど	ど	っ
た	え	え	た
く	ち	ち	く
賛	ば	ば	反
成	ら	ら	か
	賛	反	対
	成	対	と

	それぞれ番号1つに○			
	1	2	3	4
① 生涯を独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない	1	2	3	4
② 男女と一緒に暮らすなら結婚すべきである	1	2	3	4
③ 結婚前の男女でも愛情があるなら性交渉をもってかまわない	1	2	3	4
④ どんな社会においても、女らしさや男らしさはある程度必要だ	1	2	3	4
⑤ 結婚しても、人生には結婚相手や家族とは別の自分だけの目標を持つべきである	1	2	3	4
⑥ 結婚したら、家庭のためには自分の個性や生き方を半分犠牲にするのは当然だ	1	2	3	4
⑦ 結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ	1	2	3	4
⑧ 結婚したら、子どもは持つべきだ	1	2	3	4
⑨ 少なくとも子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たず家にいるのが望ましい	1	2	3	4
⑩ いったん結婚したら、性格の不一致くらいで別れるべきではない	1	2	3	4
⑪ 結婚していなくても、子どもを持ってかまわない	1	2	3	4
⑫ 結婚した男性にとって、家族と過ごす時間は仕事の成功よりも重要だ	1	2	3	4
⑬ 女性が最初の子どもの産むなら20代のうちがよい	1	2	3	4
⑭ 男性どうし、女性どうしの結婚があってもかまわない	1	2	3	4

問29 あなたの**結婚前までの**身近な状況について、おたずねします。以下の①～③について、それぞれ右の欄のあてはまる番号1つに○をつけてください。質問項目に該当する相手がいない(いなかった)場合は、5に○をつけてください。

(左の状況に)				
1	2	3	4	5
あ	あ	あ	あ	該
て	ど	ど	て	当
は	ち	ち	は	し
ま	は	は	ま	な
る	ら	ら	ら	い
	ま	ま	ま	
	か	か	か	
	と	と	と	
	い	い	い	
	え	え	え	
	ば	ば	ば	

結婚前までの 身近な状況	それぞれ番号1つに○					
	1	2	3	4	5	
	① 赤ちゃんや小さい子どもとふれあう機会がよくあった	1	2	3	4	—
	② 両親のような夫婦関係をうらやましく思っていた	1	2	3	4	5
③ 結婚しているまわりの友人をみると、幸せそうだと思っていた	1	2	3	4	5	

● **すべての方** にかがいます。

問30 あなた方ご夫婦それぞれの現在の健康状態はいかがですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

あなた	1. よい	2. まあよい	3. ふつう	4. あまりよくない	5. よくない
夫	1. よい	2. まあよい	3. ふつう	4. あまりよくない	5. よくない

問31 あなた方ご夫婦それぞれの現在の身長、体重、および喫煙習慣についてお答えください。

あなた	身長	<input type="text"/>	cm	体重	<input type="text"/>	kg	喫煙習慣 (1. ない 2. 以前あった 3. 現在ある)	あてはまる番号1つに○
夫	身長	<input type="text"/>	cm	体重	<input type="text"/>	kg	喫煙習慣 (1. ない 2. 以前あった 3. 現在ある)	あてはまる番号1つに○

※ 現在、ご自身が妊娠中の方は、妊娠前の体重をご記入ください。

問32 あなた方ご夫婦が**結婚された当時**、全部で何人のお子さんを持つつもりでしたか。あてはまる番号1つに○をつけ、5人以上の場合は下線の欄に人数を記入してください。

0. 子どもは持たないつもりだった	3. 3人	6. とくに考えていなかった
1. 1人	4. 4人	
2. 2人	5. 5人以上 (<u> </u>)人	

● **あなた方ご夫婦**それぞれの現在の結婚以前の状況についてうかがいます。

問33 現在の結婚以前に生んだお子さんはおられますか。あてはまる番号1つに○をつけ、おられる場合は、そのお子さんの出生年月や、現在同居しているかについてもお答えください。

あなた	(1)現在の結婚以前に生んだお子さんの数	(2)お子さんの出生年月	(3)現在そのお子さんと同居しているか
	あてはまる番号1つに○ 0. 子どもはいない 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上 (<u> </u>)人	1人目 [1. 昭和 2. 平成 3. 令和 4. 西暦] _____年____月	1. 同居 2. 別居・その他
	2人目 [1. 昭和 2. 平成 3. 令和 4. 西暦] _____年____月	1. 同居 2. 別居・その他	
	3人目 [1. 昭和 2. 平成 3. 令和 4. 西暦] _____年____月	1. 同居 2. 別居・その他	

※ 4人以上いらっしゃる方は、3人目までのご記入でかまいません。

夫	(1)現在の結婚以前に持ったお子さん(実子)の数	(2)左欄の回答のうち、現在、同居しているお子さんの数
	あてはまる番号1つに○ 0. 子どもはいない 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上 (<u> </u>)人 5. わからない	あてはまる番号1つに○ 0. いない 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上 (<u> </u>)人

● ご自身が **再婚の方** にかがいます。
再婚経験がない方はここで調査は終わりです。下のご意見の欄にお進みください。

問34 あなたの最初の結婚について、あてはまる番号に○をつけ、年月を記入してください。

(1)最初の結婚生活を始めた年月	(2)同居をやめたとき、または死別をした年月
[1. 昭和 2. 平成 3. 令和 4. 西暦] _____年____月	[1. 昭和 2. 平成 3. 令和 4. 西暦] _____年____月

● 以上で質問は終わりです。以下は自由記述欄です（ご意見等が無ければ空欄のままでかまいません）。

結婚や出産・子育ての体験を通じて、導入して欲しい施策、あるいは充実してほしい施策はありますか。また、結婚、出産、子育て、人口問題などについてご意見などはございますか。下の欄に自由にご記入ください。

そのほか、本調査について、言葉がわかりづらい、回答が難しいところはありませんか。また、回答方法について、紙面ではなく、オンライン上での回答を希望されますか。今後の調査改善に役立てますので、下の欄に自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。
ご回答いただいた調査票は回収用の封筒に入れ、ノリづけしたうえで調査員にお渡しください。
封筒は国立社会保障・人口問題研究所へ届くまで、途中で開封されることはありません。

※ 貴重なお時間をいただきましたことをこころから感謝申し上げます。本調査の結果は当研究所における統計分析を通して、国民の皆様の生活向上に役立てられることとなります。なお、過去の結果については、下記に掲載しています。

出生動向基本調査ホームページ・アドレス（対象者用）

<http://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/nfs16info/index.asp>

§ 調査についてのご説明

◇ 結婚と出産に関する全国調査（出生動向基本調査）とは？

この調査は、国民の皆さまの結婚、出産、子育てについて調べる全国標本調査で、ほぼ5年ごとに実施されてきました。今回は16回目にあたります。ご夫婦の方への調査と、独身の方への調査の2種類があります。

◇ 調査の目的

国や自治体は、さまざまな施策を実施するにあたって、住民のおかれた状況や問題を把握しておかなくてはなりません。この調査は、国民の皆さまの結婚、出産、子育ての状況を把握し、これにかかわる政策的な課題を社会科学的立場から探ることが主な目的です。とりわけ今日の日本では少子化が進行しており、これにともなう人口の減少と高齢化、そしてひとりひとりの生き方の変化が、今後の日本社会に大きな影響を与えるとの指摘がされています。この少子化の現状を把握し、原因を究明することは、本調査の大切な課題のひとつです。

◇ 調査の対象

この調査は、全国から無作為に選ばれた地域にお住まいの方々を対象としており、以下の2つのグループの方々に別々の調査票を用意しています。

【結婚されている方への調査票】（黄色の調査票）

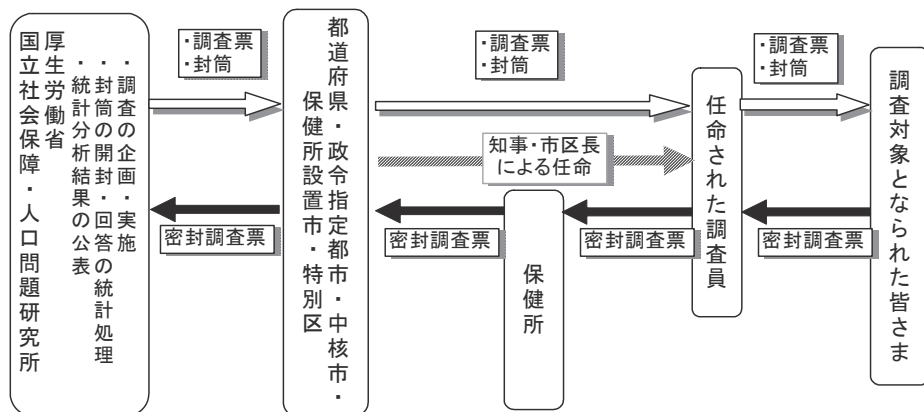
—— 届出の有無を問わず、6月30日時点で結婚されている55歳未満の女性の方すべてが対象です。

【独身の方への調査票】（緑色の調査票）

—— 6月30日時点で18歳以上55歳未満の独身の方（男性および女性）すべてが対象です。

◇ 調査のしくみ

この調査は、国立社会保障・人口問題研究所（厚生労働省に所属する国立の研究機関）が、統計法に基づく総務大臣の承認を受けて、国、都道府県（または政令指定都市・中核市・保健所設置市・特別区）、地域の保健所と連携して実施します。調査は、知事（市長・区長）から任命された調査員が皆さまのお宅にうかがい、調査票の配布、および回答いただいた調査票（封筒に入れて密封したもの）を回収する方法で行います。



◇ プライバシー・個人情報の保護について

この調査票上の回答はすべて統計を作成する目的だけに用いられ、それ以外の使用は「統計法」という法律で固く禁じられています。皆さまに回答いただき回収用封筒に密封された調査票は、調査員が回収した後も開封されることなく国立社会保障・人口問題研究所に届けられ、その後は厳重な管理の下に置かれます。統計を作成する過程では個人を特定する情報はすべて除外されます。したがって、個人情報が増えることは絶対にありません。

◇ その他のお問い合わせ

回答方法などについてのお問い合わせは、調査員におたずねください。また、本調査の詳細情報、これまでの調査結果、よくあるお問い合わせなどについては、インターネット上に出生動向基本調査のホームページを開設して紹介しています。そちらをご参照ください。

出生動向基本調査ホームページ（対象者用） <http://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/nfs16info/index.asp>

結婚と出産に関する全国調査（出生動向基本調査）を含む公的統計の作成は統計法によって行われます

- ◆ 統計法は、社会に必要な情報基盤としての統計を整備するためのルールです。
- ◆ 統計法は、役に立つ統計の整備を通じ、国民生活を向上させます。
- ◆ 結婚と出産に関する全国調査（出生動向基本調査）の結果は、国や自治体の施策・サービスの提供に役立てられています。

個人情報 は 厳重 に 保護 され ます

- ◆ 結婚と出産に関する全国調査（出生動向基本調査）では、統計法の規定により、個人情報は厳重に保護されます。
- ◆ 調査票に書かれた事柄は厳しく秘密が守られ、統計を作るためだけに用いられます。その他の目的に用いることは、統計法で禁止されています。

第 16 回出生動向基本調査 データ所在と公表集計結果表一覧

第 16 回出生動向基本調査の公表資料は、以下のウェブサイトに掲載されている。

● 国立社会保障・人口問題研究所ウェブサイト

第 16 回出生動向基本調査に関する情報は、次のウェブページに掲載している。

https://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou16/doukou16_gaiyo.asp

- ・ 調査結果報告書（本書）：PDF ファイル
- ・ 本書掲載グラフの数値データ：CSV ファイル
- ・ 単純集計結果表：HTML ファイル、Excel ファイル
- ・ 「結果の概要」（公表時資料）：PDF ファイル

● e-Stat（政府統計の総合窓口）

<https://www.e-stat.go.jp/>（「出生動向基本調査」で検索）

- ・ 結果報告書（本書）：PDF ファイル
- ・ 単純集計結果表：Excel ファイル
- ・ 第 16 回調査クロス集計結果表：CSV ファイル

第 16 回出生動向基本調査 公表している集計結果表の一覧

○ 単純集計結果表（研究所ウェブサイト、政府統計の総合窓口 e-Stat に掲載）

【独身者調査】

現在の居住地：人口集中地区分類、地域ブロック

問 1 出生年月・性別

問 2 回答者の学歴

問 3 従業上の地位・職種・従業先規模（回答者および両親）

問 4 労働時間・労働日数・勤続年数・月収・年収

問 5 両親の出生年・満年齢・同別居の別・学歴

問 6 きょうだい構成

問 7 結婚の利点

問 8 独身の利点

問 9 女性のライフコース

問 10 結婚・家族に関する意識

問 11 身近な状況

問 12 結婚経験

問 13 同棲経験

問 14 異性との性交渉経験

問 15 これまでに生んだ子ども

問 16 異性との交際

- 問 17 恋人として交際した経験
- 問 18 最も親しい交際相手
- 問 19 希望子ども数
- 問 20 子どもを持つ理由
- 問 21 生活スタイル
- 問 22 現在の健康状態
- 問 23 現在の身長・体重・喫煙習慣
- 問 24 生涯の結婚意思
- 問 25 結婚時期の希望
- 問 26 一年以内の結婚希望
- 問 27 希望結婚年齢
- 問 28 結婚相手の条件
- 問 29 一年以内の結婚の障害の有無
- 問 30 現在独身でいる理由
- 問 31 非婚志向者のこれまでの結婚意思の有無
- 問 32 非婚意思が変わる可能性の有無
- 問 33 初婚年月・初婚解消年月
- 問 34 初婚相手

【夫婦調査】

現在の居住地：人口集中地区分類、地域ブロック

- 問 1 出生年月・結婚生活を始めた年月・結婚を届け出た年月・初再婚の別と再婚回数
- 問 2 夫婦が初めて知り合った年月・婚約または結婚の合意の年月・同棲期間の有無
- 問 3 夫婦が知り合ったきっかけ
- 問 4 最終的に結婚を決めたときの直接のきっかけ
- 問 5 夫婦の学歴
- 問 6 夫婦の従業上の地位・職種・従業先規模
- 問 7 夫婦の労働時間・労働日数・勤続年数・月収・年収
- 問 8 妻の就業希望
- 問 9 これまでに生んだ子ども数・現存子ども数
- 問 10 夫婦の妊娠回数
- 問 11 妊娠経験
- 問 12 性交渉の有無と避妊
- 問 13 不妊の悩みの有無・不妊治療の経験の有無
- 問 14 不妊治療での出生の有無・実施した不妊治療
- 問 15 理想子ども数
- 問 16 子どもを持ちたい理由

- 問 17 追加予定子ども数
- 問 18 予定子ども数
- 問 19 追加子ども数を実現できない理由
- 問 20 理想子ども数を持ってない理由
- 問 21 妊娠判明時／子ども1歳時の就業状況
- 問 22 末子出生後の就業状況
- 問 23 夫婦の両親からの子育ての手助け・夫の家事／育児頻度
- 問 24 妻方／夫方の母との同別居・利用した子育て支援制度・施設
- 問 25 夫婦の両親の出生年・年齢・学歴
- 問 26 夫婦の両親との同別居
- 問 27 夫婦のきょうだい数
- 問 28 結婚・家族に関する意識
- 問 29 結婚前の身近な状況
- 問 30 夫婦の現在の健康状態
- 問 31 夫婦の現在の身長・体重・喫煙習慣
- 問 32 結婚当時の予定子ども数
- 問 33 現在の結婚以前の出生子ども数
- 問 34 妻の初婚年月・初婚解消年月

○クロス集計結果表（政府統計の総合窓口 e-Stat に掲載）

【結婚の意思】

- 表 1-1-1 男女・年齢別、生涯の結婚意思別、未婚者数
- 表 1-1-2 男女・年齢別、結婚年齢重視・理想相手重視別、未婚者数（いずれ結婚するつもりと回答した未婚者）
- 表 1-1-3 男女・年齢別、就業状況・従業上の地位別、1年以内の結婚意思別、未婚者数
- 表 1-1-4 男女・年齢別、結婚意思の段階別、未婚者数

【結婚の利点・独身の利点】

- 表 1-2-1 男女・年齢別、結婚の利点の有無別、未婚者数
- 表 1-2-2-1～10 男女・年齢別、結婚の利点の内容別、未婚者数
- 表 1-2-3 男女・年齢別、独身の利点の有無別、未婚者数
- 表 1-2-4-1～9 男女・年齢別、独身の利点の内容別、未婚者数

【結婚へのハードルと独身でいる理由】

- 表 1-3-1 男女・年齢別、一年以内の結婚の障害の有無別、未婚者数
- 表 1-3-2-1 男女・年齢別、一年以内の結婚の障害別、未婚者数：最大の障害
- 表 1-3-2-2 男女・年齢別、一年以内の結婚の障害別、未婚者数：第二の障害

表 1-3-2-3～11	男女・年齢別、一年以内の結婚の障害別、未婚者数
表 1-3-3-1	男女・年齢別、独身でいる理由別、未婚者数：最大の理由
表 1-3-3-2	男女・年齢別、独身でいる理由別、未婚者数：第二の理由
表 1-3-3-3	男女・年齢別、独身でいる理由別、未婚者数：第三の理由
表 1-3-3-4～15	男女・年齢別、独身でいる理由別、未婚者数

【結婚意思のない未婚者の意思の変化】

表 1-4-1	男女・年齢別、過去の結婚の意思別、未婚者数（一生結婚するつもりはないと回答した未婚者）
表 1-4-2	男女・年齢別、結婚に対する考えが変わる可能性別、未婚者数（一生結婚するつもりはないと回答した未婚者）
表 1-4-3-1	男女・年齢別、結婚に対する考えが変わる理由別、未婚者数（一生結婚するつもりはないと回答し、結婚に対する考え方が変化する可能性があると思うと回答した未婚者）：最大の理由
表 1-4-3-2	男女・年齢別、結婚に対する考えが変わる理由別、未婚者数（一生結婚するつもりはないと回答し、結婚に対する考え方が変化する可能性があると思うと回答した未婚者）：第二の理由
表 1-4-3-3	男女・年齢別、結婚に対する考えが変わる理由別、未婚者数（一生結婚するつもりはないと回答し、結婚に対する考え方が変化する可能性があると思うと回答した未婚者）：第三の理由
表 1-4-3-4～14	男女・年齢別、結婚に対する考えが変わる理由別、未婚者数（一生結婚するつもりはないと回答し、結婚に対する考え方が変化する可能性があると思うと回答した未婚者）

【異性との交際】

表 2-1-1	男女・年齢別、異性との交際の状況別、未婚者数
表 2-1-2	男女・年齢別、異性との交際の希望別、未婚者数（交際している異性がない未婚者）

【異性との交際のきっかけ】

表 2-2-1	男女・年齢別、交際相手と知り合ったきっかけ別、未婚者数
表 2-2-2	男女・年齢別、交際相手と知り合ったきっかけ別、交際期間別、未婚者数

【交際経験】

表 2-3-1	男女・年齢別、異性との交際経験別、未婚者数
表 2-3-2	男女・年齢別、交際経験別、交際相手の男女別、未婚者数

【性経験】

表 2-4-1	男女・年齢別、性交渉経験別、未婚者数
---------	--------------------

【同棲経験】

表 2-5-1	男女・年齢別、同棲経験別、未婚者数
表 2-5-2	男女別、同棲開始年齢別、同棲期間（年）別、未婚者数（同棲経験ありと回答した未婚者）

【希望する結婚年齢・出産年齢】

表 3-1-1	男女・年齢（各歳）別、希望する結婚年齢（各歳）別、未婚者数（いずれ結婚するつもりと回答した未婚者）
表 3-1-2	男女・年齢（各歳）別、希望する結婚年齢（各歳）別、希望する結婚相手の年齢（各歳）別、未婚者数（いずれ結婚するつもりと回答した未婚者）
表 3-1-3	男女・年齢（各歳）別、最初の（次の）子どもを持ちたい年齢（各歳）別、未婚者数（いずれ結婚するつもりと回答した未婚者）
表 3-1-4	男女・年齢（各歳）別、希望する結婚までの待ち年数（各年）別、未婚者数（いずれ結婚するつもりと回答した未婚者）

【希望するライフコース】

表 3-2-1-1	年齢別、理想とするライフコース別、未婚女性数
表 3-2-1-2	学歴別、理想とするライフコース別、未婚女性数
表 3-2-1-3	現在の就業状況・従業上の地位別、理想とするライフコース別、未婚女性数
表 3-2-2-1	年齢別、実際になりそうなライフコース別、未婚女性数
表 3-2-2-2	学歴別、実際になりそうなライフコース別、未婚女性数
表 3-2-2-3	現在の就業状況・従業上の地位別、実際になりそうなライフコース別、未婚女性数
表 3-2-3-1	年齢別、パートナーとなる女性に望むライフコース別、未婚男性数
表 3-2-3-2	学歴別、パートナーとなる女性に望むライフコース別、未婚男性数
表 3-2-3-3	現在の就業状況・従業上の地位別、パートナーとなる女性に望むライフコース別、未婚男性数

【結婚相手に求める条件】

表 3-3-1-1～8	男女・年齢別、結婚相手の条件として考慮・重視する項目別、未婚者数（いずれ結婚するつもりと回答した未婚者）： 相手の学歴 相手の職業 相手の収入などの経済力 相手の人から 相手の容姿 共通の趣味の有無 自分の仕事に対する理解と協力 家事・育児に対する能力や姿勢
-------------	---

【希望子ども数と男女児組合せ】

表 3-4-1	男女・年齢別、生涯の結婚意思別、希望子ども数別、未婚者数
表 3-4-2-1	男女別、居住地ブロック別、希望子ども数別、未婚者数（いずれ結婚するつもりと回答した未婚者）
表 3-4-2-2	男女別、人口集中地区分類別、希望子ども数別、未婚者数（いずれ結婚するつもりと回答した未婚者）
表 3-4-2-3	男女別、学歴別、希望子ども数別、未婚者数（いずれ結婚するつもりと回答した未婚者）
表 3-4-2-4	男女別、現在の就業状況・従業上の地位別、希望子ども数別、未婚者数（いずれ結婚するつもりと回答した未婚者）
表 3-4-2-5	男女別、昨年の年収別、希望子ども数別、未婚者数（いずれ結婚するつもりと回答した未婚者）
表 3-4-3-1～9	男女・年齢別、子どもを持つ理由別、未婚者数（いずれ結婚するつもりと回答し、希望子ども数が1人以上の未婚者）
表 3-4-4	男女・年齢別、希望の男児数別、希望の女児数別、未婚者数（いずれ結婚するつもりと回答し、希望子ども数が1人以上で男女児組合せの希望がある未婚者）
表 3-4-5	男女・年齢別、男女児組合せの希望有無別、未婚者数（いずれ結婚するつもりと回答し、希望子ども数が1人以上の未婚者）
表 3-4-6	男女・年齢別、希望の男女児組合せの内訳別、未婚者数（いずれ結婚するつもりと回答し、希望子ども数が1人以上で男女児組合せの希望がある未婚者）

【未婚者のライフスタイル】

表 4-1-1-1～7	男女・年齢別、生涯の結婚意思別、生活スタイル別、未婚者数： 仕事以外で、国内旅行や海外旅行によく出かける 衣服や持ちものには、こだわりが強い方だ 欲しいものを買ったり、好きなことに使えるお金が少ない 気軽に一緒に遊べる友人が多い 生きがいとなるような趣味やライフワークを持っている 一人の生活を続けても寂しくないと思う 仕事のために、私生活を犠牲にすることがよくある
表 4-1-2	男女・年齢別、現在の健康状態別、未婚者数
表 4-1-3	男女・年齢別、BMI 別、未婚者数
表 4-1-4	男女・年齢別、喫煙習慣別、未婚者数

【結婚・家族に関する未婚者の意識】

表 4-2-1-1～14	男女・年齢別、結婚・家族に関する意識別、未婚者数： 生涯を独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない 男女と一緒に暮らすなら結婚すべきである
--------------	--

結婚前の男女でも愛情があるなら性交渉をもってかまわない
 どんな社会においても、女らしさや男らしさはある程度必要だ
 結婚しても、人生には結婚相手や家族とは別の自分だけの目標を持つべきである
 結婚したら、家族のためには自分の個性や生き方を半分犠牲にするのは当然だ
 結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ
 結婚したら、子どもは持つべきだ
 少なくとも子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たず家にいるのが望ましい
 いったん結婚したら、性格の不一致くらいで別れるべきではない
 結婚していなくても、子どもを持ってかまわない
 結婚した男性にとって、家族と過ごす時間は仕事の成功よりも重要だ
 女性が最初の子どもの産むなら 20代のうちがよい
 男性どうし、女性どうしの結婚があってもかまわない

表 4-2-2-1～14 男女・年齢別、結婚・家族に関する意識別、結婚意思の段階別、未婚者数：

生涯を独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない
 男女が一緒に暮らすなら結婚すべきである
 結婚前の男女でも愛情があるなら性交渉をもってかまわない
 どんな社会においても、女らしさや男らしさはある程度必要だ
 結婚しても、人生には結婚相手や家族とは別の自分だけの目標を持つべきである
 結婚したら、家族のためには自分の個性や生き方を半分犠牲にするのは当然だ
 結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ
 結婚したら、子どもは持つべきだ
 少なくとも子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たず家にいるのが望ましい
 いったん結婚したら、性格の不一致くらいで別れるべきではない
 結婚していなくても、子どもを持ってかまわない
 結婚した男性にとって、家族と過ごす時間は仕事の成功よりも重要だ
 女性が最初の子どもの産むなら 20代のうちがよい
 男性どうし、女性どうしの結婚があってもかまわない

【知り合い年齢・初婚年齢・交際期間】

- 表 5-1-1-1 知り合い時の夫の年齢別、知り合ったきっかけ別、夫婦数（結婚持続期間 5 年未満の夫婦）
- 表 5-1-1-2 知り合い時の妻の年齢別、知り合ったきっかけ別、夫婦数（結婚持続期間 5 年未満の夫婦）
- 表 5-1-2-1 婚約時の夫の年齢別、知り合ったきっかけ別、夫婦数（結婚持続期間 5 年未満の夫婦）
- 表 5-1-2-2 婚約時の妻の年齢別、知り合ったきっかけ別、夫婦数（結婚持続期間 5 年未満の夫婦）
- 表 5-1-3-1 結婚時の夫の年齢別、交際期間別、知り合ったきっかけ別、夫婦数（結婚持続期間 5 年未満の夫婦）

表 5-1-3-2 結婚時の妻の年齢別、交際期間別、知り合ったきっかけ別、夫婦数（結婚持続期間 5 年未満の夫婦）

表 5-1-4 結婚年別、婚姻届出の有無および結婚生活開始からみた届出の時期別、夫婦数

【知り合いのきっかけ】

表 5-2-1-1 結婚年別、妻の学歴別、知り合ったきっかけ別、夫婦数

表 5-2-1-2 結婚年別、夫の学歴別、知り合ったきっかけ別、夫婦数

表 5-2-2 知り合ったきっかけ別、夫婦数（結婚持続期間 5 年未満の夫婦）

表 5-2-3 知り合ったきっかけ別、夫婦数（一方または双方が再婚で、結婚持続期間 5 年未満の夫婦）

【結婚を決めたきっかけ】

表 5-3-1-1～10 妻の結婚年齢別、結婚を決めた理由別、夫婦数（結婚持続期間 5 年未満の夫婦）

【同棲経験】

表 5-4-1 結婚年別、妻の結婚年齢別、現在の夫との結婚前の同棲有無別、夫婦数

表 5-4-2 結婚年別、妻の結婚年齢(2 歳階級)別、結婚前同棲期間別、夫婦数(結婚前に同棲経験のある夫婦)

【夫婦の出生子ども数】

表 6-1-1-1 結婚持続期間別、出生子ども数別、出生男児数別、夫婦数（妻の年齢 50 歳未満）

表 6-1-1-2 結婚持続期間別、出生子ども数別、出生女児数別、夫婦数（妻の年齢 50 歳未満）

表 6-1-2-1 結婚持続期間別、出生子ども数別、出生男児数別、夫婦数（妻の年齢 55 歳未満）

表 6-1-2-2 結婚持続期間別、出生子ども数別、出生女児数別、夫婦数（妻の年齢 55 歳未満）

表 6-1-3-1 結婚持続期間別、妻の結婚年齢別、出生子ども数別、夫婦数（妻の年齢 50 歳未満）

表 6-1-3-2 結婚持続期間別、夫の結婚年齢別、出生子ども数別、夫婦数（妻の年齢 50 歳未満）

表 6-1-4 結婚持続期間別、知り合ったきっかけ別、出生子ども数別、夫婦数（妻の年齢 50 歳未満）

表 6-1-5-1 結婚持続期間別、妻の学歴別、出生子ども数別、夫婦数（妻の年齢 50 歳未満）

表 6-1-5-2 結婚持続期間別、夫の学歴別、出生子ども数別、夫婦数（妻の年齢 50 歳未満）

表 6-1-6-1 結婚持続期間別、居住地ブロック別、出生子ども数別、夫婦数（妻の年齢 50 歳未満）

表 6-1-6-2 結婚持続期間別、人口集中地区分類別、出生子ども数別、夫婦数（妻の年齢 50 歳未満）

表 6-1-7 結婚持続期間別、夫妻の親との同居・別居別、出生子ども数別、夫婦数（妻の年齢 50 歳未満）

表 6-1-8-1 妻の年齢別、夫の結婚年齢別、出生子ども数別、夫婦数

表 6-1-8-2 妻の年齢別、妻の結婚年齢別、出生子ども数別、夫婦数

表 6-1-9 妻の年齢別、知り合ったきっかけ別、出生子ども数別、夫婦数

表 6-1-10-1 妻の年齢別、妻の学歴別、出生子ども数別、夫婦数

表 6-1-10-2	妻の年齢別、夫の学歴別、出生子ども数別、夫婦数
表 6-1-11-1	妻の年齢別、居住地ブロック別、出生子ども数別、夫婦数
表 6-1-11-2	妻の年齢別、人口集中地区分類別、出生子ども数別、夫婦数
表 6-1-12-1	妻の年齢別、夫妻の母親との同居・別居別、出生子ども数別、夫婦数
表 6-1-12-2	妻の年齢別、夫妻の父親との同居・別居別、出生子ども数別、夫婦数
表 6-1-13-1	妻の年齢別、出生子ども数別、出生男児数別、夫婦数
表 6-1-13-2	妻の年齢別、出生子ども数別、出生女児数別、夫婦数
表 6-1-14-1	妻の年齢別、現存子ども数別、現存男児数別、夫婦数
表 6-1-14-2	妻の年齢別、現存子ども数別、現存女児数別、夫婦数

【出生タイミング】

表 6-2-1-1	出生子ども数別、妻の第1子の出生年齢別、夫婦数（出生子ども数が1人以上で、結婚持続期間15～19年の夫婦（妻の年齢50歳未満））
表 6-2-1-2	出生子ども数別、妻の第1子の出生年齢別、夫婦数（出生子ども数が1人以上で、妻45～49歳の夫婦）
表 6-2-2-1	出生子ども数別、妻の第2子の出生年齢別、夫婦数（出生子ども数が2人以上で、結婚持続期間15～19年の夫婦（妻の年齢50歳未満））
表 6-2-2-2	出生子ども数別、妻の第2子の出生年齢別、夫婦数（出生子ども数が2人以上で、妻45～49歳の夫婦）
表 6-2-3-1	出生子ども数別、妻の第3子の出生年齢別、夫婦数（出生子ども数が3人以上で、結婚持続期間15～19年の夫婦（妻の年齢50歳未満））
表 6-2-3-2	出生子ども数別、妻の第3子の出生年齢別、夫婦数（出生子ども数が3人以上で、妻45～49歳の夫婦）
表 6-2-4-1	出生子ども数別、妻の第4子の出生年齢別、夫婦数（出生子ども数が4人以上で、結婚持続期間15～19年の夫婦（妻の年齢50歳未満））
表 6-2-4-2	出生子ども数別、妻の第4子の出生年齢別、夫婦数（出生子ども数が4人以上で、妻45～49歳の夫婦）
表 6-2-5-1	出生子ども数別、妻の第5子の出生年齢別、夫婦数（出生子ども数が5人以上で、結婚持続期間15～19年の夫婦（妻の年齢50歳未満））
表 6-2-5-2	出生子ども数別、妻の第5子の出生年齢別、夫婦数（出生子ども数が5人以上で、妻45～49歳の夫婦）

【夫婦の理想子ども数・予定子ども数と男女児組合せ】

表 7-1-1-1	結婚持続期間別、理想子ども数別、夫婦数（妻が50歳未満の夫婦）
表 7-1-1-2	妻の年齢別、理想子ども数別、夫婦数（妻が50歳未満の夫婦）
表 7-1-1-3	妻の結婚年齢別、理想子ども数別、夫婦数（妻が50歳未満の夫婦）
表 7-1-1-4	居住地ブロック別、理想子ども数別、夫婦数（妻が50歳未満の夫婦）

表 7-1-1-5	人口集中地区分類別、理想子ども数別、夫婦数（妻が 50 歳未満の夫婦）
表 7-1-1-6	妻の学歴別、理想子ども数別、夫婦数（妻が 50 歳未満の夫婦）
表 7-1-1-7	夫の学歴別、理想子ども数別、夫婦数（妻が 50 歳未満の夫婦）
表 7-1-1-8	妻の現在の就業状況・従業上の地位別、理想子ども数別、夫婦数（妻が 50 歳未満の夫婦）
表 7-1-1-9	夫の現在の就業状況・従業上の地位別、理想子ども数別、夫婦数（妻が 50 歳未満の夫婦）
表 7-1-2-1	結婚持続期間別、予定子ども数別、夫婦数（妻が 50 歳未満の夫婦）
表 7-1-2-2	妻の年齢別、予定子ども数別、夫婦数（妻が 50 歳未満の夫婦）
表 7-1-2-3	妻の結婚年齢別、予定子ども数別、夫婦数（妻が 50 歳未満の夫婦）
表 7-1-2-4	居住地ブロック別、予定子ども数別、夫婦数（妻が 50 歳未満の夫婦）
表 7-1-2-5	人口集中地区分類別、予定子ども数別、夫婦数（妻が 50 歳未満の夫婦）
表 7-1-2-6	妻の学歴別、予定子ども数別、夫婦数（妻が 50 歳未満の夫婦）
表 7-1-2-7	夫の学歴別、予定子ども数別、夫婦数（妻が 50 歳未満の夫婦）
表 7-1-2-8	妻の現在の就業状況・従業上の地位別、予定子ども数別、夫婦数（妻が 50 歳未満の夫婦）
表 7-1-2-9	夫の現在の就業状況・従業上の地位別、予定子ども数別、夫婦数（妻が 50 歳未満の夫婦）
表 7-1-3	夫婦の理想の男児数別、夫婦の理想の女児数別、夫婦数（理想子ども数が 1 人以上で、男女児組合せの理想がある夫婦）
表 7-1-4	妻の年齢別、男女児組合せの理想有無別、夫婦数（理想子ども数が 1 人以上の夫婦）
表 7-1-5	妻の年齢別、理想の男女児組合せの内訳別、夫婦数（理想子ども数が 1 人以上で、男女児組合せの理想がある夫婦）

【結婚当時と現在の予定子ども数】

表 7-2-1	結婚持続期間別、妻の結婚年齢別、結婚当時の予定子ども数別、夫婦数
表 7-2-2	結婚持続期間別、妻の結婚年齢別、調査時点の予定子ども数別、夫婦数
表 7-2-3	結婚持続期間別、妻の結婚年齢別、調査時点の出生子ども数別、夫婦数

【次子の予定】

表 7-3-1	結婚持続期間別、今後の（追加）出生予定（予定の有無および出生時期の希望）別、夫婦数
表 7-3-2	出生子ども数別、妻の就業状況・従業上の地位（官・民別）別、今後の（追加）出生予定（予定の有無および出生時期の希望）別、夫婦数（結婚または末子出産後 5 年未満の夫婦）
表 7-3-3	妻の年齢別、今後の（追加）出生の希望間隔年数別、夫婦数（追加予定子ども数が 1 人以上で、今後の（追加）出生を「しばらく間をおいてから」と回答した夫婦）

【子どもを持つ理由】

表 7-4-1-1～9	妻の年齢別、子どもを持つ理由別、夫婦数（理想子ども数が 1 人以上の夫婦）
表 7-4-1-10～18	結婚持続期間別、子どもを持つ理由別、夫婦数（理想子ども数が 1 人以上の夫婦）

- 表 7-4-1-19～27 予定子ども数別、子どもを持つ理由別、夫婦数（理想子ども数が1人以上の夫婦）
- 表 7-4-1-28～36 出生子ども数別、子どもを持つ理由別、夫婦数（理想子ども数が1人以上の夫婦）

【夫婦が理想の子ども数を持たない理由】

- 表 7-5-1-1～13 妻の年齢別、理想の子ども数を持つとうとしない理由別、夫婦数（予定子ども数が理想子ども数を下回る夫婦）
- 表 7-5-1-14～26 結婚持続期間別、理想の子ども数を持つとうとしない理由別、夫婦数（予定子ども数が理想子ども数を下回る夫婦）
- 表 7-5-1-27～39 理想・予定子ども数組み合わせ別、理想の子ども数を持つとうとしない理由別、夫婦数（予定子ども数が理想子ども数を下回る夫婦）
- 表 7-5-2-1～8 妻の年齢別、持つつもりの子どもの数を実現できない原因別、夫婦数（追加予定子ども数が1人以上の夫婦）
- 表 7-5-2-9～16 結婚持続期間別、持つつもりの子どもの数を実現できない原因別、夫婦数（追加予定子ども数が1人以上の夫婦）
- 表 7-5-2-17～24 予定子ども数別、持つつもりの子どもの数を実現できない原因別、夫婦数（追加予定子ども数が1人以上の夫婦）

【夫婦の性生活と避妊】

- 表 8-1-1 妻の年齢別、追加予定子ども数別、過去1か月間の性交渉の有無別、夫婦数
- 表 8-1-2-1 妻の年齢別、過去1か月間の性交渉における避妊の実行有無別、夫婦数（過去1か月間に性交渉があった夫婦）
- 表 8-1-2-2 追加予定子ども数別、過去1か月間の性交渉における避妊の実行有無別、夫婦数（過去1か月間に性交渉があった夫婦）
- 表 8-1-3 妻の年齢別、近代的避妊法の実行有無別、夫婦数（過去1か月間の性交渉において避妊を実行した夫婦）
- 表 8-1-4 妻の年齢別、近代的避妊法の実行有無別、夫婦数（過去1か月間の性交渉において避妊を実行し、追加予定子ども数が0人、または1人以上だが「しばらく間をおいてから」と回答した夫婦）

【妊娠・流死産の経験】

- 表 8-2-1-1 結婚持続期間別、妊娠回数別、夫婦数
- 表 8-2-1-2 妻の現在年齢別、妊娠回数別、夫婦数
- 表 8-2-1-3 妻の結婚年齢別、妊娠回数別、夫婦数
- 表 8-2-2-1 結婚持続期間別、流死産回数別、夫婦数
- 表 8-2-2-2 妻の現在年齢別、流死産回数別、夫婦数
- 表 8-2-2-3 妻の結婚年齢別、流死産回数別、夫婦数
- 表 8-2-3-1～5 妊娠順位別、妊娠前の予定別、妊娠の結果（出生に単胎・多胎区分を含む）別、夫婦数

表 8-2-4-1	結婚持続期間別、人工妊娠中絶回数別、夫婦数
表 8-2-4-2	妻の現在年齢別、人工妊娠中絶回数別、夫婦数
表 8-2-4-3	妻の結婚年齢別、人工妊娠中絶回数別、夫婦数

【不妊についての心配と治療経験】

表 8-3-1-1	出生子ども数別、妻の年齢別、不妊についての心配・治療経験別、夫婦数
表 8-3-1-2	出生子ども数別、結婚持続期間別、不妊についての心配・治療経験別、夫婦数

【不妊治療による出生経験】

表 8-4-1	出生子ども数別、不妊治療による出生の有無別、夫婦数
表 8-4-2	第 1 子出生年別、第 1 子の不妊治療内容別、夫婦数（不妊治療の結果子どもが生まれた夫婦）
表 8-4-3	第 2 子出生年別、第 2 子の不妊治療内容別、夫婦数（不妊治療の結果子どもが生まれた夫婦）
表 8-4-4	第 3 子出生年別、第 3 子の不妊治療内容別、夫婦数（不妊治療の結果子どもが生まれた夫婦）
表 8-4-5	第 4 子出生年別、第 4 子以上の不妊治療内容別、夫婦数（不妊治療の結果子どもが生まれた夫婦）

【夫婦の健康状態】

表 8-5-1	妻の年齢別、妻の現在の健康状態別、夫婦数
表 8-5-2	夫の年齢別、夫の現在の健康状態別、夫婦数
表 8-5-3	妻の年齢別、妻の BMI 別、夫婦数
表 8-5-4	夫の年齢別、夫の BMI 別、夫婦数
表 8-5-5	妻の年齢別、妻の喫煙習慣別、夫婦数
表 8-5-6	夫の年齢別、夫の喫煙習慣別、夫婦数

【妻の就業と出生】

表 9-1-1	今後の出生予定別、妻の現在の就業状況・従業上の地位別、夫婦数（子どものいない夫婦）
表 9-1-2	今後の追加出生予定別、末子年齢別、妻の現在の就業状況・従業上の地位別、夫婦数（出生子ども数が 1 人以上の夫婦）
表 9-1-3	今後の追加出生予定別、末子年齢別、現在無職の妻の就業希望（就業希望時期含む）別、夫婦数（出生子ども数が 1 人以上の夫婦）
表 9-1-4	結婚年別、結婚前後の妻の就業履歴別、夫婦数
表 9-1-5	第 1 子の出生年別、第 1 子出産前後の妻の育児休業制度利用有無を含む就業履歴別、夫婦数（出生子ども数が 1 人以上の夫婦）

表 9-1-6	第2子の出生年別、第2子出産前後の妻の育児休業制度利用有無を含む就業履歴別、夫婦数（出生子ども数が2人以上の夫婦）
表 9-1-7	第3子の出生年別、第3子出産前後の妻の育児休業制度利用有無を含む就業履歴別、夫婦数（出生子ども数が3人以上の夫婦）
表 9-1-8	結婚年別、結婚を決めたときの妻の従業上の地位（官・民別）別、結婚前後の就業履歴別、夫婦数（妻が結婚を決めたときに就業していた夫婦）
表 9-1-9	第1子の出生年別、第1子の妊娠がわかったときの妻の従業上の地位（官・民別）別、第1子出産前後の妻の育児休業制度利用有無を含む就業履歴別、夫婦数（出生子ども数が1人以上で、妻が第1子の妊娠がわかったときに就業していた夫婦）
表 9-1-10	第2子の出生年別、第2子の妊娠がわかったときの妻の従業上の地位（官・民別）別、第2子出産前後の妻の育児休業制度利用有無を含む就業履歴別、夫婦数（出生子ども数が2人以上で、妻が第2子の妊娠がわかったときに就業していた夫婦）
表 9-1-11	第3子の出生年別、第3子の妊娠がわかったときの妻の従業上の地位（官・民別）別、第3子出産前後の妻の育児休業制度利用有無を含む就業履歴別、夫婦数（出生子ども数が3人以上で、妻が第3子の妊娠がわかったときに就業していた夫婦）
表 9-1-12	第1子の出生年別、第1子の妊娠がわかったときの妻の就業状況・従業上の地位別、第1子が1歳のときの妻の就業状況・従業上の地位（育児休業制度利用有無含む）別、夫婦数（第1子が1歳以上15歳未満の夫婦）
表 9-1-13	第2子の出生年別、第2子の妊娠がわかったときの妻の就業状況・従業上の地位別、第2子が1歳のときの妻の就業状況・従業上の地位（育児休業制度利用有無含む）別、夫婦数（第2子が1歳以上15歳未満の夫婦）
表 9-1-14	第3子の出生年別、第3子の妊娠がわかったときの妻の就業状況・従業上の地位別、第3子が1歳のときの妻の就業状況・従業上の地位（育児休業制度利用有無含む）別、夫婦数（第3子が1歳以上15歳未満の夫婦）
表 9-1-15	結婚持続期間別、妻の就業経歴別、夫婦数（妻が結婚を決めたときに就業しており、1歳以上の子どもがいる夫婦）
表 9-1-16	結婚持続期間別、妻の就業経歴別、出生子ども数別、人口集中地区分類別、夫婦数（妻が結婚を決めたときに就業しており、1歳以上の子どもがいる夫婦）

【子育て支援制度・施設の利用】

表 9-2-1-1～15	第1子の出生年別、第1子が3歳になるまでに利用した子育て支援制度・施設別、夫婦数（総数）
表 9-2-1-16～30	妻の出生年別、第1子が3歳になるまでに利用した子育て支援制度・施設別、夫婦数（総数）
表 9-2-1-31～45	第1子が1歳のときの妻の就業状況別、第1子が3歳になるまでに利用した子育て支援制度・施設別、夫婦数（総数）

表 9-2-1-46～60	第1子が1歳のときの妻の勤め先従業員数別、第1子が3歳になるまでに利用した子育て支援制度・施設別、夫婦数（総数）
表 9-2-1-61～75	第1子の出生年別、第1子が3歳になるまでに利用した子育て支援制度・施設別、夫婦数（妻が正規雇用継続）
表 9-2-1-76～90	妻の出生年別、第1子が3歳になるまでに利用した子育て支援制度・施設別、夫婦数（妻が正規雇用継続）
表 9-2-1-91～105	第1子が3歳になるまでに利用した子育て支援制度・施設別、夫婦数（妻が正規雇用継続）
表 9-2-1-106～120	第1子が1歳のときの妻の勤め先従業員数別、第1子が3歳になるまでに利用した子育て支援制度・施設別、夫婦数（妻が正規雇用継続）
表 9-2-2-1～15	第2子の出生年別、第2子が3歳になるまでに利用した子育て支援制度・施設別、夫婦数（総数）
表 9-2-2-16～30	妻の出生年別、第2子が3歳になるまでに利用した子育て支援制度・施設別、夫婦数（総数）
表 9-2-2-31～45	第2子が1歳のときの妻の就業状況別、第2子が3歳になるまでに利用した子育て支援制度・施設別、夫婦数（総数）
表 9-2-2-46～60	第2子が1歳のときの妻の勤め先従業員数別、第2子が3歳になるまでに利用した子育て支援制度・施設別、夫婦数（総数）
表 9-2-2-61～75	第2子の出生年別、第2子が3歳になるまでに利用した子育て支援制度・施設別、夫婦数（妻が正規雇用継続）
表 9-2-2-76～90	妻の出生年別、第2子が3歳になるまでに利用した子育て支援制度・施設別、夫婦数（妻が正規雇用継続）
表 9-2-2-91～105	第2子が3歳になるまでに利用した子育て支援制度・施設別、夫婦数（妻が正規雇用継続）
表 9-2-2-106～120	第2子が1歳のときの妻の勤め先従業員数別、第2子が3歳になるまでに利用した子育て支援制度・施設別、夫婦数（妻が正規雇用継続）
表 9-2-3-1～15	第3子の出生年別、第3子が3歳になるまでに利用した子育て支援制度・施設別、夫婦数（総数）
表 9-2-3-16～30	妻の出生年別、第3子が3歳になるまでに利用した子育て支援制度・施設別、夫婦数（総数）
表 9-2-3-31～45	第3子が1歳のときの妻の就業状況別、第3子が3歳になるまでに利用した子育て支援制度・施設別、夫婦数（総数）
表 9-2-3-46～60	第3子が1歳のときの妻の勤め先従業員数別、第3子が3歳になるまでに利用した子育て支援制度・施設別、夫婦数（総数）
表 9-2-3-61～75	第3子の出生年別、第3子が3歳になるまでに利用した子育て支援制度・施設別、夫婦数（妻が正規雇用継続）

表 9-2-3-76～90	妻の出生年別、第3子が3歳になるまでに利用した子育て支援制度・施設別、夫婦数（妻が正規雇用継続）
表 9-2-3-91～105	第3子が3歳になるまでに利用した子育て支援制度・施設別、夫婦数（妻が正規雇用継続）
表 9-2-3-106～120	第3子が1歳のときの妻の勤め先従業員数別、第3子が3歳になるまでに利用した子育て支援制度・施設別、夫婦数（妻が正規雇用継続）

【祖父母の子育て支援】

表 9-3-1	第1子の出生年別、第1子が3歳までの夫妻の母親（子の祖母）からの子育ての手助けの有無別、夫婦数（出生子ども数が1人以上で、第1子が3歳以上15歳未満の夫婦）
表 9-3-2	第2子の出生年別、第2子が3歳までの夫妻の母親（子の祖母）からの子育ての手助けの有無別、夫婦数（出生子ども数が2人以上で、第2子が3歳以上の15歳未満の夫婦）
表 9-3-3	第3子の出生年別、第3子が3歳までの夫妻の母親（子の祖母）からの子育ての手助けの有無別、夫婦数（出生子ども数が3人以上で、第3子が3歳以上15歳未満の夫婦）
表 9-3-4	第1子の出生年別、第1子が3歳までの夫妻の父親（子の祖父）からの子育ての手助けの有無別、夫婦数（出生子ども数が1人以上で、第1子が3歳以上15歳未満の夫婦）
表 9-3-5	第2子の出生年別、第2子が3歳までの夫妻の父親（子の祖父）からの子育ての手助けの有無別、夫婦数（出生子ども数が2人以上で、第2子が3歳以上15歳未満の夫婦）
表 9-3-6	第3子の出生年別、第3子が3歳までの夫妻の父親（子の祖父）からの子育ての手助けの有無別、夫婦数（出生子ども数が3人以上で、第3子が3歳以上15歳未満の夫婦）
表 9-3-7-1～15	結婚持続期間別、妻の第1子出生前後の就業履歴別、妻の母親（子の祖母）からの子育ての手助けの有無別、子育て支援制度・施設の利用状況別、夫婦数（出生子ども数が1人以上で、第1子が3歳以上15歳未満の夫婦）
表 9-3-7-16～30	結婚持続期間別、妻の第1子出生前後の就業履歴別、夫の母親（子の祖母）からの子育ての手助けの有無別、子育て支援制度・施設の利用状況別、夫婦数（出生子ども数が1人以上で、第1子が3歳以上15歳未満の夫婦）
表 9-3-7-31～45	結婚持続期間別、妻の第1子出生前後の就業履歴別、夫妻の母親（子の祖母）からの子育ての手助けの有無別、子育て支援制度・施設の利用状況別、夫婦数（出生子ども数が1人以上で、第1子が3歳以上15歳未満の夫婦）
表 9-3-8-1～15	結婚持続期間別、妻の第2子出生前後の就業履歴別、妻の母親（子の祖母）からの子育ての手助けの有無別、子育て支援制度・施設の利用状況別、夫婦数（出生子ども数が2人以上で、第2子が3歳以上15歳未満の夫婦）
表 9-3-8-16～30	結婚持続期間別、妻の第2子出生前後の就業履歴別、夫の母親（子の祖母）からの子育ての手助けの有無別、子育て支援制度・施設の利用状況別、夫婦数（出生子ども数が2人以上で、第2子が3歳以上15歳未満の夫婦）

- 表 9-3-8-31～45 結婚持続期間別、妻の第2子出生前後の就業履歴別、夫妻の母親（子の祖母）からの子育ての手助けの有無別、子育て支援制度・施設の利用状況別、夫婦数（出生子ども数が2人以上で、第2子が3歳以上15歳未満の夫婦）
- 表 9-3-9-1～15 結婚持続期間別、妻の第3子出生前後の就業履歴別、妻の母親（子の祖母）からの子育ての手助けの有無別、子育て支援制度・施設の利用状況別、夫婦数（出生子ども数が3人以上で、第3子が3歳以上15歳未満の夫婦）
- 表 9-3-9-16～30 結婚持続期間別、妻の第3子出生前後の就業履歴別、夫の母親（子の祖母）からの子育ての手助けの有無別、子育て支援制度・施設の利用状況別、夫婦数（出生子ども数が3人以上で、第3子が3歳以上15歳未満の夫婦）
- 表 9-3-9-31～45 結婚持続期間別、妻の第3子出生前後の就業履歴別、夫妻の母親（子の祖母）からの子育ての手助けの有無別、子育て支援制度・施設の利用状況別、夫婦数（出生子ども数が3人以上で、第3子が3歳以上15歳未満の夫婦）
- 表 9-3-10-1～15 妻の第1子出生前後の就業履歴別、第1子が3歳になるまでに受けた夫妻の母親（子の祖母）からの子育ての手助けと制度・施設の利用状況別、予定子ども数別、夫婦数（子どもが1人以上いる、第1子が3歳以上で、結婚持続期間10年未満の夫婦）
- 表 9-3-11-1～15 妻の第1子出生前後の就業履歴別、第1子が3歳になるまでに受けた夫妻の母親（子の祖母）からの子育ての手助けと制度・施設の利用状況別、出生子ども数別、夫婦数（子どもが1人以上いる、第1子が3歳以上で、結婚持続期間10年未満の夫婦）

【夫の家事・育児と出生】

- 表 9-4-1 第1子の出生年別、夫の家事頻度（第1子が3歳まで）別、夫の育児頻度（第1子が3歳まで）別、夫婦数（出生子ども数が1人以上で、第1子が3歳以上の夫婦）
- 表 9-4-2 第2子の出生年別、夫の家事頻度（第2子が3歳まで）別、夫の育児頻度（第2子が3歳まで）別、夫婦数（出生子ども数が2人以上で、第2子が3歳以上の夫婦）
- 表 9-4-3 第3子の出生年別、夫の家事頻度（第3子が3歳まで）別、夫の育児頻度（第3子が3歳まで）別、夫婦数（出生子ども数が3人以上で、第3子が3歳以上の夫婦）
- 表 9-4-4 第1子が1歳のときの妻の就業状況・従業上の地位別、夫の家事頻度（第1子が3歳まで）別、夫の育児頻度（第1子が3歳まで）別、夫婦数（出生子ども数が1人以上で、第1子が3歳以上の夫婦）
- 表 9-4-5 第2子が1歳のときの妻の就業状況・従業上の地位別、夫の家事頻度（第2子が3歳まで）別、夫の育児頻度（第2子が3歳まで）別、夫婦数（出生子ども数が2人以上で、第2子が3歳以上の夫婦）
- 表 9-4-6 第3子が1歳のときの妻の就業状況・従業上の地位別、夫の家事頻度（第3子が3歳まで）別、夫の育児頻度（第3子が3歳まで）別、夫婦数（出生子ども数が3人以上で、第3子が3歳以上の夫婦）
- 表 9-4-7 結婚持続期間別、夫の家事頻度（第1子が3歳まで）別、夫の育児頻度（第1子が3歳まで）別、予定子ども数別、夫婦数（出生子ども数が1人以上で、第1子が3歳以上の

	夫婦)
表 9-4-8	結婚持続期間別、夫の家事頻度（第2子が3歳まで）別、夫の育児頻度（第2子が3歳まで）別、予定子ども数別、夫婦数（出生子ども数が2人以上で、第2子が3歳以上の夫婦）
表 9-4-9	結婚持続期間別、夫の家事頻度（第3子が3歳まで）別、夫の育児頻度（第3子が3歳まで）別、予定子ども数別、夫婦数（出生子ども数が3人以上で、第3子が3歳以上の夫婦）
表 9-4-10	結婚持続期間別、夫の家事頻度（第1子が3歳まで）別、夫の育児頻度（第1子が3歳まで）別、出生子ども数別、夫婦数（出生子ども数が1人以上で、第1子が3歳以上の夫婦）
表 9-4-11	結婚持続期間別、夫の家事頻度（第2子が3歳まで）別、夫の育児頻度（第2子が3歳まで）別、出生子ども数別、夫婦数（出生子ども数が2人以上で、第2子が3歳以上の夫婦）
表 9-4-12	結婚持続期間別、夫の家事頻度（第3子が3歳まで）別、夫の育児頻度（第3子が3歳まで）別、出生子ども数別、夫婦数（出生子ども数が3人以上で、第3子が3歳以上の夫婦）
表 9-4-13	完結出生子ども数別、夫の家事頻度（末子が3歳まで）別、夫の育児頻度（末子が3歳まで）別、夫婦数（結婚持続期間15～19年の夫婦）
表 9-4-14	完結出生子ども数別、夫の家事頻度（末子が3歳まで）別、夫の育児頻度（末子が3歳まで）別、夫婦数（妻の年齢45～49歳の夫婦）

【無職の妻の就業希望・出産後の妻の就業状況】

表 9-5-1	末子年齢別、現在無職の妻の希望する就業形態別、夫婦数（出生子ども数が1人以上で、妻が今後就業を希望している夫婦）
表 9-5-2	末子年齢別、末子出産後の妻の就業有無別、夫婦数（出生子ども数が1人以上の夫婦）
表 9-5-3	末子出産後の妻の就業状況（復職／再就職）別、末子出産後の妻の就業時の就業形態（官・民別）別、末子出産後の妻の就業時の末子年齢別、夫婦数（出生子ども数が1人以上で、妻の年齢45～49歳の夫婦）

【結婚・家族に関する妻の意識】

表 10-1-1-1～14	妻の年齢別、結婚・家族に関する意識別、夫婦数： 生涯を独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない 男女が一緒に暮らすなら結婚すべきである 結婚前の男女でも愛情があるなら性交渉をもってかまわない どんな社会においても、女らしさや男らしさはある程度必要だ 結婚しても、人生には結婚相手や家族とは別の自分だけの目標を持つべきである 結婚したら、家族のためには自分の個性や生き方を半分犠牲にするのは当然だ
---------------	--

結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ
結婚したら、子どもは持つべきだ
少なくとも子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たず家にいるのが望ましい
いったん結婚したら、性格の不一致くらいで別れるべきではない
結婚していなくても、子どもを持ってかまわない
結婚した男性にとって、家族と過ごす時間は仕事の成功よりも重要だ
女性が最初の子どもの産むなら 20 代のうちがよい
男性どうし、女性どうしの結婚があってもかまわない

表 10-1-2-1～14 妻の結婚・家族に関する意識別、理想子ども数別、夫婦数（結婚持続期間 5 年未満の夫婦）：

生涯を独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない
男女が一緒に暮らすなら結婚すべきである
結婚前の男女でも愛情があるなら性交渉をもってかまわない
どんな社会においても、女らしさや男らしさはある程度必要だ
結婚しても、人生には結婚相手や家族とは別の自分だけの目標を持つべきである
結婚したら、家族のためには自分の個性や生き方を半分犠牲にするのは当然だ
結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ
結婚したら、子どもは持つべきだ
少なくとも子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たず家にいるのが望ましい
いったん結婚したら、性格の不一致くらいで別れるべきではない
結婚していなくても、子どもを持ってかまわない
結婚した男性にとって、家族と過ごす時間は仕事の成功よりも重要だ
女性が最初の子どもの産むなら 20 代のうちがよい
男性どうし、女性どうしの結婚があってもかまわない

表 10-1-3-1～14 妻の結婚・家族に関する意識別、予定子ども数別、夫婦数（結婚持続期間 5 年未満の夫婦）：

生涯を独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない
男女が一緒に暮らすなら結婚すべきである
結婚前の男女でも愛情があるなら性交渉をもってかまわない
どんな社会においても、女らしさや男らしさはある程度必要だ
結婚しても、人生には結婚相手や家族とは別の自分だけの目標を持つべきである
結婚したら、家族のためには自分の個性や生き方を半分犠牲にするのは当然だ
結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ
結婚したら、子どもは持つべきだ
少なくとも子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たず家にいるのが望ましい
いったん結婚したら、性格の不一致くらいで別れるべきではない
結婚していなくても、子どもを持ってかまわない

結婚した男性にとって、家族と過ごす時間は仕事の成功よりも重要だ
 女性が最初の子どもを産むなら 20 代のうちがよい
 男性どうし、女性どうしの結婚があってもかまわない

【未婚者の就学・就業と家族】

表 11-1-1	男女・年齢別、在学中または最後に卒業した学校別、未婚者数
表 11-1-2	男女・年齢別、最後の学校を卒業した年齢（各歳）別、未婚者数（現在在学中ではない未婚者）
表 11-1-3	男女・年齢別、学卒直後の就業状況・従業上の地位別、未婚者数
表 11-1-4	男女・年齢別、学卒直後の職種別、未婚者数（学卒直後に就業した未婚者）
表 11-1-5	男女・年齢別、学卒直後の勤め先従業員数別、未婚者数（学卒直後に就業した未婚者）
表 11-1-6	男女・年齢別、現在の就業状況・従業上の地位別、未婚者数
表 11-1-7	男女・年齢別、現在の職種別、未婚者数（現在就業している未婚者）
表 11-1-8	男女・年齢別、現在の勤め先従業員数別、未婚者数（現在就業している未婚者）
表 11-1-9	男女・年齢別、一日当りの労働時間別、週当たりの労働日数別、未婚者数（現在就業している未婚者）
表 11-1-10	男女・年齢別、現在の仕事の勤続年数別、未婚者数（現在就業している未婚者）
表 11-1-11	男女・年齢別、先月（5月）の月収別、未婚者数（現在就業している未婚者）
表 11-1-12	男女・年齢別、昨年（前年）の年収別、未婚者数（現在就業している未婚者）
表 11-1-13	男女・年齢別、現在の就業状況・従業上の地位別、親との同居・別居別、未婚者数
表 11-1-14-1	男女・年齢別、父親の学歴別、未婚者数
表 11-1-14-2	男女・年齢別、母親の学歴別、未婚者数
表 11-1-15-1	男女・年齢別、父親の現在の就業状況・従業上の地位別、未婚者数
表 11-1-15-2	男女・年齢別、母親の現在の就業状況・従業上の地位別、未婚者数
表 11-1-16-1	男女・年齢別、父親の現在の職種別、未婚者数（無職を含めた構成）
表 11-1-16-2	男女・年齢別、母親の現在の職種別、未婚者数（無職を含めた構成）
表 11-1-17-1	男女・年齢別、父親の勤め先従業員数別、未婚者数（無職を含めた構成）
表 11-1-17-2	男女・年齢別、母親の勤め先従業員数別、未婚者数（無職を含めた構成）
表 11-1-18-1	男女・年齢別、本人出生時の父親の年齢別、未婚者数
表 11-1-18-2	男女・年齢別、本人出生時の母親の年齢別、未婚者数
表 11-1-19	男女・年齢別、父親の年齢別、未婚者数（父親が生存している未婚者）
表 11-1-20	男女・年齢別、母親の年齢別、未婚者数（母親が生存している未婚者）
表 11-1-21-1	男女・年齢別、きょうだい数別、未婚者数
表 11-1-21-2	年齢別、きょうだい構成別、未婚男性数
表 11-1-21-3	年齢別、きょうだい構成別、未婚女性数
表 11-1-22-1	男女・年齢別、居住地ブロック別、未婚者数
表 11-1-22-2	男女・年齢別、人口集中地区分類別、未婚者数

表 11-1-22-3 男女・年齢別、市部・郡別、未婚者数

【夫妻の就学・就業と家族】

表 11-2-1-1	妻の年齢別、妻の在学中または最後に卒業した学校別、夫婦数
表 11-2-1-2	夫の年齢別、夫の在学中または最後に卒業した学校別、夫婦数
表 11-2-2-1	妻の年齢別、妻の最後の学校を卒業した年齢別、夫婦数（現在在学中ではない妻）
表 11-2-2-2	夫の年齢別、夫の最後の学校を卒業した年齢別、夫婦数（現在在学中ではない夫）
表 11-2-3-1	妻の年齢別、妻の現在の就業状況・従業上の地位別、夫婦数
表 11-2-3-2	夫の年齢別、夫の現在の就業状況・従業上の地位別、夫婦数
表 11-2-4-1	妻の年齢別、妻の現在の職種別、夫婦数（現在就業している妻）
表 11-2-4-2	夫の年齢別、夫の現在の職種別、夫婦数（現在就業している夫）
表 11-2-5-1	妻の年齢別、妻の現在の勤め先従業員数別、夫婦数（現在就業している妻）
表 11-2-5-2	夫の年齢別、夫の現在の勤め先従業員数別、夫婦数（現在就業している夫）
表 11-2-6-1	妻の年齢別、妻の一日当りの労働時間別、妻の週当たりの労働日数別、夫婦数（現在就業している妻）
表 11-2-6-2	夫の年齢別、夫の一日当りの労働時間別、夫の週当たりの労働日数別、夫婦数（現在就業している夫）
表 11-2-7-1	妻の年齢別、妻の勤続年数別、夫婦数（現在就業している妻）
表 11-2-7-2	夫の年齢別、夫の勤続年数別、夫婦数（現在就業している夫）
表 11-2-8-1	妻の年齢別、妻の先月（5月）の月収別、夫婦数（現在就業している妻）
表 11-2-8-2	夫の年齢別、夫の先月（5月）の月収別、夫婦数（現在就業している夫）
表 11-2-9-1	妻の年齢別、妻の昨年の年収別、夫婦数（現在就業している妻）
表 11-2-9-2	夫の年齢別、夫の昨年の年収別、夫婦数（現在就業している夫）
表 11-2-10-1	妻の年齢別、妻の学卒直後の就業状況・従業上の地位別、夫婦数
表 11-2-10-2	夫の年齢別、夫の学卒直後の就業状況・従業上の地位別、夫婦数
表 11-2-11-1	妻の年齢別、妻の学卒直後の職種別、夫婦数（学卒直後に就業した妻）
表 11-2-11-2	夫の年齢別、夫の学卒直後の職種別、夫婦数（学卒直後に就業した夫）
表 11-2-12-1	妻の年齢別、妻の学卒直後の勤め先従業員数別、夫婦数（学卒直後に就業した妻）
表 11-2-12-2	夫の年齢別、夫の学卒直後の勤め先従業員数別、夫婦数（学卒直後に就業した夫）
表 11-2-13-1	妻の年齢別、結婚を決めたときの妻の就業状況・従業上の地位別、結婚を決めたときの夫の就業状況・従業上の地位別、夫婦数
表 11-2-13-2	夫の年齢別、結婚を決めたときの妻の就業状況・従業上の地位別、結婚を決めたときの夫の就業状況・従業上の地位別、夫婦数
表 11-2-14-1	妻の年齢別、結婚を決めたときの妻の職種別、結婚を決めたときの夫の職種別、夫婦数（結婚を決めたときに就業していた妻）
表 11-2-14-2	夫の年齢別、結婚を決めたときの妻の職種別、結婚を決めたときの夫の職種別、夫婦数（結婚を決めたときに就業していた夫）

表 11-2-15-1	妻の年齢別、結婚を決めたときの妻の勤め先従業員数別、結婚を決めたときの夫の勤め先従業員数別、夫婦数（結婚を決めたときに就業していた妻）
表 11-2-15-2	夫の年齢別、結婚を決めたときの妻の勤め先従業員数別、結婚を決めたときの夫の勤め先従業員数別、夫婦数（結婚を決めたときに就業していた夫）
表 11-2-16	妻の年齢別、妻の結婚直後の就業状況・従業上の地位別、夫婦数
表 11-2-17	妻の年齢別、妻の結婚直後の職種別、夫婦数（妻が結婚直後に就業していた夫婦）
表 11-2-18	妻の年齢別、妻の結婚直後の勤め先従業員数別、夫婦数（妻が結婚直後に就業していた夫婦）
表 11-2-19-1	妻の年齢別、妻の母親の学歴別、夫婦数
表 11-2-19-2	妻の年齢別、妻の父親の学歴別、夫婦数
表 11-2-19-3	夫の年齢別、夫の母親の学歴別、夫婦数
表 11-2-19-4	夫の年齢別、夫の父親の学歴別、夫婦数
表 11-2-20-1	妻の年齢別、結婚を決めたときの妻の就業状況・従業上の地位別、結婚を決めたときの妻の母親との同居・別居別、夫婦数
表 11-2-20-2	妻の年齢別、結婚を決めたときの妻の就業状況・従業上の地位別、結婚を決めたときの妻の父親との同居・別居別、夫婦数
表 11-2-20-3	夫の年齢別、結婚を決めたときの夫の就業状況・従業上の地位別、結婚を決めたときの夫の母親との同居・別居別、夫婦数
表 11-2-20-4	夫の年齢別、結婚を決めたときの夫の就業状況・従業上の地位別、結婚を決めたときの夫の父親との同居・別居別、夫婦数
表 11-2-20-5	妻の年齢別、結婚を決めたときの妻の就業状況・従業上の地位別、結婚を決めたときの夫の母親との同居・別居別、夫婦数
表 11-2-20-6	妻の年齢別、結婚を決めたときの妻の就業状況・従業上の地位別、結婚を決めたときの夫の父親との同居・別居別、夫婦数
表 11-2-20-7	夫の年齢別、結婚を決めたときの夫の就業状況・従業上の地位別、結婚を決めたときの妻の母親との同居・別居別、夫婦数
表 11-2-20-8	夫の年齢別、結婚を決めたときの夫の就業状況・従業上の地位別、結婚を決めたときの妻の父親との同居・別居別、夫婦数
表 11-2-21-1	妻の年齢別、妻の結婚直後の就業状況・従業上の地位別、結婚直後の妻の母親との同居・別居別、夫婦数
表 11-2-21-2	妻の年齢別、妻の結婚直後の就業状況・従業上の地位別、結婚直後の妻の父親との同居・別居別、夫婦数
表 11-2-21-3	妻の年齢別、妻の結婚直後の就業状況・従業上の地位別、結婚直後の夫の母親との同居・別居別、夫婦数
表 11-2-21-4	妻の年齢別、妻の結婚直後の就業状況・従業上の地位別、結婚直後の夫の父親との同居・別居別、夫婦数

表 11-2-22-1	妻の年齢別、第1子が3歳になるまでの妻の母親（子の祖母）との同居・別居別、夫婦数（出生子ども数が1人以上で、第1子が3歳以上の夫婦）
表 11-2-22-2	妻の年齢別、第1子が3歳になるまでの夫の母親（子の祖母）との同居・別居別、夫婦数（出生子ども数が1人以上で、第1子が3歳以上の夫婦）
表 11-2-23-1	妻の年齢別、第2子が3歳になるまでの妻の母親（子の祖母）との同居・別居別、夫婦数（出生子ども数が2人以上で、第2子が3歳以上の夫婦）
表 11-2-23-2	妻の年齢別、第2子が3歳になるまでの夫の母親（子の祖母）との同居・別居別、夫婦数（出生子ども数が2人以上で、第2子が3歳以上の夫婦）
表 11-2-24-1	妻の年齢別、第3子が3歳になるまでの妻の母親（子の祖母）との同居・別居別、夫婦数（出生子ども数が3人以上で、第3子が3歳以上の夫婦）
表 11-2-24-2	妻の年齢別、第3子が3歳になるまでの夫の母親（子の祖母）との同居・別居別、夫婦数（出生子ども数が3人以上で、第3子が3歳以上の夫婦）
表 11-2-25-1	妻の年齢別、妻が生まれたときの妻の母親の年齢別、夫婦数
表 11-2-25-2	妻の年齢別、妻が生まれたときの妻の父親の年齢別、夫婦数
表 11-2-26-1	夫の年齢別、夫が生まれたときの夫の母親の年齢別、夫婦数
表 11-2-26-2	夫の年齢別、夫が生まれたときの夫の父親の年齢別、夫婦数
表 11-2-27-1	妻の年齢別、妻の生存する父親の現在の年齢別、夫婦数（妻の父親が生存している夫婦）
表 11-2-27-2	妻の年齢別、妻の生存する母親の現在の年齢別、夫婦数（妻の母親が生存している夫婦）
表 11-2-28-1	夫の年齢別、夫の生存する父親の現在の年齢別、夫婦数（夫の父親が生存している夫婦）
表 11-2-28-2	夫の年齢別、夫の生存する母親の現在の年齢別、夫婦数（夫の母親が生存している夫婦）
表 11-2-29-1	妻の年齢別、妻のきょうだい数別、夫婦数
表 11-2-29-2	夫の年齢別、夫のきょうだい数別、夫婦数
表 11-2-30-1	妻の年齢別、妻のきょうだい構成別、夫婦数
表 11-2-30-2	夫の年齢別、夫のきょうだい構成別、夫婦数
表 11-2-31	妻の年齢別、現在の居住ブロック別、人口集中地区分類別、夫婦数
表 11-2-32	妻の年齢別、現在の居住ブロック別、市部・郡部別、夫婦数

【子どもとのふれあい経験や周囲の結婚に対する評価】

表 12-1-1-1～3	男女・年齢別、生涯の結婚意思別、身近な状況（小さい子どもとのふれあい経験や周囲の結婚に対する評価）別、未婚者数： 赤ちゃんや小さい子どもとふれあう機会がよくあった（よくある） 両親のような夫婦関係をうらやましく思う 結婚しているまわりの友人をみると、幸せそうだと思う
表 12-1-2	男女別、小さい子どもとのふれあい経験別、希望子ども数別、未婚者数（いずれ結婚するつもりと回答した未婚者）
表 12-1-3-1～3	結婚持続期間別、妻の結婚前の身近な状況別、妻の結婚年齢別、夫婦数： 赤ちゃんや小さい子どもとふれあう機会がよくあった

両親のような夫婦関係をうらやましく思っていた

結婚しているまわりの友人をみると、幸せそうだと思っていた

表 12-1-4 妻の結婚前までの小さい子どもとのふれあい経験別、理想子ども数別、夫婦数（結婚持続期間 10 年未満の夫婦）

表 12-1-5 妻の結婚前までの小さい子どもとのふれあい経験別、予定子ども数別、夫婦数（結婚持続期間 10 年未満の夫婦）

【未婚者の交際相手と夫妻の配偶者】

表 13-1-1 男女・年齢（各歳）別、交際相手（婚約者および恋人）の年齢（各歳）別、未婚者数（恋人として交際している異性もしくは婚約者がいる未婚者）

表 13-1-2 男女・年齢別、交際相手（婚約者および恋人）の最後に卒業した（現在在学中の）学校別、未婚者数（恋人として交際している異性もしくは婚約者がいる未婚者）

表 13-1-3 男女・年齢別、交際相手（婚約者および恋人）の現在の就業状況・従業上の地位別、未婚者数（恋人として交際している異性もしくは婚約者がいる未婚者）

表 13-1-4-1 妻の年齢別、夫婦の年齢差別、夫婦数（結婚持続期間 5 年未満の夫婦）

表 13-1-4-2 妻の年齢別、夫の学歴別、夫婦数（結婚持続期間 5 年未満の夫婦）

表 13-1-4-3 妻の年齢別、夫の現在の就業状況・従業上の地位別、夫婦数（結婚持続期間 5 年未満の夫婦）

表 13-1-5-1 夫の年齢別、夫婦の年齢差別、夫婦数（結婚持続期間 5 年未満の夫婦）

表 13-1-5-2 夫の年齢別、妻の学歴別、夫婦数（結婚持続期間 5 年未満の夫婦）

表 13-1-5-3 夫の年齢別、妻の現在の就業状況・従業上の地位別、夫婦数（結婚持続期間 5 年未満の夫婦）

【独身者の結婚履歴】

表 14-1-1 男女別、結婚経験別、独身者数

表 14-1-2 男女別、初婚年齢別、離死別者数

表 14-1-3 男女別、離死別年齢別、離死別者数

表 14-1-4 男女・年齢別、結婚回数別、離死別者数

表 14-1-5 男女別、初婚相手と知り合ったきっかけ別、離死別者数

表 14-1-6 男女別、初婚相手との交際期間別、離死別者数

表 14-1-7 男女別、初婚年齢別、初婚相手の結婚年齢別、離死別者数

表 14-1-8 男女別、初婚年齢別、初婚相手の学歴別、離死別者数

【夫妻の結婚履歴】

表 14-2-1 妻と夫の結婚履歴の構成別、夫婦数

表 14-2-2 再婚の妻の初婚年齢別、夫婦数

表 14-2-3 再婚の妻の離死別年齢別、夫婦数（妻が再婚の夫婦）

表 14-2-4 再婚の妻の再婚年齢別、夫婦数

表 14-2-5 再婚の夫の再婚年齢別、夫婦数

【独身者のこれまでの出生子ども数】

表 14-3-1 男女・年齢別、結婚経験別、出生子ども数別、独身者数

表 14-3-2 男女・年齢別、結婚経験別、同居している子ども数別、独身者数（出生子ども数が1人以上の独身者）

表 14-3-3 男女別、第1子出生年齢別、独身者数（出生子ども数が1人以上の独身者）

表 14-3-4 男女別、第2子出生年齢別、独身者数（出生子ども数が2人以上の独身者）

表 14-3-5 男女別、第3子出生年齢別、独身者数（出生子ども数が3人以上の独身者）

【再婚者の現婚以前の出生子ども数】

表 14-4-1-1 再婚の妻の年齢別、現在の結婚以前の出生子ども数別、夫婦数（妻が再婚の夫婦）

表 14-4-1-2 再婚の夫の年齢別、現在の結婚以前の出生子ども数別、夫婦数（夫が再婚の夫婦）

表 14-4-2-1 再婚の妻の年齢別、現在の結婚以前の出生子ども数のうち同居している子ども数別、夫婦数（現在の結婚以前の出生子ども数が1人以上で、妻が再婚の夫婦）

表 14-4-2-2 再婚の夫の年齢別、現在の結婚以前の出生子ども数のうち同居している子ども数別、夫婦数（現在の結婚以前の出生子ども数が1人以上で、夫が再婚の夫婦）

表 14-4-3-1 再婚の妻の年齢別、現在の結婚以前および現在の結婚での出生子ども数の合計数別、夫婦数（妻が再婚の夫婦）

表 14-4-3-2 再婚の夫の年齢別、現在の結婚以前および現在の結婚での出生子ども数の合計数別、夫婦数（夫が再婚の夫婦）

表 14-4-4 再婚の妻の現在の結婚以前の第1子出生年齢別、夫婦数（妻の現在の結婚以前の出生子ども数が1人以上で、妻が再婚の夫婦）

表 14-4-5 再婚の妻の現在の結婚以前の第2子出生年齢別、夫婦数（妻の現在の結婚以前の出生子ども数が2人以上で、妻が再婚の夫婦）

表 14-4-6 再婚の妻の現在の結婚以前の第3子出生年齢別、夫婦数（妻の現在の結婚以前の出生子ども数が3人以上で、妻が再婚の夫婦）

<お 願 い>

本報告書の内容を利用された場合、その掲載誌などを
一部下記宛てにご送付いただければ幸いです。

調査研究報告資料第 40 号

2021 年社会保障・人口問題基本調査（結婚と出産に関する全国調査）

現代日本の結婚と出産

－第16回出生動向基本調査（独身者調査ならびに夫婦調査）報告書－

令和 5 年 8 月 31 日発行

編集兼
発行者 国立社会保障・人口問題研究所
東京都千代田区内幸町 2 丁目 2 番 3 号
日比谷国際ビル 6 階
電話番号：東京 (03) 3595-2984
F A X：東京 (03) 3591-4816
郵便番号：100-0011

印刷者 株式会社グラフィカ・ウエマツ